2021年11月号（第427号）昭和61年7月8日　第三種郵便物認可　令和3年［illegible］　毎月1回19日発行

新建築

住宅特集

427
2021
SHINKENCHIKU
JUTAKUTOKUSHU

11

特集／風が抜ける家

外に居場所を生むテラス

特集作品／十七題
木村吉成＋松本尚子
手塚貴晴＋手塚由比
村山徹＋加藤亜矢子
安原幹＋日野雅司＋栃澤麻利
畑友洋
メラニー・ヘレスバック＋セバスチャン・ルノー
島田陽　二題
小室舞
平井充＋山口紗由
加藤匡毅
宇津木喬行＋高橋良弘
保坂猛
濱田猛
武藤圭太郎
植田開
矢板久明＋矢板直子

特集エッセイ　伏見唯

© 新建築住宅特集2021 年11 月号／第427 号
2021 年10 月19 日発行　毎月1回19 日発行
定価 2,420 円　本体 2,200 円
振替：00150-6-30658

［編集発行人］吉田信之
［編集長］西牧厚子

［表紙・誌面フォーマットデザイン監修］　K2
［発行所］株式会社新建築社
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビルディング17階　〒100-6017
tel. (03)6205-4380（代表／総務・出版）
(03)6205-4381（編集部直通）
(03)6205-4382（広告部）
(03)6205-4392（写真部）
fax.(03)6205-4386（代表／総務・出版）
(03)6205-4387（編集部・広告部・写真部）
青山ハウス
東京都港区南青山二丁目19番14号　〒107-0062
tel. (03)6455-5596
fax.(03)6455-5583
e-mail　jt@japan-architect.co.jp
URL　https://japan-architect.co.jp
［印刷所］大日本印刷株式会社
［取次店］トーハン　日販　楽天ブックスネットワーク
鍬谷　西村

表紙の写真　城の家
手塚貴晴＋手塚由比／手塚建築研究所
大野博史／オーノジャパン

新建築
住宅特集
427 2021 11

CONTENTS

風が抜ける家——外に居場所を生むテラス

特集作品17題

新建築社スタッフ募集

これからの時代を担う建築メディアをともにつくる方を募集します

雑誌編集・制作スタッフ

・新建築社が発行する雑誌，書籍，広報誌などの編集，制作
・建築分野を問わず，新卒，経験者の方

■応募先
株式会社新建築社　編集スタッフ募集係
kikaku@japan-architect.co.jp
〒100-6017　東京都千代田区霞が関三丁目2番5号　霞が関ビルディング17階

写真部撮影スタッフ

・雑誌やオンラインメディアに掲載・配信する建築写真などの撮影
・建築分野を問わず，新卒，経験者の方

■応募資格
要普通免許
■雇用形態
契約社員（1年契約・更新制度あり）
■応募先
株式会社新建築社　新建築社　総務部人事係（写真部撮影スタッフ募集）
photo@japan-architet.co.jp
〒100-6017　東京都千代田区霞が関三丁目2番5号　霞が関ビルディング17階

応募締切（上記2業務の募集ともに）

2021年12月1日（水）まで

応募方法

応募先へ履歴書をお送りください．郵送・メール添付いずれも可．
書類選考の上，面接にお進みいただく方には，後日ご連絡いたします．
メールアドレス，電話番号を履歴書に必ず記入してください．
宛先を忘れず明記してください．

＊いただいた個人情報は，今回のスタッフ募集の目的のみに使用します． それ以外の目的に使用したり，第三者に提供することはありません．
＊応募書類は返却いたしませんのでご了承ください．

新建築 住宅特集

427 2021 11

CONTENTS

特集エッセイ

MONTHLY REVIEW

NEWS

EXHIBITION

BOOKS

CONSTRUCTION

PROFILE・編集後記

TOPICS

特集エッセイ

奈良でも令和でも、外で過ごす

伏見唯（建築史家・編集者）

住居史の中で、とりわけ有名な建築模型がある。切妻の建築に、テラスのように広々とした吹放しの庇が取り付いているものだ。しかも前後に2カ所。濡れ縁も四周に巡っているが、この庇がさらに外部に突き出ている。奥行きは170寸（仮に現在の尺度なら、5,100mmほど）とあるから、かなり広い。室内と同じくらいの大きさをもつ、この外気にさらされた場所は一体何なのか。

謎多き、住居史のメルクマール

これは、いわゆる藤原豊成板殿（ふじわらとよなりいたどの）である。かつて建築史家・関野克氏が正倉院文書を頼りに、藤原豊成という貴族の住宅の一部だと考えて復原した奈良時代の建築だ[*1]。日本の昔の住宅は、古代以前に建てられたものはほぼ現存していないので、その姿が分かるものは数が限られている。発掘調査、絵巻物、古記録などからその姿を考察していくしかないが、その限られた古代以前の住宅の中で、比較的はっきりと形態が推測されているもののひとつである。異説は多いが[*2]、たとえば『図説日本住宅史』（太田博太郎著、初版1948年、彰国社）においても、竪穴住居や高床住居などの原始住宅の後に大きく藤原豊成板殿が掲載されている。学生時分、教科書の最初の方に出てくるこの住宅を不思議に思った。この広いテラスのような場所は何か、冒頭に記した疑問のことである。

ところがこの建築には謎が多すぎて、その実態をとらえきることができない。まず具体的にどこに建っていたのか分からない。方位も分からない。どのように使われていたかも分からないから、庇の用途ももちろん分からない。そのため実証的に当時の実態を説明するのは難しいのだが、むしろそれを逆手にとって自由に想像をたくましくしてみてはどうか。「この場所は何だろうか」と想像することは、そもそも「人は外で何をするのか」という自己の省察を伴うはずだ。この復原案をきっかけに、住宅にとって外部の空間とは何なのかを問いたい。

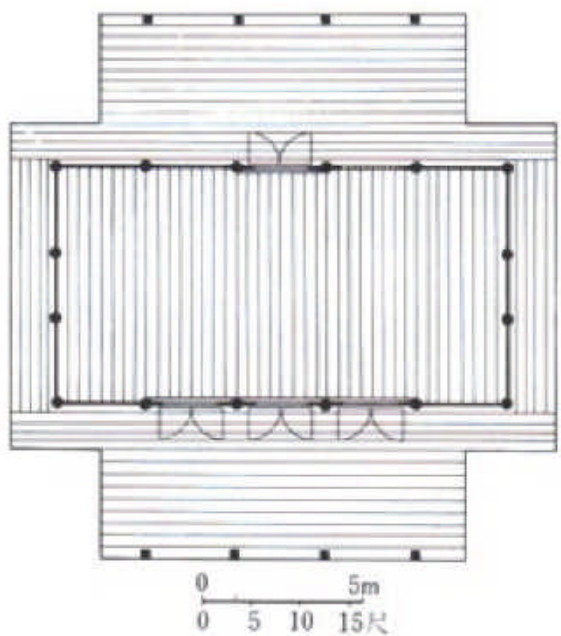
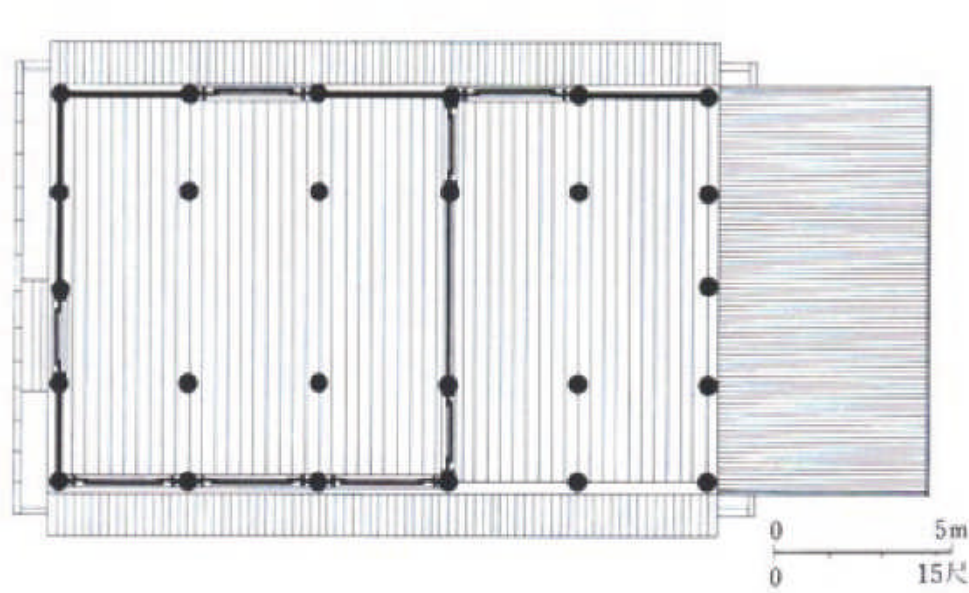
内とか外とか、明確には分かれていない

その問いを内に携えて、古代を専門とする建築史家・小岩正樹氏[*3]と話した。正確なことは分からないと前置きをしつつ、小岩氏は「おそらく古代の人びとにとっては、今のような感覚で家の『内』や『外』をとらえていなかっただろう。今よりも外の空間に重心があって、外の空間は住宅の内部からはみ出したものではない。内が主で外が従というわけではない」と述べた。確かに今ほど機密性が確保できるわけでもない住宅において、少なくとも温熱環境のうえでは内部と外部は連続していたのではないか。環境工学の観点でシミュレーションをした結果、室内温度は外部と変わらずに相当に寒かっただろうという結果も出ている[*4]。平安時代の寝殿造においても建築だけでは寒さをしのげないので、重ね着をしたのが十二単衣だったという話がある。室内にいれば暖かいわけではない、室外にいるからといって室内より寒いということでもない。そうであるならば、相当に現代とは内外のとらえ方が異なるだろうと想像され、たとえば絵巻物に描かれている後の寝殿造の使い方を見ても、儀式などの催しで寝殿内部と南庭を一体的に使っているような場面が見られる。

藤原豊成板殿の復原案のような広い外部空間においても、案外内外の隔ては小さく、今では室内でやっているようなことが普通に外で行われていたこともあり得る。その逆もある。何だろうか、たとえば室内は寝るだけの場で、ほとんど外で居住していたかもしれない。

家の外のそのまた向こう

もうひとつ、この庇がどのような場所だったかを想像するための材料として、同時代の住宅として復原されている法隆寺伝法堂前身建物（伝・橘夫人宅）がある。これは法隆寺の仏堂だが、聖武天皇の夫人・橘古那可智（たちばなのこなかち）の住宅を改造したものだといわれている[*5]。こちらは室堂形式といわれる2部屋の構成になっていて、閉鎖的な「室」と開放的な「堂」が並び、さらに外側に大きな外部空間の露台が張り出している。この露台が何なのかもよく分かっていなかったが、平城京の東院庭園においてよく似た平面の礎石配置が見つかり、これによると露台の先に池があった。親水の場だろう。

これを受けて、「さらに先に何かがあるから、外部に空間を張り出すのではないか」と先述の小岩氏。東院庭園の露台の先には池が、橘夫人宅にも池が、あるいは広場があったのか。建物に付属して露台があるのではなく、池がま

藤原豊成板殿の復原平面図（関野克氏の復原）

法隆寺伝法堂前身建物の復原平面図（浅野清氏の復原）

2点出典：『日本建築史図集 新訂版』新訂第1版、彰国社、1980年

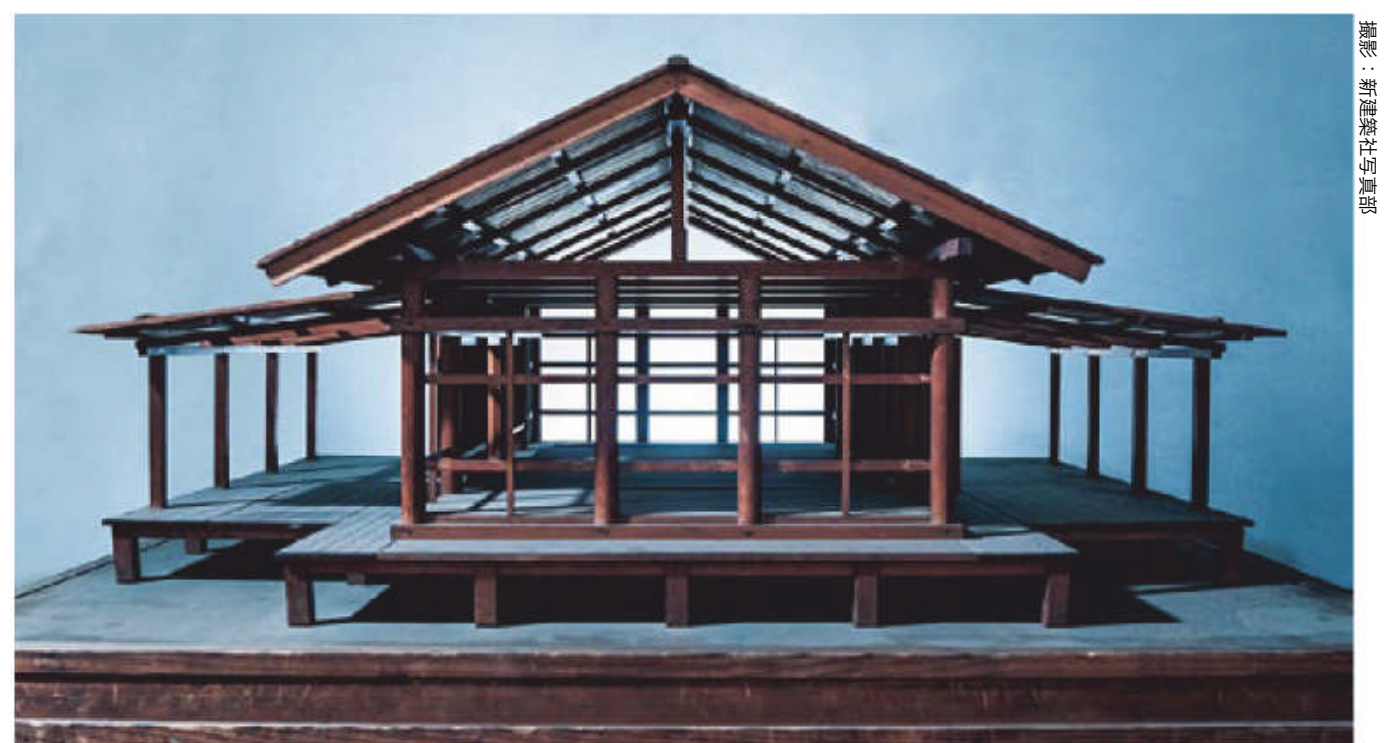
藤原豊成板殿の復原模型の近景。主屋の壁が省略されたスケルトンの模型で、屋根は取り外せるようになっている。（所蔵：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻）

ずありきで重要なのであれば、この建物はむしろ露台がなければ成立しない。月がなければ、月見台にならない、月見台がなければ桂離宮はどう見えるだろうか。やはり古代に限らず、「内と外に主従はない」という感覚は重要だ。何かがあるから外部空間を張り出すのであれば、藤原豊成板殿の吹放しの庇の周りには何があったのだろうか、しかも両脇に。人の心を動かす何かかもしれないし、向き合うべきものがあったのかもしれない。

淘汰された過去と言い切れるのか

別の建築史家・伊藤行氏は、橘夫人宅を参考に藤原豊成板殿でも室堂形式を採用し、閉ざされた「室」と開放的な「堂」、さらに完全に外の庇の空間となるような提案をしている。そして「君待つとわが恋ひをればわが屋戸の簾動かし秋の風吹く」*6といった『万葉集』で歌われているような、戸外と室内とが判然と区別されない開放的な生活が行われていたという。
コロナ禍、地球温暖化、そして人新世などの現代の問題が加速し、人類が危機的な状況に陥った時、大袈裟なようだが未曾有の暮らしをしなければ生き残れないのではないか。コロナ禍ではアウトドア・ダイニングなどの外を使いこなすしかない状況を体験した。古代では室内が寒かったから室内外の境目が緩やかだったが、地球温暖化の中では外も暖かいから室内外の境目が緩やかになるということも想像できる*7。そうした暮らしを古代では『万葉集』のような文化に昇華していたが、それが今はできているだろうか。今現在の方が先進で、昔の暮らしは淘汰された過去の出来事と言い切れるのか。藤原豊成板殿の広い吹放しの使い方を想像することの先に、現代の人びとがもっと外を活かす暮らしや文化を紡ぐための、足掛かりがあるにちがいない。

1：関野克「在信楽藤原豊成殿板殿復原考」『建築学会論文集 第3号』、1936年。藤原不比等の孫・豊成の住宅の一部（メインの建物ではない）だったと言われている建物の復原案。762年に石山寺に食堂として移築された時の記録があり、それを元に復原された。
2：たとえば、庇が両脇ではなく、片方だけの案がある（沢村仁「住居の様相」『世界考古学大系 4』、1962年）。また庇に壁がとりついて、室内に取り込まれていた可能性も否定できないとする言説もある（島田敏男「在信楽藤原豊成板殿再考」『文化財論叢 II』、1995年）。そもそも豊成の住宅ではなく別の藤原氏のものであり、倉のような機能をもっていたのではないかとする説もある（岡藤良敬「藤原「豊成」板殿・考」『正倉院文書研究 10』、2005年）。そのため、実証的には見直されている過程だが、復原案にも独立した創造性があるととらえて考察したい。
3：早稲田大学准教授。「正倉院文書・造石山寺所関係文書からみた奈良時代の建築造営過程と建築形態の復原研究」というテーマで科学研究費助成を得ている。
4：出口清孝「PMVを用いた日本の伝統的居住空間における冬季室内環境の評価」『民俗建築』114号、1998年。
5：浅野清「法隆寺伝法堂前身建物に関する復原的考察」『美術研究』、1947年。
6：伊藤行「藤原豊成板殿の復原について」『鹿児島大学工学部研究報告 1』、1961年。現代語訳「あなたを待って私が恋しく思っておりますと、私の家の戸口の簾を動かして秋の風が吹いてきます」。
7：たとえば、アジアの気候に合わせてヴェランダを配置した洋館（ヴェランダ・コロニアル）のように。

撮影：新建築社写真部

藤原豊成板殿の復原模型。広いテラスのような空間が対称に取り付く。

特集

風が抜ける家

外に居場所を生むテラス

現代の住宅にとって、風という目に見えないものをいかにデザインするか。それが今月号のテーマです。そしてここで紹介する住宅はすべて、テラスなど、外に重心を移した居場所を大きくもちます。
「風が抜ける家」。今ほどこの言葉通りの家を求める時代もなかったのではないでしょうか。新型コロナウイルスの問題は、人の命と健康を守る換気の必要性をより一層もたらし、同時に、どこにいても風の抜ける外の居場所を探して、そこに安心を得て楽しむことを多くの人が覚えたといえます。
今月号では、この時代の背景をより強くうつしとった住宅を紹介します。居室の倍の広さのテラスをもって積極的に外に暮らしを延長したもの、内外に連続するバッファーゾーンでたくさんの植物と人が共生する環境をつくるもの、大きく減築した場所をテラスにしたものなど、1日1年を通し風がどのように抜けそれを制御するか、外の居場所をいかに暮らしの中に定着させるかのさまざまな創意が見えてきます。このアクティビティの設計は、風という図面には表せないものをいかに想像するかという、建築の普遍的な思考です。その先に、不確かなものといかに向き合い建築としたかという、今こそもつべき思考の方向性を見ていただきます。　（編）

特集作品17題

フロントヤードから南面ファサードを見る。1階南側に観葉植物店を構えた併用住宅。植物と人のための環境を調整するキャットウォークが南面に張り付く。躯体からアウトセットして取り付けられたサッシは、温室用、住宅用、店舗用と内部環境に合わせて異なる規格のものを採用。

House / shop F

愛知県名古屋市

木村松本建築設計事務所
KimuraMatsumoto Architects

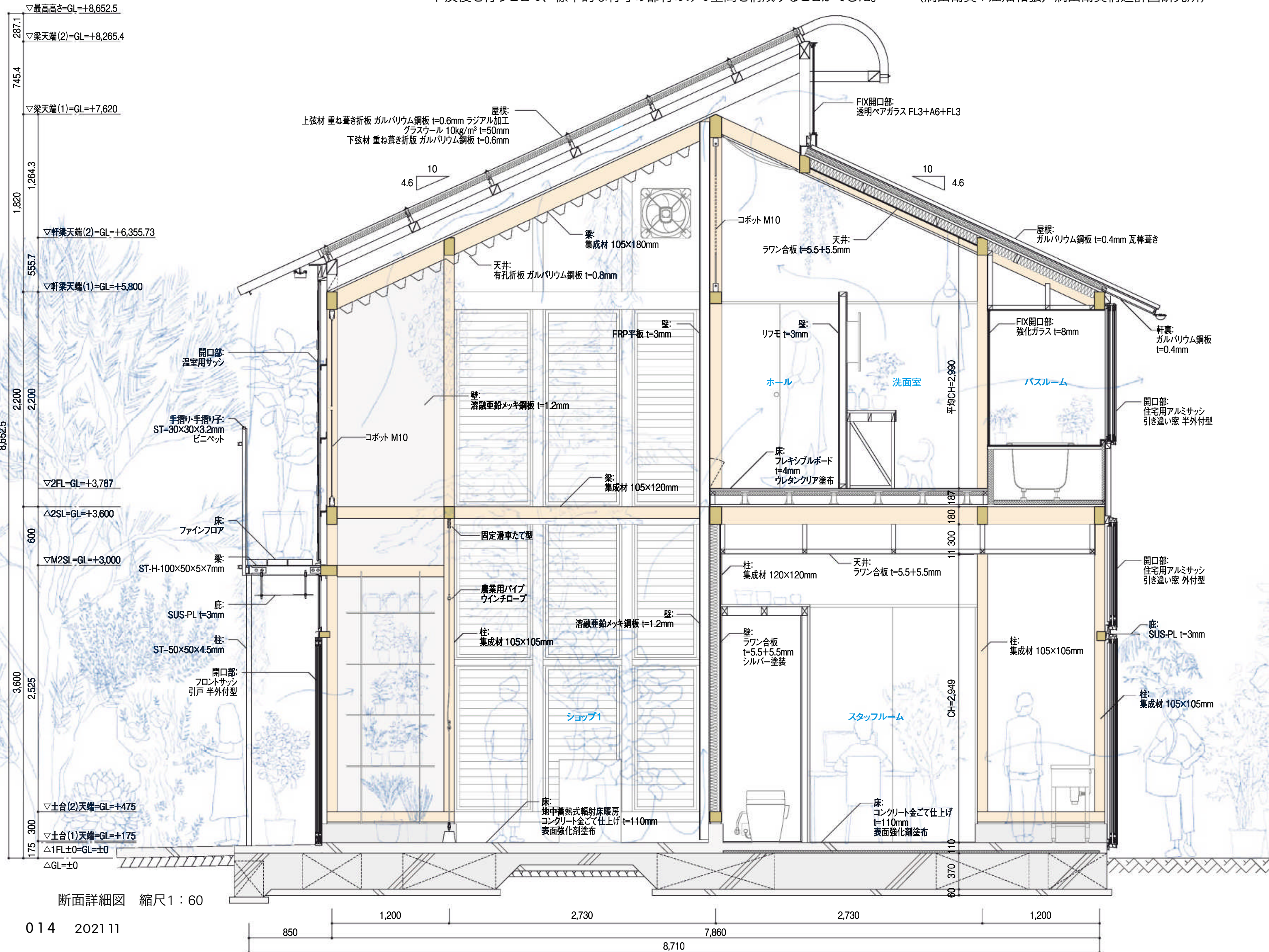
ショップ1。反復操作でつくられる温室に倣い、軽やかな構造フレームが均等に繰り返されるほぼシンメトリーな構成。105mm幅の柱梁で5.6〜7.4mの天井高さの大きな気積をもち、多種の植物に合わせ明暗高低差のある環境を生み出している。ショップ内の空気は天井有孔折板裏の通気層へ抜け、招き屋根頂部で排出される。

ショップ1から見上げる。床がグレーチングでできたキャットウォーク（内）を通じて、ショップと住居部の領域が重なる。

ショップ1、奥行き18mの長手方向を見通す。内壁の溶融亜鉛メッキ鋼板による光の反射が、明るさと視覚的な奥行きをもたらす。

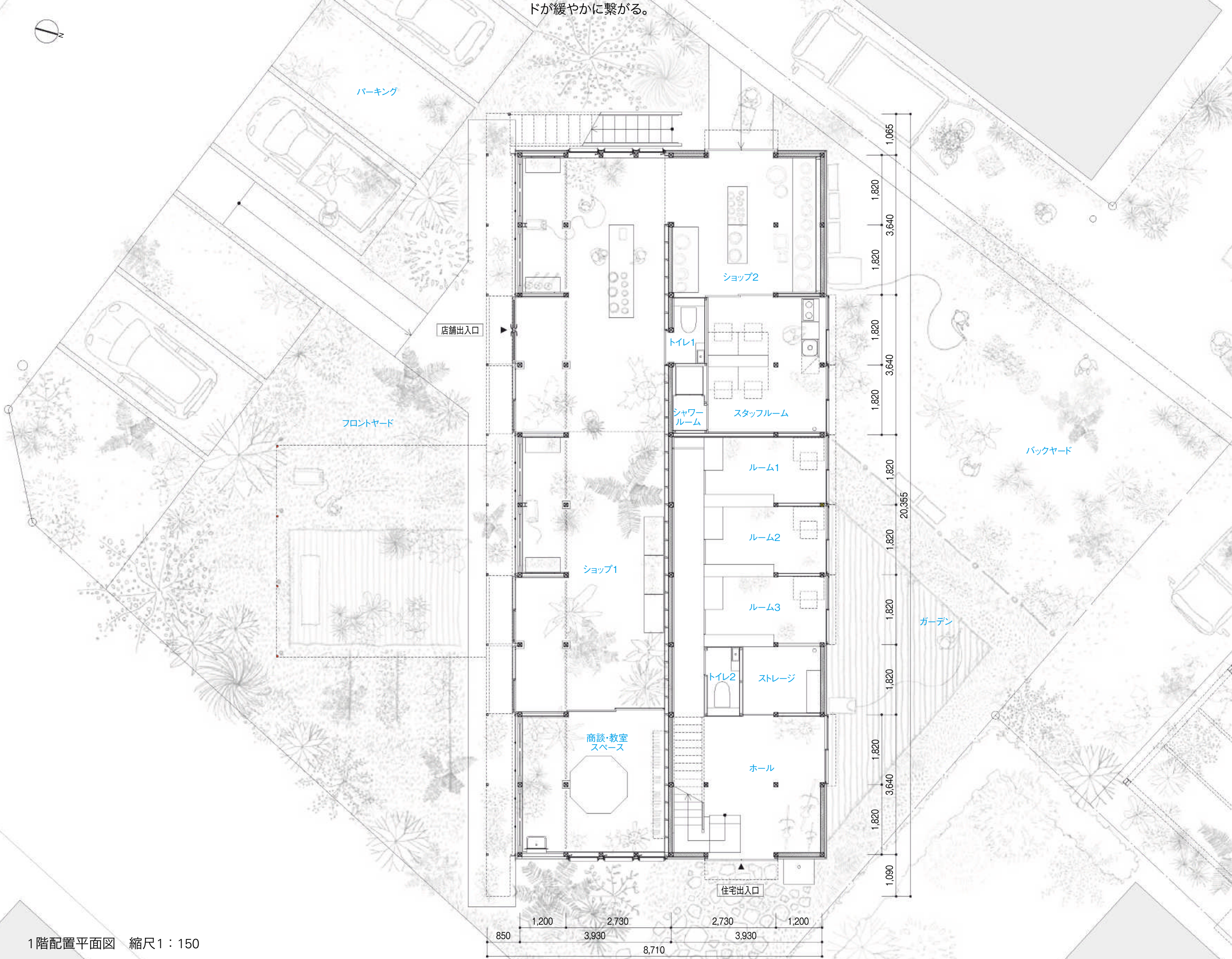
スケールは大きく、材寸はそのままに

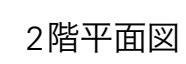
1、2階共に外形は7.86×18.2mの長方形、1階階高は3.6m、2階も床梁天から棟梁天まで高さが4.02mあり、木造2階建て住宅としてはスケールの大きな建物である。スケールは大きいが、床組や屋根は原則として梁成180mm（余裕のある部材は120mm）とし、登り梁を斜めに受ける棟梁のみ240mm成、というシンプルなルールのもと、普段通りの材寸で空間全体を統一している。2階ダイニングなど1,820mmピッチの柱配置では窮屈となる箇所は、軒と同じレベルに120mm成の横架材を下弦材として流し、既成品の金属ブレース材を長期用テンション材として組合せ、スパン5.46mのトラス梁とし、30m²の無柱空間をさりげなく実現している。柱は、高さが4mを超え、トラス化により軸力が集まる中央列のみ120mm角を用いているが、ほかは105mm角である。スケールが大きい建物ではあったが、丁寧なグリッド反復を行うことで、標準的な材寸の部材のみで空間を構成することができた。　（満田衛資＋江畑和弘／満田衛資構造計画研究所）

断面詳細図　縮尺1：60

2階キャットウォーク（外）。寒冷紗が取り付けられるビニペット（ビニールハウス部材）によって季節によって日射量をコントロールし、植物と人間にとって快適な環境を調整する。

西側外観。ラジアル加工部材を招き屋根の頂部に付け、換気を容易にしている。

角地に対してヴォリュームを斜めに配置することにより、フロントヤードとバックヤードが緩やかに繋がる。

1階配置平面図　縮尺1：150

左手は植物の養生スペース。今後、バックヤードには作業用の簡易な屋根を設置予定。

ショップ2からスタッフルームを見る。

リビング・ダイニング。トラス梁により5.4mスパンを無柱とした家族の集まるスペース。

内外キャットウォーク越しにリビング・ダイニングを見る。ショップエリアと住居エリアを横断しながら、植物と人のための環境を調整する。

動的なケアの場をつくる

コロナ禍が余儀なくした外出制限やテレワーク、さまざまなもののオンライン化は、私たちがいかに日々「移動」していたかを自覚させた。そしてその時間は家で過ごすものに使われることとなったが、同時にその環境の質にも目を向けさせた。植物を身近に置く人が増えたのもそのひとつだろう。私たちも自宅のベランダで育てている植物の量が増え、事務所の庭ではスタッフたちが野菜をつくり始めた。そこで見られる成長は、現在の私たちが置かれた状況に最適ともいえる「遅さ」を有しており、更にはインテリアや建築、そして庭といった身の回りを自分自身の手で「ケア」してゆくことの意義を改めて考える機会となった。

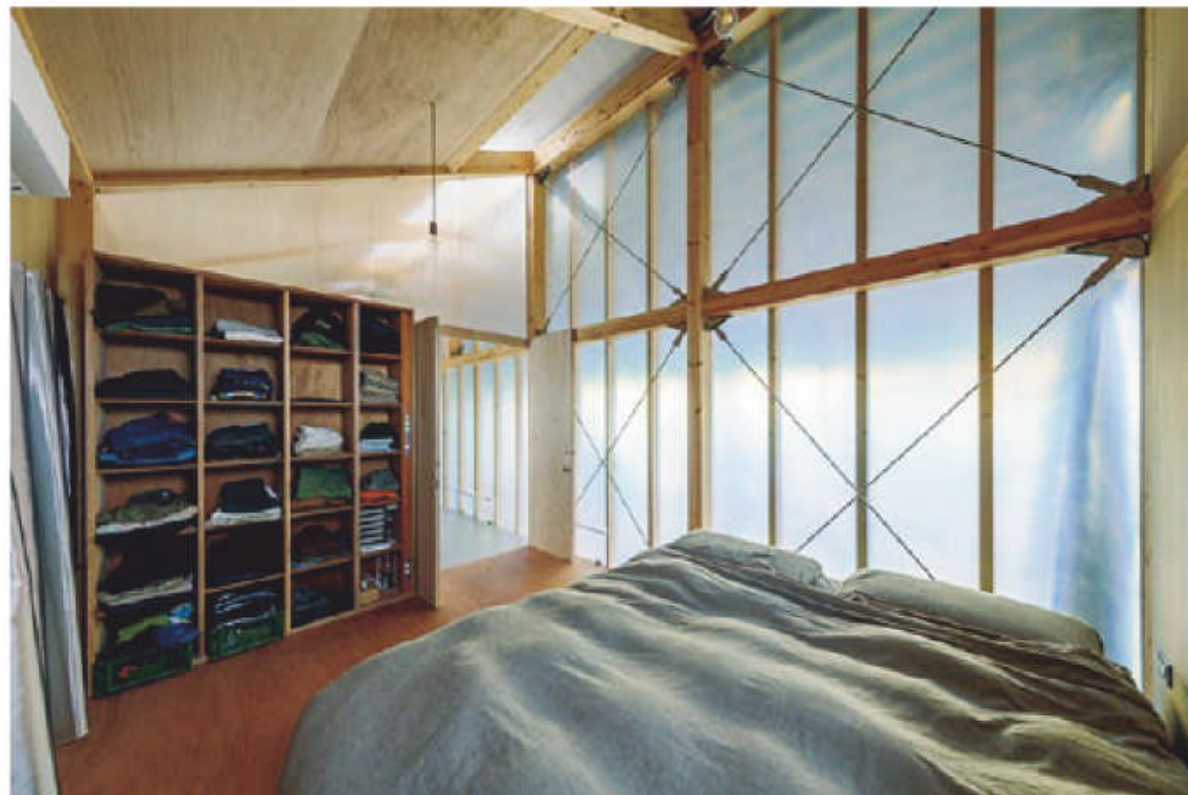
「House / shop F」は、フタムラグリーンサービスという企業の新規事業拠点（YOKONI PLANTS）と、家業を継ぐ4代目の住居として計画された。愛知県は全国有数の観葉植物生産地、流通の拠点であり、敷地周辺は農業用ハウスと住居が混在している。創業者は1928年に事業を開始し、当初は植物の生産とレンタルグリーン業を行っていた。このレンタルグリーンという業種は実に歴史が長く、そのルーツは江戸時代に大名屋敷に置かれる盆栽を入れ替えする仕事だといわれている。その後、さまざまな地域の生産者とのネットワークを築き、卸業や植物を使った空間の企画・設計・施工などとその内容を拡げてきた。また近年では個人住宅でこだわりの植物を育てるニーズが増え始めたが、広い敷地にはレンタルグリーンのための温室、販売用の植物のための倉庫、オフィスが既にあり、業務用車両置き場や外部作業スペースなども含めてその全体は従来の業務を充足させることでほぼ手いっぱいとなっていた。そのため、一般小売りを新規事業として明確に位置づけ、その拠点となる建物を建てることで新旧の事業領域が整理されることがわれわれの仕事であるととらえ、設計を進めた。

計画敷地にはかつて先代が建てた民家があり、それを解体することから始めた。敷地はT字路の角に面しており、北側奥に向かって既存機能が連なっている。その角に面して整形の建物を正対（街区ブロックに対しては斜め）するように配置し、前後に三角形のふたつのヤードをつくり出す。街区を大きく隅切りしたような広々としたオモテのヤードは、街区に対してプラザのような場所となり、さまざまな植物が植え・置かれ、イベントや休息や遊びのための場、駐車・搬出入のスペースとしても活用される。ウラのヤードはさらに二分し、ひとつは住居のための庭、もうひとつは新旧の業務を繋げ、植物の生育や調整に関わるバックヤードとした。建物には尺モデュールを用いて、農業用温室をつくるのと近似した手順で長手方向に基本形となる木造フレームを1間間隔に均等配置している。多様な植物の快適な環境をつくり出す大きな気積をもつ階高を設定し、南面は温室用サッシと住宅用サッシを組み合わせたファサードとした。それらと直行する建物中央の構造フレーム表面には光を反射させる溶融亜鉛めっき鋼板と、2階住居部にその光を取り入れられるFRP板を配した。売り場の空気は吹抜けを通じ、天井の有孔折板裏の深い軒裏を通り、招き屋根から排出され、必要に応じて居住部に取り入れられる。季節によって変化する室内環境を調整する部位として、正面ファサード前面に小径鉄骨部材を組み合わせてつくった仮設足場のようなキャットウォークを設けた。そこは植物が配され、手摺りに着脱可能なシェードが日差しをコントロールし、建物のメンテナンス用通路ともなってさまざまに働く。彼らの生業の中心である植物のための環境を、敷地周辺エリアに多く見られる農業用ハウスというタイポロジーを変奏するようにつくり出し、そこに人が間借りをして暮らすような構成である。

ここにあるのは、かつての養蚕民家や曲り家における人と生物の協同に似たあり方、顔の見える遠くの生産者や新しくミセを訪れる人びととの関係も含めた生業と暮らし、人とモノの連鎖である。

働くことと住むことを切り離すことで成り立つ市場経済に対し、家族やそこで働く人びとが日常を明け渡すことなく主体的に連続させていく実践。それはこのすべての領域で、育てることやメンテナスに関わるケアが、人と生物、人と人、双方向に多様に展開されてゆく。形を変えながら受け継がれ、これからも時代に合わせて更新を続けてゆくこの場所は、住居を超えた動的なケアの場として、人の生活を繕い続ける。

（木村吉成＋松本尚子）

リビング・ダイニンとルーム4を繋ぐ廊下。日中は2重のFRPスクリーンからの光と、上部ハイサイドによる安定光が入る。

ルーム4。

FRPスクリーンの下部は、ショップからの空気を取り入れる機構とした。

ルーム2。3.45mの天井高さを活かし、上部にはロフトベッドを設けた。奥にガーデンと繋がる。

階段より上下階を見る。

House / shop F

所在地／愛知県名古屋市
主要用途／住宅+観葉植物店
家族構成／夫婦+子供3人+猫2匹

設計
木村松本建築設計事務所　担当／木村吉成　松本尚子　浦田友博
構造　満田衛資構造計画研究所　担当／満田衛資　江畑和弘

施工
箱屋　担当／松本繁雄
基礎　リュウテックコーポレーション　担当／兼松悟
大工　中野建築　担当／中野行博
プレカット　山西プレカット　担当／服部浩和
板金　長谷川板金　担当／長谷川裕次
金属　アイチ金属　担当／山田茂
塗装　安藤塗工店　担当／安藤敏
防水　中部エーケン　担当／長船正
木製建具　光工房　担当／光岡卓範
鋼製建具　井上硝子　担当／井上静一
温室用サッシ　富国工業　担当／太田恵昌
電気　足立電気商会　担当／萩原和夫
給排水　クアトロ　担当／山下秀明
空調　名南冷熱工業　担当／小澤慎太郎
家具　マルモク　担当／丸地確
蓄熱式床暖房　サーマエンジニアリング　担当／小林健吾
電気式床暖房　GROOVE　担当／中井郁弥
カーテン　fabricscape　担当／山本紀代彦
植栽・造園工事　YOKONI PLANTS　担当：二村亮平
ウッドデッキ工事　エイチユー丸八　担当／仙田欣司

構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 5,896mm　最高高さ 8,748mm
敷地面積　551.05m²
建築面積　162.81m²
（建蔽率 29.55%　許容 60%）
延床面積　251.31m²
（容積率 45.61%　許容 200%）
1階　143.06m²　2階　108.25m²

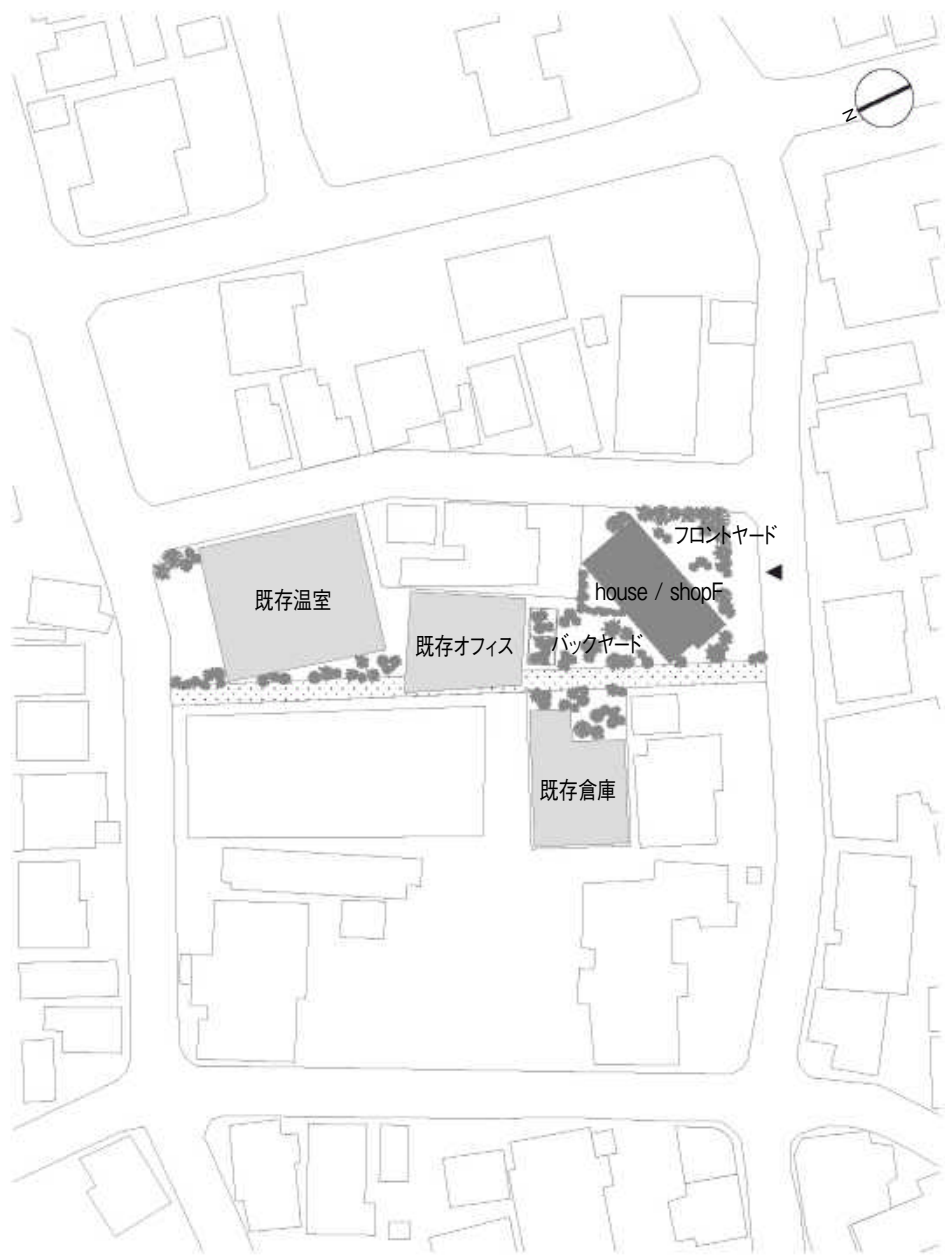
工程
設計期間　2017年2月～2020年5月
工事期間　2020年6月～2021年7月

敷地条件
地域地区　第2種中高層住居専用地域　準防火地域　20m高度地区
道路幅員　南東・南西6.5m　　駐車台数　7台

外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板 折板葺き t=0.6mm　ダブルパック ガルバリウム鋼板 瓦棒葺き t=0.4mm
外壁／農畜産用断熱材付き外壁材
開口部／住宅用アルミサッシ 外付型・半外付型　温室用サッシ（富国工業）　制作建具
外構／コンクリート金ごて仕上げ　砕石　真砂土　ウッドデッキ
キャットウォーク（外）／ファインフロア

内部仕上げ
ショップ1・2
床／コンクリート金ごて仕上げ 表面強化剤
壁／溶融亜鉛メッキ鋼板 t=1.2mm　FRP平板ルミテリア t=3mm（AGCマテックス）　ラワン合板 t=5.5mm シルバー塗装
天井／有孔折板 ガルバリウム鋼板 t=0.8mm　構造用合板 t=24mm 梁現し
照明／協和電工　遠藤照明
カーテン／ fabricscape
シンク水栓金物／ general view
建築金物／建具引手　ドアノブ（BOLTS HARDWARE STORE）
スタッフルーム
床／コンクリート金ごて仕上げ 表面強化剤
壁／ラワン合板 t=5.5mm 自然塗料
天井／構造用合板 t=24mm 梁現し
照明／協和電工
カーテン／ fabricscape
厨房機器／
1層シンク・作業台・ガス台／マルゼン
換気扇／パナソニック
シンク水栓金物／カクダイ
シャワールーム
床／コンクリート金ごて仕上げ 表面強化剤
壁・天井／ FB t=6+6mm 撥水剤
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
トイレ1
床／コンクリート金ごて仕上げ 表面強化剤
壁・天井／ラワン合板 t=5.5+5.5mm シルバー塗装
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
建築金物／ドアノブ（BOLTS HARDWARE STORE）
便器・洗面器・洗面用水栓金物／ LIXIL
ホール
床／コンクリート金ごて仕上げ 表面強化剤
壁／ラワン合板 t=5.5mm 自然塗料
天井／構造用合板 t=24mm 梁現し
照明／ BOLTS HARDWARE STORE　協和電工
建築金物／建具引手（BOLTS HARDWARE STORE）
ルーム1・2・3
床・壁／ロシアンバーチ t=5.5mm 自然塗料（テツヤ・ジャパン）
天井／構造用合板 t=24mm 梁現し
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
カーテン／ fabricscape
建築金物／ドアノブ（堀商店）
トイレ2
床／コンクリート金ごて仕上げ 表面強化剤
壁／ラワン合板 t=5.5+5.5mm 自然塗料
天井／ラワン合板 t=5.5+5.5mm
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
建築金物／ドアノブ（BOLTS HARDWARE STORE）
便器・洗面器・洗面用水栓金物／ LIXIL
リビング・ダイニング　キッチン　ゲストルーム　ドライルーム　パントリー
床／ FB t=4mm ウレタンクリア
壁／ラワン合板 t=5.5mm 自然塗料　FRP平板ルミテリア t=3mm（AGCマテックス）　リフモ t=3mm（門倉貿易）
天井／ラワン合板 t=5.5+5.5mm 梁現し
照明／遠藤照明　BOLTS HARDWARE STORE
カーテン／ fabricscape
建築金物／建具引手　ドアノブ（BOLTS HARDWARE STORE）
厨房機器／
IH ／ gaggenau
換気扇／富士工業
シンク／シゲル工業
シンク水栓金物／ DELTA
洗面脱衣室
床／ FB t=4mm ウレタンクリア
壁／リフモ t=3mm（門倉貿易）
天井／ラワン合板 t=5.5+5.5mm 梁現し
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
建築金物／ドアノブ（BOLTS HARDWARE STORE）
洗面器／ TOTO
洗面用水栓金物／ LIXIL
浴室
床・壁／ FRP防水 トップコート仕上げ
天井／珪酸カルシウム板 t=6+6mm VE
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
バスタブ／大和重工 CASTIE1470
シャワー水栓金物／ TOTO
ルーム4
床／アピトン合板 t=5.5mm 自然塗料
壁／キリ合板 t=5.5mm 自然塗料
天井／ラワン合板 t=5.5+5.5mm 梁現し
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
カーテン／ fabricscape
建築金物／建具引手（BOLTS HARDWARE STORE）
トイレ3
床／ FB t=4mm ウレタンクリア
壁／ラワン合板 t=5.5+5.5mm
天井／ラワン合板 t=9mm
中空ポリカーボネート t=6mm
照明／ BOLTS HARDWARE STORE
建築金物／ドアノブ（BOLTS HARDWARE STORE）
便器／ TOTO
洗面器・洗面用水栓金物／ LIXIL
キャットウォーク（内）
床／ファインフロア
壁／溶融亜鉛メッキ鋼板 t=1.2mm
天井／有効折板ガルバリウム鋼板 t=0.8mm

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
業務用エアコン
換気方式／第3種換気
その他／地中蓄熱式床暖房
電気式床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／エコキュート

撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：2,000

南側夕景。T字路の角に位置するパーキング・フロントヤードは、大きな空地を街に付与する。

フロントヤード。キャットウォークの手摺りから伸ばした寒冷紗で日除けをつくり、部分的にウッドデッキを設えることでで開放的な居場所とした。

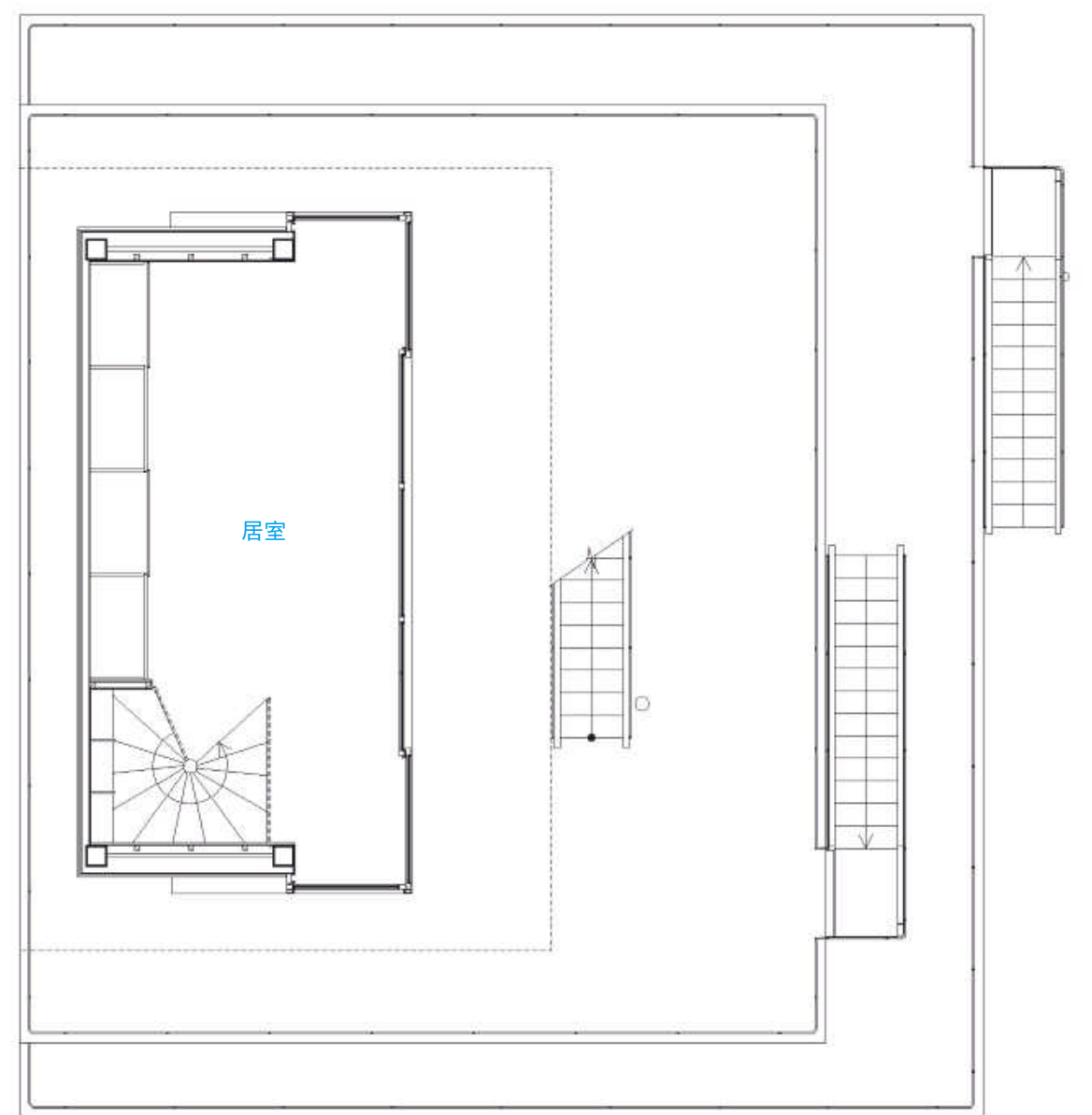
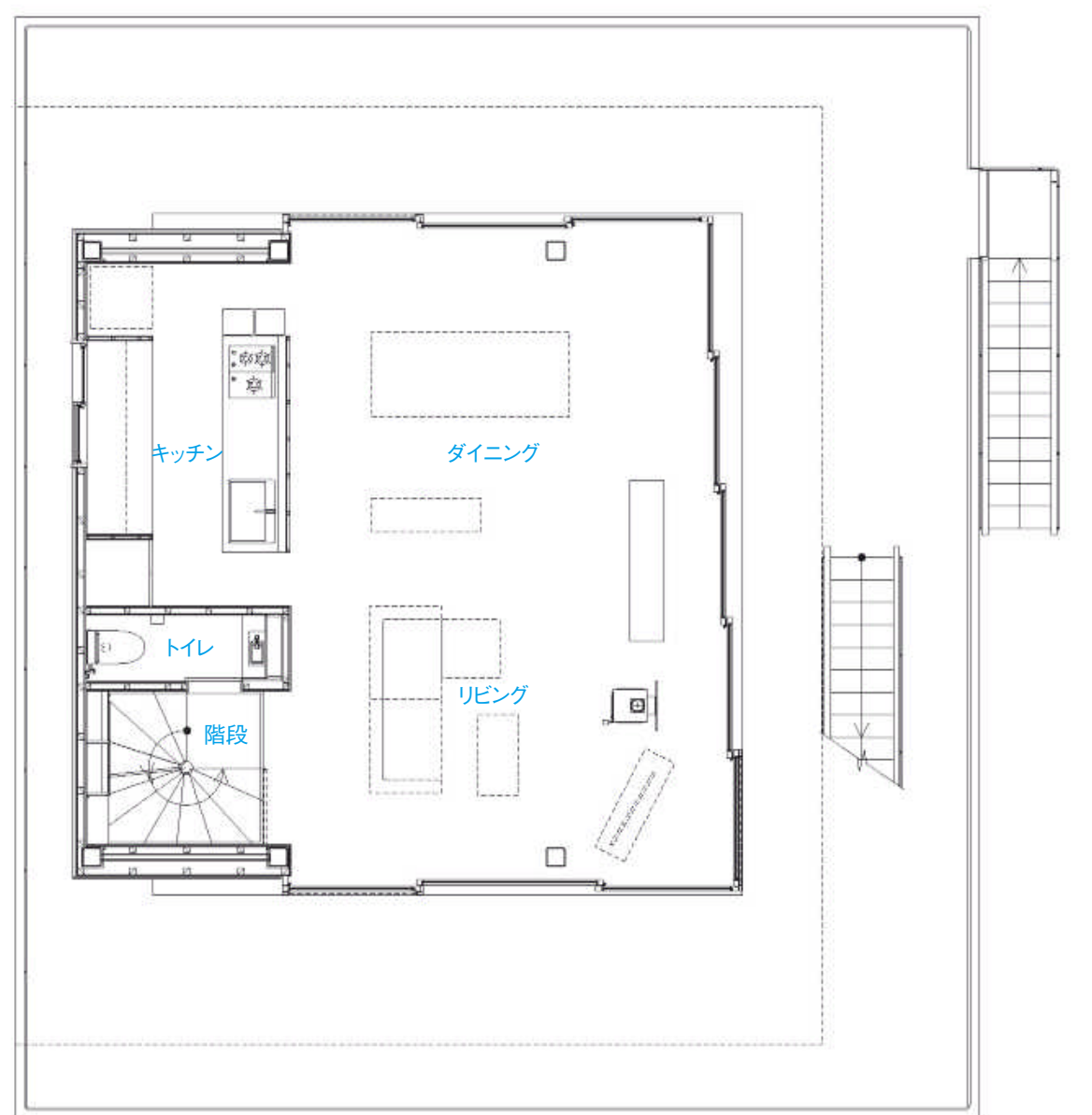
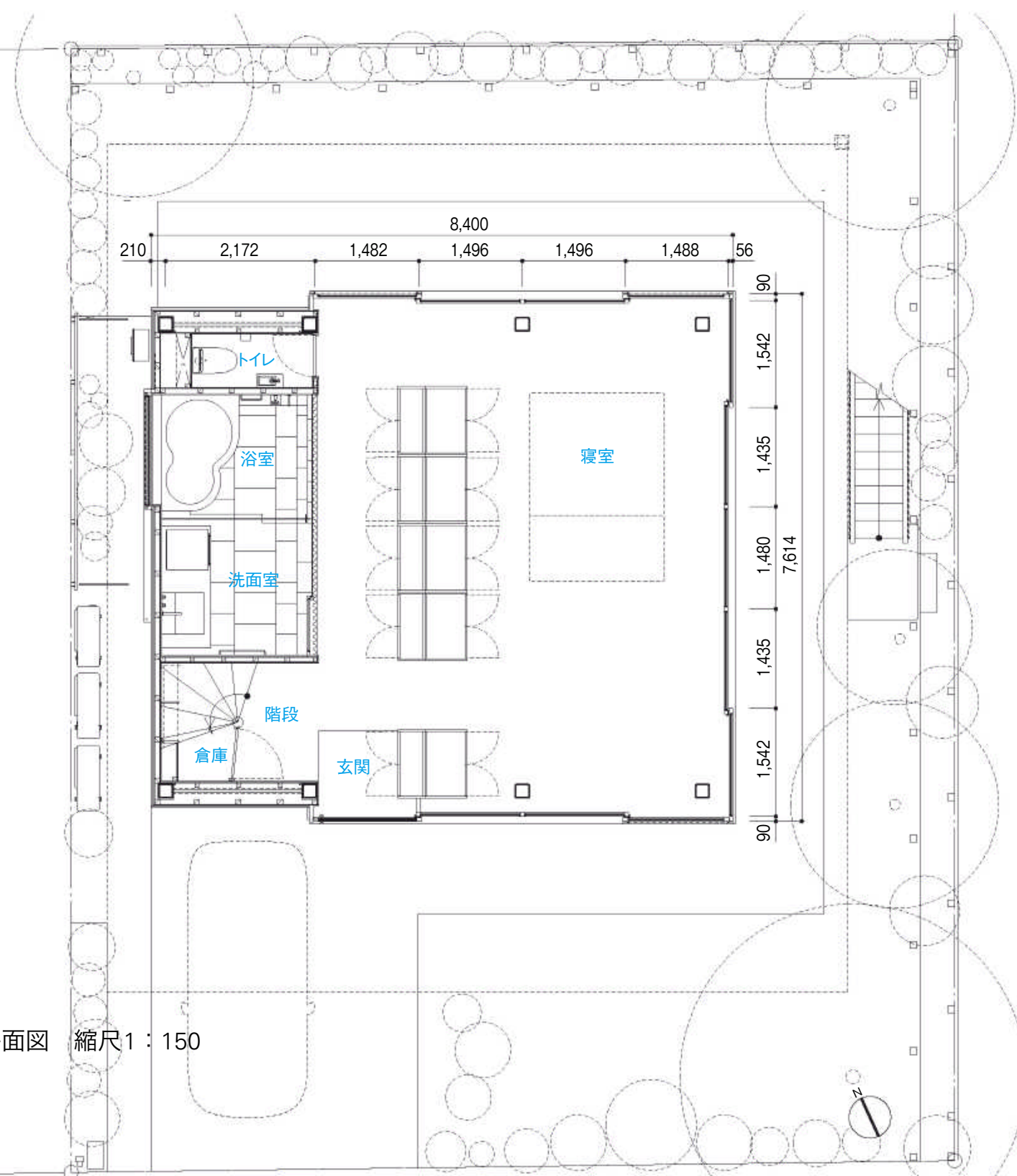
城の家

Castle House
静岡県静岡市

手塚貴晴＋手塚由比／手塚建築研究所
大野博史／オーノジャパン
Takaharu＋Yui Tezuka
／Tezuka Architects
Hirofumi Ohno／OHNO JAPAN

東上空から鳥瞰する。地面をもち上げたかのようなテラスに囲まれたフロアが3層積み上がる。居室よりもテラスの方が広く、居室はテラスに属する関係となる。

北側全景。各フロアとも3面をガラス建具とし、上階のテラスによる軒下空間のもとにテラスとフラットに繋ぐことで、内外を双方に拡張するように利用することができる。テラスは上に行くに従い小さくなり、空に向かって開かれたテラスとなる。

2階リビングダイニング。張り出す2階のテラスは、外周に取り付けた低い板の腰壁によりプライバシーを適度に保つ。

富士とテラス

静岡からは富士が見える。日本人の誰もが、地球から噴出した軽石の堆積に過ぎない不毛の山に憧憬を抱く。富士が見えるということは、天竜川より東に住まう日本人にとって、一種の特権ともいえるべく贅沢であり続けていることは間違いがない。敷地の脇にはささやかな農業用水が微かな音を立てている。富士の方角には生産緑地があり、農園として借り受けている。

住宅地とは屋根の高さを揃える決まりである。ほとんどの住宅は地域の慣わしに従い、同じような屋根があり同じ高さに窓がある。その中で2階に上がりたい、あるいは2階からの景色というものは、誰もが平等に分け与えられた密やかな愉しみといえる。「上る」という行為が常に日本人の間に強い欲求として日常の中に刻まれたことは当然といえる。

空中不動産のプライバシー

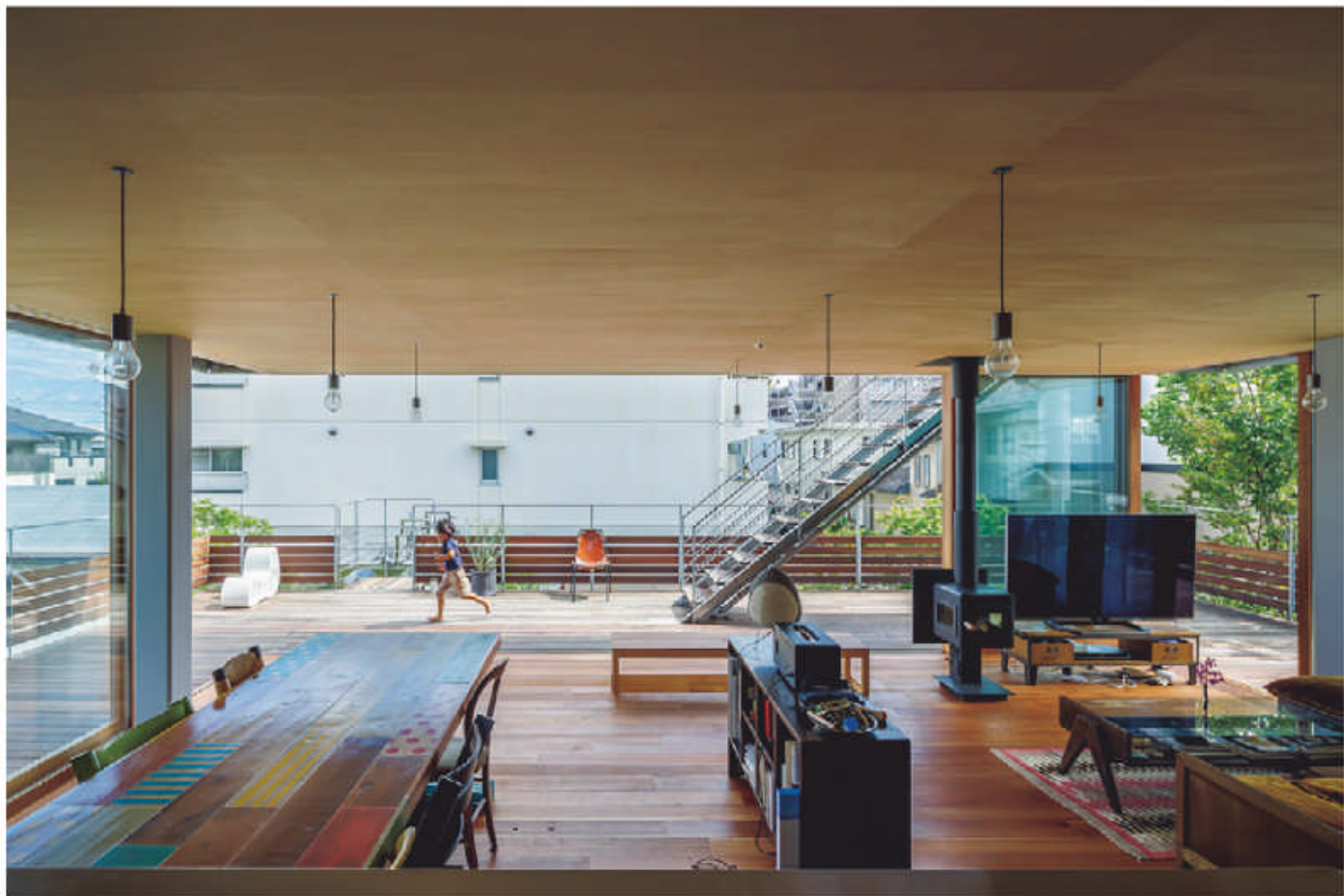
この住宅の機能はすべてこの3枚の板の上に載っている。上に上がると景色は変わる。これは当たり前のことのようであるが、2階に上がるということとは違うのである。大きく張り出した板ごと家がもち上がると、景色だけではなく生活のすべてが変わる。部屋はまな板の上に載せられた惣菜のようなもので、通常の建築における構成とは主客が転倒している。この板には屋根としての機能はあるが、その前に載せるという機能の方が勝っている。インテリアが建築という環境があってこそ成立するのと同様に、浮遊する板という不動産の上に載っているのがこの住宅である。

平地の場合、開くという行為とプライバシーは両立しないものである。欧米のように公共空間というものを、わが庭同様に共有するという概念が日本人にはない。街路はあくまでも公共であり、公共空間を私用に供することは許されていないからである。パリの街角ではテーブルや椅子が並び、公共空間を私人が愉しむどころか店の利益に供しているが、日本ではまったく許されていない。よって日本の街路には公共私有明快な線引きがあり、それを明確にするためには塀や垣根が不可欠となる。結果として、住宅地の建築は街路に対して閉じている。

この空中不動産には開かれたプライバシーがある。人間は日常、水平あるいは下を見て生きている。地球という重力にとらえられている以上は当然のことである。上ばかりを見ていて歩いていては穴や溝にはまってしまうし、大抵の必要事は目下にある。よって高みにいるというだけで、重力を所以とする無言のプライバシーがある。必要がない人間はいちいち見上げないからである。

庭園に住まう

アウトドアは最高の贅沢である。ここでいうアウトドアとは山河を巡る冒険的行為のことではない。風雨を凌ぐというだけではなく、あらゆる文化的欲求を満たして人類が、最後に郷愁を求めるような行為である。人の精神は自然と乖離して生きることができない。酸素や水といった生物として必要な物理だけではなく、複雑な森羅万象から決別することはできない。現代人は本当のアウトドアにもはや対応できない。ほどよい外部環境との関係が必要とされる。木の皮や動物をそのまま人が食することができないのと同様で、自然は設えなければ人は生活できないのである。だから庭園というものが存在する。庭園は本来人間という動物が属すべき自然の代替え品である。しかし人は庭園に住むことはできない。庭園とは愉しむための設えである。このデッキには人が住まうことができる。プライバシーが保たれ、雨を凌ぐ軒があるからである。泥濘みもない。NatureとNaturalは違うという。Natureはあるがままの自然である。Naturalは人のために設られた自然である。　（手塚貴晴）

東側隣地との境の農業用水路にかけて、2段のレベル差をつけ植栽を施し繋ぐことで、水路まで庭として取り込みながらプライバシーも確保する。

上：リビングダイニング。天井はシナ化粧合板張り。風景を水平に切り取る。
中：階段室からリビングを見る。　下：1階寝室。

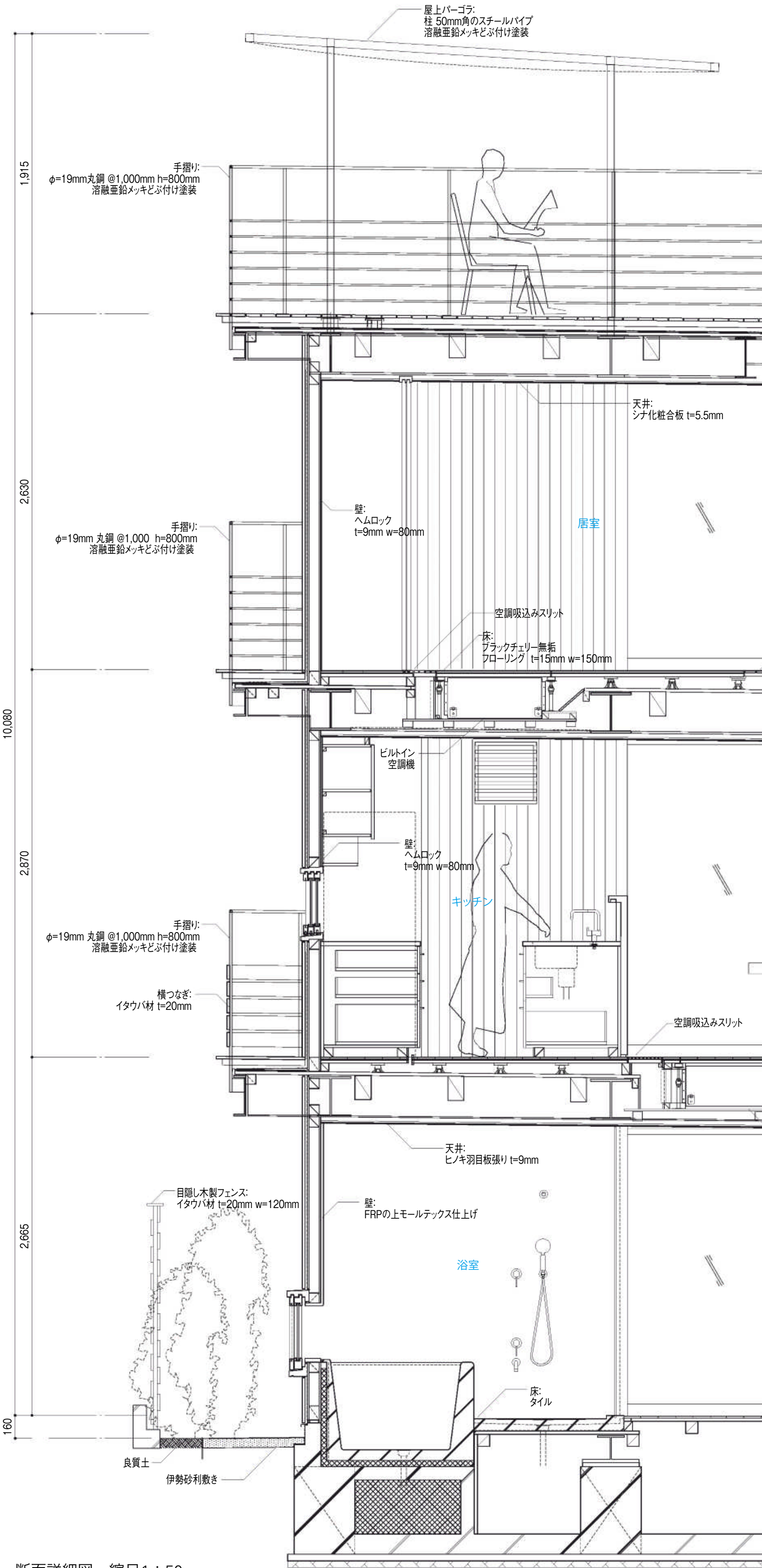
城の家

所在地／静岡県静岡市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

設計

手塚建築研究所　担当／手塚貴晴　手塚由比　矢野健太
構造　オーノジャパン　担当／大野博史　藤田竜平
照明　ぼんぼり光環境計画　担当／角舘政英　竹内俊雄
外構・造園　10景　担当／石川圭一

施工

門西建築　担当／門西健二
G-NEST　担当／佐藤琢磨
大工　濱田建築　担当／濱田知徳
鉄骨　高木鐵工　担当／髙木英伸

断面詳細図　縮尺1：50

設備　足立設備　担当／足立好男
電気　小泉電気商会　担当／竹内雅貴
造園　木全造苑　担当／木全正次
木建具　久保田　担当／久保田勝志
ストーブ　ストーブ工房 山林舎　担当／竹内淳

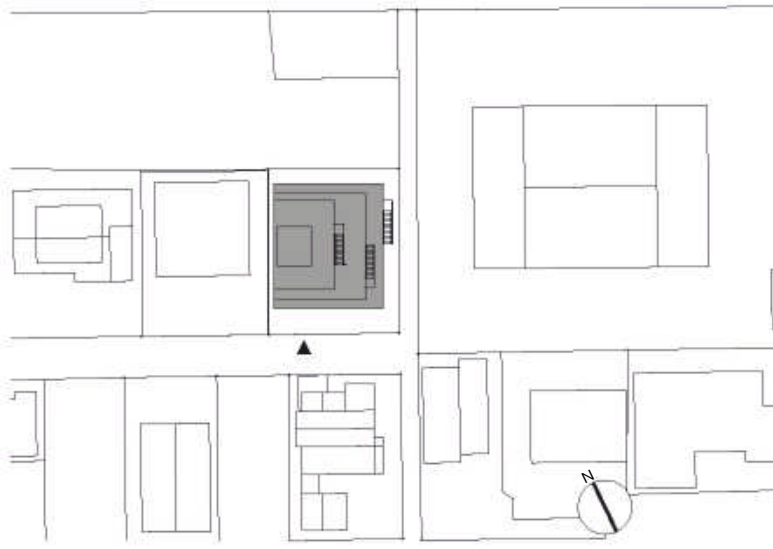
構造・構法
主体構造・構法　鉄骨造
基礎　べた基礎

規模
階数　地上3階
軒高 8,232mm　最高高さ 8,353mm
敷地面積　206.48m^2
建築面積　94.78m^2
（建蔽率45.9% 許容60%）
延床面積　145.56m^2
（容積率70.50% 許容160%）
1階　66.80m^2　2階　53.07m^2
3階　25.69m^2

工程
設計期間　2019年9月～2020年6月
工事期間　2020年7月～2021年4月

敷地条件
地域地区　最高限2種（16m）
道路幅員　南4m　駐車台数　1台

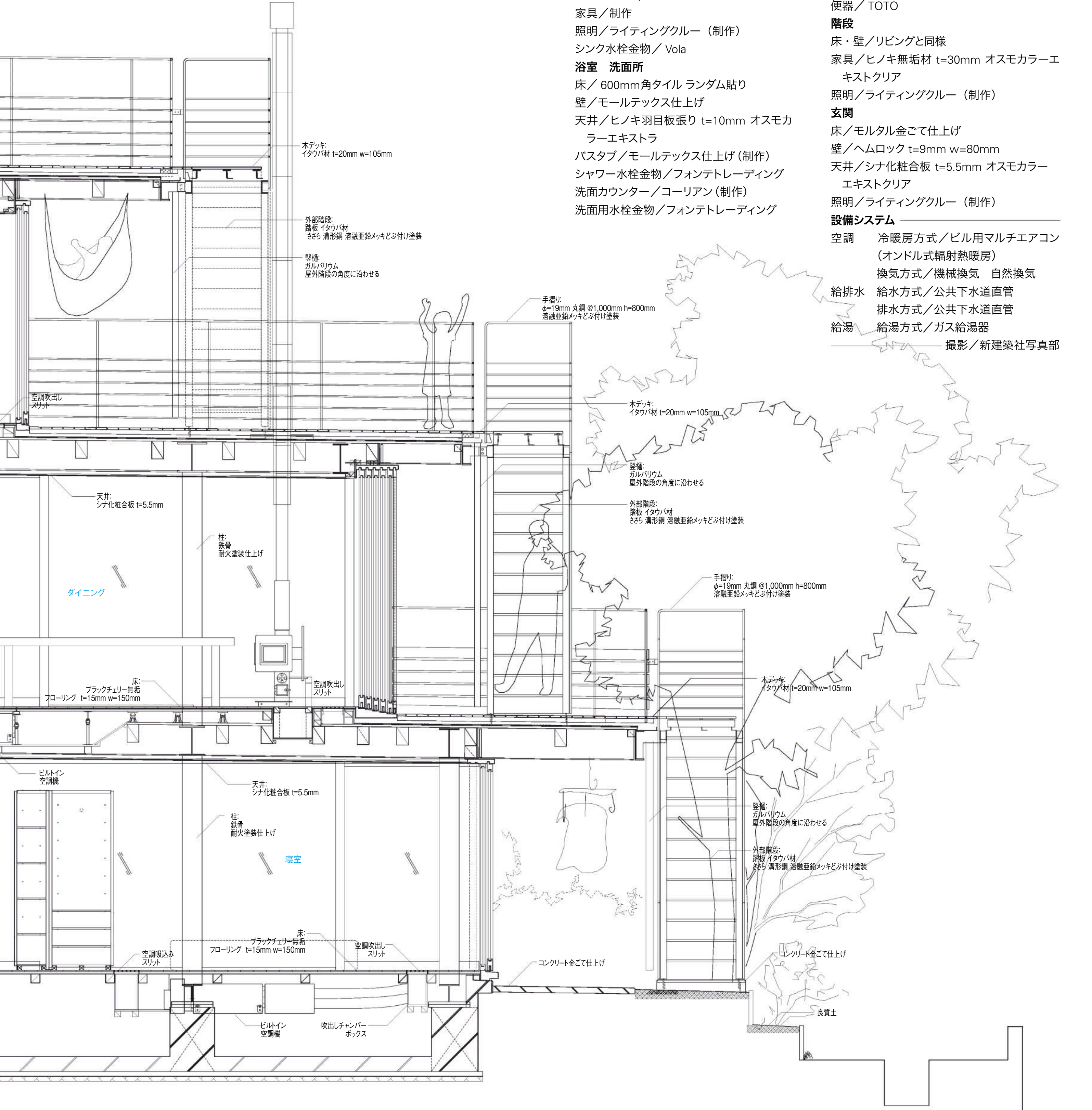
外部仕上げ
屋根／木デッキ（イタウバ材 t=20mm w=105mm オスモクリア）
外壁／イタウバ材 t=20mm w=105mm オスモクリア
開口部／木製ガラス框戸（制作）　木製板戸（制作）
外構／コンクリート金ごて仕上げ 防塵塗装
碎石敷き　良質土 木バーグ仕上げ

内部仕上げ
リビング　キッチン
床／ブラックチェリー無垢フローリング t=15mm w=130mm
壁／ヘムロック t=9mm w=80mm
天井／シナ化粧合板 t=5.5mm オスモカラーエキストクリア
厨房機器／制作
食洗器／ Miele
ガスコンロ／ AEG
家具／制作
照明／ライティングクルー（制作）
シンク水栓金物／ Vola
浴室　洗面所
床／ 600mm角タイル ランダム貼り
壁／モールテックス仕上げ
天井／ヒノキ羽目板張り t=10mm オスモカラーエキストラ
バスタブ／モールテックス仕上げ（制作）
シャワー水栓金物／フォンテトレーディング
洗面カウンター／コーリアン（制作）
洗面用水栓金物／フォンテトレーディング

配置図　縮尺1：1,200

トイレ
床・壁・天井／リビングと同様
家具／制作
照明／ライティングクルー（制作）
便器／ TOTO
階段
床・壁／リビングと同様
家具／ヒノキ無垢材 t=30mm オスモカラーエキストクリア
照明／ライティングクルー（制作）
玄関
床／モルタル金ごて仕上げ
壁／ヘムロック t=9mm w=80mm
天井／シナ化粧合板 t=5.5mm オスモカラーエキストクリア
照明／ライティングクルー（制作）

設備システム
空調　冷暖房方式／ビル用マルチエアコン（オンドル式輻射熱暖房）
換気方式／機械換気　自然換気
給排水　給水方式／公共下水道直管
排水方式／公共下水道直管
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

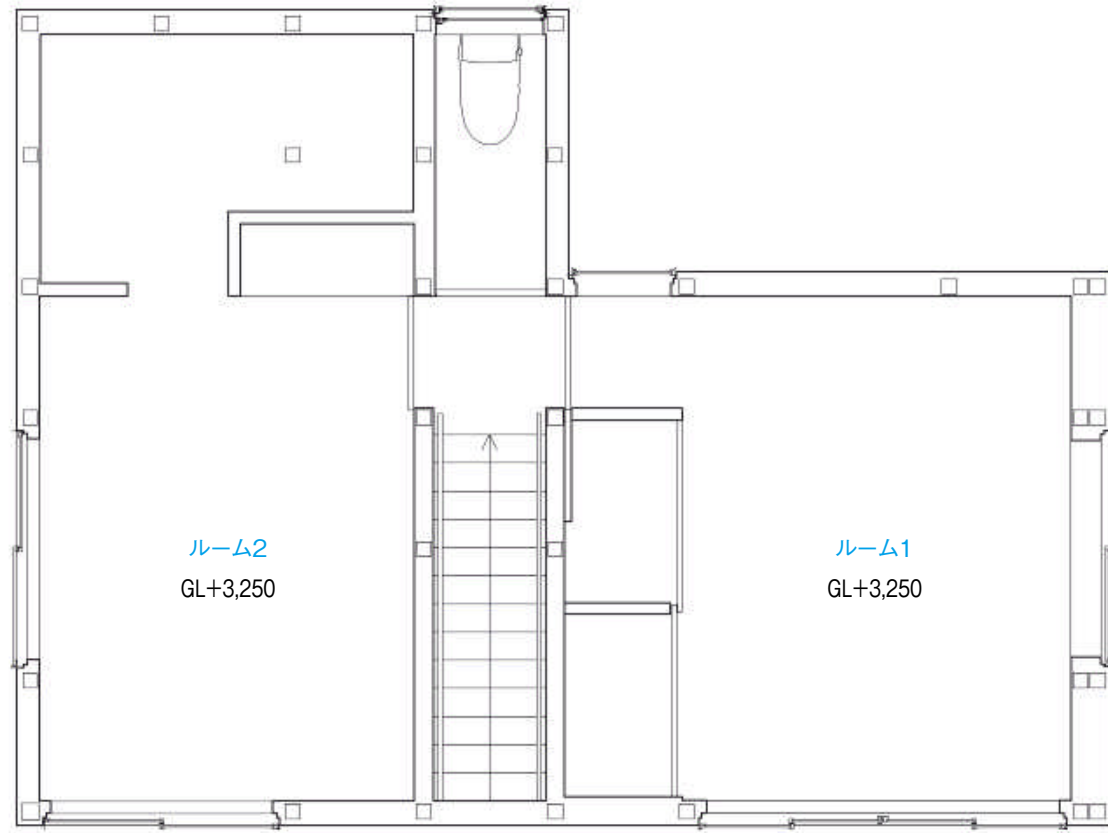
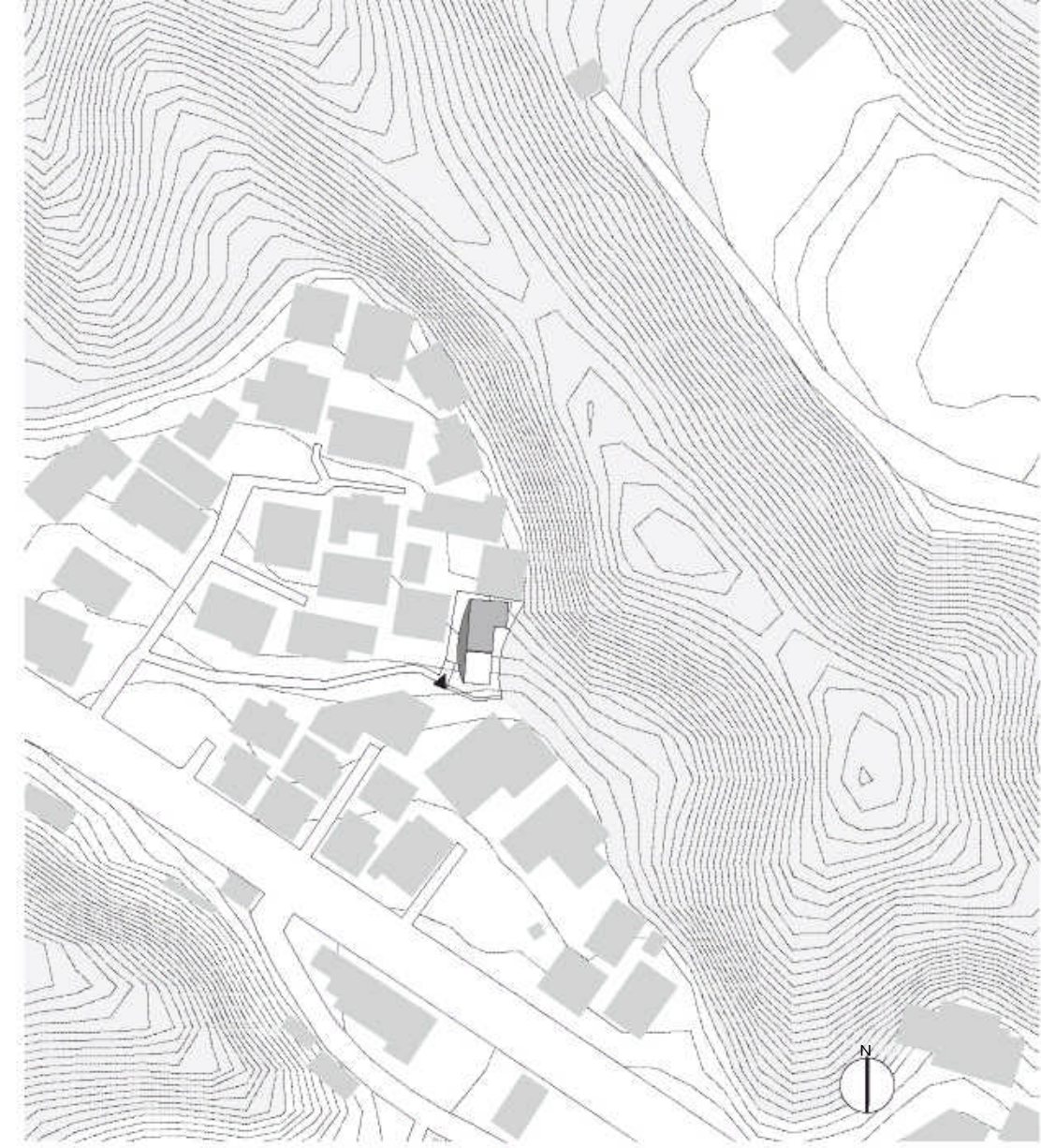
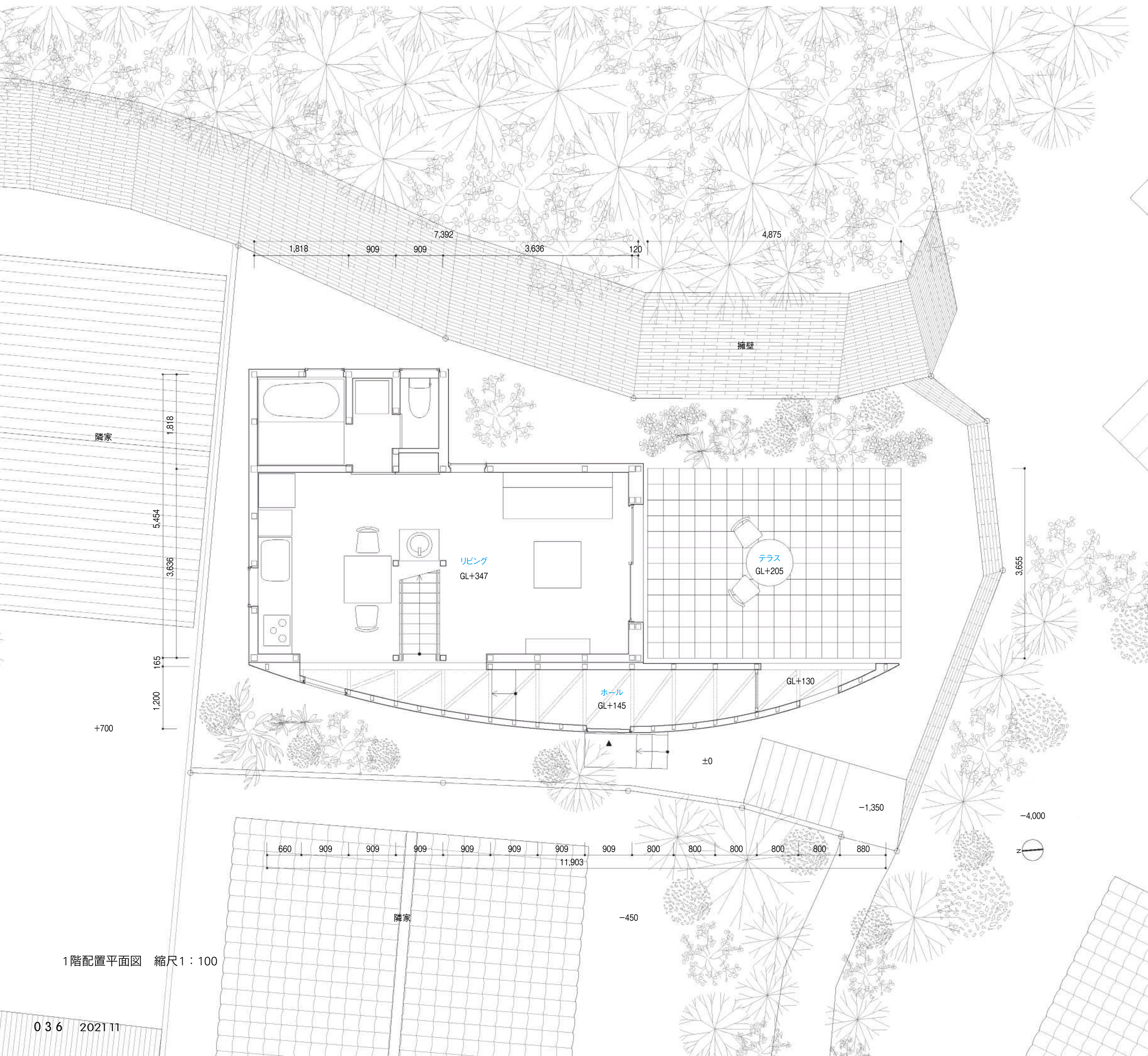
木デッキ:
イタウバ材 t=20mm w=105mm
外部階段:
踏板 イタウバ材
ささら 溝形鋼 溶融亜鉛メッキどぶ付け塗装
竪樋:
ガルバリウム
屋外階段の角度に沿わせる
手摺り:
φ=19mm 丸鋼 @1,000mm h=800mm
溶融亜鉛メッキどぶ付け塗装
空調吹出し
スリット
天井:
シナ化粧合板 t=5.5mm
柱:
鉄骨
耐火塗装仕上げ
ダイニング
床:
ブラックチェリー無垢
フローリング　t=15mm w=150mm
ビルトイン
空調機
寝室
空調吸込み
スリット
吹出しチャンバー
ボックス
コンクリート金ごて仕上げ
良質土

南からホールを見通す。再建築不可の住宅のリノベーションで、敷地は東に擁壁の迫る鎌倉の谷戸に位置する。南側のヴォリュームを減築し、残されたヴォリュームをスケルトンの状態にして改修、西側に用途を定めない、半月状のホールを増築している。

特集：風が抜ける家

家と庭と代

House or Garden and Margin
神奈川県鎌倉市

村山徹＋加藤亜矢子／ムトカ建築事務所
MURAYAMA＋KATO ARCHITECTURE
／mtka

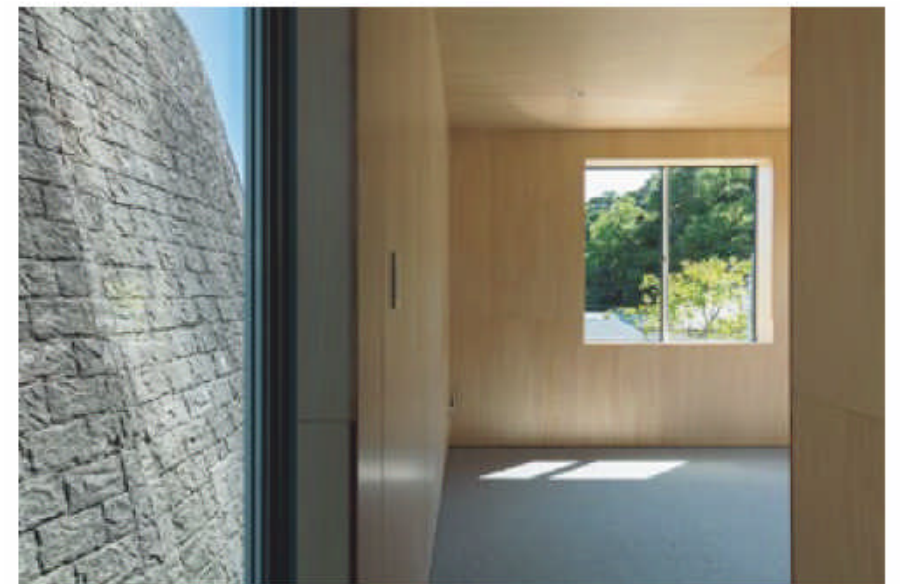
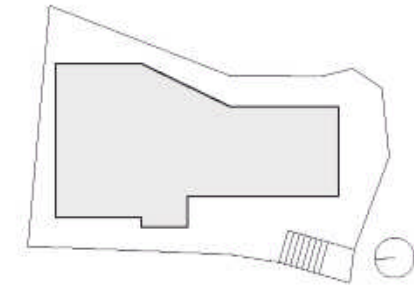
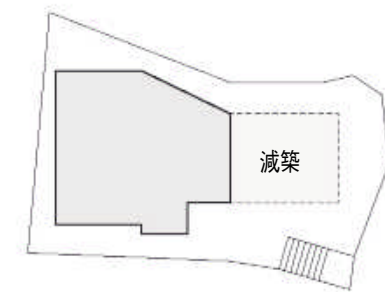
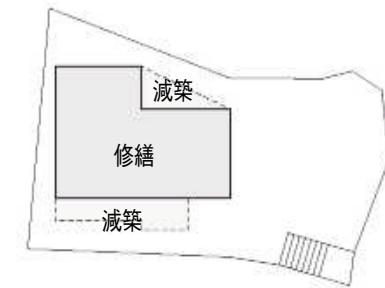
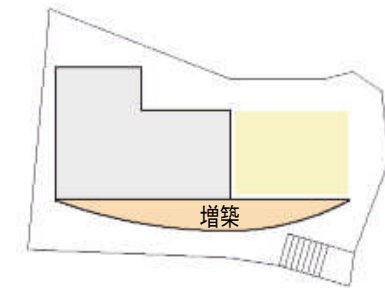
リビング。コンパクトに減築された居室は新たにテラスをもつことで光と風を室内に行き渡らせ、ホールにより多様なアプローチを可能とし、回遊動線上にさまざまな居場所ができる。ホールの天井内の暖められた空気は、換気設備によって夏は外に冬はリビングに放出される。

ホール。右手の扉が玄関。正面のガラス戸の先でテラスと接続する。ホールの膜天井には耐風圧を考慮した稲妻型の梁の影が浮かび上がる。真壁の柱はすべて断面形状の異なる台形の角材にOP塗装、壁はパイン合板にOS塗装で木目を残している。

関係性を揺るがす補助線としての代

再建築不可住宅のリノベーションである。敷地は大仏坂の切通しに近く、鎌倉特有の谷戸地形に位置する。幅1mほどの小道を30mほど奥に進んだ擁壁の脇で、築50年の間に無計画に増改築を繰り返した状態であった。おまけに敷地の南側は地盤沈下を起こしており、建蔽率と容積率共に超過、基礎と土台はボロボロ、北側は鎌倉特有の湿気でジメジメと、再建築不可でなければ即決で建替えを選択するほどの状況であった。一方で、切通しに似たアプローチや敷地と擁壁との隣接関係、自然の豊かさは、ここにしかないポテンシャルを感じられる場所でもあった。

まずはこれらの問題をひとつひとつ解決していった。はじめに地盤沈下し建物が歪んでいた南側をごっそり減築し、暗かった北側に光を届けた。それでもまだ面積超過していたため、東西の下屋部分を取り除き、擁壁や隣地との隙間を大きくして敷地全体に風の通り道をつくった。残った北側建物は軸組をジャッキアップして基礎を一部つくり直し、柱梁は適宜入れ替え、構造の健全化を図った。最後に古くなった設備機器を更新し、建主の希望である白い内外装の改装を行った。こうして高齢の夫婦が残りの人生を住まうのに十分な機能をもった小さな住宅ができたわけだが、問題はここからである。再建築不可で現行の法規上では永遠にリノベーションされ続けることでしかあり続けることができないこの住宅は、再びリノベーションされる時がくる。増改築を繰り返した既存の住宅は、都度必要なパーツを追加、更新した無機的で閉じた状態であり、それを踏襲していてはこれまで通りの延命治療的修繕で終わってしまう。そうではなく、今回のリノベーションによって有機的で動的な建築のあり方に刷新し、再建築不可の住宅が建ち並ぶ周辺もひっくるめて、風景をごっそり変えてしまうような大胆な手立てを行う必要があるように思えた。

そこで、北側で完結した住宅をひとつの「家」と捉え、減築で空いた南側にテラスとなる「庭」をリビングの床レベルとほぼ同じ高さに設けた。そして「家」と「庭」とを繋ぐ線を西側に引き膨らませた半月型の「代」を新しい建築として加えてみた。「代」は確認申請不要の10m^{2}以下の増築で、屋根を矩勾配でカットすることで平面と断面に同じ曲率のカタチが現れ、平面は最大でも幅1.2mしかなく、特定の機能を持たない。そんな「代」を「家」と「庭」を繋ぐ新たな補助線として添えてみる

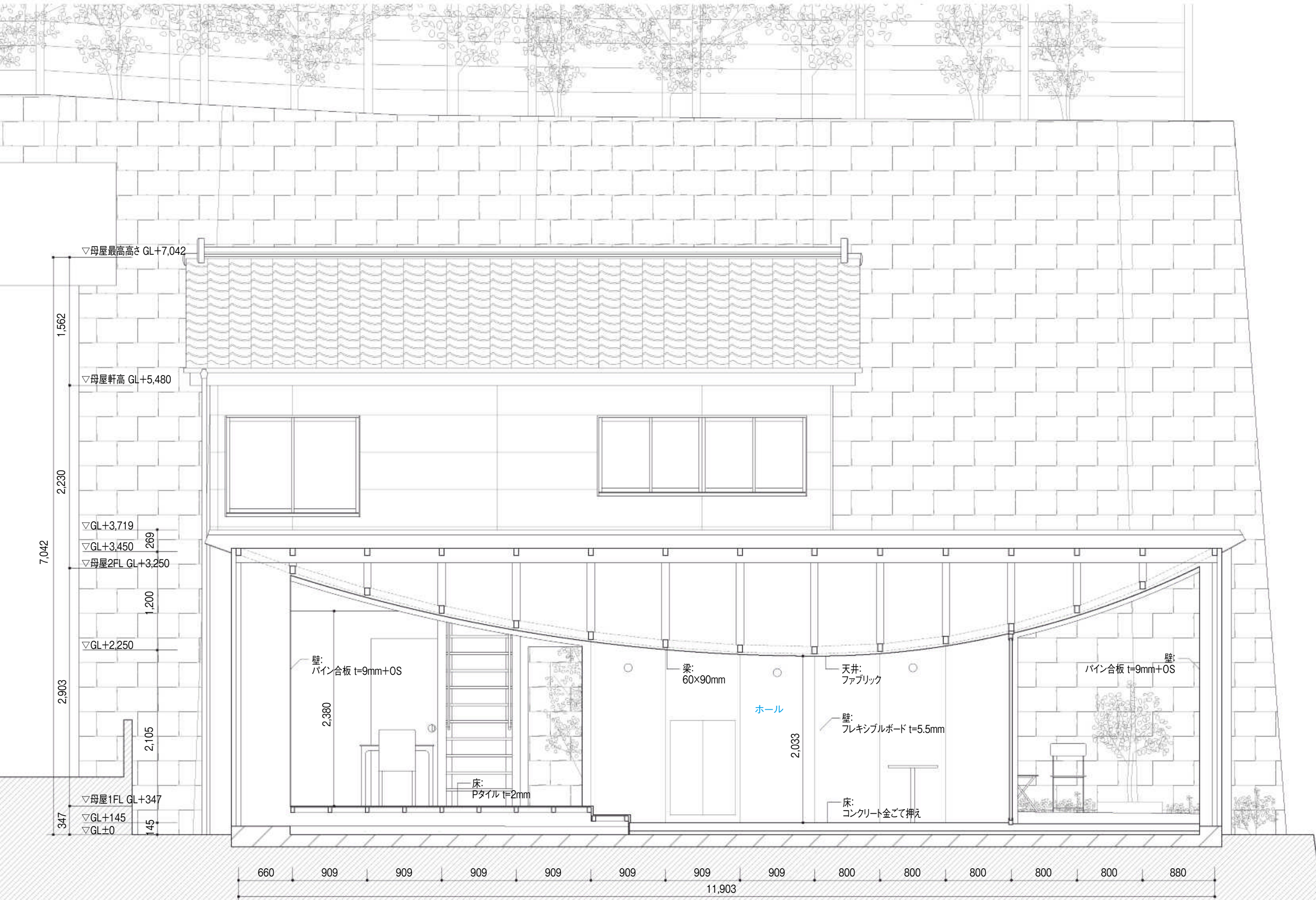
リビングとテラス。テラスとリビングを繋ぐようにホールの入り口が左右で接続する。リビングの床と連続するテラスはアウターリビングとして機能する。また室内を広々と感じさせ、暗くなりがちな谷戸地形の敷地に光を届ける。

ルーム1。動線上には目線の抜ける開口が設置され、遠近さまざまな風景が切り取られる。

0：既存建物
法定面積を大幅に超過して住宅が建てられていた。接道条件を満たしておらず、再建築不可であった。

1：南側ヴォリュームの減築
敷地造成時の盛土部が地盤沈下したことにより南側半分は基礎が割れ傾き、改修が困難な状況であった。そこで、南側ヴォリュームを取り壊し庭とすることで構造、環境の健全化を行った。

2：法定に合わせた北側ヴォリュームの修繕と部分的減築
南側半分の減築を行ってもまだ法定面積を超過していたため、増築可能な 10m² 以内の余地を考慮しつつ、さらに北側ヴォリュームの一部も減築を行った。北側ヴォリュームは、屋根と骨組みを残し適宜修繕を行なった。

3：確認申請不要な 10m² 以内の増築
法定面積以内かつ 10m² 以内の増築を最大限に行う。特定の機能がある部屋を増築するのではなく余分である「代」を増築する。

減築と増築のダイアグラム

と、円弧のフレームはするりと滑らかに双方を繋ぎながら滞りのない流れをつくり出し、窓から外さらには周辺にまで続いていく開かれた建築に一変した。

各要素の関係性を揺るがす補助線としての「代」を添えることにより、この住宅は動的な建築に生まれ変わり、再建築不可の寂れた隣家、カビで黒ずんだ擁壁など、すべての風景を肯定できる環境となった。そしてこの「代」によるフレーミングは、周辺関係をも含めた未来のリノベーションに多彩なランゲージを提供するはずだ。再建築不可住宅でも明るい建築としてこの場所にあり続け、次の居住者や設計者によいバトンを渡すことができたとしたら本望である。

（村山徹＋加藤亜矢子）

キッチン方向を見る。既存の折れ階段を直階段に変更。リビングとキッチンを隔てていた壁を取り除き、部屋の外形を矩形に整え一室空間とした。

テラスから見る夕景。

家と庭と代
所在地／神奈川県鎌倉市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦

設計
ムトカ建築事務所　担当／村山徹　加藤亜矢子　藤井愛
構造　坂田涼太郎構造設計事務所　担当／坂田涼太郎　小野寺舞（元所員）
ファブリック　オンデルデリンデ　担当／久米希実　植村遥

施工
建築　コボットハウス　担当／小堀哲郎
植栽　フルヤガーデン　担当／降矢徹

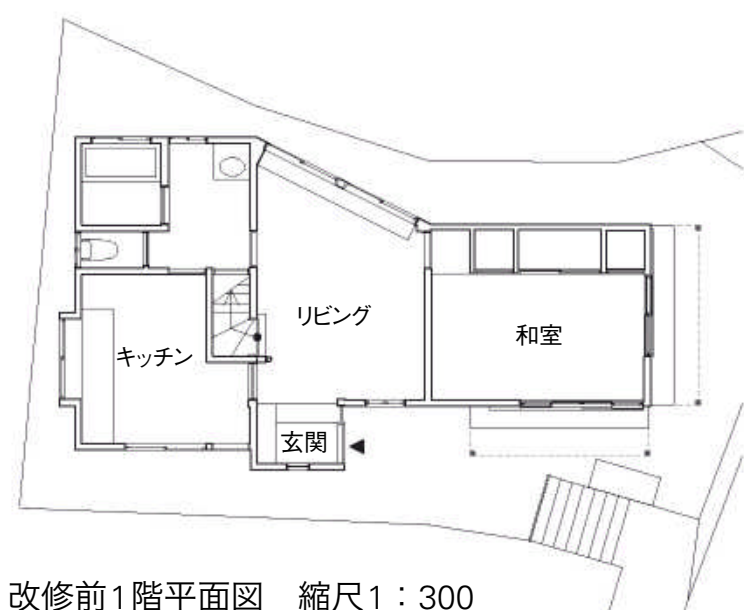
構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 5,480mm 6,204mm
最高高さ 7,042mm
敷地面積　106.18m^2
建築面積　42.10m^2
（建蔽率39.65％ 許容40％）
延床面積　75.50m^2
（容積率71.11％ 許容80％）
1階　33.05＋9.05m^2　2階　33.05m^2

工程
設計期間　2018年7月〜2020年2月
工事期間　2020年3月〜2021年4月

敷地条件
地域地区　第1種低層住居専用地域　第2種風致地区
道路幅員　西1.45m

外部仕上げ
屋根／母屋：既存瓦屋根　増築部：ポリカーボネートプレート t=5mm
外壁／母屋：窯業系サイディング t=16mm　増築部：リシン吹付け
開口部／アルミサッシ　制作FIX窓
外構／タイル t=8.7mm

内部仕上げ
ホール
床／コンクリート金ごて押え
壁／パイン合板 t=9mm OS　FB t=5.5mm
天井／クリアライトロン（平岡織染）
照明／ブラケットライト（コイズミ照明）
リビング
床／ Pタイル t=2mm（東リ）
壁・天井／ビニルクロス（サンゲツ）
照明／スポットライト　ダウンライト（大光電機）
システムキッチン・洗面器・水栓金物／ LIXIL
サニタリー　トイレ　バスルーム
床／ Pタイル t=2mm
壁・天井／ビニルクロス
ユニットバス・トイレ／ LIXIL
ルーム1・2
床／タイルカーペット（サンゲツ）
壁・天井／シナ合板 t=12mm OS

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第3種換気
給排水　給水方式／直結水道方式
排水方式／下水道放流方式
給湯　給湯方式／ヒートポンプ給湯機

撮影／中山保寛

改修前2階平面図

改修前1階平面図　縮尺1：300

改修前の状態を俯瞰する。増改築が繰り返され、敷地いっぱいに建っていた。

北西側全景。都心の住宅地に位置する狭小の旗竿敷地に建つ。間口2mの接道側に屋外階段を設け、奥側に敷地形状に沿って立ち上げたヴォリュームを配置。1階は2・3階から独立したはなれ。

特集：風が抜ける家

中目の旗竿

Flagpole in Nakameguro
東京都目黒区

SALHAUS

スチール製の屋外階段は、この住宅にとって主要な縦動線を担う。踊り場はバルコニーとしてデザイン。階段下の空間は、隣のアパート住民の動線にもなる。奥の階段は隣のアパートのもの。

緑化した屋上庭が住宅郡の隙間を貫く。屋上には土壌マットを敷き、建主が選んだ植物が日々植え足され庭づくりが楽しまれている。

バルコニー
屋上庭
風呂
縁側
寝室
FL+400
FL±0
シャワー室

1:クチナシ
2:ザクロ
3:ブラックベリー
4:フィカス・ベンガレンシス
5:ブライダールベール、オニヤブソテツ
6:カキ
7:ユズ
8:ブロンズ、フェンネル、羽衣ジャスミン、クチナシ八重咲き
9:アオシダレモミジ
10:パープルセージ
11:チャノキ
12:ユーパトリウム(チョコレート)
13:ユーフォルビア、ウルフェニー
14:ナンコウウメ
15:スティパ(エンジェルヘアー)
16:ユーフォルビア、ウルフェニー
17:シダレヤナギ
18:ロータス、ブラックムーニー
19:ブロンズフェンネル
20:ソメイヨシノ
21:常緑ヤマボウシ
22:ホテイチク
23:クチナシ八重咲き
24:ツルアリインゲン(王湖)
25:コロカシア(ブラックマジック)
26:イトハクワ
27:オリーブ緑葉フウチソウ

3階平面図

玄関
FL±0
FL−250
居室
収納
便所

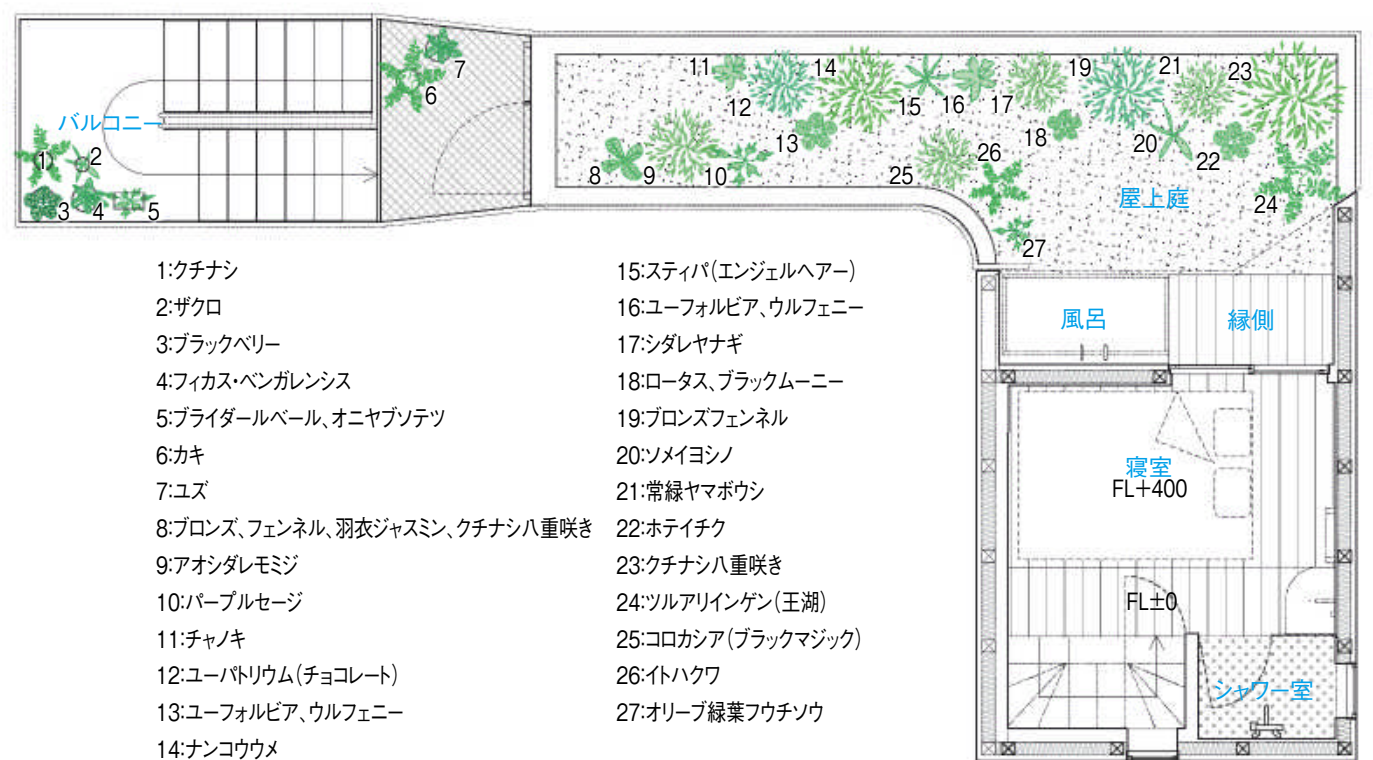
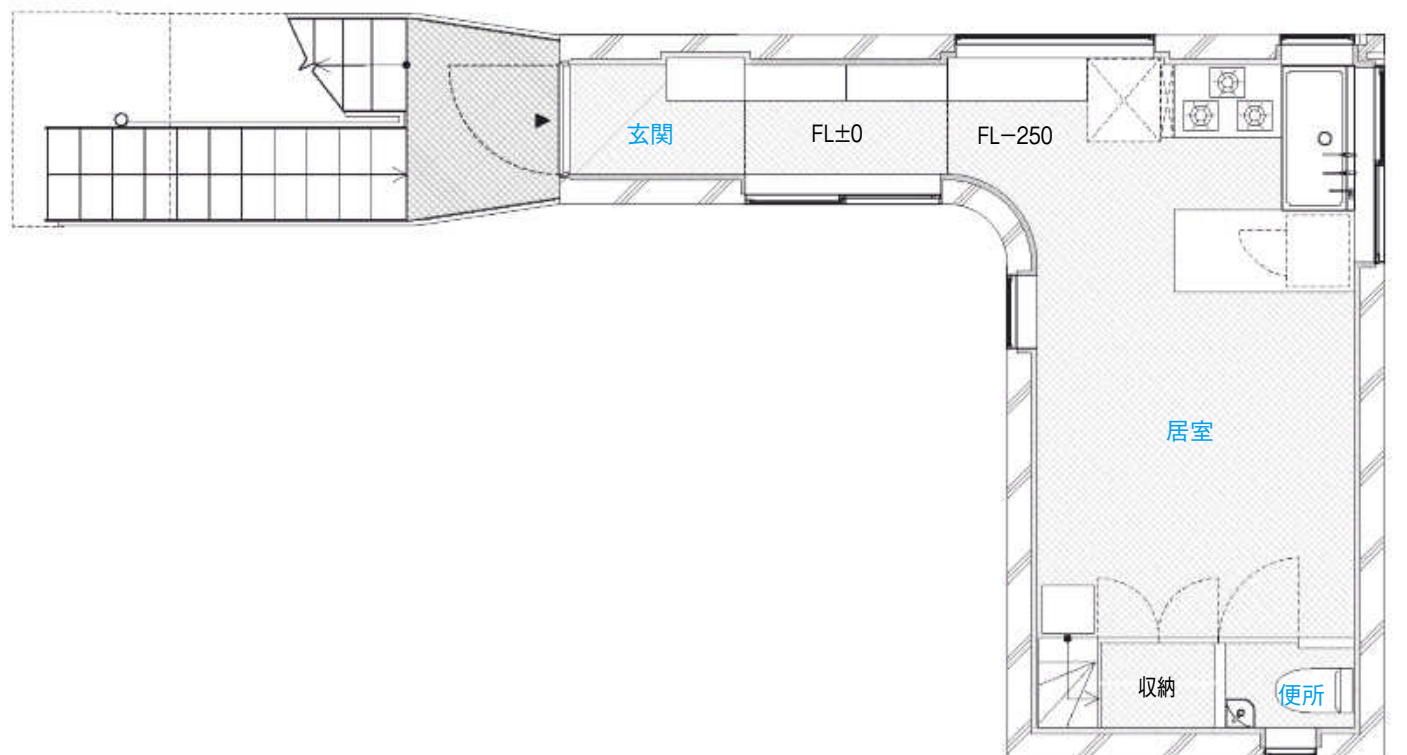
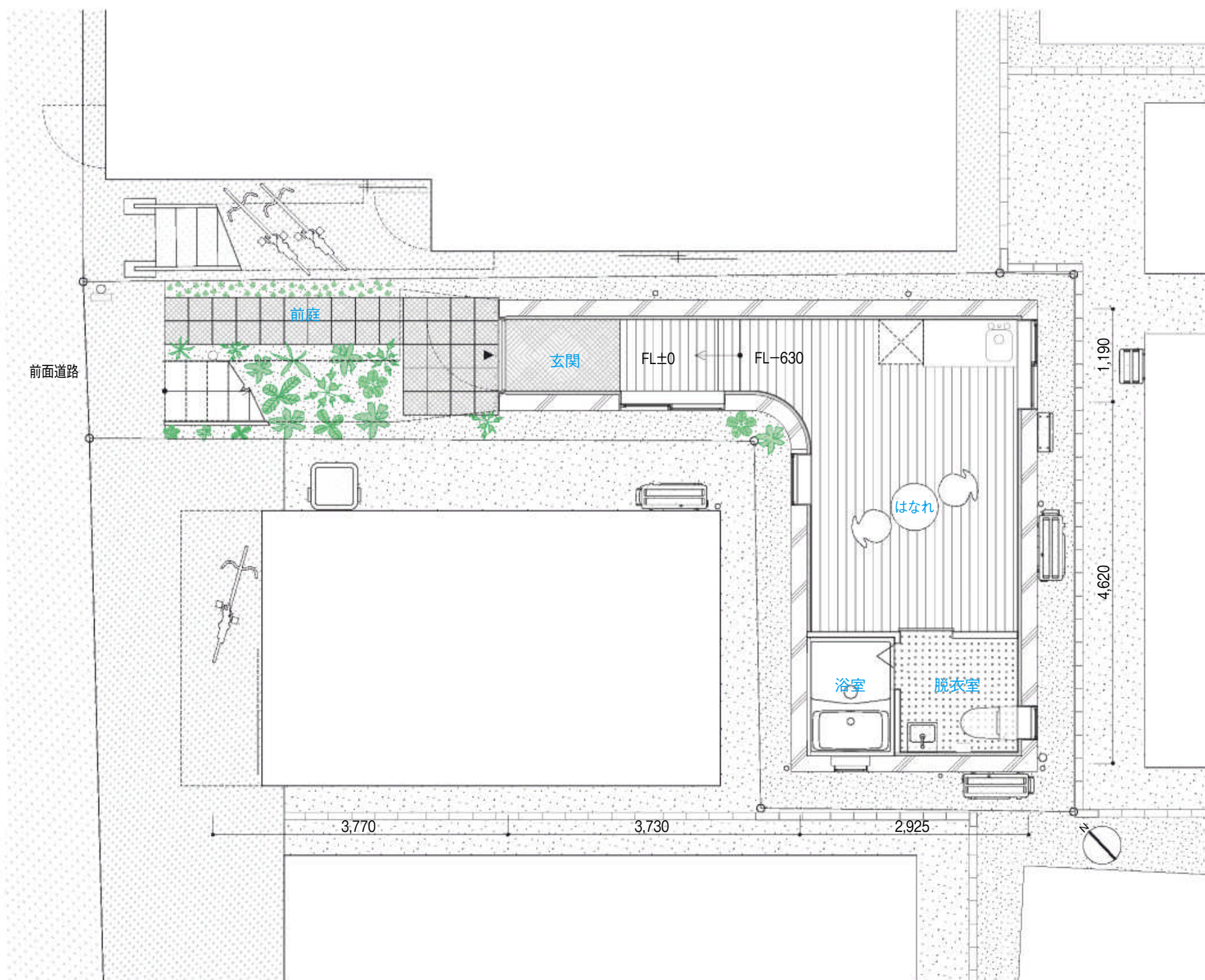
2階平面図

前面道路
前庭
玄関
FL±0
FL−630
はなれ
浴室
脱衣室
3,770
3,730
2,925
1,190
4,620

1階配置平面図　縮尺1：120

計画敷地

配置図　縮尺1：1,000

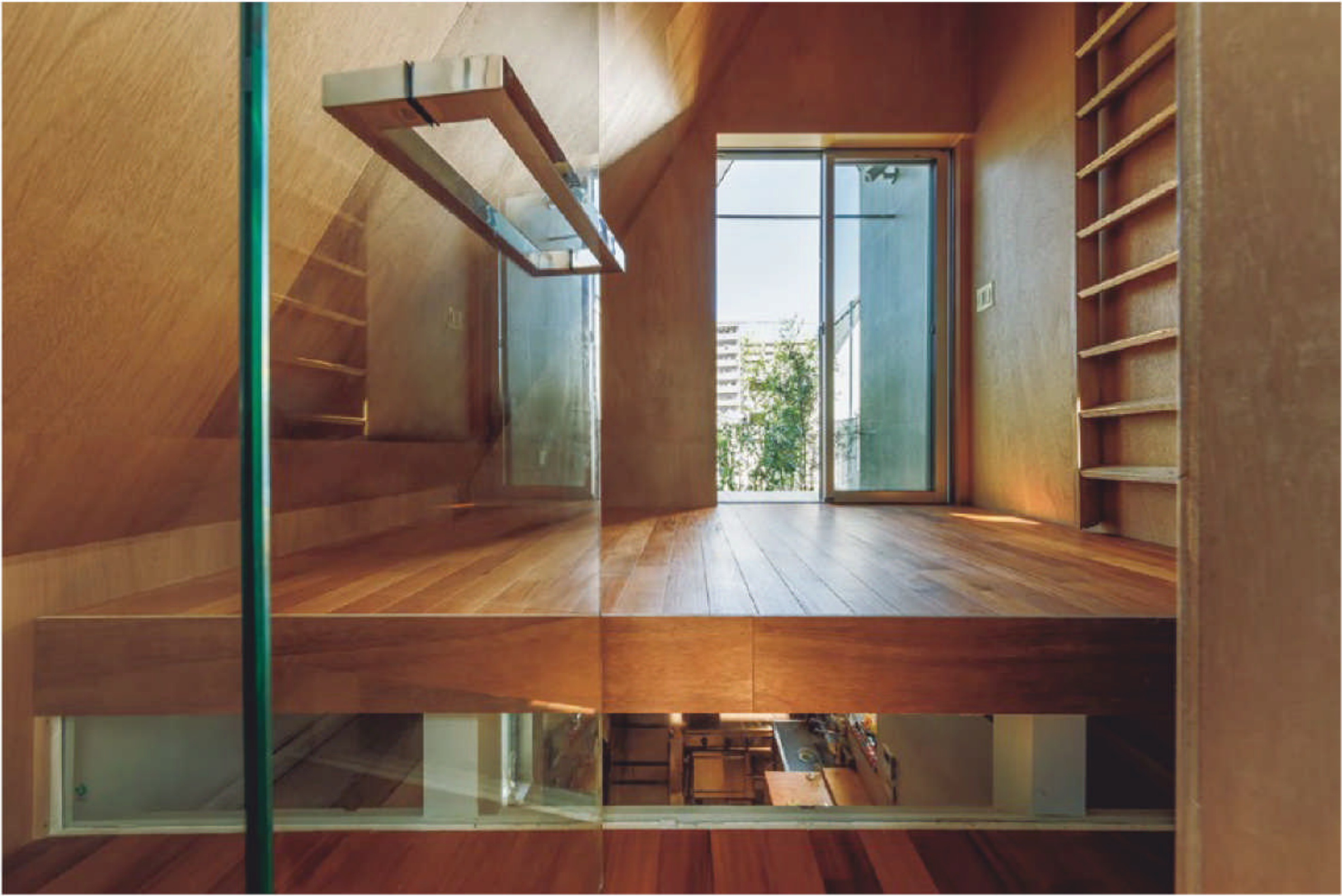
上：2階居室。高さ2,750mm、鉄筋コンクリート造の天井に一部穴を開け、3階の木造スラブとの隙間を介して光を落とす。正面の家具階段から3階に上がる。　下：周囲の建物の隙間を狙い開けられた開口部から光や風を取り込む。建主の趣味は料理で、2階居室の北東面には業務用のキッチン設備や調理器具が並ぶ。

2階玄関から居室を見る。

スキマの拡張

都心の幹線道路から少し入った住宅密集地にその小さな敷地はある。45m²の敷地面積は東京においては極小ではないが、そのサイズの旗竿敷地は珍しく、プランニングは一筋縄ではいきそうになかった。その敷地を建主は「ちょうどよい広さだと思った」という。私たちは普段住宅の設計を始める時、建主の個人的感覚に特化せず、その敷地で最大限の快適さを享受できる一般性をもった形式を模索する。しかし今回は、建主の身体感覚と同期しながら、より研ぎ澄まされた形式と特別な快適さを見出さなくてはならないと思った。

基本的な骨格は早い段階で固まった。敷地に合わせて建物の平面も旗竿形状とし、縦動線は接道部に設けた屋外階段で担う。竿部が2階、旗部が3階のヴォリューム構成は北側斜線から導かれ、1階は独立したはなれ、2、3階を家族の居住スペース、竿の屋上は森のような庭とした。2階の玄関から、吹抜け、屋上、屋外階段と繋がるループを巡って、屋内外を行き来しながら生活する家である。骨格が定まった先は、建主から発される感覚的な要望を受け止め、徹底した議論を通じて寸法や素材を吟味していった。業務用のキッチンや露天風呂、ところ狭しと植えられた植物など、建主が偏愛してもち込まれた要素たちは小さな家に一見不釣り合いだが、空間と生活が絶妙なバランスで拮抗し、ここにしかない居心地をつくり出している。周囲の建物の隙間を狙って穿った開口部からは、思いのほか豊かな光や風が室内に導かれる。3階の縁側に腰かければ、低い屋根並の向こうに高層建築が連なる東京の風景と向き合える。屋外階段の踊り場はバルコニーのような居場所であり、お隣のアパートの住人たちと挨拶を交わす場所となっている。「都市のスキマ」という表現がふさわしい小さな敷地であったが、スキマの中に身を置いて見出した周辺環境との応答関係によって、この家の生活領域は大きく拡張された。（安原幹）

2階居室。右手に玄関を介して屋外階段を見る。曲面壁によって玄関から居室へ緩やかに繋ぎ、一段下げることで居室天井の高さを確保した。

3階寝室からシャワー室、その上にロフトを見る。間仕切りは設けず床高の差により場を分ける。

2階と繋がる家具階段から寝室を見る。2階まで鉄筋コンクリート造、道路から奥まった3階は木造軸組とし、内装を対比的な仕上げとした。

中目の旗竿

所在地／東京都目黒区
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供1人

設計
SALHAUS　担当／安原幹　日野雅司　栃澤麻利　大崎真幸
構造　yAt構造設計事務所　担当／中畠敦広
設備・電気　創環境設計　担当／波田野善政

施工
栄建　担当／酒井宜雅　酒井俊
設備　世永設備　担当／世永幸史
電気　毛利電設　担当／毛利和倫
外構・造園　ボスケ

構造・構法
主体構造・構法　鉄筋コンクリート造　一部木造
基礎　べた基礎

規模
階数　地上3階
軒高 8,342mm　最高高さ 9,007mm
敷地面積　45.35m^2
建築面積　22.02m^2
（建蔽率48.56%　許容60%）
延床面積　50.74m^2
（容積率144.79%　許容160%）
1階　21.65m^2　2階　21.65m^2
3階　7.44m^2

工程
設計期間　2019年8月〜2020年9月
工事期間　2020年10月〜2021年6月

敷地条件
地域地区　第1種中高層住居専用地域　準防火地域
道路幅員　北西4m

外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板竪はぜ葺き
外壁／コンクリート打放し 撥水剤　ガルバリウム鋼板竪はぜ葺き
開口部／アルミサッシ　スチールドア
外構／砂利敷き　軽量土

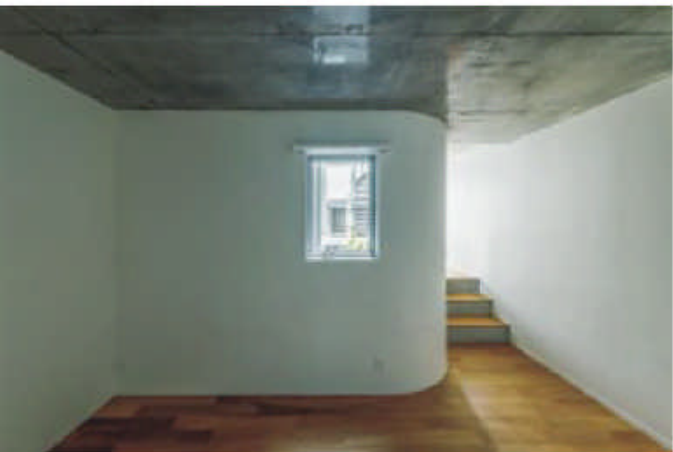
内部仕上げ

はなれ
床／複合フローリング t=12mm
壁／ PB t=9.5mm EP-G
天井／コンクリート打放し
厨房機器／
シンク／サンワカンパニー
換気扇（シェード）／富士工業
照明／シーリングライト スポットライト（オーデリック）
シンク水栓金物／混合水栓（SANEI）

脱衣室
床／長尺塩化ビニルシート t=3mm
壁／ PB t=9.5mm EP-G
天井／ PB t=9.5mm EP
照明／ダウンライト（大光電機）
バスタブ／ブリヂストン

居室
床／コンクリート金ごて仕上げ UC
壁／ラワン合板 t=5.5mm 2枚張り シルバー
天井／コンクリート打放し
家具／棚・作業台・クローゼット（ラワン合板 t=24mm OSUC）
厨房機器／
シンク／ SANEI
ガスレンジ／マルゼン
レンジフード／制作
照明／シーリングライト スポットライト（オーデリック）
空調機器／ダイキン

便所
床／コンクリート金ごて仕上げ UC
壁・天井／ラワン合板 t=5.5mm 2枚張り OSUC
便器／ LIXIL
洗面カウンター・洗面用水栓金物／カクダイ

寝室
床／無垢フローリング t=12mm
壁・天井／ラワン合板 t=5.5mm OSUC
照明／スポットライト（大光電機）
空調機器／ダイキン
洗面カウンター／ラワン合板 t=24mm　ステンレスプレート
洗面用水栓金物／サンワカンパニー

シャワー室
床／モルタル t=20mm FRP防水 トップコート
壁／珪酸カルシウム板 t=6mm 2枚張り　FRP防水 トップコート
天井／珪酸カルシウム板 t=6mm 2枚張り　トップコート
照明／ダウンライト（大光電機）
シャワー水栓金物／ TOTO

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第3種方式
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

1階はなれ。

短手断面詳細パース　縮尺1：75

屋上庭園。ヒノキの露天風呂を配置。

▽最高高さ
▽隣地境界線
鼻隠し:
ガルバリウム鋼板 t=0.35mm
屋根:
ガルバリウム鋼板 竪はぜ葺き t=0.35mm @450mm
外壁:
木片セメント板 t=12mm UC
3,520
屋上手摺り:
笠木・縦桟 St FB 9×38mm
ヒノキ風呂
屋上庭
門扉
階段手摺り:
笠木・横桟・力骨 St FB 9×38mm
▽敷地境界線
▽3FL
150
バルコニー手摺り:
エキスパンドメタル
バルコニー
天井:
打放しコンクリート
壁:
ラワン合板 t=5.5mm×2 シルバー塗装
ウレタン吹付け t=30mm
天井:
コンクリート打放し
9,000
開口部:
アルミサッシ
3,480
鋼製建具
フェロドール塗装
居室
CH=2,750
踏面:
St t=9mm 曲げ加工
柱:
St φ=100mm
外壁:
コンクリート打放し
撥水剤
床:
コンクリート金ごて仕上げ
UC
▽2FL
250
170
天井:
打放しコンクリート
鋼製建具
フェロドール塗装
開口部:
アルミサッシ
はなれ
前庭
2,550
CH=2,380
壁:
PB t=9.5mm EP-G
ウレタン吹付け t=30mm
階段ササラ:
St t=9mm
砂利敷き
防根シート
床:
複合フローリング t=12mm
軽量土
モルタル
630
階段基礎:
コンクリートスラブ t=500mm
捨てコンクリート t=50mm
砕石 t=50mm
▽1FL
基礎:
コンクリートスラブ t=300mm
スタイロフォーム t=30mm
捨てコンクリート t=50mm
砕石 t=50mm
300
2,925
3,730
3,770

長手断面図　縮尺1：75

下鴨の家

House in Shimogamo
京都府京都市

畑友洋建築設計事務所
Tomohiro Hata
／Tomohiro Hata Architect & Associates

東から見る。敷地周辺には古くから残る町家から、近年建て変わった3階建ての住宅など、幅広い年代の家が混在している。そうした風景に溶け込むように、ヴォリュームを分節し、それぞれのヴォリュームごとに屋根を架けている。外壁はカラマツ。

小さな屋根の集合でつくる風景

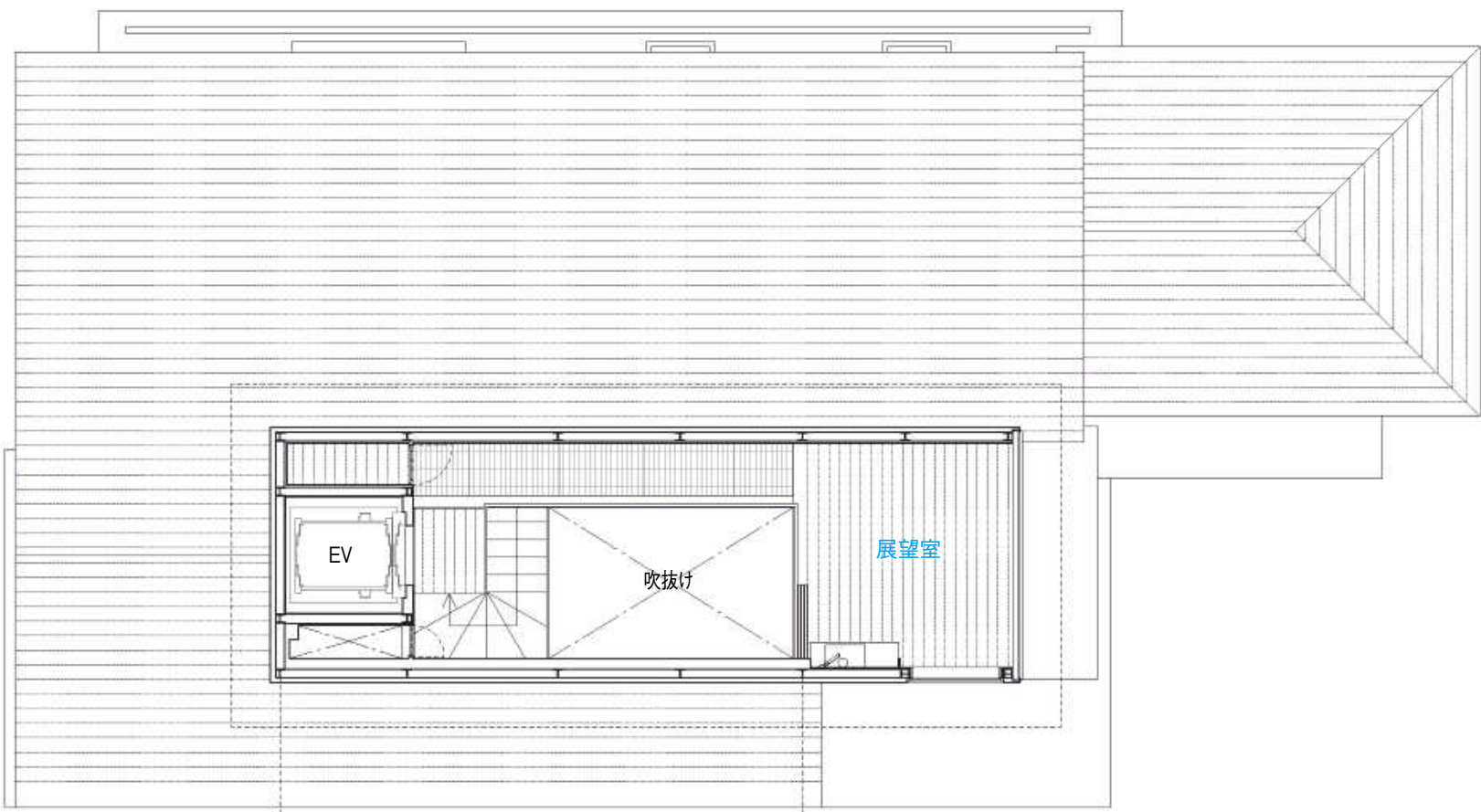
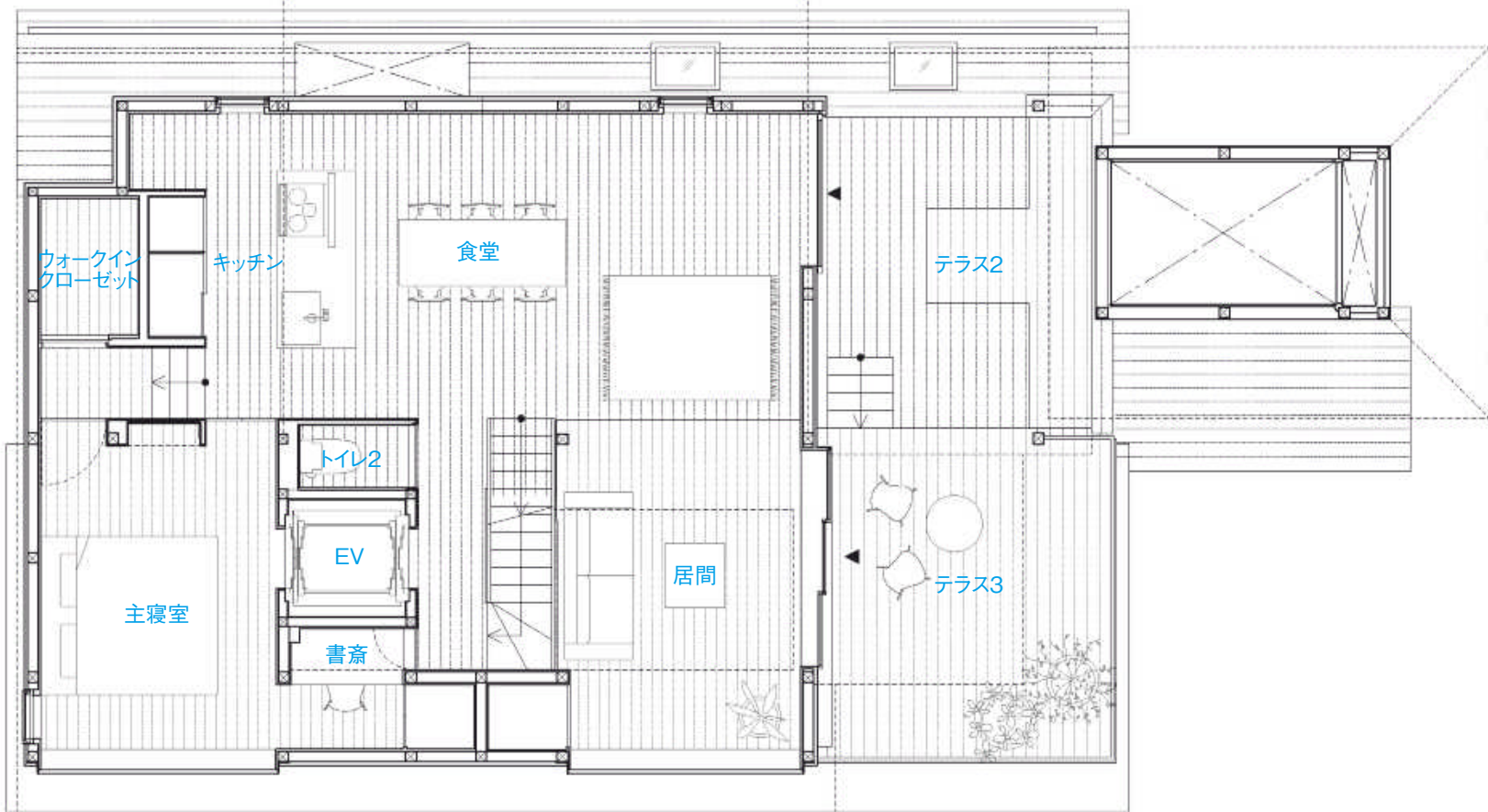
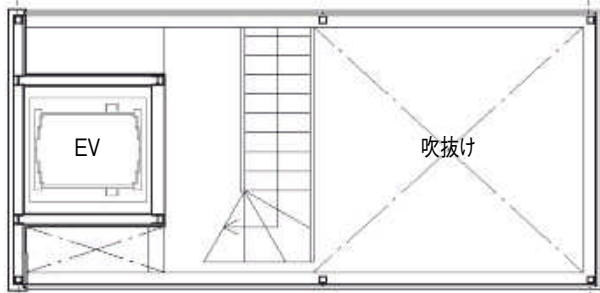
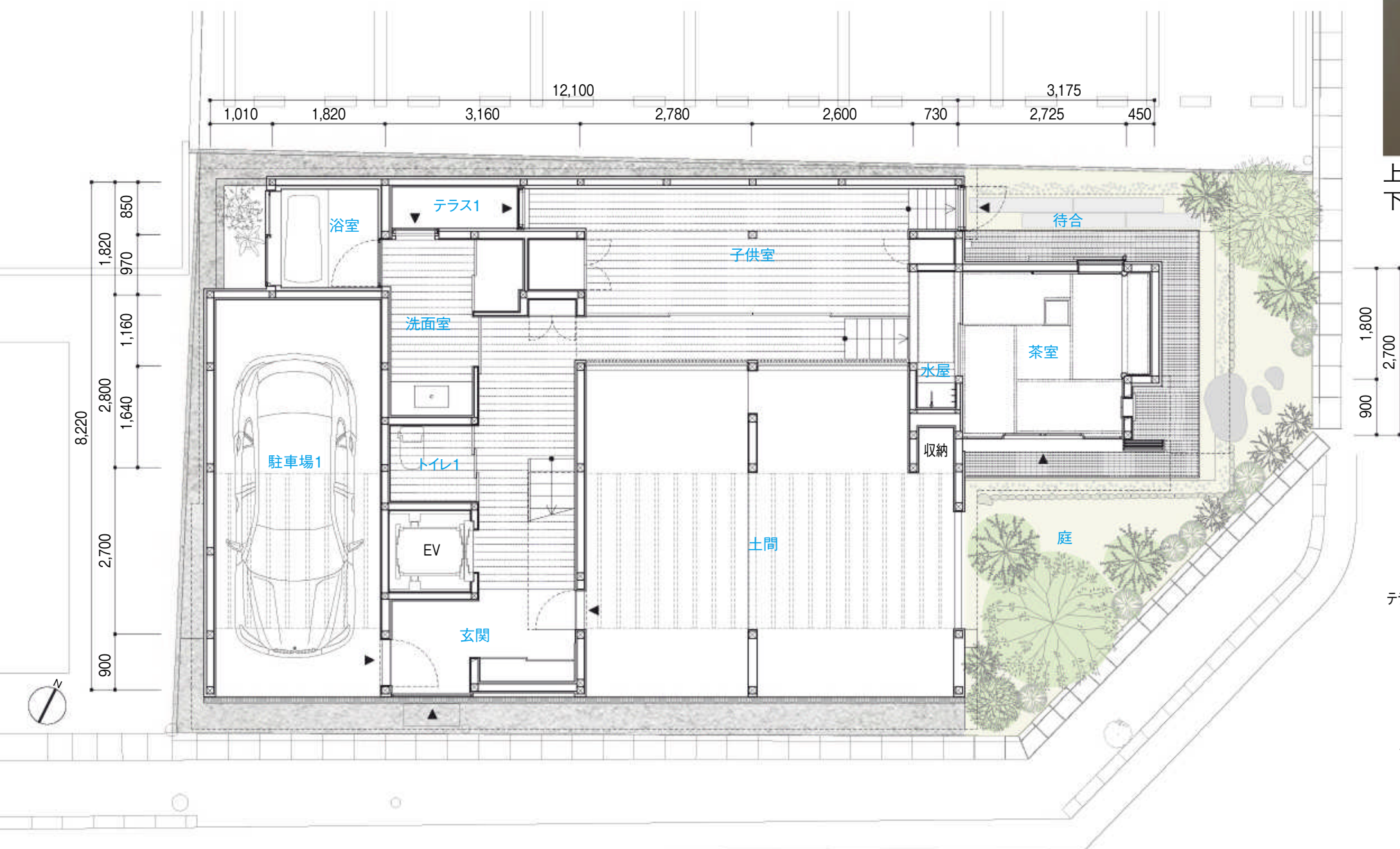
京都下鴨における住宅の計画である。敷地は鴨川の西に位置し、東には比叡山を望む。周辺は、細切れになった昔ながらの町家と、塀や生垣によって囲われた比較的ゆったりとした屋敷が混ざり合い、一方では近年、土地の高度利用が求められ、3層程度の建築物に建て替わりつつある。この住宅の計画においても高度な土地利用と、更新されつつあるが長い歴史をもった景観への応答が前提となった。

町家や屋敷、現代的な建物が混ざり合う周辺の環境には、軒を連ねる通りや、通りに向かい合う町内といった明瞭な街区の秩序を見ることは難しいが、素材も大きさも来歴もさまざまな屋根が幾重にも複雑に重なり、背景の山並みへと溶け込んでいく、とても印象深い風景があった。そこで、この風景に接続し、増幅させるような建築のあり方を模索した。それは、小さな屋根の集合としての建築であり、大きくなるヴォリュームをいくつもの屋根の分節によってほぐし、町へと溶け込ませた建築である。

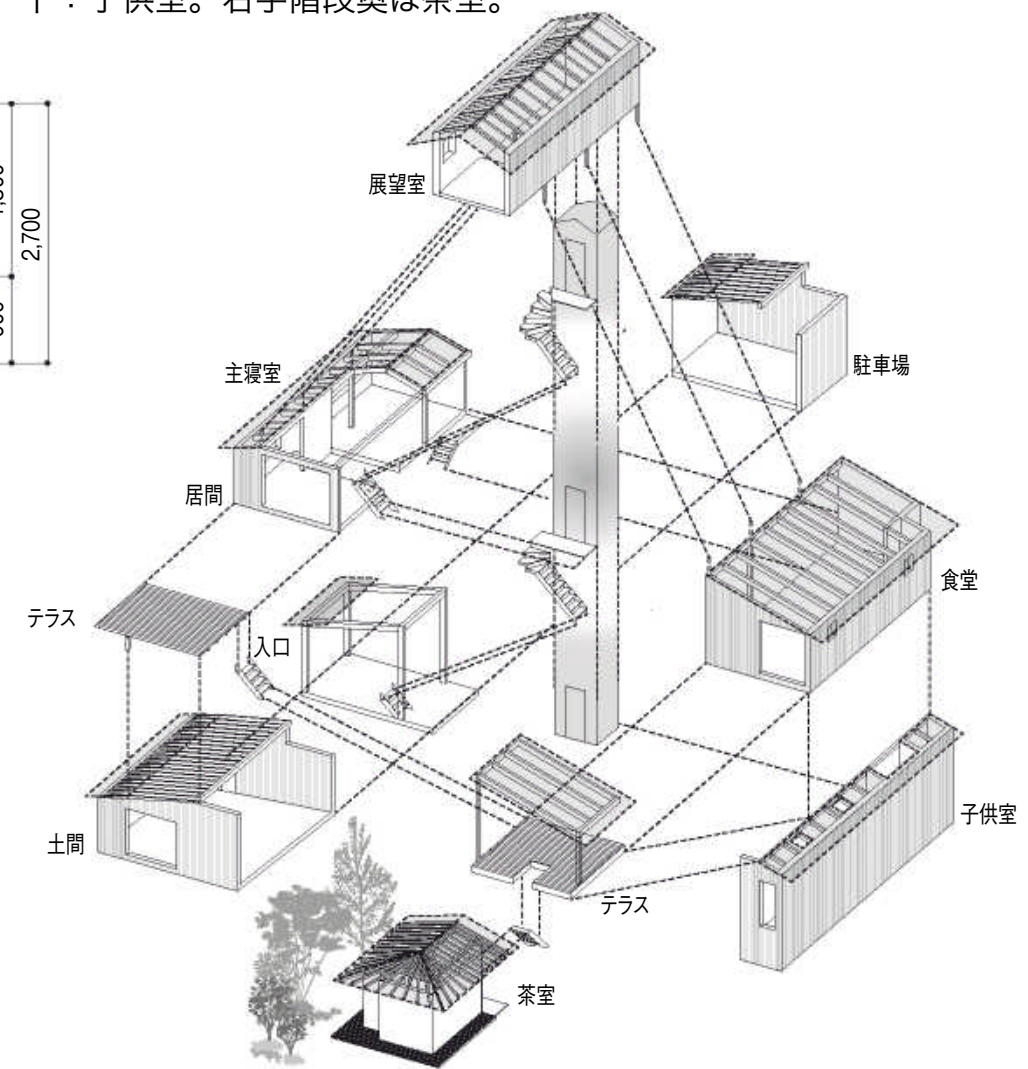
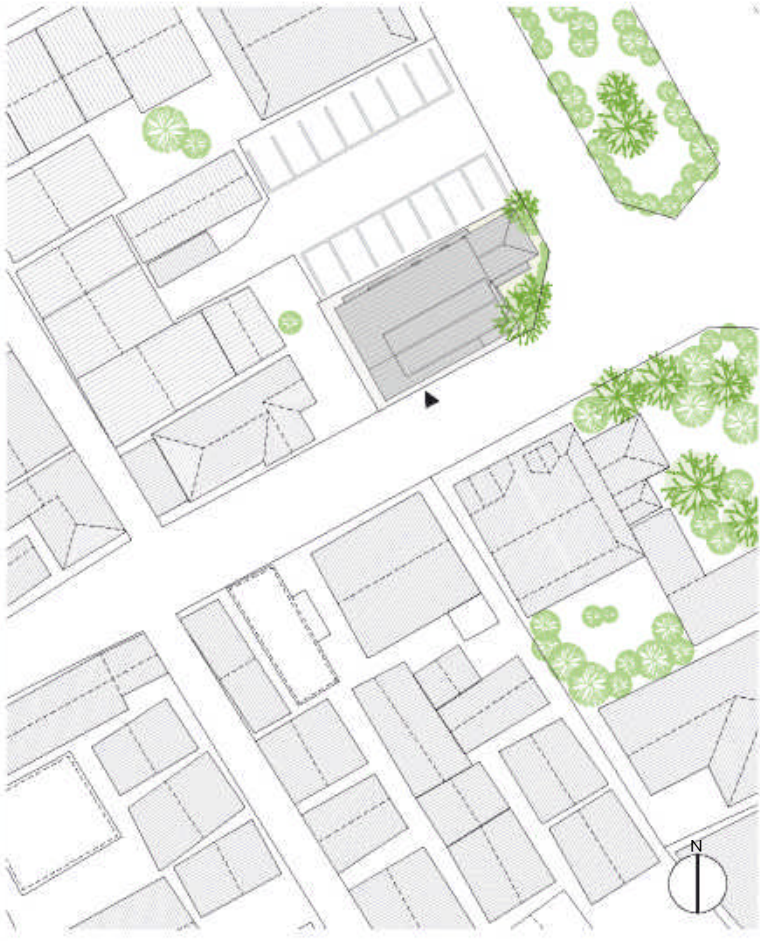
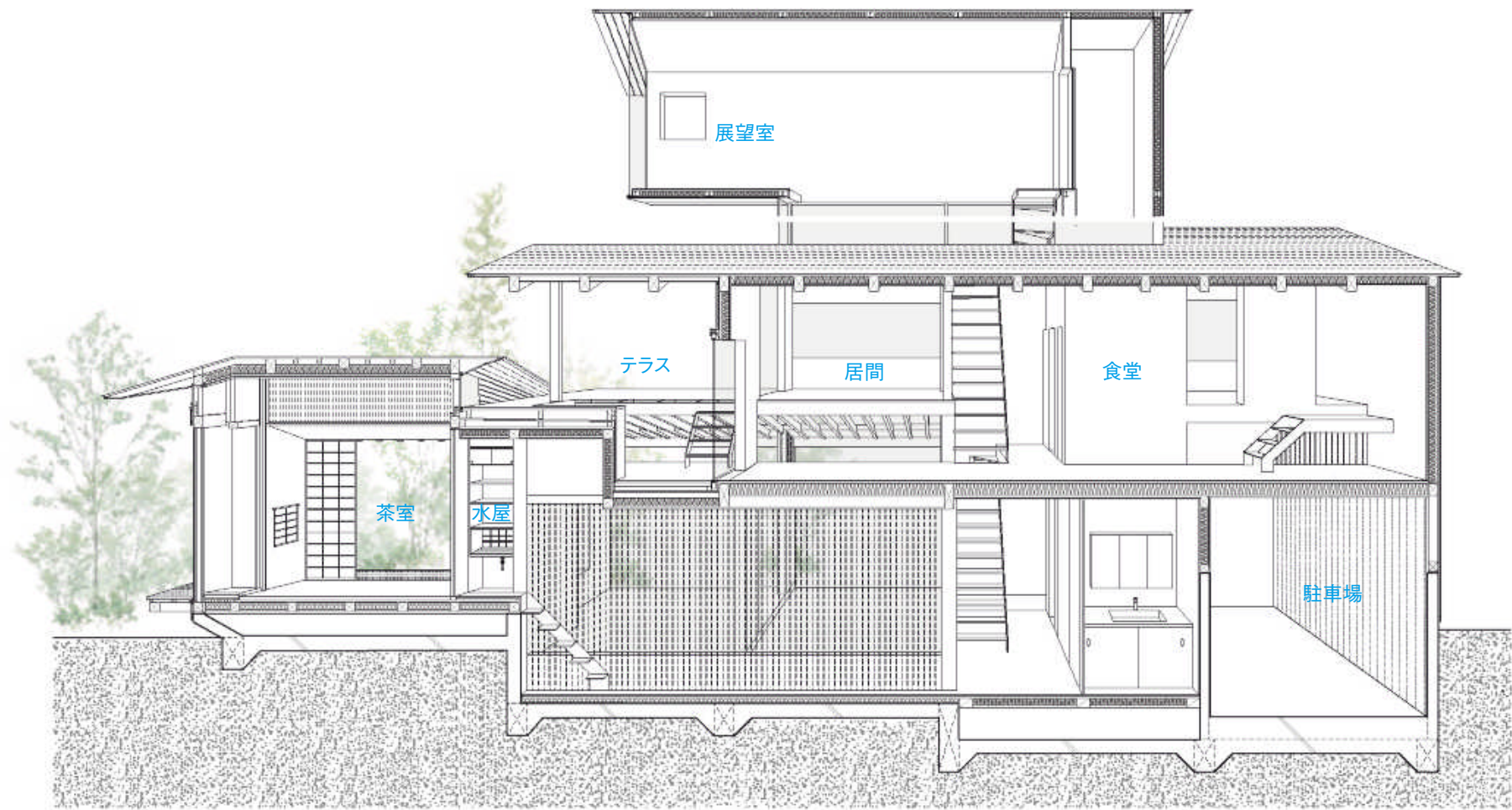
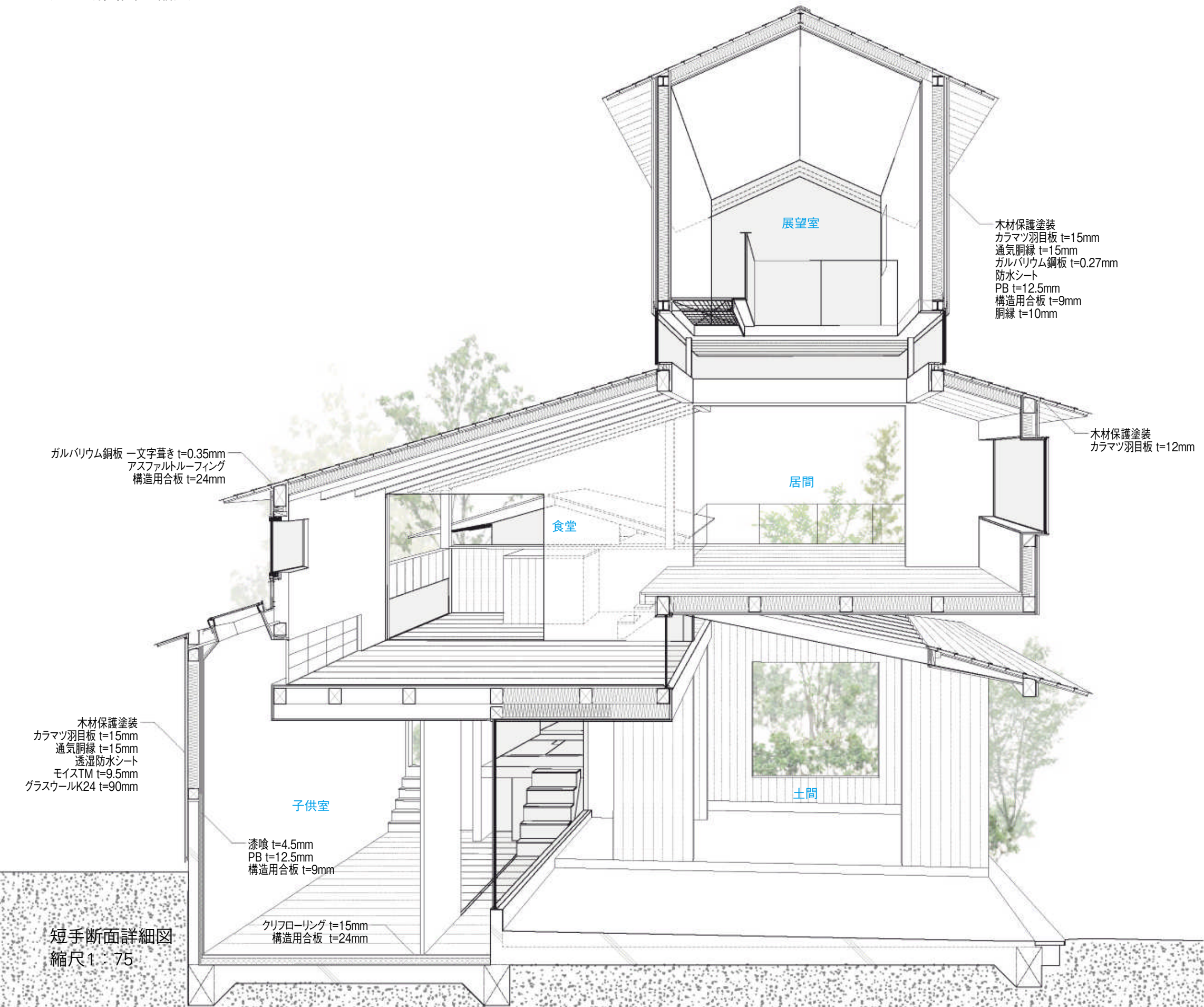
具体的には、1階には茶室や子供室、通りに面する大きな土間を配置し、それぞれは固有の屋根下に展開する空間でありながら、茶室は2階のテラスへ、子供室は2階の食堂へ、土間は居間とテラスへといったように、異なる屋根下の空間へと連続する。このような連鎖は2、3階にお

いても同様に、それぞれ異なったレベルに位置する寝室、食堂、居間、テラスおよび最上階の展望室が屋根によって分節されながらそれぞれ固有の関係をもって繋がっている。
このような屋根によって特徴づけられる空間の粒同士がぶつかり合い、溶け合い、重なり合って、多様な居場所とそれらの心地よい関係性を備えた住宅を目指した。（畑友洋）

食堂。正面の905mm高いレベルが居間で屋根や床のズレを介して外部と多様な関係を築く。左手のテラス2にかけて床近くに設置されたスリット状の開口により視線の抜けと通気を確保する。屋根によって生まれた空間が連続する。

階段から展望室と居間とのスリット越しに鴨川の土手を、展望室越しに比叡山を見渡す。
居間上部は吹抜けで、鉄骨で組まれた展望室床は浮遊するようにテラス3上部に張り出す。

3階平面図

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

上：主寝室の一角にある書斎。
下：子供室。右手階段奥は茶室。

アクソノメトリック

テラス2からテラス3を見る。

配置図　縮尺1：1,200

長手断面図　縮尺1：150

短手断面詳細図
縮尺1：75

南東からの鳥瞰。複数の屋根から成る
ヴォリュームが屋根並みの中に溶け込む。

下鴨の家

所在地／京都府京都市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供

設計
畑友洋建築設計事務所　担当／畑友洋
　高木美里
構造　tmsd萬田隆構造設計事務所
　担当／萬田隆　加藤泰二郎（元所員）
外構・造園　曽根造園　担当／曽根文子
　曽我部聖二

施工
アートホーム　担当／加藤隆久　林正人
大工　担当／丹波重生
外構・造園　曽根造園　担当／曽根文子
　曽我部聖二

構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法　一部鉄骨造
基礎　べた基礎　布基礎（浅層改良）

規模
階数　地上3階
軒高 8,368mm　最高高さ 8,757mm
敷地面積　156.29m^2
建築面積　107.28m^2
　（建蔽率68.65% 許容70%）
延床面積　206.89m^2
　（容積率95.82% 許容100%）
　地下倉庫　9.52m^2　1階　103.89m^2
　2階　77.04m^2　3階　16.44m^2

工程
設計期間　2017年9月～2019年6月
工事期間　2019年7月～2021年8月

敷地条件
地域地区　10m高度地区　風致地区第3種地域　鴨川特別修景地域　近景デザイン保全区域　遠景デザイン保全区域　屋外広告物第2種地域　既成都市区域
道路幅員　南7.232 m　　駐車台数　3台

外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板一文字葺き
外壁／カラマツ t=15mm（ワールドフロンテア）　外装用クリアー（オスモ&エーデル）　駐車場内仕上げ外壁 準不燃塗料（サワダケミカル社）
開口部／木サッシ（川上製作所）　木製建具
外構／モルタル金ごて仕上げ　防塵塗装

内部仕上げ

リビング　キッチン
床／クリ単板張り複層フローリング t=15mm（ワールドフロンテア）
壁／漆喰金ごて押さえ
天井／カラマツ t=12mm（ワールドフロンテア）
照明／クラマタ産業 K-300W　ダウンライト（大光電機）
厨房機器／
食洗器／パナソニック NP-45MS8W
オーブン／ Miele H7440BM
IHコンロ／パナソニック KZ-G32AST
換気扇（シェード）／ FABER S.p.A. SCIROCCO LUX

トイレ　洗面所
床／クリ単板張り複層フローリング t=15mm（ワールドフロンテア）
壁・天井／漆喰金ごて押さえ
便器／ LIXIL サティス Sタイプ

茶室
床／本畳 t=50mm
壁／黄土中塗り仕上げ（中内建材店）　うす聚楽土混合
天井／板張り（松文商店）
床柱／エンジュ八角ナグリ（松文商店）
床框／香節皮付きタイコ落とし（松文商店）

設備システム
空調　冷暖房方式／エアコン
換気方式／第3種換気
その他／床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／公共下水道　合流式
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／矢野紀行

茶室。茶室も屋根の固有性を生かし、空間の連鎖に組み込まれている。

土間。屋根下の半戸外空間となる。正面は茶室が面する庭。

La Petite Maison

フランス、ギティニエール

メラニー・ヘレスバック
＋セバスチャン・ルノー／ 2m26
Mélanie Heresbach
＋Sébastien Renauld ／ 2m26

西側全景。京都を拠点とする2m26がフランスのギティニエールに自主施工で建てたゲストハウス。直径200mmのコンクリートの円柱に木造部分を載せている。コンクリートに載っている3枚の板を合わせた柱によって、室内にスリット状の光や影が入る。2,960mmの正方形を合わせた田の字型のプランで、その4分の1がテラス。上部から出ているのは、銅製の雨樋。

テラス。建具の開放の仕方によって外や室同士の関係を調節できる。施工もすべて設計者が行った。施工のプロセスでは、建主も参加できるように木の板をねじで留める方法で組み立てた。

リビングルームから寝室を見る。家具はすべて設計者によるデザイン・制作。

自然環境とさまざまに関わるテラス

フランス南東部の風の強いエリアに位置する2人用の小さなゲストハウス。母屋の離れでもあるこのゲストハウスは、畑の真ん中のとても開放的な風景の中にあるため、外の風景を楽しみつつ、強風や日差しから守るために閉じられた場所もつくる必要があった。そこで、引き戸とシャッターの2層によってシェルターとなるような外皮とし、その閉じ方によって、太陽や風といった環境とさまざまな関わり方ができるようにした。計画は、2,960mm四方の正方形を合わせた田の字型のプランで、暖炉のあるリビングルーム、ベッドルーム、中心には小さなキッチン、トイレ、浴室のある部屋を配置している。これら24m²の屋内スペースに加えて、ふたつの屋外スペースがこのヴォリュームの中に納まっている。屋外スペースは玄関前のエントランスと、もうひとつはこの家の4分の1を占める大きなテラスである。テラスはこの家のすべての部屋と接しており、風や日差しが強い日にはシャッターを閉じることで室内にもなる。気候のよい日には建具を開放することで外と一体の空間になり、夜にはベッドをもち出して星空を楽しむこともできる。

テラスからキッチン方向を見る。

また、この家は躯体から家具まで、すべて地元の木材資源であるダグラスファー（ベイマツ）を使用し、設計者が施工までを行った。施工は、建主がさまざまなプロセスで参加できるようにできるだけ単純な組み立て方を採用した。この住宅は主要な材料を分解してリサイクルもできるため、環境負荷を軽減することができる。
人びとがさまざまな自然環境を体験できる場所となることを期待している。
（メラニー・ヘレスバック＋セバスチャン・ルノー）

寝室からリビングルームを見る。

リビングルームからキッチン方向を見る。

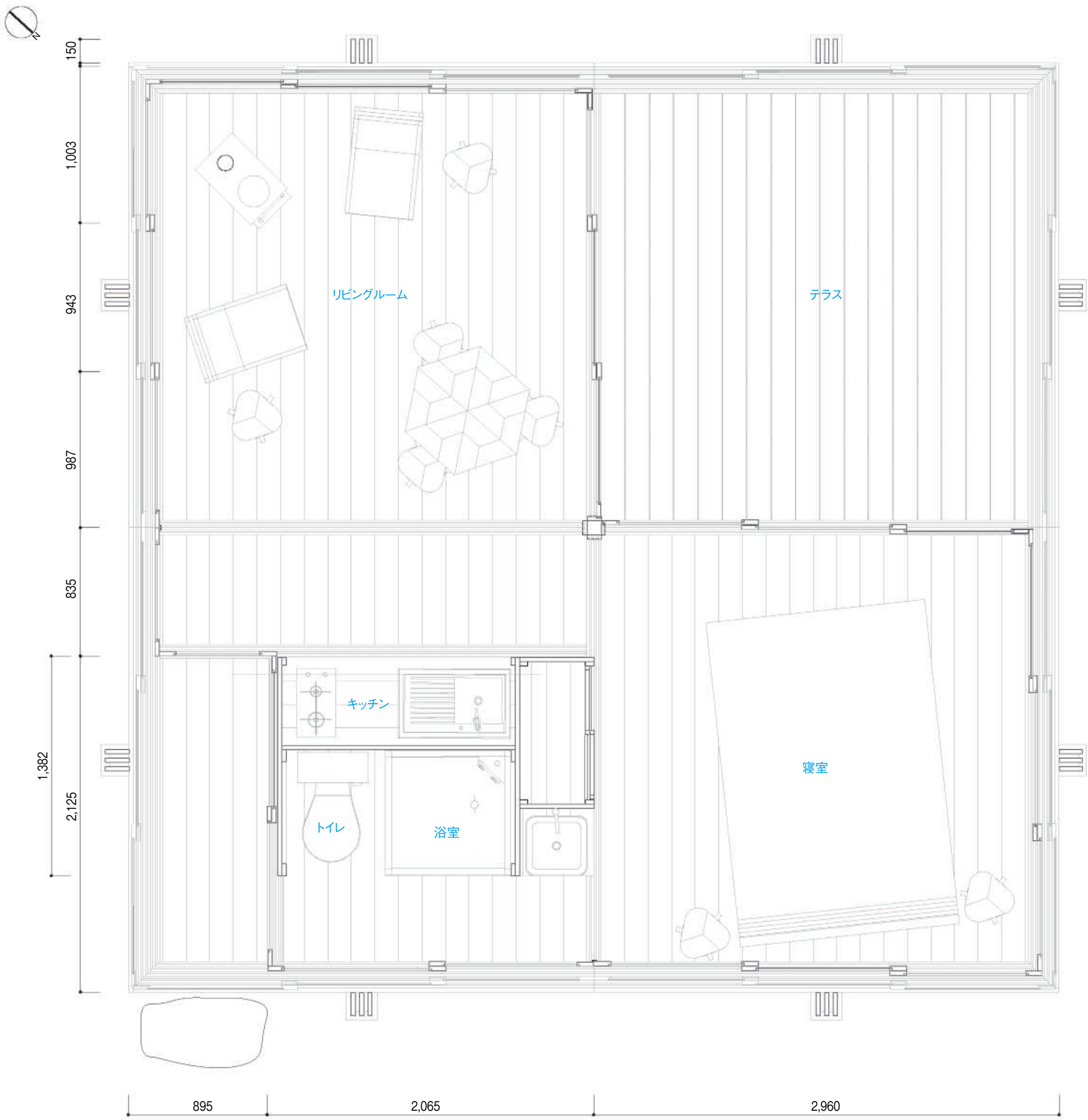
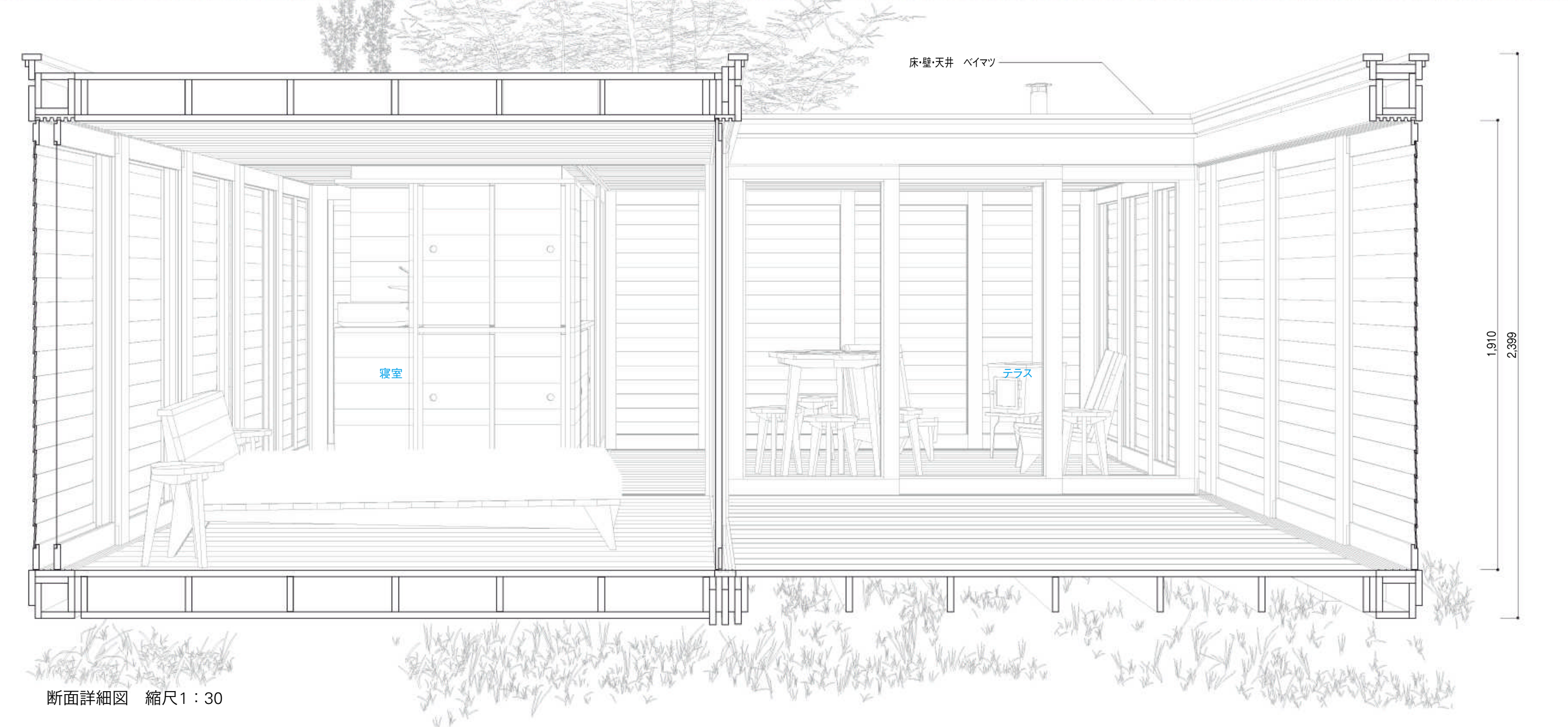
平面図　縮尺1：50

床・壁・天井　ベイマツ

寝室

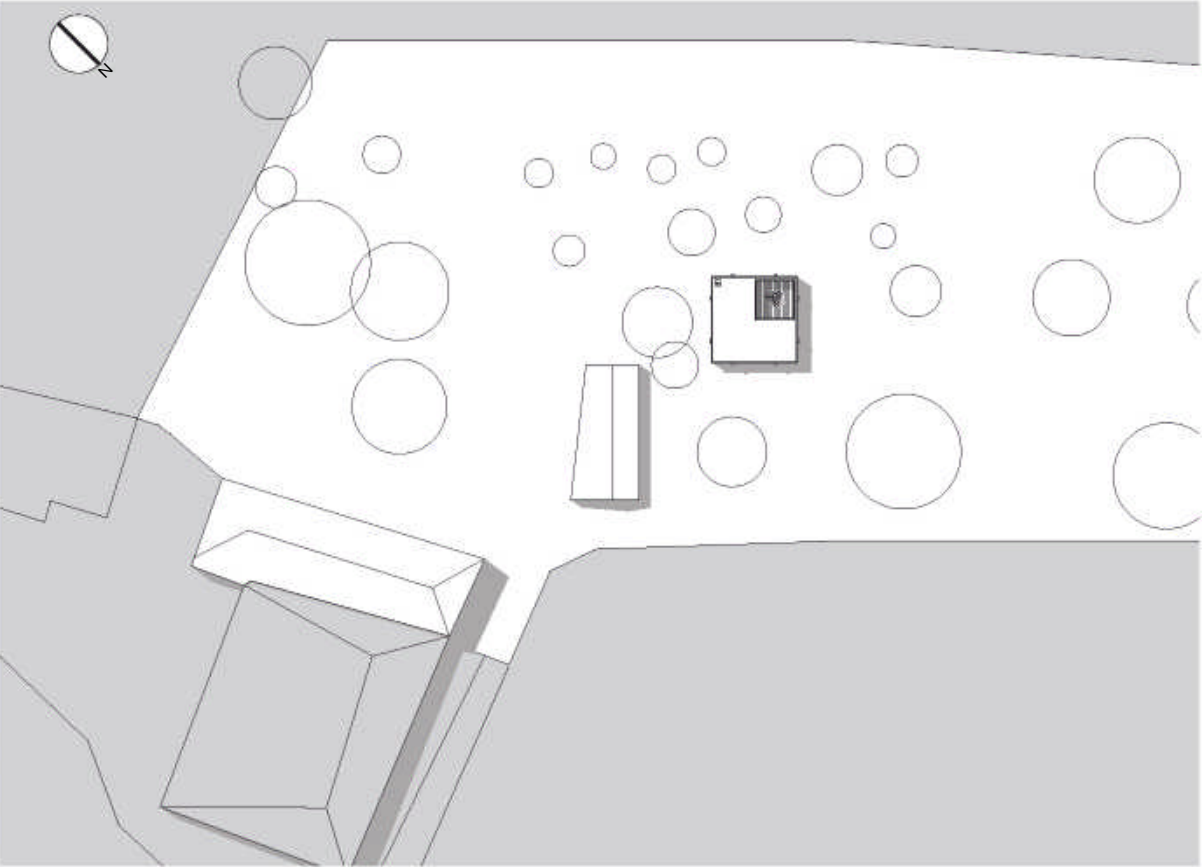
テラス

1,910

2,399

断面詳細図　縮尺1：30

北東側夕景。

La Petite Maison

所在地／フランス、ギティニエール
主要用途／ゲストハウス
家族構成／２人

設計
2m26　担当／メラニー・ヘレスバック
　セバスチャン・ルノー
構造・設備・電気・外構・造園　2m26
施工
2m26　担当／メラニー・ヘレスバック
　セバスチャン・ルノー
設備・電気・外構・造園　2m26
構造・構法
主体構造・構法　木造
基礎　コンクリート
規模
階数　地上1階
軒高 1,910mm　最高高さ 1,910mm
敷地面積　1,519m²
建築面積　35.31m²
延床面積　35.31m²
　1階　35.31m²
工程
設計期間　2019年11月〜12月
工事期間　2020年3月
敷地条件
道路幅員　3.5m　　駐車台数　1台
外部仕上げ
屋根／防水シート　砂
外壁・外構／ベイマツ
開口部／ベイマツ　アクリル
内部仕上げ
キッチン
床・壁・天井／ベイマツ 150×27mm
家具・照明／2m26
浴室　トイレ　寝室　リビングルーム　テラス
床・天井／ベイマツ 150×27mm
壁／ベイマツ 105×27mm 105×6mm　アクリル
家具・照明／2m26
設備システム
空調　　その他／床暖房
給排水　排水方式／溝メタル
給湯　　給湯方式／電気温水器
撮影／2m26

断面詳細図　縮尺1：1,000

北東側全景。

大島の住居

House in Oshima
愛媛県今治市

島田陽／タトアーキテクツ
Yo Shimada ／ Tato Architects

芸予諸島南端の大島に建つ。隣は建主の親世帯が住んでおり、屋上デッキは周辺の自然と親世帯の庭を借景している。市松状のヴォリュームを少しずつもち上げた構成で、ヴォリューム同士は三角形の階段が繋ぐ。

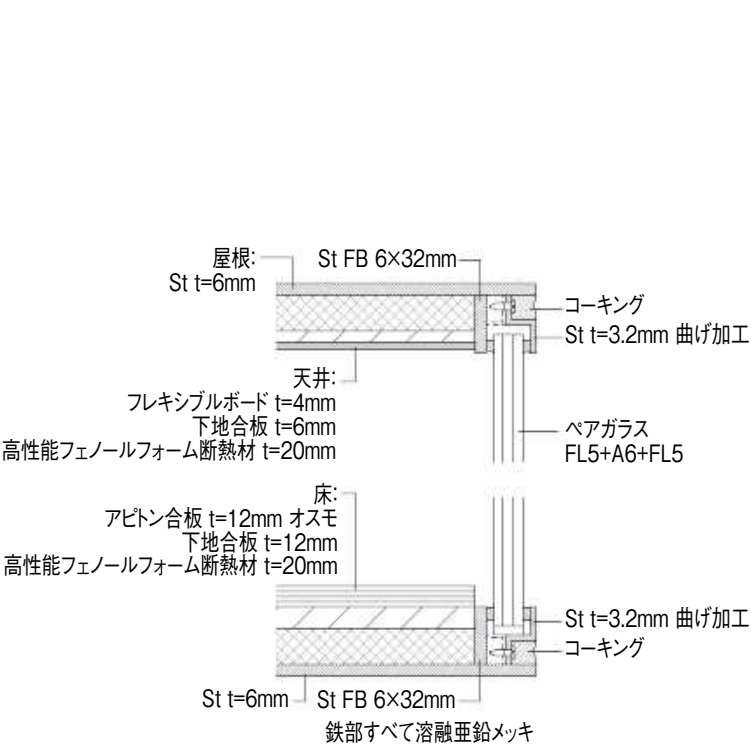
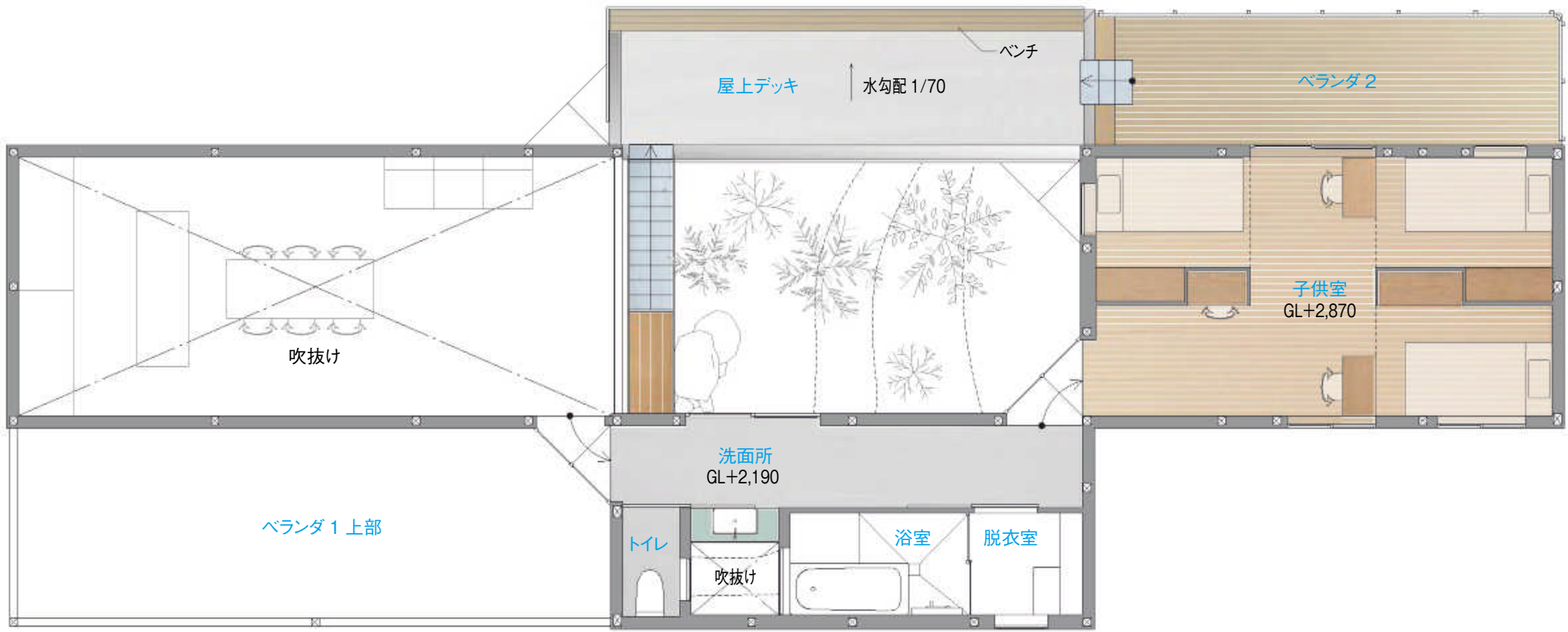
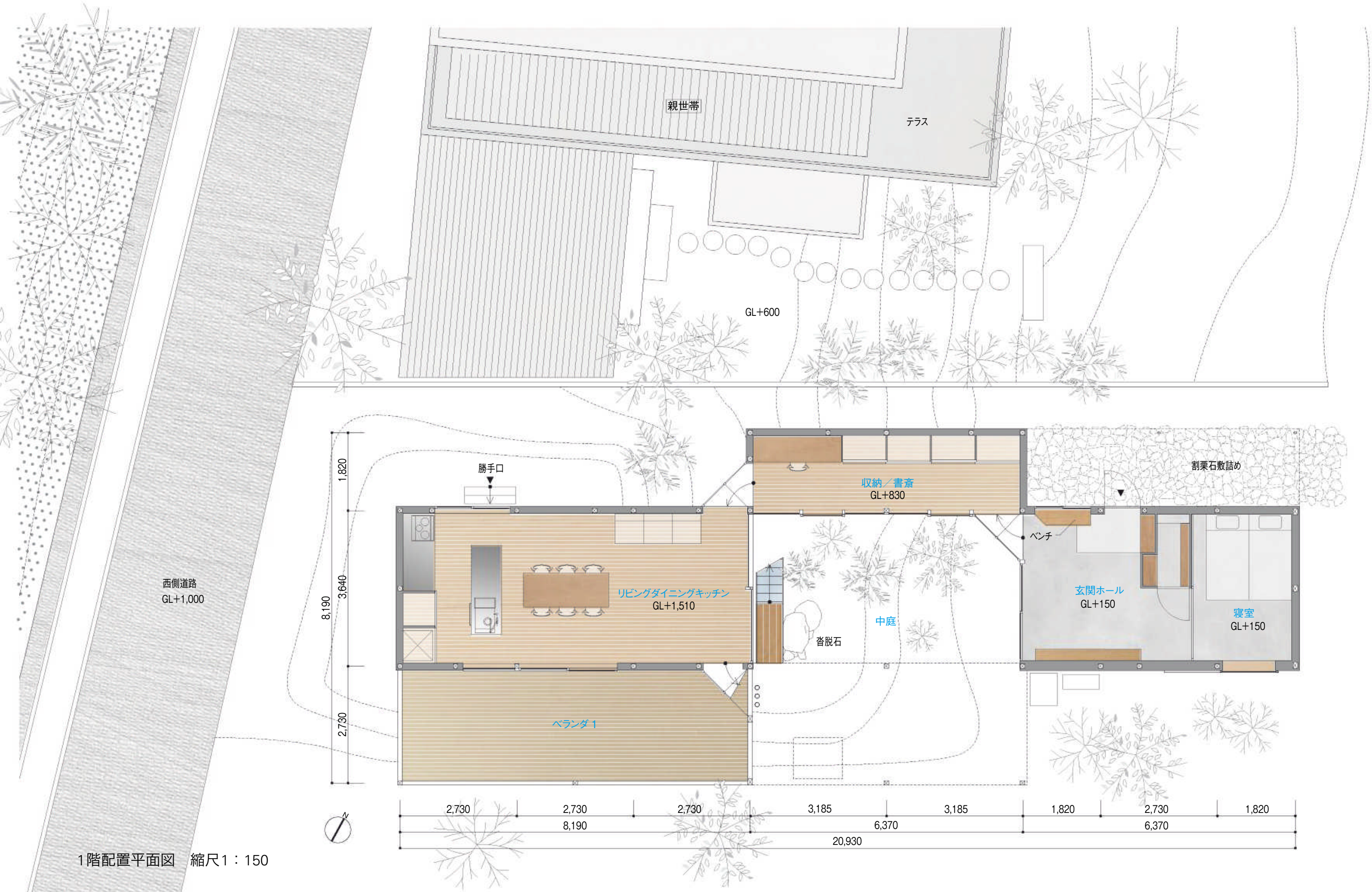
中庭よりリビング方向を見る。ヴォリュームは反時計回りに680mmずつ上がっている。夏はバショウやサルスベリなどの葉が日差しを遮り、冬は落葉して陽だまりをつくる。

リビングより中庭を見る。右手の階段を上がると洗面室がある。三角階段を上っていくと屋上デッキまで繋がり、正面の鉄骨階段で中庭やリビングダイニングキッチンに降りられる回遊性のある構成。

古典的な構成で新しい体験をつくる

敷地は愛媛県と広島県の間に広がる芸予諸島南端の豊かな自然に恵まれた大島にある。しかし眼前には巨大な造船所のクレーンが立ち並んでいて、ヒューマンスケールを超えた茫洋とした風景だった。稀に起こるという高潮などから家を守るために完全に高床とする案も考えたのだが、高所恐怖症という家族や足の悪い犬のために地面に接するモルタルで仕上げられた玄関部から、東の海側から西の山林側へなだらかに上がる地面へと、低く浮かんでいるような建ち方を探すことにした。

そこで敷地の中央を庭として、それを取り囲むように配置された室を徐々に2階の高さまでもち上げることで、親密なスケールの庭の自然から、敷地を超えて周囲に広がる大きな自然までを繋げないかと考えた。結果として市松状に配された室内空間に大きな庇をもつ縁側空間が取り付き、三角形の階段が室同士をスキップフロア状に繋いでいく構成となった。三角階段は山側では外へ、道路側では中庭側へ突き出ているため、玄関から山側の風景を見ながら移動してリビングに入り、子供部屋からは中庭越しにリビングへ視線が抜ける。中庭は近隣の人が建物をくぐって庭からふらっと訪れることもできる開かれた場所であり、ピアノ教室なども行われる玄関ホールは、庭と一体となって地域の交流の場となる。三角階段は移動空間であると同時に大きな窓でもある。庭と共にある室内と庇下空間を立体的な回廊と三角階段で繋ぐことで、スケールは異なるものの、庭と広縁や渡り廊下と居住空間で構成された古典的な日本建築のようでありながら、新鮮な体験を生み出すことができた。

（島田陽）

三角階段部分断面図　縮尺1：8

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

キッチンよりリビングを見る。右手に見えているのはベランダ1。

浴室前からベランダ1を見る。

▽最高高さ
1,105
3,145
6,440
▽洗面 FL
680
▽LDK FL
680
▽収納 FL
680
▽玄関ホール FL
150
▽設計GL±0

10
3

屋根:
化粧スレート t=5.2mm
アスファルトルーフィング 22kg
構造用合板 t=12mm
通気垂木 30×40mm @303mm
構造用合板 t=24mm
現場発泡ウレタン断熱材 t=175mm

壁・天井:
内装用モイス t=6mm 素地
石膏ボード t=12.5mm

外壁:
レッドシダー縦羽目 t=17mm
通気胴縁 18×45mm @303mm
透湿防水シート
構造用合板 t=9mm
現場発泡ウレタン断熱材 t=105mm

屋根:
FRP防水トップコート
構造用合板 t=9+9mm
構造用合板 t=24mm
現場発泡ウレタン断熱材 t=175mm

屋上デッキ

ベンチ:
ラジアータパイン t=22mm
防虫防腐処理材

吹抜け

洗面所

床:
フレキシブルボード t=6mm
撥水剤塗布
構造用合板 t=12mm

中庭

収納／書斎

壁・天井:
ラワン合板 t=5.5+5.5mm 素地

天井:
珪酸カルシウム板 t=6+6mm VP
現場発泡ウレタン断熱材 t=130mm

床:
ナラフローリング t=15mm オスモ塗装

沓脱石

床下収納

断熱材:
スタイロエースII t=50mm

2,730
3,640
1,820
8,190

断面詳細図　縮尺1：50

玄関ホールから中庭、収納／書斎を見る。玄関ホールは地域の人びとにも開かれる機会を想定して扉横にベンチを設置。床はモルタル金ごて仕上げ。

収納／書斎から西側を見る。奥の三角階段を上がると、リビングダイニングキッチンがある。

大島の住居
所在地／愛媛県今治市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供3人

設計
タトアーキテクツ　担当／島田陽　岡勇志
構造　tmsd萬田隆構造設計事務所
担当／萬田隆　春日良介　小林充
外構・造園　植物事務所COCA-Z
担当／古鍛治達也

施工
川下建設　担当／中山孝史
設備　佐七屋　担当／八塚亮二
電気　コマ電設　担当／小松正義
基礎　伊藤土木　担当／伊藤明
断熱　国方防虫化学　担当／塩見哲也
防水　マルマストリグ　担当／三好悠也
屋根　桧垣スレート西条　担当／野口正規
左官　越智建装　担当／越智敏晴
木製建具・家具　田窪木工所　担当／田窪浩三
金属　野間商店　担当／上久保等
板金　高橋板金　担当／高橋孝男
鉄骨階段　松岡鉄建　担当／松岡直也
外構　ムラカミ石材　担当／村上慎一郎
造園　植物事務所COCA-Z　担当／古鍛治達也

構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 6,342mm　最高高さ 6,440mm
敷地面積　424.37m²
建築面積　116.46m²
（建蔽率27.44％）
延床面積　110.94m²
（容積率26.14％）
1階　71.30m²　2階　39.64m²

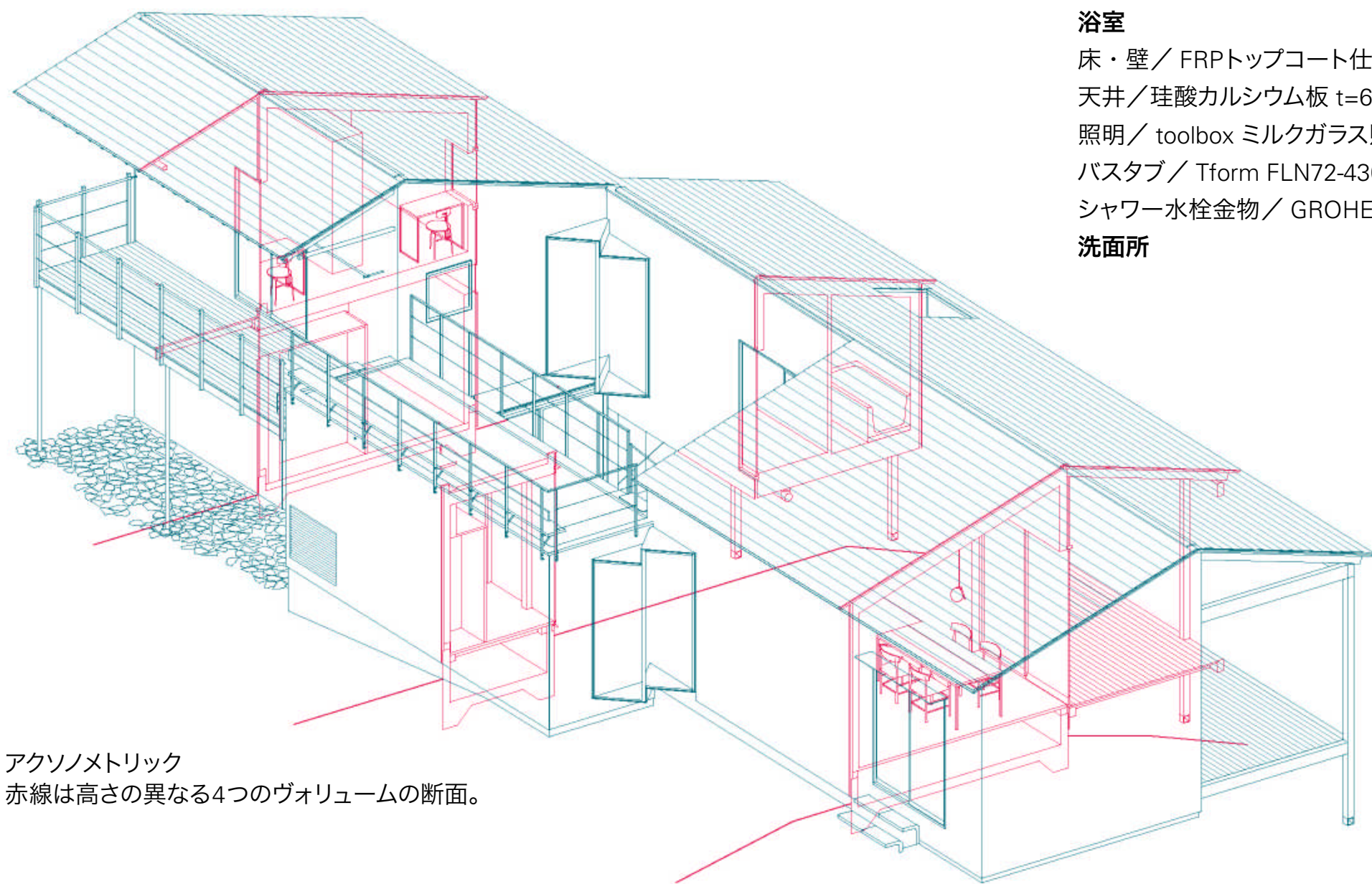
工程
設計期間　2018年2月〜2020年9月
工事期間　2020年10月〜2021年9月

敷地条件
都市計画区域及び準都市計画区域外
道路幅員　東6m　西3.5m

外部仕上げ
屋根／化粧スレート t=5.2mm（ケイミュー グランネクスト）　FRP防水トップコート
外壁／レッドシダー節有り ラフソーン w=127mm t=17mm（共栄木材）　モルタル金ごて仕上げ t=20mm 撥水剤
開口部／アルミサッシ（LIXIL）　木製建具
デッキ／ラジアータパイン 防虫防腐処理材 w=90mm t=22mm（共栄木材）
外構／砕石敷き　割栗石　沓脱石
植栽／サルスベリ　テウクリウム　シマカンスゲ　チユウキンレン　シマグミ　バショウ　フェイジョア　キョウチクトウ　オウゴンカナメモチ　ネズミモチなど

内部仕上げ
リビングダイニングキッチン
床／ナラフローリング w=75mm t=15mm オスモ（共栄木材）
壁／内装用モイス t=6mm 素地　カラーガルバリウム鋼板
天井／内装用モイス t=6mm 素地
厨房機器／
IHコンロ／パナソニック KZ-G32AST
換気扇（シェード）／ toolbox フラットレンジフード
家具／制作
照明／ウシオライティング　制作
建築金物／
シンク水栓金物／ Yuhuan Meisheng
浴室
床・壁／ FRPトップコート仕上げ
天井／珪酸カルシウム板 t=6mm VP
照明／ toolbox ミルクガラス照明
バスタブ／ Tform FLN72-4304
シャワー水栓金物／ GROHE
洗面所
床／ FB t=6mm 撥水剤
壁／内装用モイス t=6mm 素地　自然発色スギ材 w=90mm t=12mm（紅屋）
天井／内装用モイス t=6mm 素地
家具／制作
照明／ DNライティング
洗面カウンター／ Tform ADF70-3031-001
洗面用水栓金物／フォンテトレーディング BX-4212
玄関ホール　寝室
床／モルタル金ごて仕上げ t=45mm 表面強化剤
壁・天井／内装用モイス t=6mm 素地
家具／制作
照明／ウシオライティング
収納／書斎
床／ナラフローリング w=90mm t=15mm オスモ（共栄木材）
壁・天井／ラワン合板 t=5.5mm 素地
家具／制作
照明／ DNライティング　ウシオライティング
子供室
床／ナラフローリング w=75mm t=15mm オスモ（共栄木材）
壁・天井／ラワン合板 t=5.5mm 素地
家具／制作
照明／ toolbox　制作

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第3種換気
その他／フィルム床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／エコキュート

撮影／阿野太一

アクソノメトリック
赤線は高さの異なる4つのヴォリュームの断面。

配置図　縮尺1：2,000

南東側外観。左手のベランダ1は東の平側からはカウンターのように使える高さで、西の妻側は地面が上がっているため出入りができる。

東側夕景。2階ベランダ2は、建主の両親が住む隣家のベランダの庇と呼応するように大きな庇とした。玄関ホールや寝室にはハイサイドライトが回っている。

南側全景。姉妹と父の住宅で、狭隘な坂道の位置指定道路に面する古い擁壁の上に建つ。重機が入らないため、人力での搬入・施工が可能な小径の流通材での木造在来工法とした。家型を詰んだような外観で、東西の長手両面にはデッキが張り出している。外壁はフレキシブルボード。デッキの幅は895mm。外構はこれから日曜大工が得意な父によって整えられていく予定。

塩屋の住居2

House in Shioya 2
兵庫県神戸市

島田陽／タトアーキテクツ
Yo Shimada ／ Tato Architects

リビングダイニングキッチンから玄関側を見る。縦幅1,050mmのハイサイドライトを四周に回している。階段も人力で搬入できるよう小径の角鋼を組み合わせて軽量化している。

リビングダイニングキッチン。一部壁面は飼い猫が粗相しないようにモルタルで仕上げられ、コンセント位置は高めに設定。

リビングダイニングキッチンの東側を見る。踊り場は外壁から飛び出しており、テラスからスチールロッドで吊られている。

切実な構造から生まれた形式の再解釈

僕らの事務所には、狭小や斜面地、ローコストと、困難な条件での設計が多い。困難な条件はよい建築の土壌だとはいうが、そこでのチャレンジをいつまで続けるつもりかと問われることもある。しかし、困難な条件でこそ設計の力が必要とされ、放置すれば住宅地は更新されずに荒廃していく。とはいえ、以前から土地探しの相談を受けていた建主から、この敷地を購入したことを知らされた時は頭を抱えてしまった。敷地は狭隘な坂道の位置指定道路に面する古い擁壁の上で、隣地側の擁壁も安全性が保証できないものだった。建築費も限られており、重機が入らない敷地の状況からは人力での搬入、施工が必要なことが予想された。

まず、小径の流通材での在来木造を前提としてスタディを進めた。南側の隣地は現在空き地だが、この先大規模な建築が建ち得る敷地だったため、北の道路側以外は将来建て込むことも予想された。そこで、1階の天井高をなるべく高くしてぐるりと回したハイサイドライトからの採光を考えた。そのために必要な斜材の角度が屋根勾配と近く、2階床梁までの耐力壁を張ると家型を積んだように見えることに気付いた。必要性に迫られてできた構造を図像として再解釈することで、この住宅の息詰まるような機能性から逃れ、家型の屋根が連なるこの地域の風景にも合うように思えた。

建主は、いずれ移り住むことが予想される年老いた父と、その娘である姉妹。1階道路側には、足の悪い父の部屋と浴室など、プライバシーが必要な部屋を配置したが、坂の上からハイサイドライトを通して覗かれることを防ぐために、家型に膜天井を張っている。その結果、上階と下階が近似したヴォリュームとなり、階間の小屋裏のような空気層も相まって、それぞれ独立した大人が集うこの住宅に適切な距離感をもたらすように思えた。家型が積まれたような外観は、一見アイコンを弄んでいるようにも見えるだろうが、切実な構造から生まれた形式を再解釈して発展させたものであり、下階と上階の室内風景の近似が認識の誤作動を招く面でも、可能性を感じている。（島田陽）

室1。天井の仕上げは梨地ビニールシートで、天井からも自然光を取り入れられる。

室1からリビングダイニングキッチンを見る。

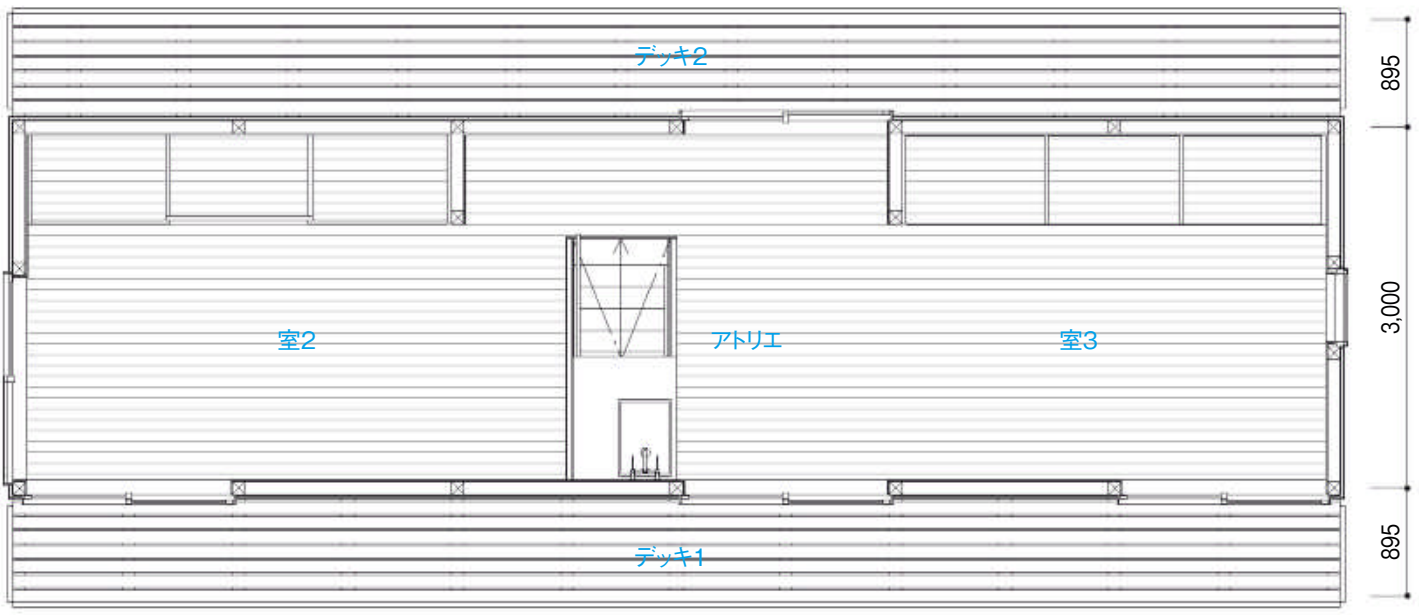
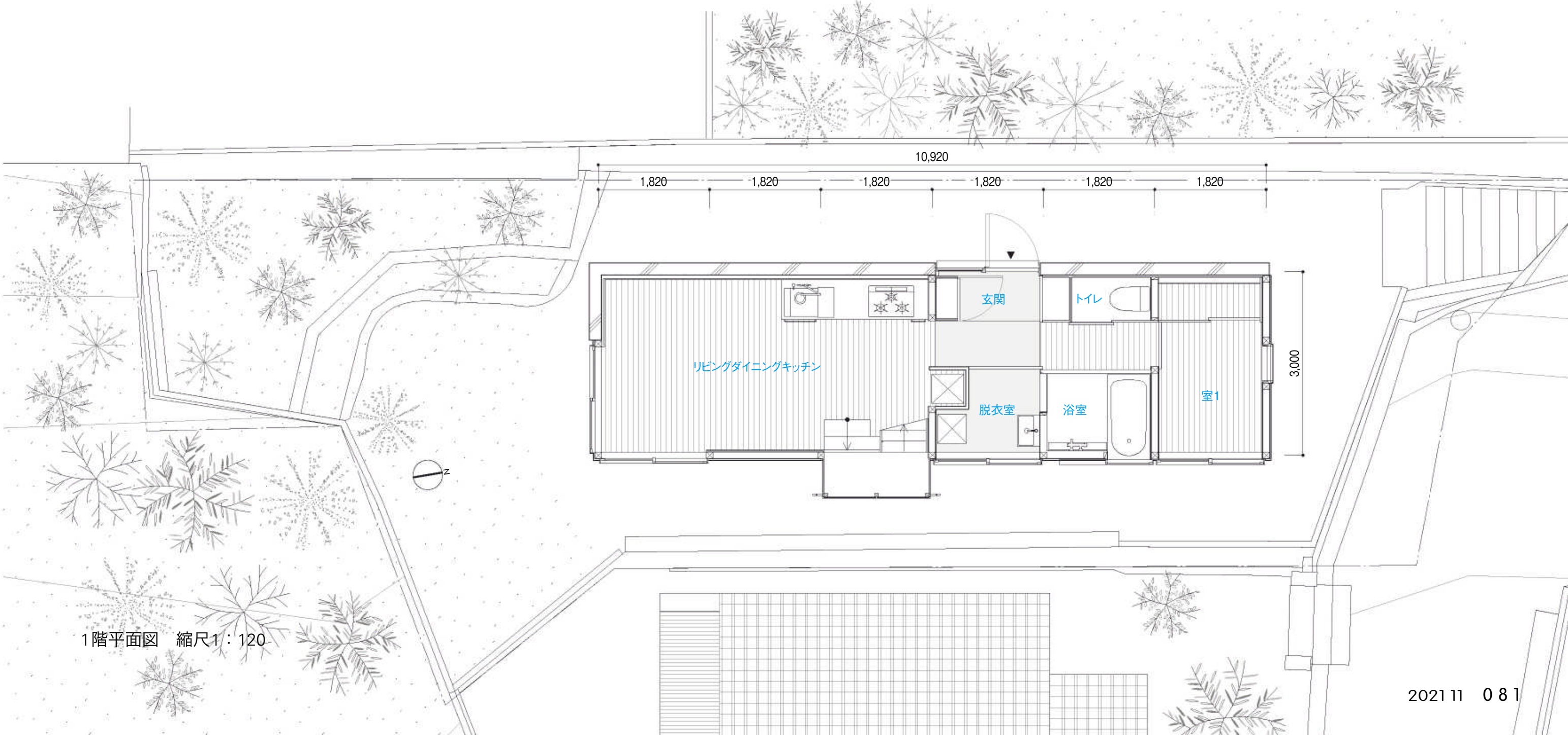
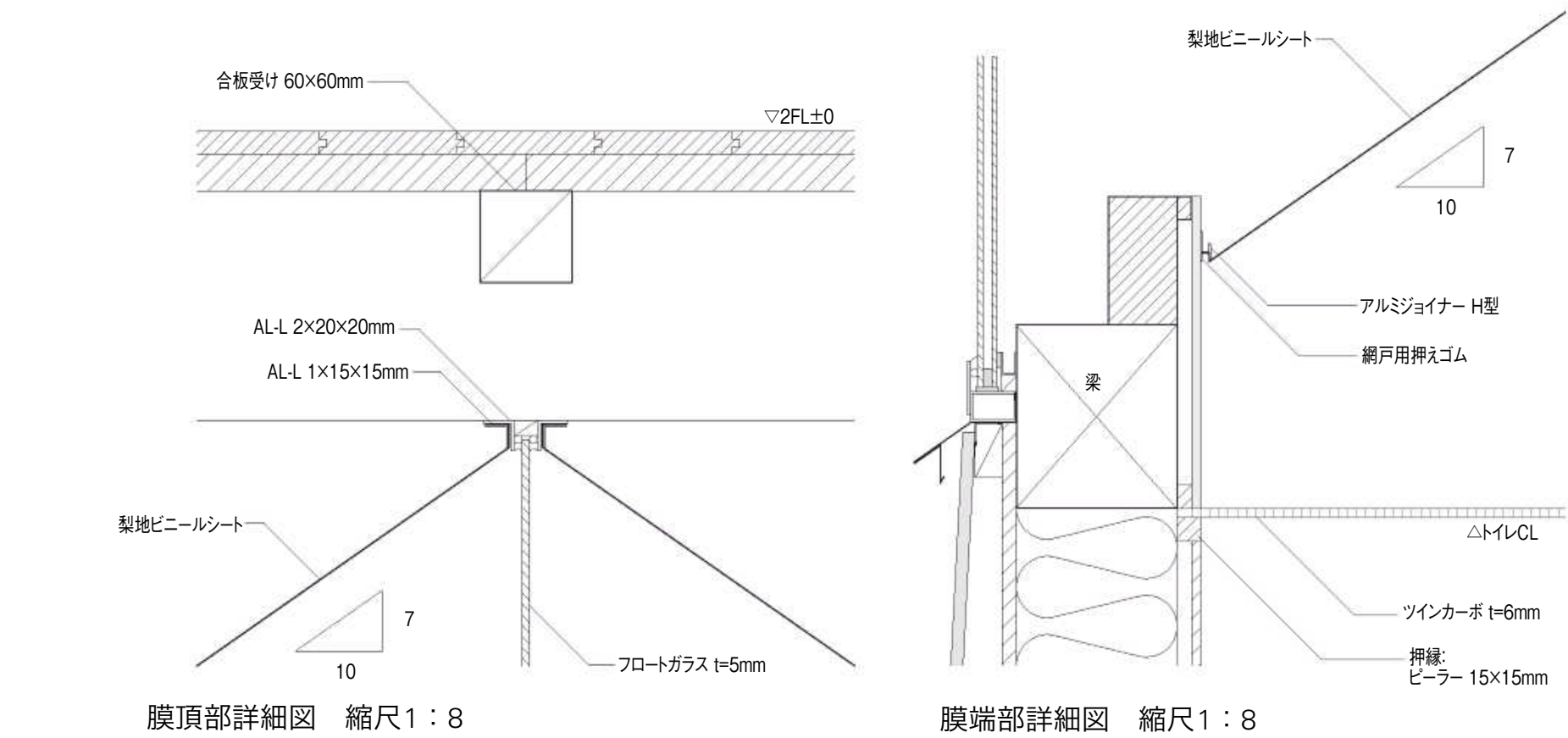
2階平面図

1階平面図　縮尺1：120

合板受け 60×60mm
▽2FL±0
AL-L 2×20×20mm
AL-L 1×15×15mm
梨地ビニールシート
フロートガラス t=5mm

膜頂部詳細図　縮尺1：8

梨地ビニールシート
梁
アルミジョイナー H型
網戸用押えゴム
△トイレCL
ツインカーボ t=6mm
押縁:
ビーラー 15×15mm

膜端部詳細図　縮尺1：8

階段から2階を見る。膜天井上部はガラスで仕切られ、空気環境のバッファーゾーンとしても機能する。

屋根:
ガルバリウム鋼板大波板 t=0.4mm
通気胴縁 18×45mm @303mm
アスファルトルーフィング 22kg
構造用合板 t=24mm
高性能グラスウール t=105mm
カネライトフォーム t=40mm

▽最高高さ GL+6,612
▽軒高 GL+5,489
▽2FL GL+3,439
▽1FL GL+200
▽GL

外壁:
フレキシブルボード t=8mm 下見板張り
横桟 18×36mm @400mm
縦胴縁 18×36mm @303mm
透湿防水シート
構造用合板 t=9mm
高性能グラスウール t=105mm

内壁:
モイス t=6mm 素地
PB t=9.5mm
気密シート

腰壁:
モルタル金ごて仕上げ t=20mm
構造用合板 t=9mm
胴縁 18×36mm @303mm
スタイロエースII t=30mm

天井:
モイス t=6mm 素地
PB t=9.5mm
気密シート

床:
ナラフローリング 15×90mm
ルビオ自然オイル
構造用合板 t=24mm

手摺り:
St-L 3×40×40mm
手摺り子:
St-L 3×30×30mm
すべて溶融亜鉛メッキ品

ヒノキ・クリアデッキ 30×105mm

床:
ナラフローリング 15×90mm
構造用合板 t=15mm
スタイロエースII t=30mm

デッキ2
室2
デッキ1
LDK

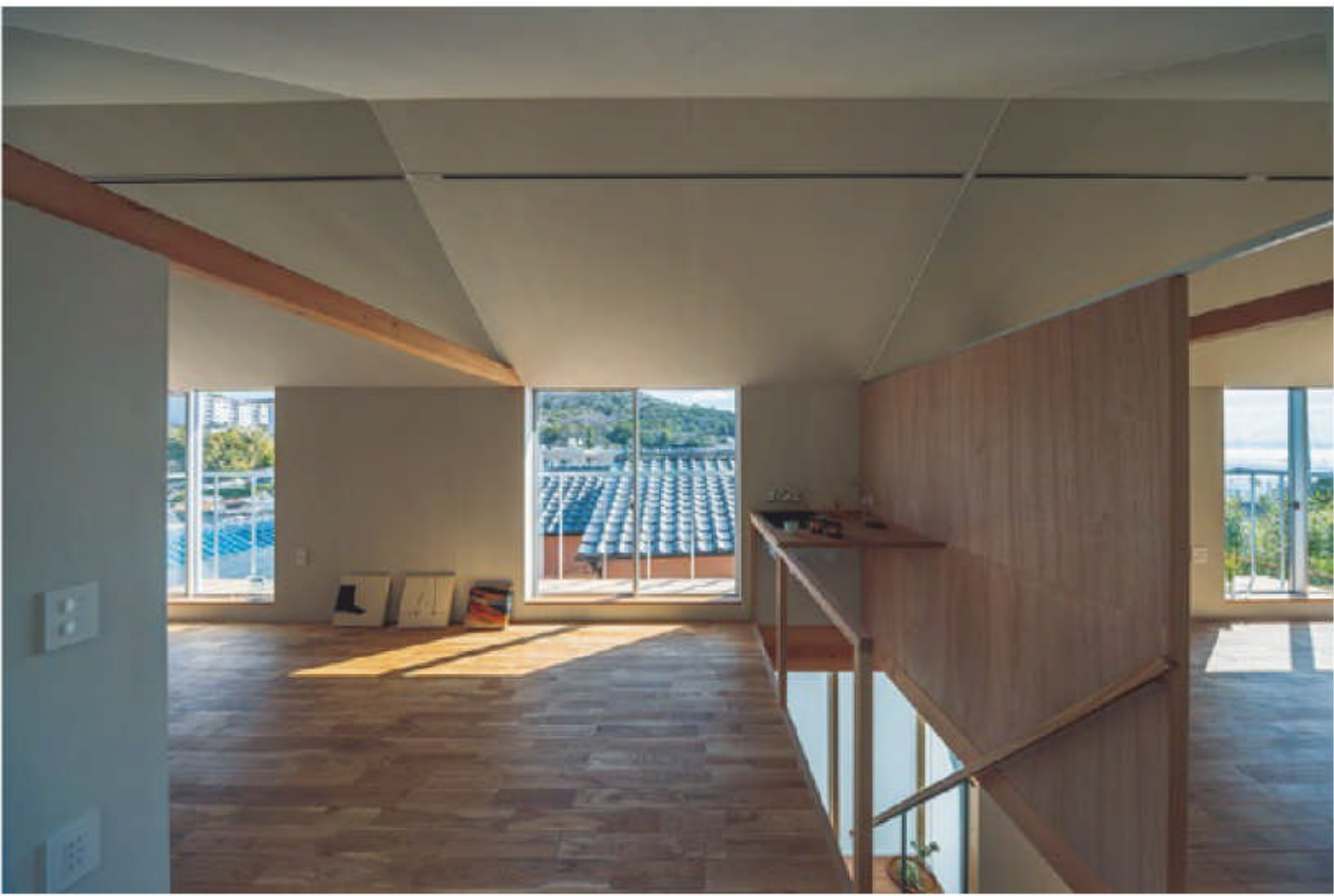
断面詳細図　縮尺1：50

在来軸組構法による木造建築であり、構造用合板による耐力壁を設置しているが、1階は四周にハイサイドライトがまわり、上階からの水平力を伝達するためにブレースを設置している。眺望のために求められていたデッキは4mの流通材を互い違いに張り出させることによりバランスを取り、外部の突出した階段の踊り場を吊っている。
重機の入らない敷地で、杭や柱状改良の施工は困難であり、斜面下側は一部深基礎として既存擁壁の安息角をクリアし、それより外側はキャンチレバーとして設計を行い、既存擁壁が崩れても建物の崩壊を免れる。斜面上側は隣家擁壁が崩れた際の防護策としてRCの高基礎を立ち上げている。
（萬田隆構）

塩屋の住居2
所在地／兵庫県神戸市
主要用途／専用住宅
家族構成／姉妹＋父＋猫

設計
タトアーキテクツ　担当／島田陽　安田陽
構造　tmsd 萬田隆構造設計事務所
担当／萬田隆　春日良介　小林充
施工
住僖　担当／前田亮太
大工　担当／足立元就　武内翼
屋根　山寺板金　担当／山寺司
電気　岩田電機　担当／田澤考紀
給排水　島田設備　担当／島田恭平
防水　マトバ　担当／高橋憲吾
木製建具　コアテクノス　担当／高橋秀次
金物制作　モリエ房　担当／久芳盛彦
橋爪工作所　担当／橋爪操一
構造・構法
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎
規模
階数　地上2階
軒高 5,489mm　最高高さ 6,612mm
敷地面積　134.13m²
建築面積　32.93m²
（建蔽率24.55％　許容40％）
延床面積　66.69m²
（容積率49.72％　許容80％）
1階　33.93m²　2階　32.76m²
工程
設計期間　2018年5月～2020年8月
工事期間　2020年9月～2021年3月
敷地条件
地域地区　第1種低層住居専用地域　法第22条区域　第1種高度地区

配置図　縮尺1：3,000

道路幅員　北4m
外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm
外壁／フレキシブルボード t=8mm 下見板張り
開口部／アルミサッシ（LIXIL）
デッキ／ヒノキ・クリアデッキ 防虫防腐処理材 w=105mm t=30mm（共栄木材）
内部仕上げ
リビング・ダイニングキッチン
床／ナラフローリング（ニッシンイクス）t=15mm ルビオ自然オイル
壁／内装用モイスt=6mm　モルタル金ごて仕上げ
天井／梁現し
厨房機器／
ガスコンロ／リンナイ リッセ
換気扇（シェード）／ Toolbox フラットレンジフード 白

2階アトリエ。階段上部には染色が趣味である姉のための流しを設置。

家具／制作
照明／ DNライティング FL-LED2
シンク水栓金物／ Yuhuan Meisheng
浴室
床・壁／ FRP防水トップコート仕上げ
天井／梨地ビニールシート
照明／ FKK LNS-2
バスタブ／ KALDEWEI FLN72-4301
シャワー水栓金物／ TOTO TBV03401J
脱衣室
床／モルタル金ごて仕上げ
壁／珪酸カルシウム板 t=6mm VP
天井／梨地ビニールシート
照明／ DNライティング FL-LED2　FKK LNS-2
洗面器／フォンテトレーディング B3-591
洗面用水栓金物／フォンテトレーディング BX-4210
トイレ
床／塩化ビニルシート
壁／ラワン合板 t=5.5mm オスモ
天井／ツインカーボ t=6mm
便器／ TOTO NEOLEST
室1・2・3　アトリエ
床／ナラフローリング（ニッシンイクス）t=15mm ルビオ自然オイル
壁・天井／内装用モイス t=6mm 素地　梨地ビニールシート（室1）
洗面／ステンレス HL t=1.5mm（アトリエ）
設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第3種換気
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯式
撮影／新建築社写真部

北側外観。近くに海があり、潮風が抜ける環境。

北側全景。1・2階にテナントが入る4階建て併用住宅。敷地は国立競技場にほど近い裏通りに位置し、周囲には中低層の商業ビルや集合住宅が立ち並ぶ。日影規制により導かれた不定形の平面をズラしながら積み上げ、空地をテラスとした。

特集：風が抜ける家

IBIS SENDAGAYA

東京都渋谷区

KOMPAS

3階テラスを見下ろす。各階のテラスにはそれぞれの場を特徴づけるような植栽が植え、季節によって表情を変えていく。隣接建物との隙間は谷底から空へと広がる渓谷のような立体庭となり、3・4階テラスの色鮮やかな背景としてほどよいプライバシーを保つ。

4階テラスからリビング・ダイニングを見る。

リビング・ダイニング。東面に高窓を設けることで十分な採光・換気を取り込む。住まい手はエレベータを使い4階玄関からリビング・ダイニングに入り、写真右奥の階段を介して3階と繋がる。

リビング・ダイニングからテラスを見る。ガラスの引き戸は壁内部に収納可能で、全開することで内外を一体に繋ぐ。

都市の上空を楽しむ緑豊かな暮らし

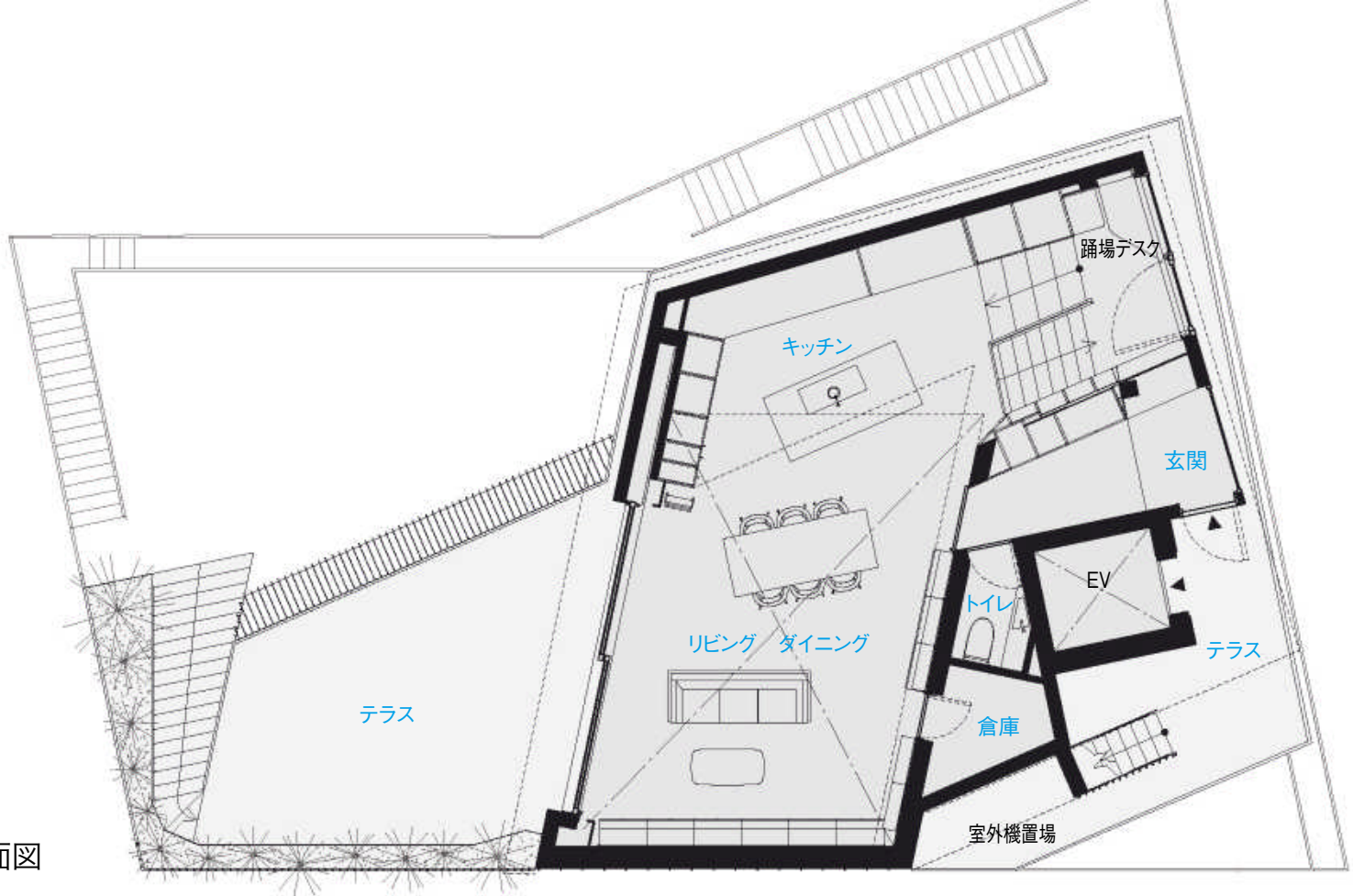
国立競技場にほど近い、千駄ヶ谷の裏通り。これまでの庭つき戸建て住宅から1・2階がテナントとなるビル上階への転居を決めた建主家族は、都心部で床面積も限られた新しい生活環境に懸念があった。高密で容積率が160％しかない敷地で、収益を確保する賃貸空間と5人家族の快適な住空間をいかに共存させられるか。

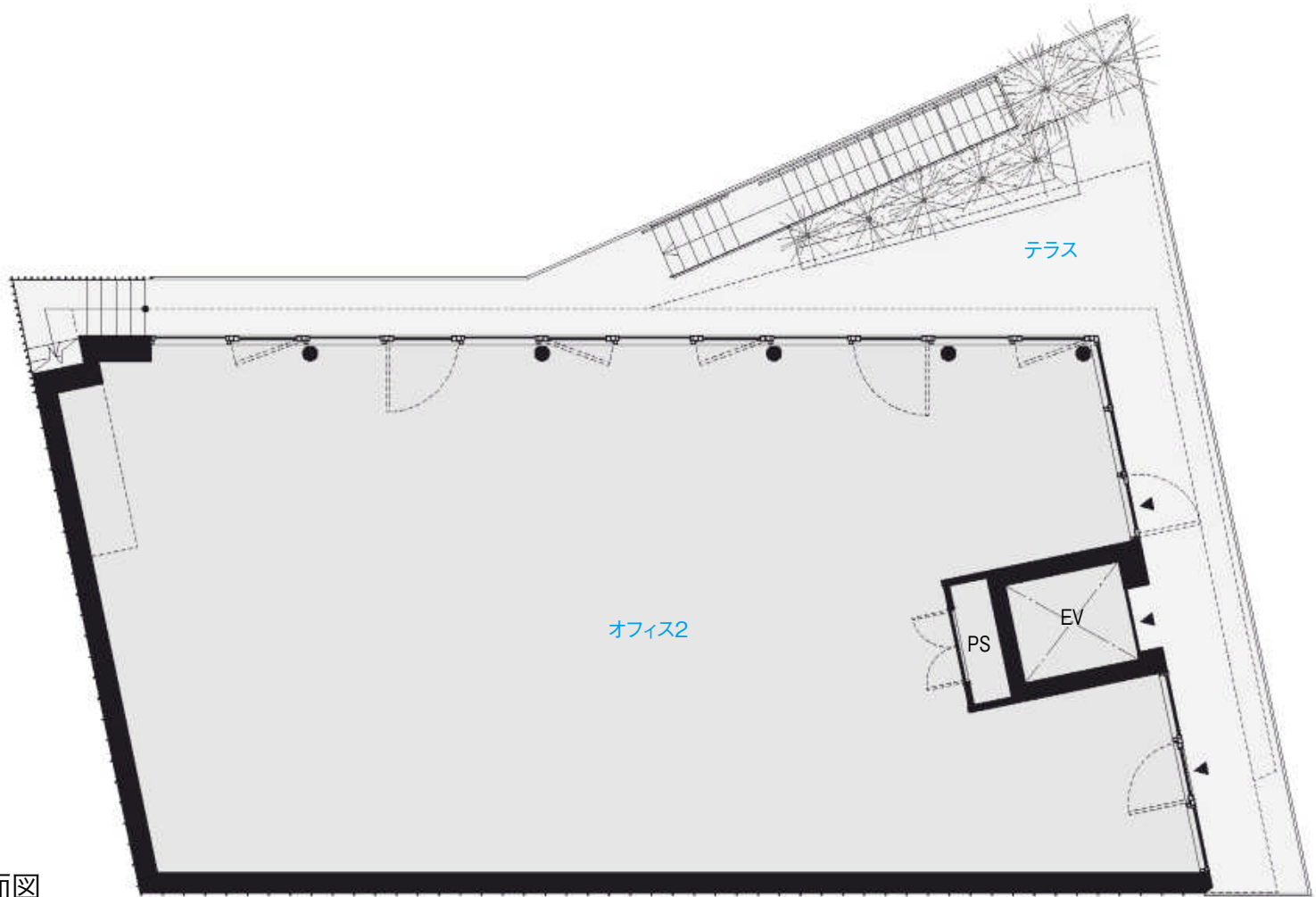
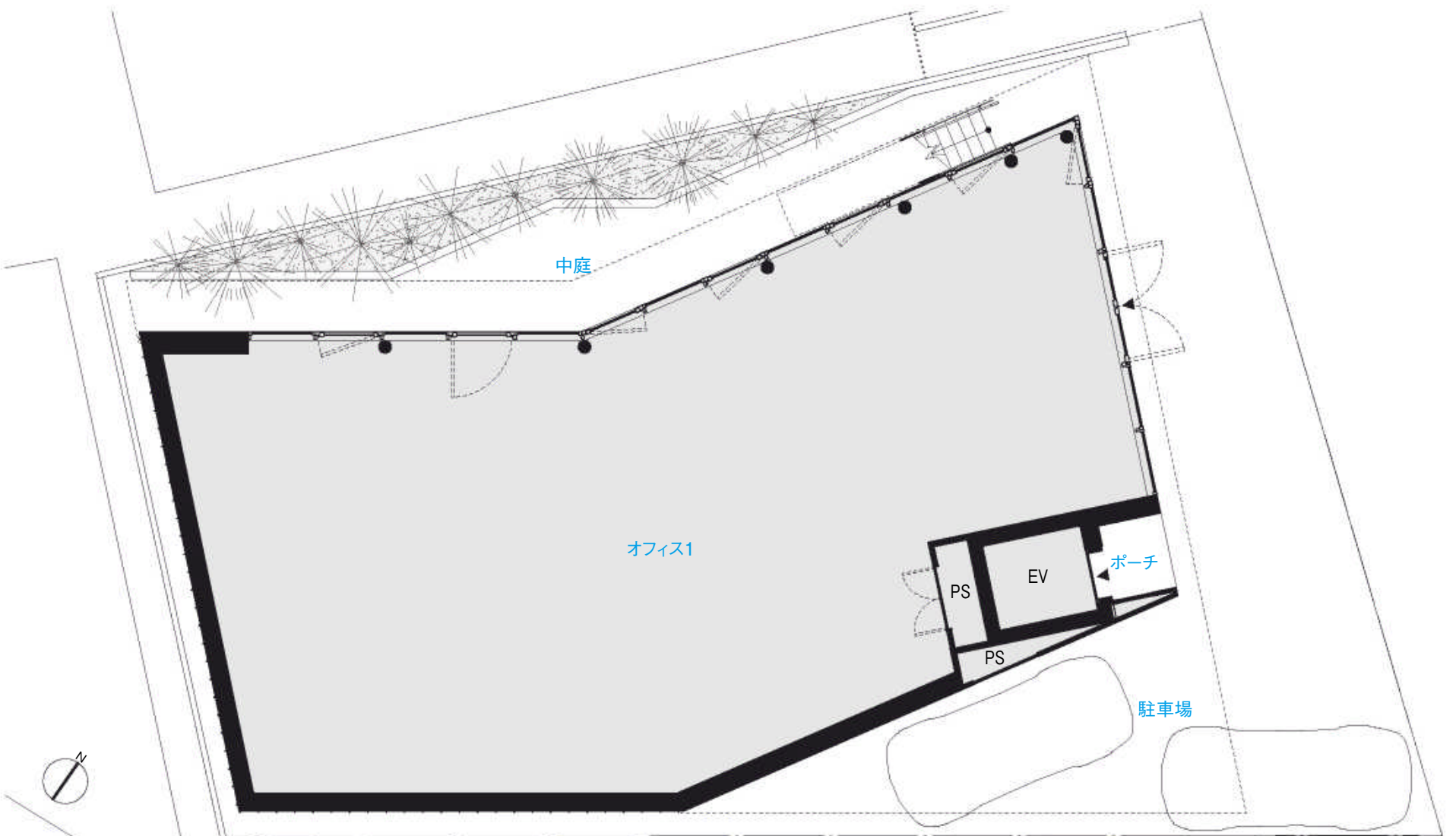
隣接建物が迫る厳しい周辺環境の中で見つけたポテンシャルは、周辺建物の上空という隠れた空地で日影規制に適合すれば20m建築可能だった。徹底的に日影規制と格闘した結果、たどり着いたのは北側を最大限高くした異形の階段状のヴォリューム。高い階高が1・2階の賃貸価値を高めると同時に、周囲の屋根より高くもち上げた住宅部分は、上空という空地を目いっぱい活用できるようになった。ズレて重なる異形平面と跳ね出すバルコニーは延床面積不算入の多様な外部空間を生み、廊下やテラスとして内部空間を外に拡張させていく。くびれた形状のメゾネット住宅は、両階の全開放可能な大型サッシでまさにテラスと一体化。

4階玄関を入ると、空へと伸び上がるリビングダイニング。書斎も兼ねた階段室を経て個室を束ねる3階広間へとゆるやかに繋がり、帯状のワンルームがその先のテラスへと伸びていく。両階のテラスは緑溢れる外階段で結ばれて、窓を開け放てば内外一体になった大きな立体ループとなる。見上げた先の渦巻き状の屋上は、空に浮かぶ大きな滑り台のようなプレイグラウンド。2層の居室と3層のテラスを巡るこの回遊性に満ちた空間連続体では、周縁の家具や植栽によってさまざまな場が生まれ、その中を光・風・視線が流れて子供たちが駆け抜ける。

東京のスカイラインに抱かれて、都市の隙間に背伸びしたような佇まいに緑溢れるテラスが巻き上がる。厳しい条件下での都心居住や複合建築のひとつの在り方を提案すると同時に、ここで育つ子供たちが楽しんで使いこなしてくれるような、寛容で伸びやかな空間を目指した。

（小室舞）

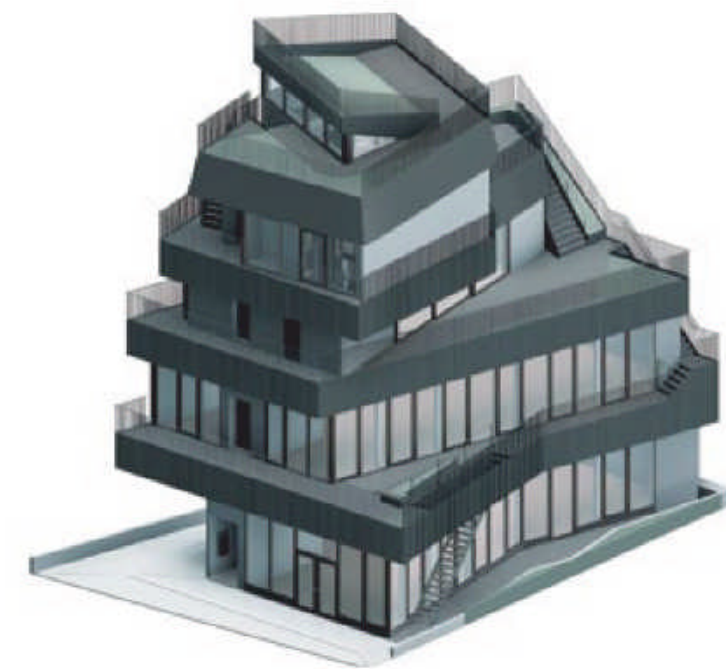
3・4階を繋ぐ階段の踊り場にデスクを置きワークスペースとした。
窓の先に東京体育館を望む。

4階平面図

3階平面図

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：200

3階テラスから広間を見る。廊下壁面にはソファや本棚を設けて居場所とし、本棚の一部は子供室に繋がる扉を兼ねている。ガラスの3枚引き戸を開け放つと、内外双方の空間が拡張される。

半階分ほどある深い梁成は、空間の天井高を高くするほか、各階のサービスゾーンとしても働き、設備スペース・ロフト・小屋裏収納・床下収納・植栽ピットなどとして上下の空間を支えている。

人工芝のスロープが子供たちのプレイグラウンドとなる最上階の屋上テラス。

屋根伏兼配置図　縮尺1：1,000

アクソノメトリック

IBIS SENDAGAYA

所在地／東京都渋谷区
主要用途／住宅＋貸事務所
家族構成／夫婦＋子供3人

設計

KOMPAS　担当／小室舞　酒井英規
構造　平岩構造　担当／平岩良之　國江悠介
設備・電気　ZO設計室　担当／伊藤教子　根本晋吾
外構・造園　温室　担当／塚田有一

施工

大原工務所　担当／大原彰　菊池聡
設備　北村綜合設備　担当／北村豪
電気　トップギア　担当／安齋謙一

構造・構法

主体構造・構法　鉄筋コンクリート造
基礎　べた基礎

規模

階数　地上4階
軒高 17,900mm　最高高さ 19,000mm
敷地面積　268.66m^2
建築面積　163.87m^2
（建蔽率61.0％　許容70％）
延床面積　428.78m^2
（容積率159.6％　許容160％）
1階　141.00m^2　2階　133.42m^2
3階　83.87m^2　4階　70.48m^2

工程

設計期間　2018年12月～2019年11月
工事期間　2019年12月～2021年4月

敷地条件

地域地区　第2種中高層住居専用地域　準防火地域　20m第3種高度地区　日影規制4H-2.5H-4M
道路幅員　北4m　　駐車台数　2台

外部仕上げ

屋根／リブ付き鉄板耐候性塗装　（フェロドール）
外壁／墨モルタル左官仕上げ　ガルバリウム鋼板
開口部／特注木製サッシ（アルス）　既製樹脂

北東側近景。分厚い梁の層が跳ね出して庇やバルコニーとなり、その端部には日影規制緩和に必要な縦格子手摺りがファサード意匠として帯状に巻き付く。縦格子のルーバー効果で周囲からの視線をコントロールすると同時に、水平ボリュームの積層が強調されている。

アルミサッシ（YKK AP）
外構／土間コンクリート金ごて仕上げ　レンガタイル張り t=15mm（TLCアソシエイツ）

内部仕上げ

キッチン
床／磁器質タイル張り（Maristo）
壁／コンクリート打放し化粧補修
天井／ウォールナット突板張り

浴室　洗面所
床・壁／磁器質タイル張り（Maristo）
天井／ AEP

トイレ
床／ 磁器質タイル張り（Maristo）
壁・天井／　コンクリート打放し化粧補修

リビング
床／チーク複合フローリング張り（望造）
壁・天井／コンクリート打放し化粧補修

寝室
床／タイルカーペット（東リ）
壁／ AEP
天井／オーク突板張り

主な

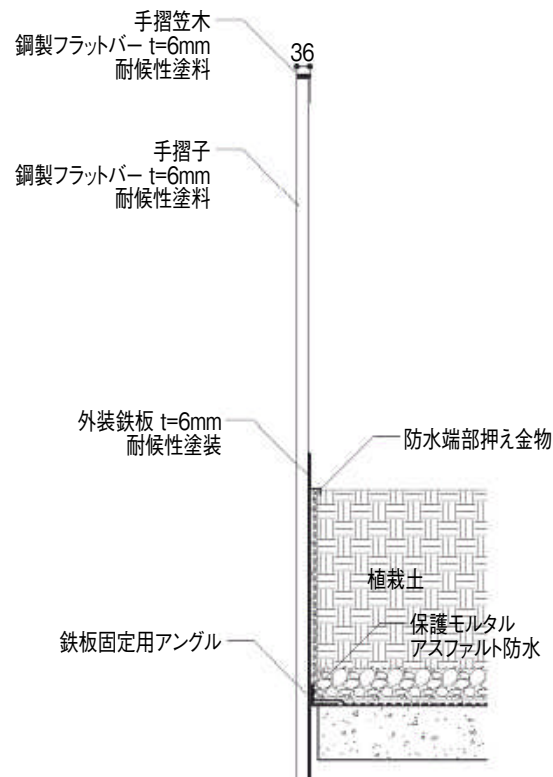
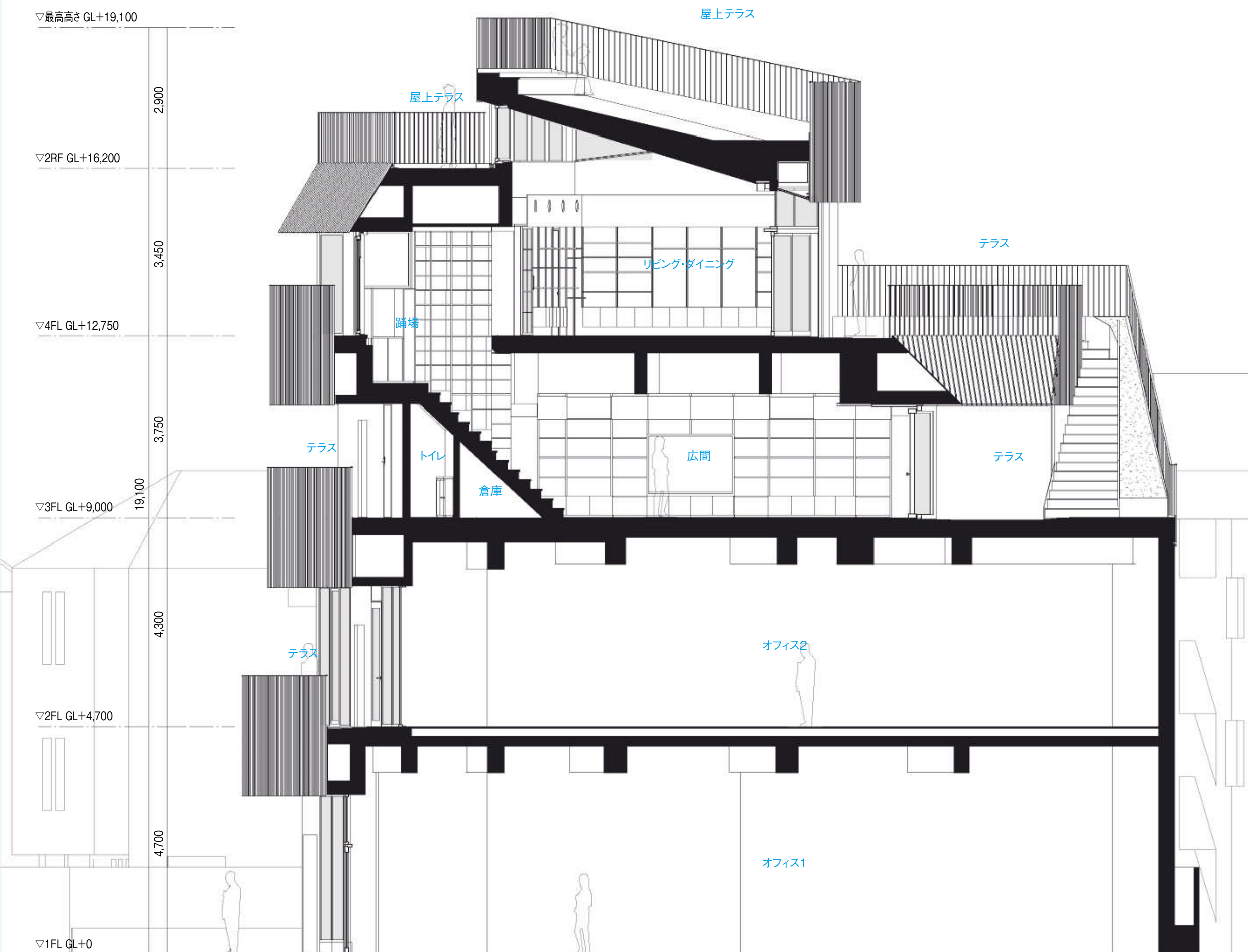
設備システム

空調　冷暖房方式／個別分散熱源方式ビル用マルチエアコン
　換気方式／第3種換気
　その他／温水式床暖房
給排水　給水方式／水道直結増圧方式
　排水方式／合流方式
給湯　給湯方式／ガス給湯器

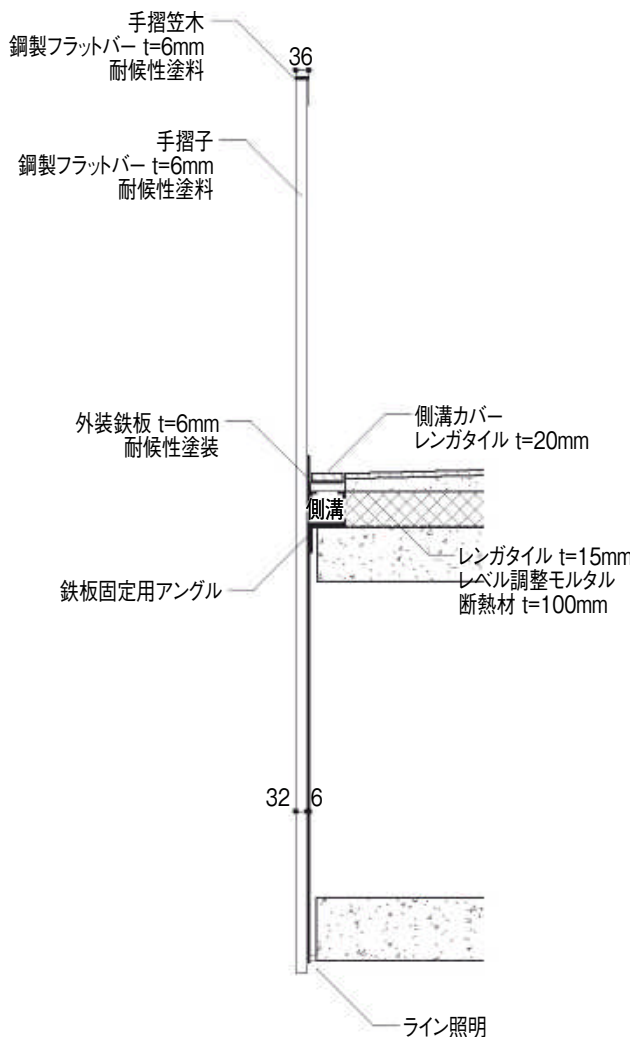
主な使用機器

衛生機器／ LIXIL 、サワカンパニー、T-form、フォンテトレーティング
厨房機器／ SAKO、Miele、ハーマン
照明／小泉産業、オーデリック

撮影／新建築社写真部

左：2階テラス。　右上：中庭。　右下：右下：現在は撮影スタジオが入居しているオフィス1。1・2階は、隣地境界沿いの南側2面を閉じて耐力壁とし、垂れ壁のような深い梁を交錯させて複雑な建物形状を支持することで、テラス沿いの躯体は細い丸柱のみとした。防火認定されたばかりの耐熱結晶化ガラスによる大型木製防火サッシと相まって、耐火建築らしからぬ開放感が実現された。

植栽部手摺り断面詳細図

手摺り断面詳細図　縮尺1：40

断面図　縮尺1：150

高脚楼

TAKAASHIROU

東京都調布市

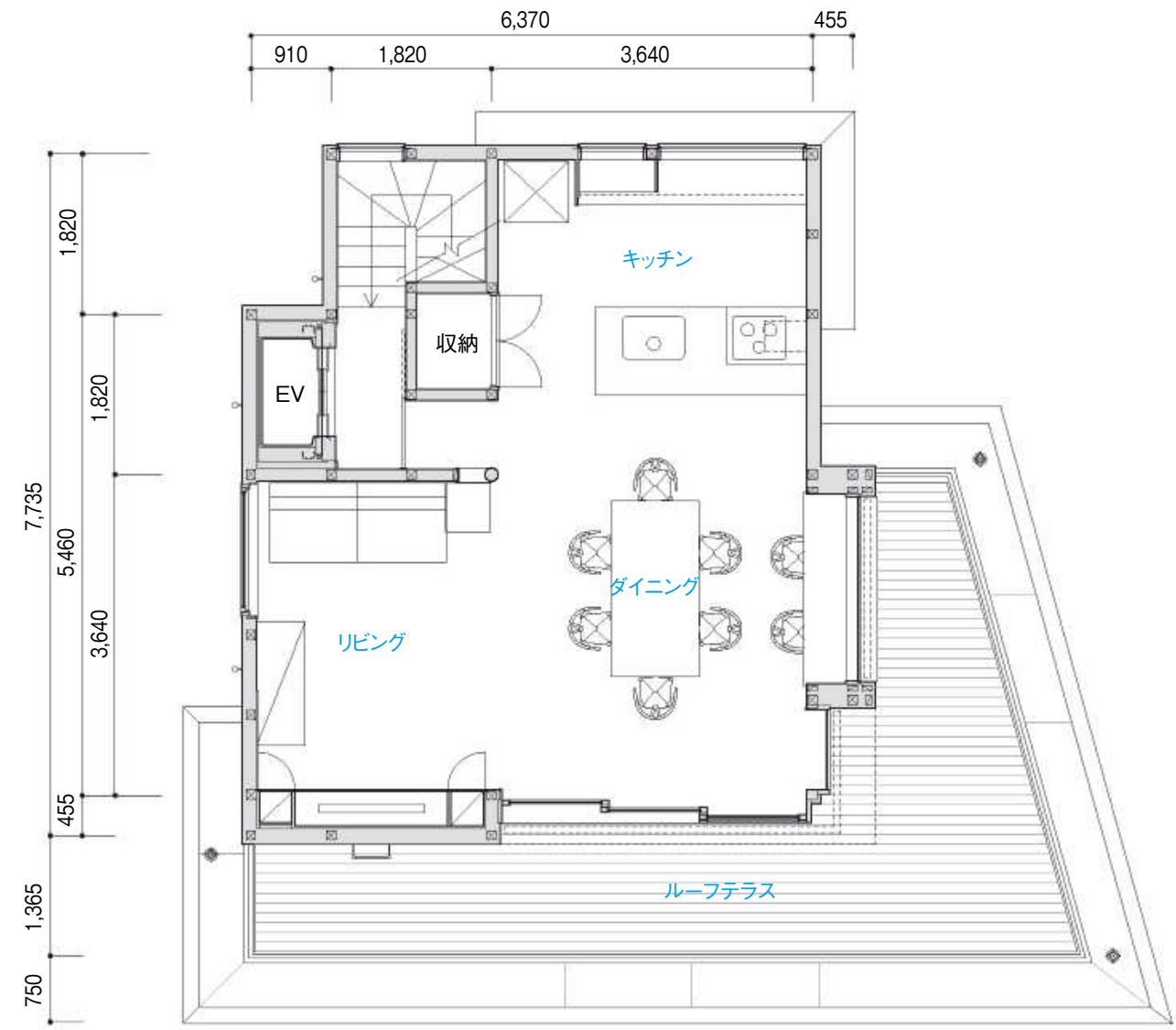
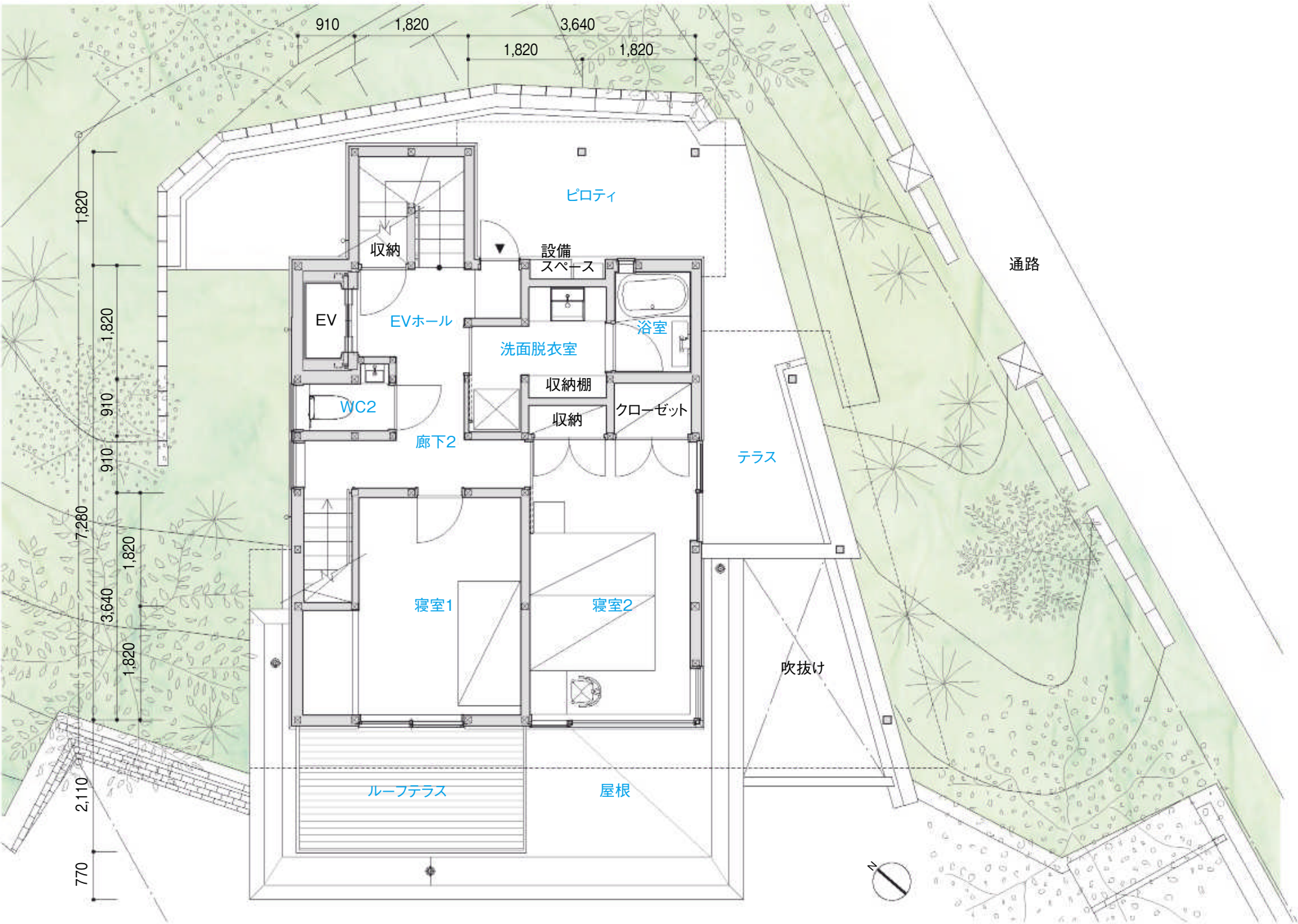
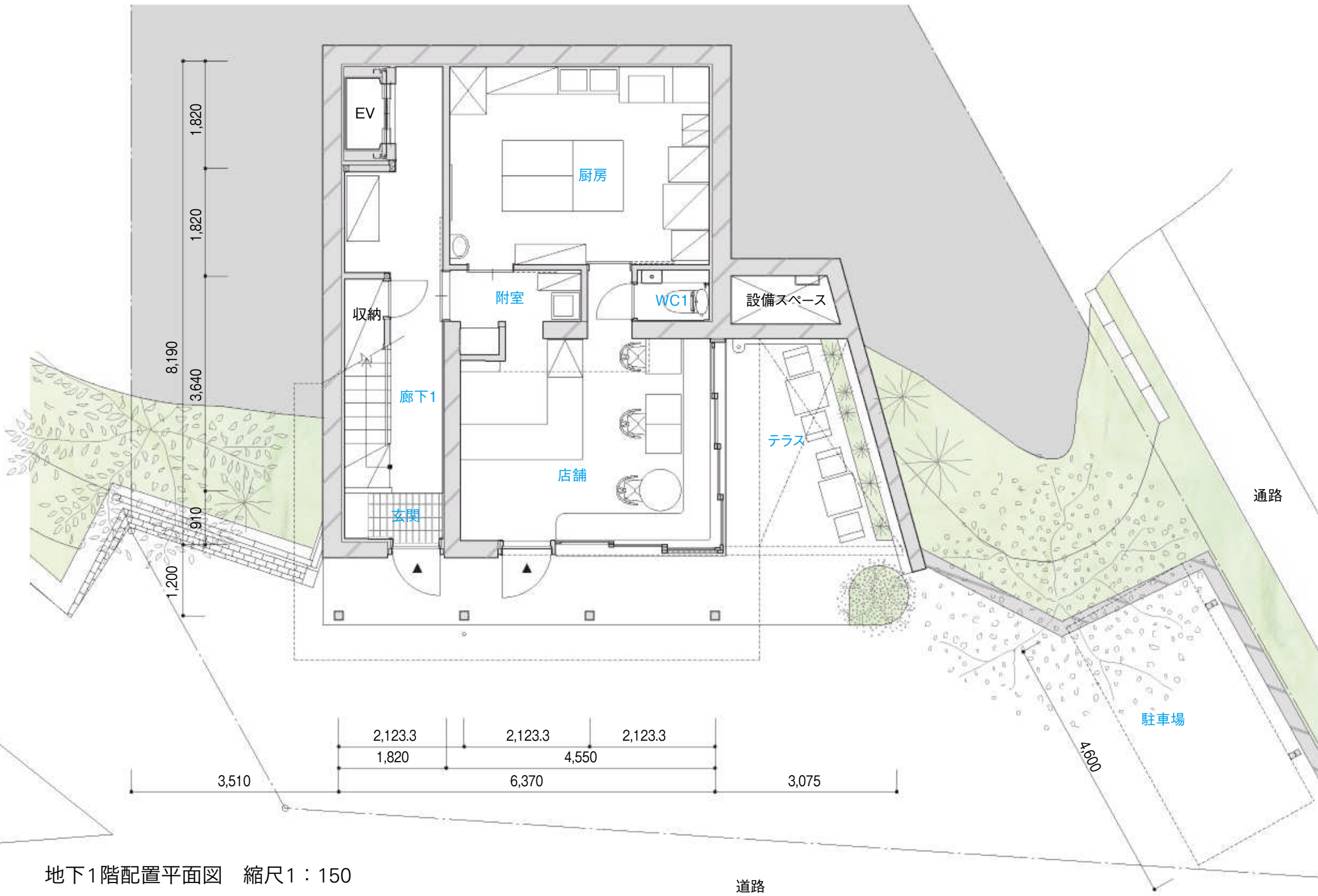
平井充＋山口紗由／メグロ建築研究所
Mitsuru Hirai＋Sayu Yamaguchi
／ Meguro Architecture Laboratory

南西側全景。敷地は崖線上に位置し、接道側以外を緑豊かな斜面に囲まれた、洋菓子店が入った店舗併用住宅。各階のヴォリュームを斜面に沿ってセットバックさせて鉛直荷重を軽減し、伸ばしたスラブは下階では庇、上階ではルーフテラスとなる。

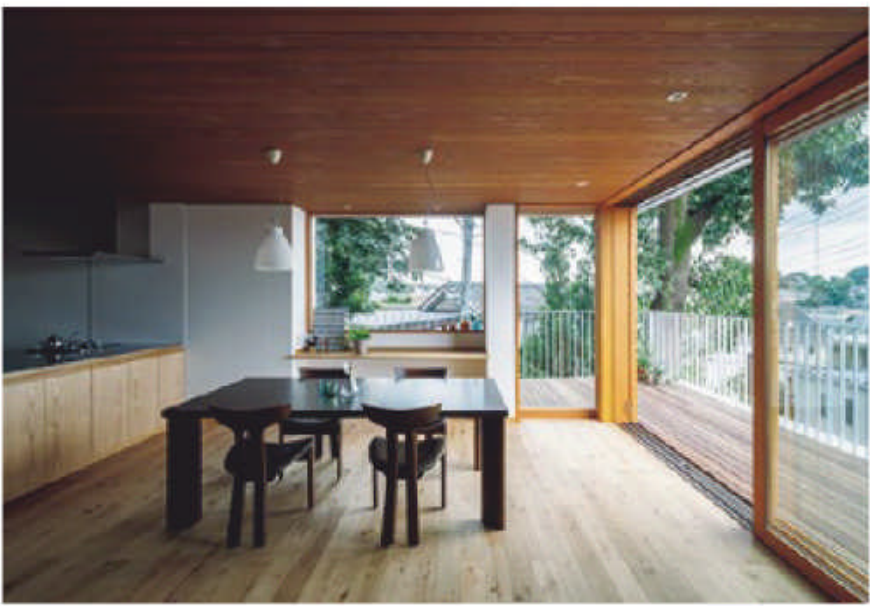
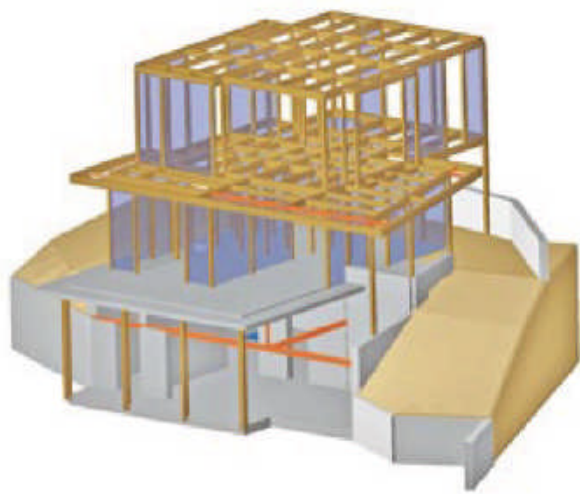
崖地と対峙する床版

下階はカフェのある洋菓子店で、上階が住居となった職住一体の建築である。既存の建物は2mの擁壁の上に建てられ、その1階に店舗が入っていた。今回の計画では、擁壁を掘り下げて店舗を道路レベルに揃え、環境に開かれたものとした。敷地は、閑静な住宅地を眼下に見渡す自然豊かな斜面地である。この場所は、国分寺崖線の一部であり、近くの実篤公園と一体となった樹林地を形成している。崖線は台地の際であり、手つかずの自然による豊かさの宝庫だ。この立体的な自然環境を余すところなく絡め取り、生活が環境と一体となって楽しめるような関係を目指した。

建物は、開発行為を避けるため、既存建物のあった位置に配置することで、掘削土量も節約している。床版とそれを支える柱は、階層ごとに斜面に沿ってセットバックさせ、直下への荷重を減らした。斜面地では、立つ位置によって風景の見え方ががらりと変わる。この斜面に床版を1枚添えると、上下に対照的な場が生まれる。床版の上は見晴らしのよいルーフテラスとなり、下が列柱と樹木に囲われた場所だ。そこで、各階の床版が上下に重なり合う場所を室内化し、外壁の周りにテラスと列柱をぐるりと巡らせた。それにより、この場所特有の体験を建築に取り込み、多焦点の居場所をつくりたいと考えた。

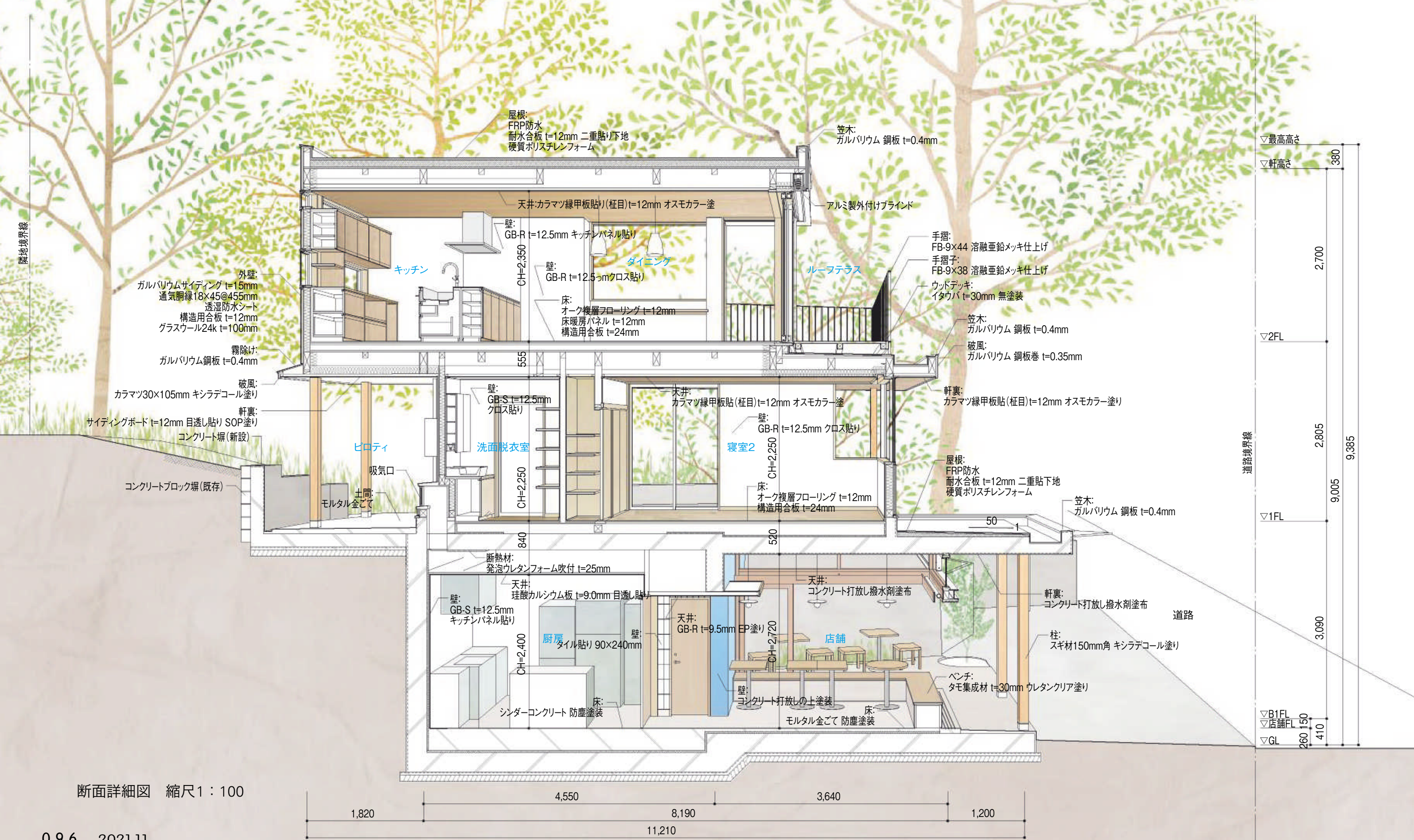
構造は、地面に埋め込まれた鉄筋コンクリート造の上に木造の2階を載せ、森の木々に馴染むように木の柱とした。また、地下1階のコンクリート床版の鉛直荷重を受ける柱は、5寸角のスギ材とし、頂部に楔を打ち込むことで断面に荷重を伝達させている。コンクリート床版と杉の柱の組み合わせだけでなく、場所ごとに機能性と経済性を考慮した異なる素材のサッシや仕上げをそのまま表している。住まいは至ってシンプルだが、周辺環境との呼応によって、多彩な表情を持つ建築になった。　　　　（平井充＋山口紗由）

地上2階平面図

地上1階配置平面図

地下1階配置平面図　縮尺1：150

店舗部のテラス。地下1階は鉄筋コンクリート造壁式構造と鉄骨梁により背後の片土圧を受け、その上に2層の在来木造架構が載る。2階スラブ下端までの天井高さは5,500mmで、斜面の緑を景観に取り込んだ開放的な居場所となる。

1階テラス。寝室2と敷地東側の歩道との間合いを取るバッファーとしての役割をもつ。敷地周辺の地形は南西側に緩やかに傾斜しており、床高は南西側の住宅の軒高とほぼ同じ高さ。正面の吹抜けを介して地下1階テラスと繋がる。

上：2階ダイニング。南面に大きく開口部を設け、ルーフテラスと一体的に繋がる。　下：1階寝室2。

構造ダイアグラム

仕組みが分かるディテール

後背斜面の片土圧を受ける鉄筋コンクリート造壁式構造に、2層の在来木造架構が載る構造形式である。隅部柱のない大きな開口は木梁に溝形鋼を添わせ必要な断面性能を確保した。3方に広がる庇については、溝形鋼を十字に接合し、木造隅部縁にボルトで添わせ、薄い庇を実現した。鉄筋コンクリートスラブを支持する木柱については、スラブのたわみ止めと、列柱の緩やかな境界としての役割をもたせた。当該木柱は圧縮力が支配的なため、柱断面同寸のくさびを打ち込み全断面が効く詳細とした。なお、水平方向のずれ止めとして鋼板とD.pinを打ち込んでいる。建築家の、「仕組みが分かるディテールを実現しよう」という言葉に共感し、実現できた詳細である。

（清水靖真／清水構造計画）

断面詳細図　縮尺1：100

2階ルーフテラス。テラスの奥行きは1,600〜2,600mm。

1階ピロティに繋がる住居へのアプローチ。

洋菓子店の開口部は、コンクリートスラブから吊られた鉄骨梁が、さらに木造の鴨居を吊る構成。鉄骨梁により断面性能を確保し隅部柱のなくすことで、内外がシームレスに連続する構えとなっている。

高脚楼

所在地／東京都調布市
主要用途／店舗＋住宅
家族構成／夫婦＋子供1人

設計

メグロ建築研究所　担当／平井充　山口紗由
構造　清水構造計画　担当／清水靖真

施工

匠陽　担当／加藤勝
基礎　平田工事　担当／平田竜也
木工事　近嵐工務店　担当／近嵐義雄
板金　登那木板金　担当／登那木亮一
金属建具　HAMAYA　担当／大塚悠右
木製建具　田中建具　担当／田中重義
外壁　高橋創建　担当／高橋操
防水　ワイテクト　担当/小倉豊
クロス内装　坪坂内装　担当／坪坂正
塗装　雨海塗装店　担当／長沢洋一
設備　紅葉丘工業所　担当／吉岡繁
電気　石垣電設　担当／石垣俊久
金属　ハセケン　担当/長谷川健太
ガス・TES工事　リック　担当／利根川治
外構　良和ブロック　担当／根岸章哲

構造・構法

主体構造・構法　鉄筋コンクリート造
木造在来工法
基礎　べた基礎

規模

階数　地下1階　地上2階
軒高 5,976mm　最高高さ 6,356mm
敷地面積　282.70m^2
建築面積　89.77m^2
（建蔽率31.75％　許容40％）
延床面積　148.51m^2
（容積率 52.53％　許容80％）
地下1階　56.86m^2
地上1階　49.68m^2　2階　47.20m^2

工程

設計期間　2019年12月〜2020年12月
工事期間　2020年12月〜2021年9月

敷地条件

地域地区　第1種低層住居専用地域　景観区域
法第22条区域　宅地造成工事規制
道路幅員　南西4m　　駐車台数　1台

外部仕上げ

屋根／FRP防水　軒裏：カラマツ塗装
外壁／コンクリート打放し　ガルバリウム製サイディング（アイジーサイディング）t=0.35mm
開口部／アルミサッシ（LIXIL サーモスII）
住宅部木製サッシ（ユニウッド）　店舗木製サッシ（制作）
外部土間／コンクリート金ごて仕上げ
ウッドデッキ／イタウバ 無塗装

内部仕上げ

キッチン

床／オーク複層フローリング（IOC）
壁／ PB クロス貼り（東リ）キッチンパネル（アイカ工業）
天井／ PB クロス貼り（東リ）
照明／ LEDダウンライト（パナソニック）　LED間接照明（パナソニック）
厨房機器／
コンベックスオーブン／リンナイ RSR-S15C-ST
ガスコンロ／ハーマン RS31W27U12DGVW
食洗機／三菱電機 EW-45H1SM
換気扇（シェード）／レンジフード（アリアフィーナ）
シンク水栓金物／ GROHE 30 280 00J
家具／制作
シンク／ステンレスセミオーダーカウンター（シゲル工業）

リビング　ダイニング

床／オーク複層フローリング（IOC）
壁・天井／ PB クロス貼り（東リ）
家具／出窓カウンター（タモ集成材 クリア）
TV収納（シナランバーコア 塗装）
照明／ペンダントライト（ヤマギワ）　ブラケットライト（パナソニック）

浴室

ユニットバス ／ TOTO サザナ1216

洗面脱衣室

床／オーク複層フローリング（IOC）
壁・天井／ PB クロス貼り（東リ）
家具／洗面カウンター：天板（タモ集成材 ウレタン塗装　棚（ランバーコア 塗装）　三面鏡（サンワカンパニー）
照明／ LEDダウンライト（パナソニック）
洗面ボウル／サンワカンパニー ランディーノベスカラ
洗面用水栓金物／ TOTO TW21R

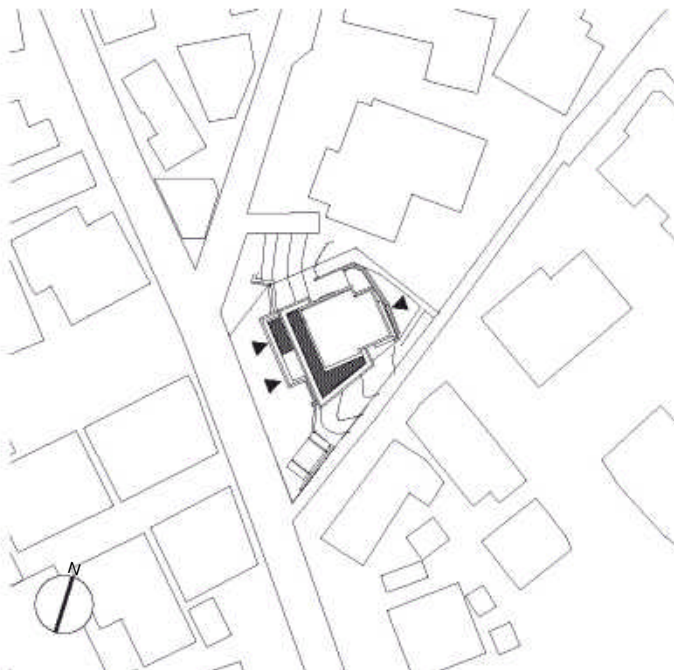
店舗

床／コンクリート モルタル金ごて仕上げ
壁／コンクリート打放し 塗装　モルタル金ごて仕上げ
天井／コンクリート打放し
家具／ベンチ：天板（タモ集成材 ウレタン塗装）
扉・側板（モルタル金ごて仕上げ）　カウンター：天板（タモ集成材 t=30mm ウレタン塗装）　棚・側面（タモ突き板 ウレタン塗装）
側面（タモ羽目板 ウレタン塗装）
照明／ LEDシーリングライト（山田照明）

店舗内観。カフェとしてイートイン可能。

南側全景。周囲の木々に馴染むように柱は木造としている。

LEDペンダント（後藤照明）
厨房
床／コンクリート モルタル金ごて仕上げ 防塵塗装
壁／ PB クロス貼り（東リ） キッチンパネル（アイカ工業）
天井／珪酸カルシウム板 目透し張り
家具／ベンチ：天板（タモ集成材 ウレタン塗装 扉・側板（モルタル金ごて仕上げ） カウンター：天板（タモ集成材 t=30mm ウレタン塗装） 棚・側面（タモ突き板 ウレタン塗装） 側面 （タモ羽目板 ウレタン塗装）
照明／ LEDシーリングライト（山田照明）
玄関 廊下1 階段1
床／レンガ敷き オーク複層フローリング（IOC）
壁／ PB クロス貼り（東リ）
天井／コンクリート打放し PB クロス貼り（東リ）
家具／収納（ラワンランバーコア ウレタン塗装）
照明／ LEDシーリングライト（山田照明） 間接照明（パナソニック）
段板／ゴム集成材 ウレタン塗装
トイレ（地下1階）
床／コンクリート モルタル金ごて仕上げ
壁／ PB クロス貼り（東リ） ボーダータイル貼り（名古屋モザイク）
天井／ PB クロス貼り（東リ）
照明／ LEDダウンライト（パナソニック）
建築金物／ドアノブ（堀商店 PRD） 錠（堀商店 サムターン付表示錠）
便器／ TOTO ピュアレスト
洗面カウンター／タモ集成材 t=30mm ウレタンクリア
洗面ボウル／エッセンス Sオーバル
洗面用水栓金物／カクダイ 702-011
トイレ（1階）
床／オーク複層フローリング（IOC）
壁・天井／ PB クロス貼り（東リ）
照明／ LEDダウンライト（パナソニック）
便器／ TOTO ネオレスト
洗面カウンター／タモ集成材 t=30mm ウレタンクリア
洗面ボウル／サンワカンパニー WA08091
洗面用水栓金物／ SANEI TA01159
寝室1・2
床／オーク複層フローリング（IOC）
壁・天井／ PB クロス貼り（東リ）
照明／ダウンライト（パナソニック） ブラケットライト（パナソニック）
設備システム
空調 冷暖房方式／ルームエアコン
その他／温水式床暖房
換気方式／第3種換気方式
給排水 給水方式／上水道直結
排水方式／公共下水道放流
給湯 給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

配置図 縮尺1：1,500

住居へは地下1階南西側の玄関扉か、地上1階北東側のピロティからアクセスする。

風越の家

Kazakoshi Residence
長野県北佐久郡軽井沢町

加藤匡毅／Puddle
Masaki Kato／Puddle

南側全景。軽井沢の別荘地に建つ設計者の自邸。南東側に大きな開口部を設け、テラスや縁側を介して周辺環境を取り込む。外壁は、レッドシダー羽目板の裏面を仕上げとした。また5種幅違いをランダム張りのうえ、周辺の既存建築に馴染むようスモーキーなグリーンを染色。テラスの奥行きは約3,800mm。

縁側からラウンジを見る。ラウンジ東面のベンチと縁側の床高を揃えることで、窓を開け放つと内外が地続きに繋がる。西側にはロフトを設けて構造としても機能する本棚による間仕切りとした。

ラウンジ南東面の窓は外壁外側に引き出し、内側から隠れるようにサッシを納めることで景観を切り取る。制作のキッチン台の天板には、経年変化と抗菌作用を期待した暑さ1.5mmの銅板を採用し、正面材はレザーにパンチング加工を施し、内部にスピーカーと収納棚を埋め込んだ。

自己と自然の距離

この家の建主でもあり設計者でもある私は、これまで20年以上都市を住まいとしてきた。
ひとりで住まう雑居ビル内の狭小ワンルーム。夫婦で住まうゆとりのワンルーム。家族と仕事仲間で集う職住一体の一戸建て。ライフスタイルの変化に合わせて、半径1km圏内で点々と中古物件をリノベーションする日常があり、それは仕事の延長線上でもあった。このままリノベーションによるヤドカリ的都市生活を続ける選択肢もあったが、家族、仕事仲間と話し合い自然豊かな環境に自宅を建てる機会に巡り合えた。
軽井沢町の中心に位置する計画地は、南面に広がる手つかずの林から吹く風と借景が敷地面積以上の開放感をつくり出していた。当計画地は東西隣地より1.5mほど高い地盤面と同時に、長方形に区画されたがゆえに近隣建物と近い距離を余儀なくされる課題をもつ。自ずと「接道の北」と「借景の南」を結ぶ8間×4間の長方形のプランからスタートすることにした。プランを立ち上げる際には、東西の既存建築から屋根形状と外壁材を導き出し、以前からここに存在していたような、周囲に溶け込む建築としてスギ板張り切妻屋根の外観デザインを採用した。接道面である駐車場を有した北側には、新設の樹木を種類多く植樹し、将来は建築のファサードを覆い尽くすことを期待している。
大黒柱の代わりに本棚を主構造とした天高5.5mのリビングには、外部と内部の際（きわ）に身を委ねる東西南3つの異なる「縁側」的空間を配した。
大きく広がる林に繋がる床としての「南の縁側」。腰掛けにも使えるエントランスから続くベンチとしての「東の縁側」。家の中心的存在のキッチンバックカウンターに埋め込まれたソファとしての「西の縁側」この3つの縁側は自己と自然との距離、自己と他者との距離を感じる大切な居場所になるであろう。　（加藤匡毅）

キッチンからラウンジを見る。東面の縁側下は、一部スピーカーを埋め込んだ収納としている。
直上の白壁はプロジェクタースクリーンの投影面ともなる。最高天井高さは5,270mm。

ロフト。書斎としても使用されており、天窓から取り込んだ光が1階まで落ちる。

洗面所。天井は、トップライトから浴室の天井高さまで繋いだ急傾斜とし、トップライトの光の拡散を狙い金属粉塗装とした。

10
5
10
10

屋根:
ガルバリウム鋼板竪はぜ葺き t=0.35mm
アスファルトルーフィング
シージングボード t=9mm
構造用合板 t=12mm
垂木 45mm×120mm
120mm×120mm
FO遮熱ボード
モコフォーム(A種3) t=230mm

天井:
PB t=9.5mm
寒冷紗パテ処理
特殊塗装(ポーターズペイント)

壁:
PB t=12.5mm
寒冷紗パテ処理
特殊塗装(ポーターズペイント)

ロフト

床:
ラワンフローリング t=9mm
構造用合板 t=24mm

▽FL+2,500

軒天:
ウッドパネル(朝日ウッドテック) t=6mm

木製サッシ:
ヘーベシーベ窓(アイランドプロファイル)

木製サッシ:
FIX窓(アイランドプロファイル)

縁側

ラウンジ

キッチン

2,100

木製サッシ:
キャノピーステイ窓(アイランドプロファイル)

縁側:
EINスーパーウッド(イー・トップ) t=22mm
垂木 120mm×120mm

縁側ベンチ:
EINスーパーウッド(イー・トップ) t=22mm
シナランバー t=24mm

縁側ソファ:
ファブリック
オーク板目突き板

床:
フローリング t=15mm
カンヌグリオイル IOC
針葉樹合板 t=12mm
構造用合板 t=24mm

400

空調吹出し口(オンレイ)

440

▽FL±0

空調吹き出し口(オンレイ)

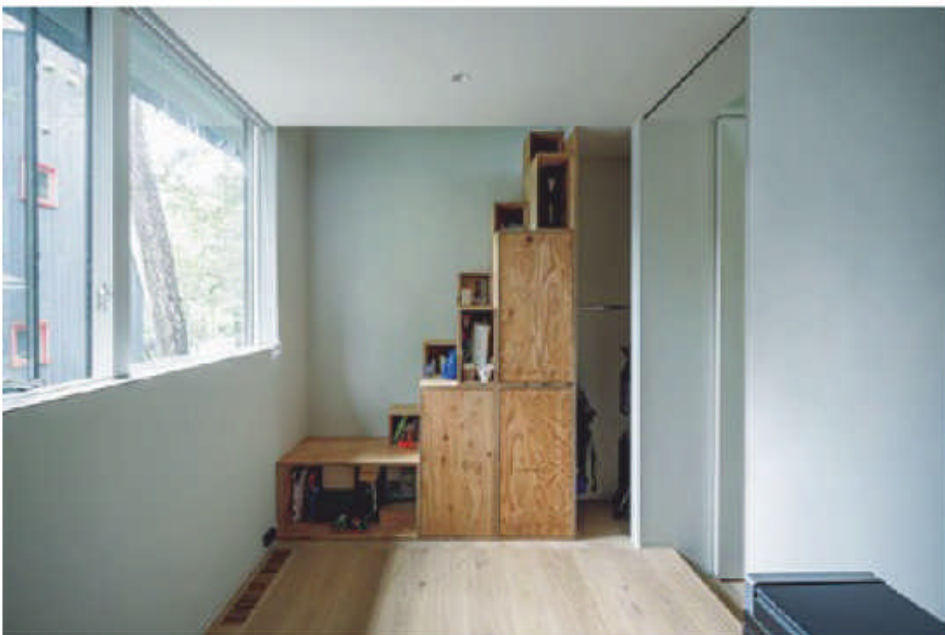
▽GL

断面詳細パース
縮尺1：50

1,820 1,820 1,220 2,420
7,280

北側鳥瞰。*

1階配置平面図　縮尺1：120

キッチン。西面にはソファが備え付けられており、くつろぎの場ともなる。天井高さは2,500mm。

上:主寝室。正面内壁は経年変化を楽しむため銅紛を混ぜた塗料で仕上げた。　下:寝室。正面の収納階段からロフトへ昇降する。

風越の家

所在地／長野県北佐久郡軽井沢町
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦+子供1人

設計

Puddle　担当／加藤匡毅　廣瀬蒼
構造　オーノJAPAN　担当／大野博史　周越
設備　50プランニング　担当／栁澤俊一
照明　ModuleX　担当／服部剛司　瀧川将太
外構・造園　YardWorks　担当／天野慶

施工

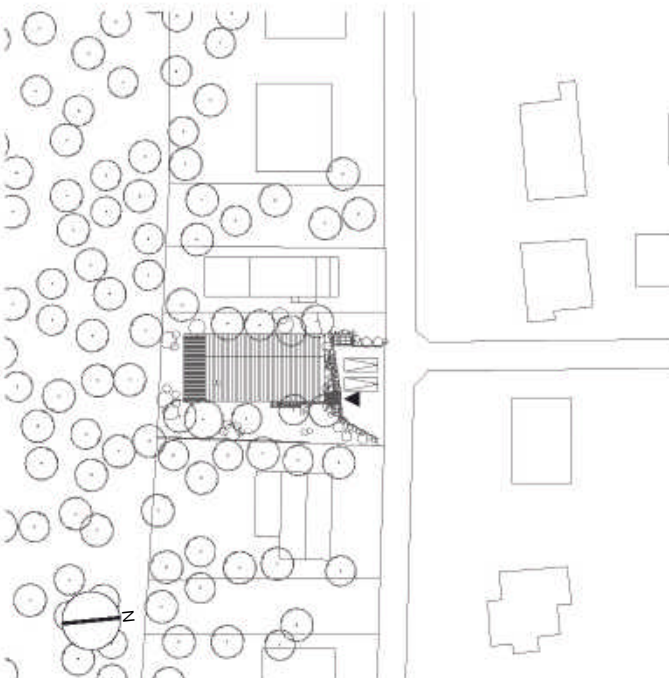
新建築　担当／大井純司　三井勇人
基礎コンクリート　山浦産業　担当／山浦淳一
基礎鉄筋　KOBAKIN鉄筋屋　担当／小林哲彦
基礎型枠　丸山型枠　担当／丸山朝之
石・タイル　ローカルシーン　担当／高見澤一彦
屋根板金　清水板金　担当／清水和彦
大工　土屋建設　担当／土屋興司
家具　スペース・アシスト・ミヤ
　担当／宮坂正彦
暖炉　長野総商　担当／小林憲人
塗装　高田塗装　担当／高田知行
木製建具　井上木工所　担当／井上恭雄
給排水衛生・空調設備　北斗熱学
　担当／工藤北斗
電気設備　千曲電業　担当／竹田清志
キッチン制作　アンドエス　担当／赤井丈浩
　平田大士
外構・造園　GREEN GROUND
　担当／小佐野裕司
外構・造園　市村ガーデン　担当／市村泰得

構造・構法

主体構造・構法　木造
基礎　べた基礎

規模

階数　地上2階
軒高 6,287mm　最高高さ 6,500mm
敷地面積　561.65m²
建築面積　112.62m²
　(建蔽率20.06%　許容30%)
延床面積　124.82m²
　(容積率22.23%　許容50%)
　1階　106.00m²　2階　18.82m²

工程

設計期間　2020年2月〜10月
工事期間　2020年10月〜2021年4月

敷地条件

地域地区　都市計画区域内区域分非設定
　10m以下高度地区　法第22条区域
道路幅員　北4.05m　　駐車台数　3台

外部仕上げ

屋根／ガルバリウム鋼板竪はぜ葺き
外壁／レッドシダー板張り(高広木材)
軒天／ウッドパネル(朝日ウッドテック)
開口部／木製サッシ(アイランドプロファイル)
　LIXIL サーモスII H　トップライト(VELUX)
縁側／EINスーパーウッド(イー・トップ)
外構／メタルフォーム

内部仕上げ

ラウンジ　キッチン

床／フローリング カンヌグリオイル(IOC)
壁・天井／特殊塗装(PORTER'S PAINTS)
家具／ソファ　テーブル(カリモク家具)
照明／ダウンライト　間接照明(ModuleX)
縁側／EINスーパーウッド(イー・トップ)
建具／ウッドシャター(ナニック)
空調機器／オンレイECO床暖
音響／真空管アンプ(Puddle Sound)
その他／薪ストーブ　ヘルゴンアルセ(長野総商)
　調光ロールスクリーン(FUGA)
厨房機器／キッチン制作(アンドエス)
　ガスコンロ／コンロ(NORITZピアットマルチグリル)
　換気扇(シェード)／レンジフード(ARIAFINA
　センターフェデリカ)
その他／ディスポーザー　キッチンカラット
　(ちくま精機)
シンク／フランジ付板金シンク(トヨウラ)
シンク水栓金物／混合水栓(MEISUI)

主寝室

床／フローリング カンヌグリオイル(IOC)
壁／特殊塗装　(PORTER'S PAINTS)
　ウッドパネル(朝日ウッドテック)
天井／AEP
照明／ダウンライト　間接照明(ModuleX)
建具／ウッドシャター(ナニック)

寝室

床／フローリング カンヌグリオイル(IOC)
壁／特殊塗装　(PORTER'S PAINTS)
天井／AEP
照明／ダウンライト(ModuleX)

洗面所　トイレ

床／フローリング カンヌグリオイル(IOC)
壁・天井／特殊塗装　(PORTER'S PAINTS)
照明／ダウンライト　間接照明(ModuleX)
便器／GROHE センシア
洗面カウンター／洗面ボウル(DURAVIT)
洗面用水栓金物／GROHE リネア
その他／タオルウォーマー(ピーエス)

浴室

床／タイル(RIVIERA ストラダーレ)
壁／タイル(LIXIL アコルディ M)
天井／ターペン塗装
建築金物／ドアハンドル(大蔵山スタジオ)
バスタブ／bathtec スタルク
シャワー水栓金物／シャワーシステム(GROHE)

玄関

床／タイル(RIVIERA ストラダーレ)
壁・天井／特殊塗装　(PORTER'S PAINTS)
照明／ダウンライト(ModuleX)

ウォークインクローゼット

床／フローリング カンヌグリオイル(IOC)
壁・天井／AEP
照明／ダウンライト(ModuleX)
その他／除湿乾燥機(ダイキン カライエ)

ロフト

床／ラワンフローリング
壁・天井／特殊塗装　(PORTER'S PAINTS)
照明／ボール電球(ヤザワ)
その他／カーテン(MANAS)

設備システム

空調　冷暖房方式／オンレイECO床暖
　換気方式／第3種換気
給排水　給水方式／上水道直結
　排水方式／浄化槽
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部
*撮影／志摩大輔

配置図　縮尺1:1,500

北側全景。縁側・テラスに連続するアプローチは、土留めを兼ねた型枠鋼板で構成されている。

東側全景。分譲住宅地の一画に建つ。設計者のひとりが建主で、333architectsで運営する併用住宅。建主の住居のリビングや書斎、玄関を個人のためだけでなく、公共的な場所としても使えるように開いている。屋根は周辺との調和を図るため、前面の傾斜路と同等の勾配とした。

IsechoNEST

神奈川県横浜市

宇津木喬行＋高橋良弘／ 333architects
Takayuki Utsugi＋Yoshihiro Takahashi
／ 333architects

シェアリビング。雨戸、木製サッシ、布障子が引き込み戸になっており、隣接する公園に向かって開放できる。雨戸は防火設備にすることで、木製サッシのコストを抑えている。大人数でも利用できるように、北側には10人ほどが座れるソファを設置。窓枠の奥行きは330mmで、座ったりサイドテーブルにもできる。

コーヒースタンド。簡易的なキッチンを使ってコーヒーを淹れたり、バーベキューをしたりできる場所。階段横のベンチや外廊下沿いに回している高さ400mmのベンチなど、人がここで過ごせる居場所をたくさんつくっている。床はRC防水とし、地下室の屋根も兼用する。

住宅の大半をシェア空間に置き換える

建主の住戸と賃貸住宅2戸で構成された併用住宅である。試みたのは「住宅を半分開く」ということである。

計画地は、建売り住宅が密集する住宅地にありながら、複数の公園に面した敷地である。この環境を活かして、隣接する公園に向かって住宅の大半をシェア空間として開き、住戸の一部を時間によって誰もが使える空間とした。リビングをシェアリビングに、玄関をコーヒースタンドに、書斎をシェアオフィスにといった具合に、個人住宅の機能をシェア空間に置き換え、そこに時間によって切り替え可能なセキュリティを施すことで、公園に面した心地のよい場所を開いている。

シェア空間は、賃貸住戸の住人、周辺住民に利用されている（パーティー・撮影スタジオ・カフェなど）。運営は、設計者のひとりである建主を含めた私たち333architectsが行っている。このエコシステムを構築することで、建主は家賃とシェアスペースの収益があることで住宅ローンの負担が抑えられ、住人は豊かな共用部をもち、まちには気軽に立ち寄れる場が生まれるという3方よしを実現している。

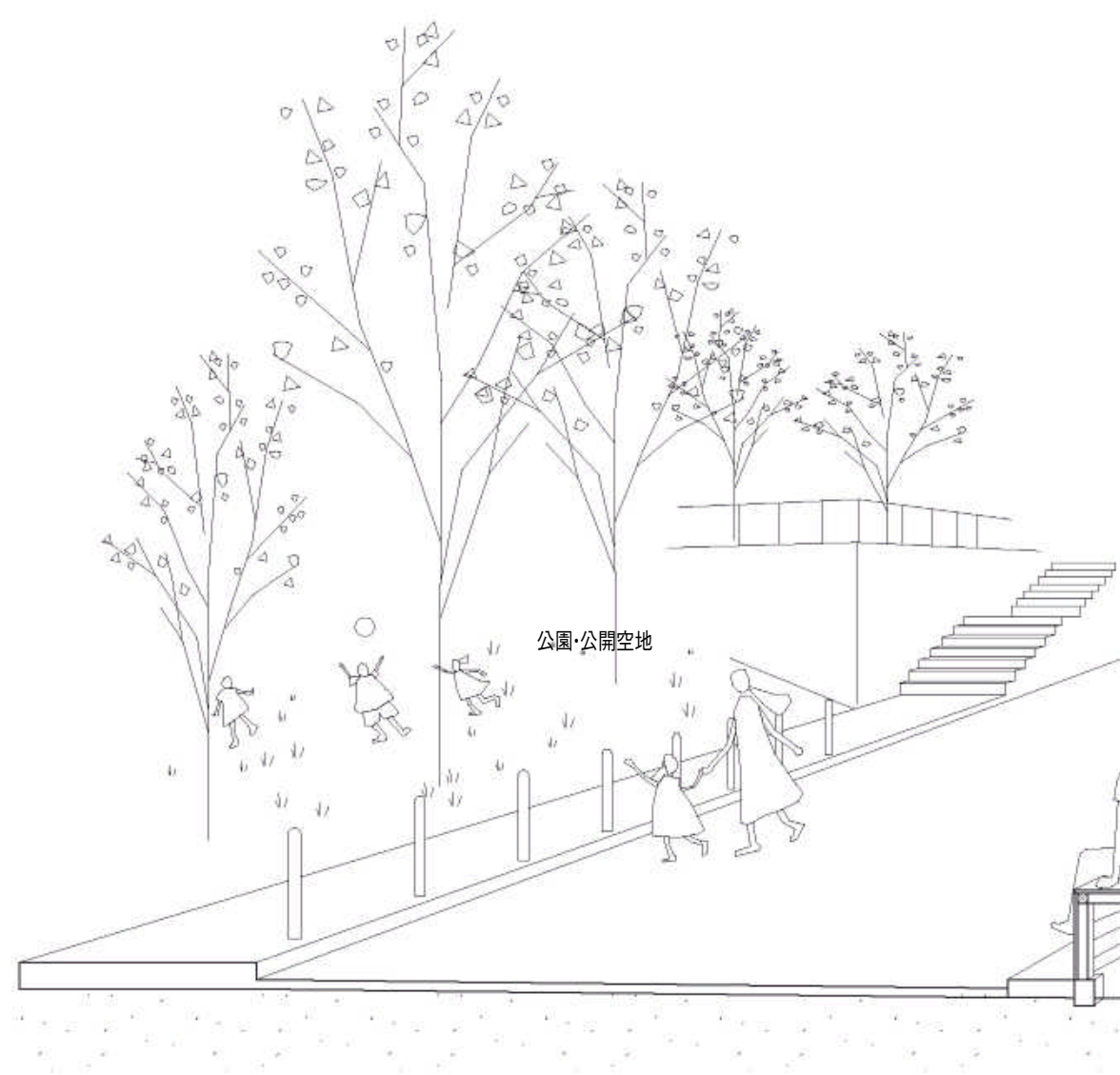
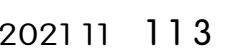
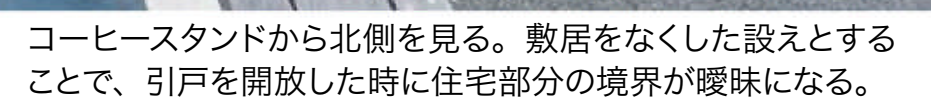
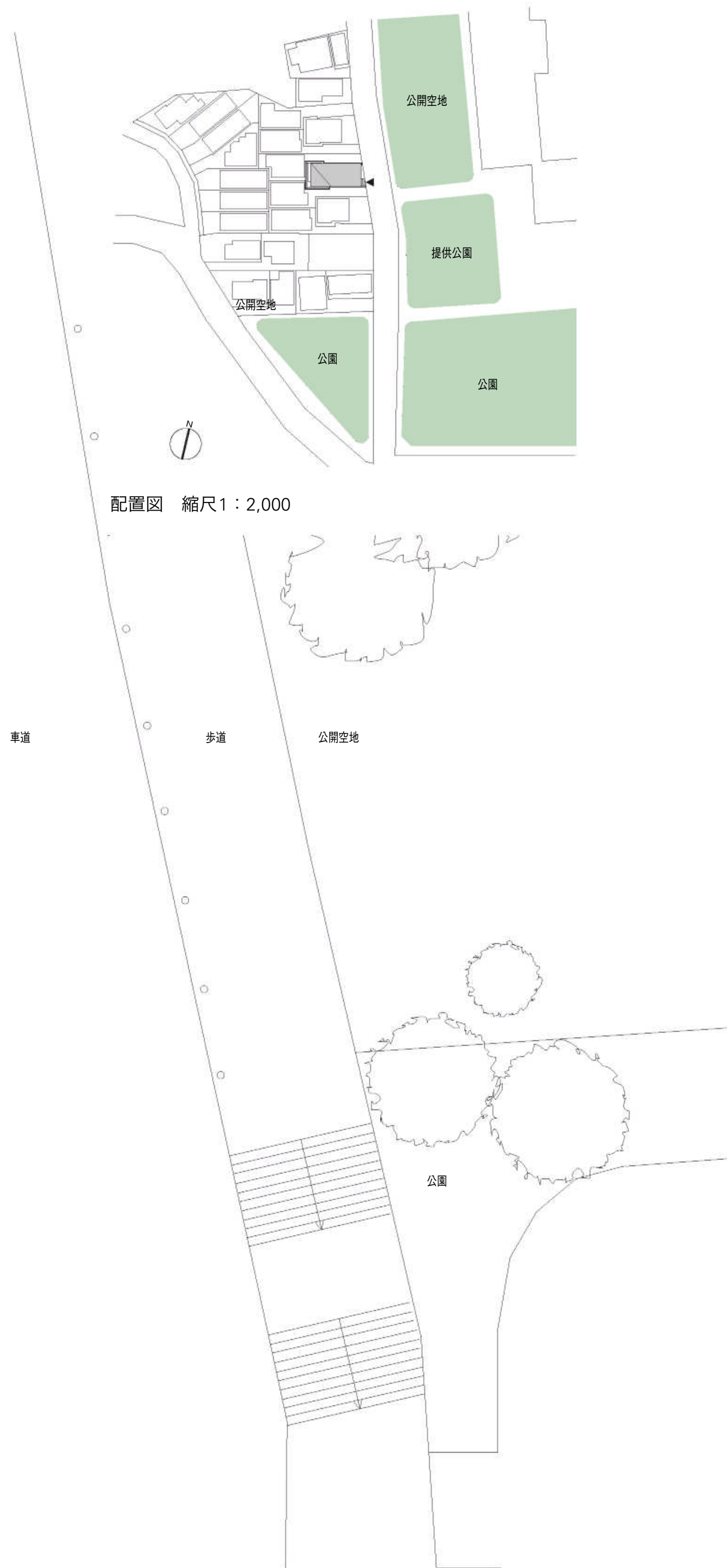
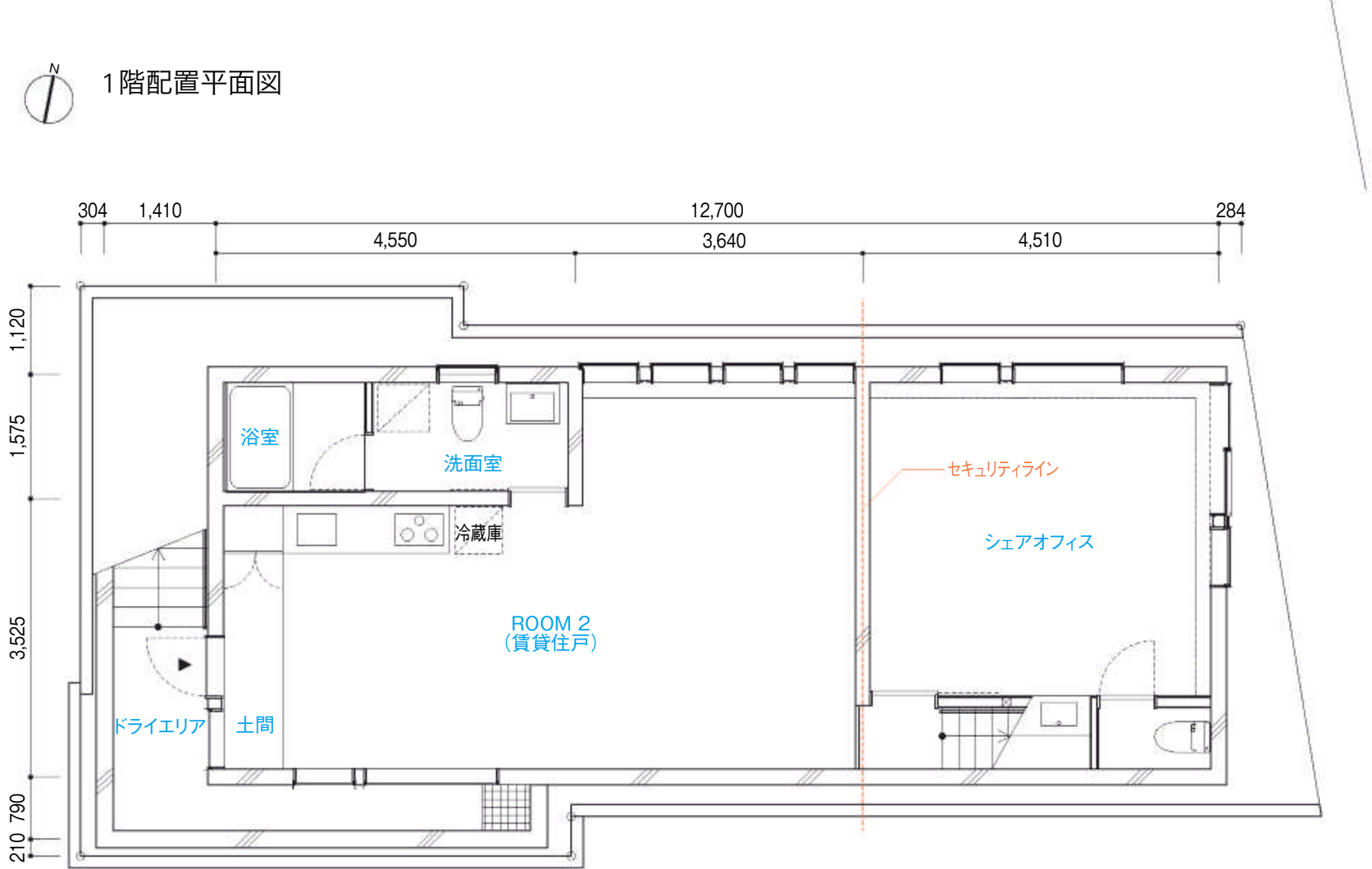
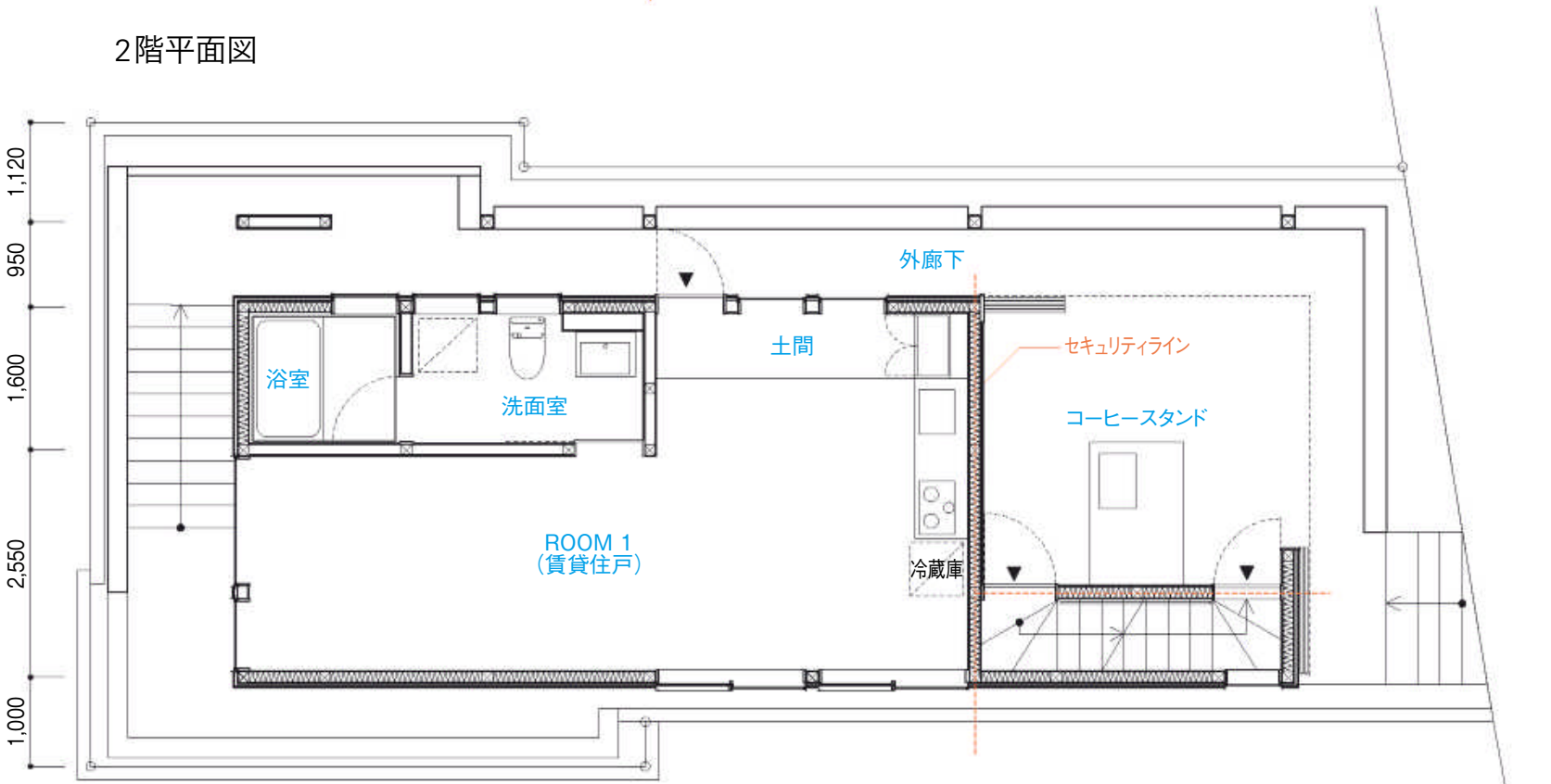
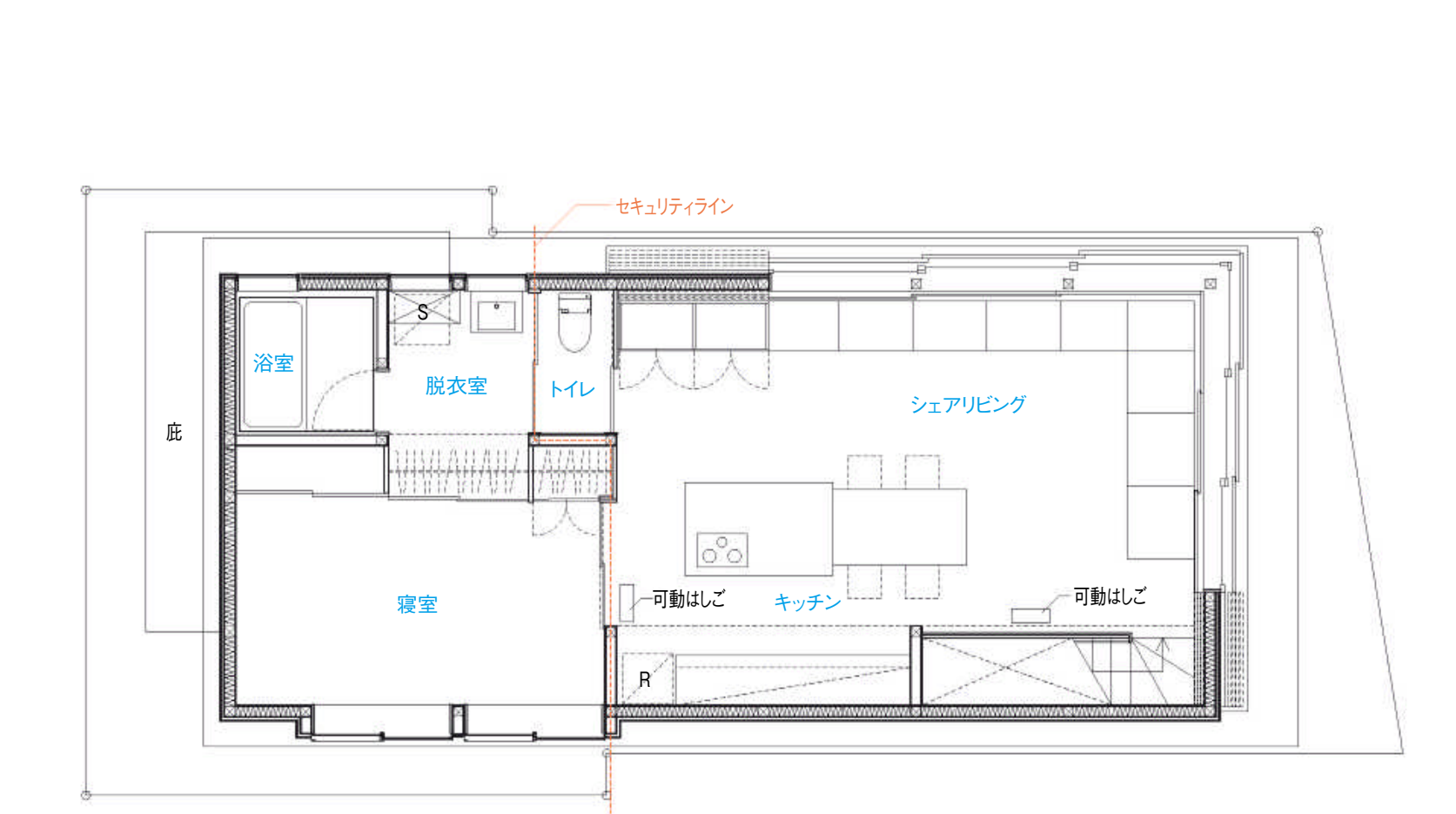
シェア空間は、「集まる、働く、商う」などのアクティビティを受け入れるまちの余白でもある。ここに、内外を繋げる全開放建具や、手摺り代わりの長いベンチなどを配置し、住宅の境界を曖昧にすることで、戸建住宅が立ち並ぶ風景に新しい生活の楽しさを生み出せるのではないかと考えている。　（宇津木喬行＋高橋良弘）

シェアリビングのロフト。普段は子供の工作部屋となっている。

シェアリビング北側からキッチン方向を見る。
南側には空を切り取るハイサイドを設置。

公園・公開空地

断面詳細図　縮尺1：80

コーヒースタンドから北側を見る。敷居をなくした設えとすることで、引戸を開放した時に住宅部分の境界が曖昧になる。

北側外観。階数は3フロア分あるが、半地下とすることで建物高さを抑え、近隣の住宅と馴染ませている。

IsechoNEST
所在地／神奈川県横浜市
主要用途／賃貸併用住宅（共同住宅）
家族構成／夫婦＋子供2人

設計
333architects　担当／宇津木喬行　高橋良弘
構造　田中哲也建築構造計画　担当／田中哲也　橋本琢人
照明　サワダライティングデザイン&アナリシス　担当／澤田 隆一

施工
昭和未来　担当／平石文雄　濵田翼
コンストラクションマネジメント　高橋良二
設備　漸進　担当／石井貞嘉
電気　上野電設　担当／上野文彦
大工　山本秀史
鉄筋コンクリート躯体　オプスフェクス　担当／井上健

構造・構法
主体構造・構法　地下：鉄筋コンクリート造　地上：木造

規模
階数　地下1階　地上2階
軒高 7,390mm　最高高さ 7,654mm
敷地面積　100.11m²
建築面積　59.93m²
（建蔽率59.86％　許容60％）
延床面積　183.84m²
（容積率115.14％　許容150％）
地階　64.77m²　1階　48.56m²
2階　59.67m²

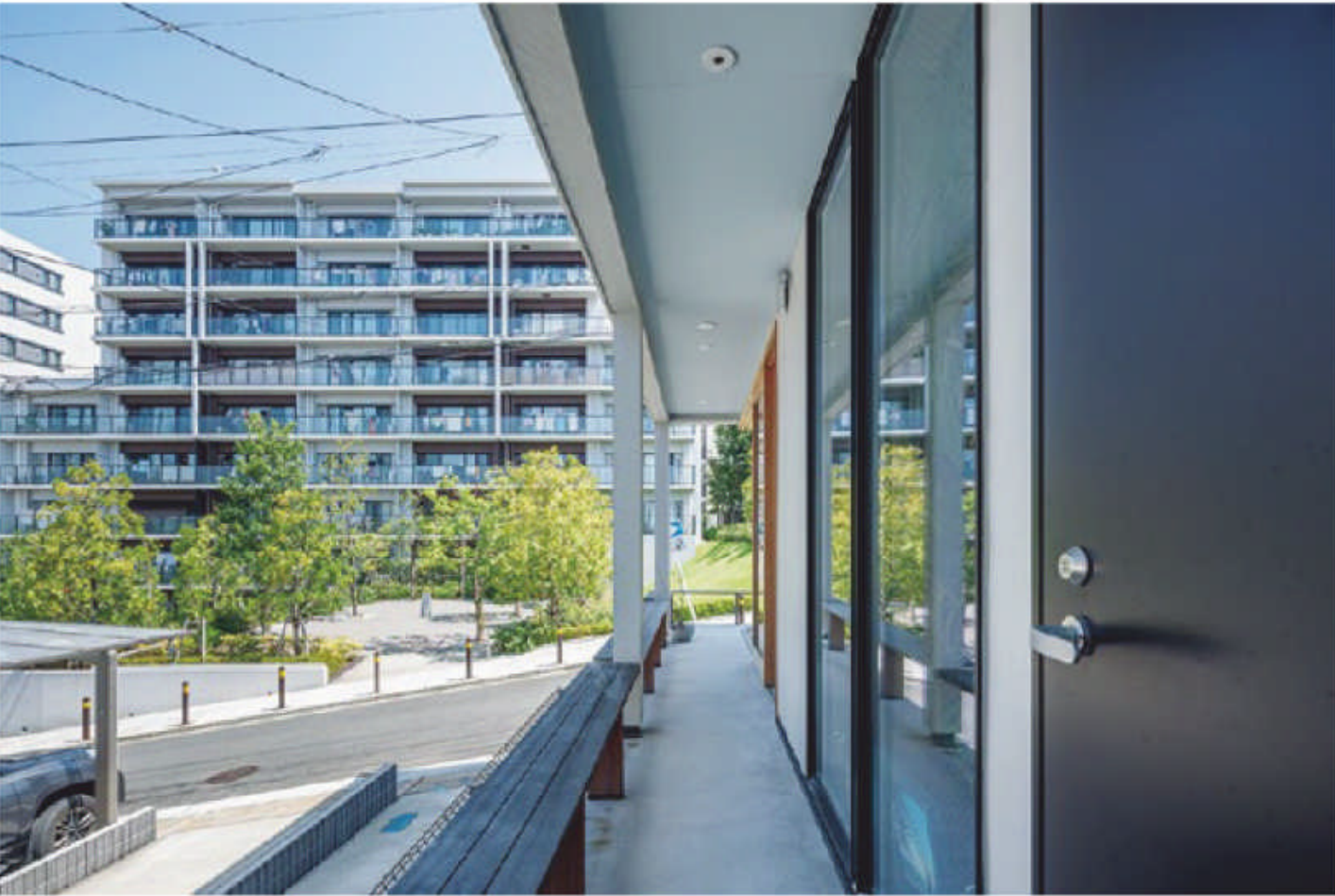
工程
設計期間　2018年12月〜2019年5月
工事期間　2019年5月〜11月

敷地条件
地域地区　第2種中高層住居専用地域　準防火地域　第3種高度地区
道路幅員　東6.5m

外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板（JFE鋼板）　アスファルトルーフィング
外壁／通気ラス ラスモル（富士川建材工業）
開口部／木製引戸　防火雨戸　防火窓（LIXIL FG-H）
外構／コンクリート 防塵塗装

内部仕上げ
キッチン
床／オーク無垢フローリング オスモ（一條ランバー）
壁／強化PB t=15mm AEP　60×240mm角タイル（ダイナワン シジンユウリン）
天井／ PB t=12.5mm AEP
厨房機器／シナ共芯合板　SUS制作
食洗器／スライドオープン（リンナイ）
ガスコンロ／ IHヒーター（パナソニック Aシリーズ）
換気扇（シェード）／パナソニック FY-75DWD4
家具／シナ共芯合板　SUS制作
照明／ライティングレール（大光電機）
シンク水栓金物／ TOTO
浴室
ユニットバス／ TOTO ハーフバス08
壁・天井／ FRP防水 AEP
照明／ダウンライト（大光電機）
シャワー水栓金物／ Tform
トイレ　洗面所
床／コルクフローリング（東亜コルク COE-L5）
壁／強化PB t=15mm AEP　**75×300mm角**タイル（ダイナワン コッテージホワイト）
天井／ PB t=12.5mm AEP
家具・洗面カウンター／シナ共芯合板　人工大理石
照明／ダウンライト（大光電機）
便器・洗面用水栓金物／ LIXIL
リビング　ダイニング　寝室
床／オーク無垢フローリング オスモ（一條ランバー）
壁／強化PB t=15mm AEP
天井／ PB t=12.5mm AEP
家具／シナ共芯合板
照明／ライティングレール（大光電機）
サッシ／リビング・ダイニング：ベイマツ 複層ガラス　寝室：LIXIL
防火雨戸／リビング・ダイニング：ガルバリウム鋼板　PB t=12.5mm

設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
　換気方式／第3種換気
給排水　給水方式／水道直結直圧方式
　排水方式／下水道直結方式
給湯　給湯方式／ガス給湯方式

撮影／新建築社写真部

外廊下から東側を見る。

SUGAR CUBE

東京都調布市

保坂猛／保坂猛建築都市設計事務所
TAKESHI HOSAKA

玄関から土間越しにお母さんの部屋を見通す。玄関扉をガラスの引き戸とし、外の風景を取り込みつつも床レベルに差をつけて外との距離を調整する。

西側外観。母と子世帯が同居するための建て替え計画。変形敷地に対し、建物を北側の前面道路に寄せ正体させることで、3面に三角形の庭をつくり出す。玄関側は駐車スペース。

リビングからスキップして連なるフロアを見渡す。プランは約6m角の平面を4分割した田の字プランを基調としており、中央に105mm角の角材5本を十字状に組合わせた柱を配置。四方から集まってくる主梁と建具用長押梁を十字形柱が受け止める合理的架構とした。

3つのレベルから成る屋上。左からビールデッキ、人工芝ひろば、人工芝キャンプ。読書をしたり、
夏にはビニルプールを設置するなど、居室の延長であり庭であり、離れのように利用される。

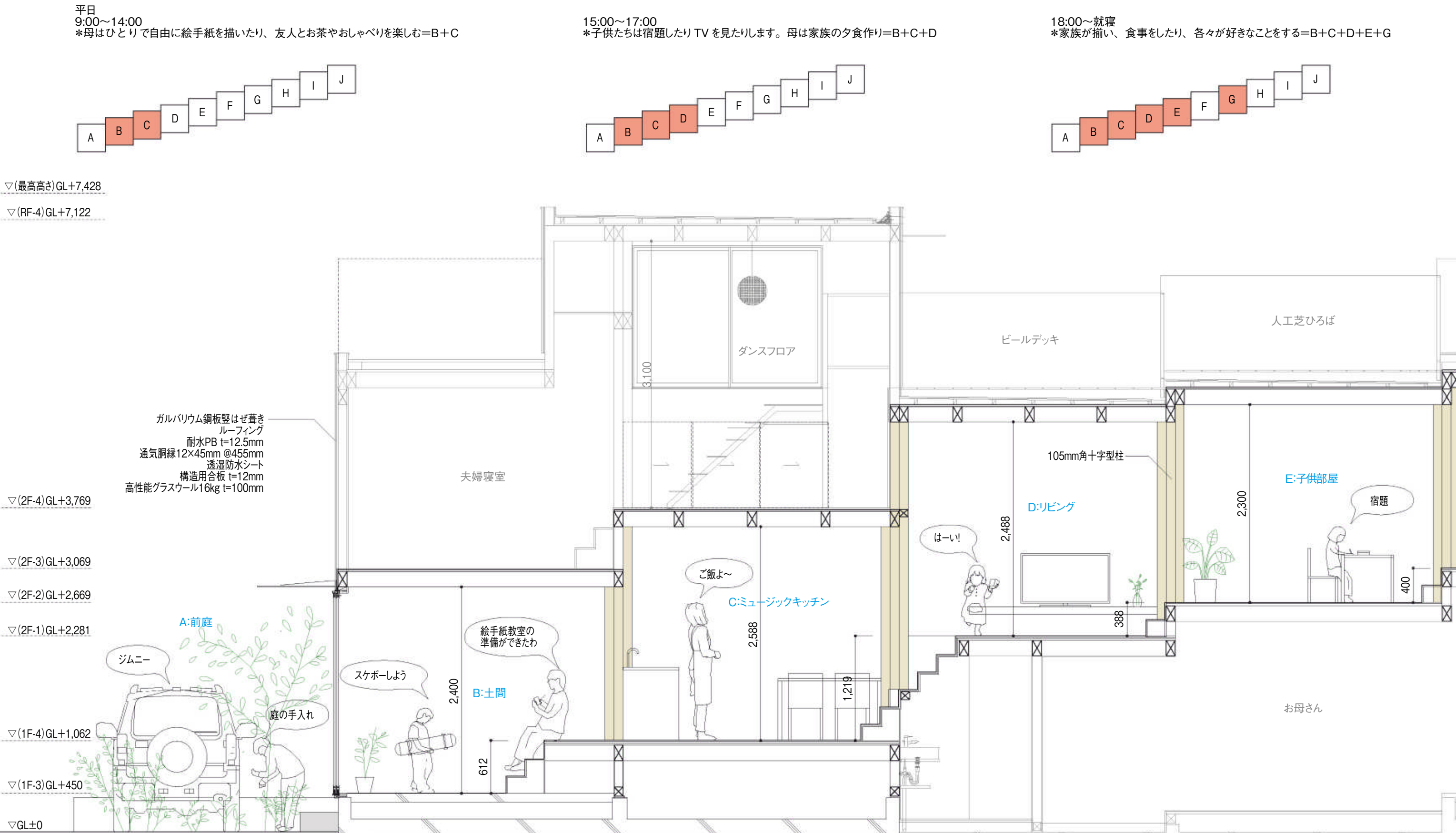
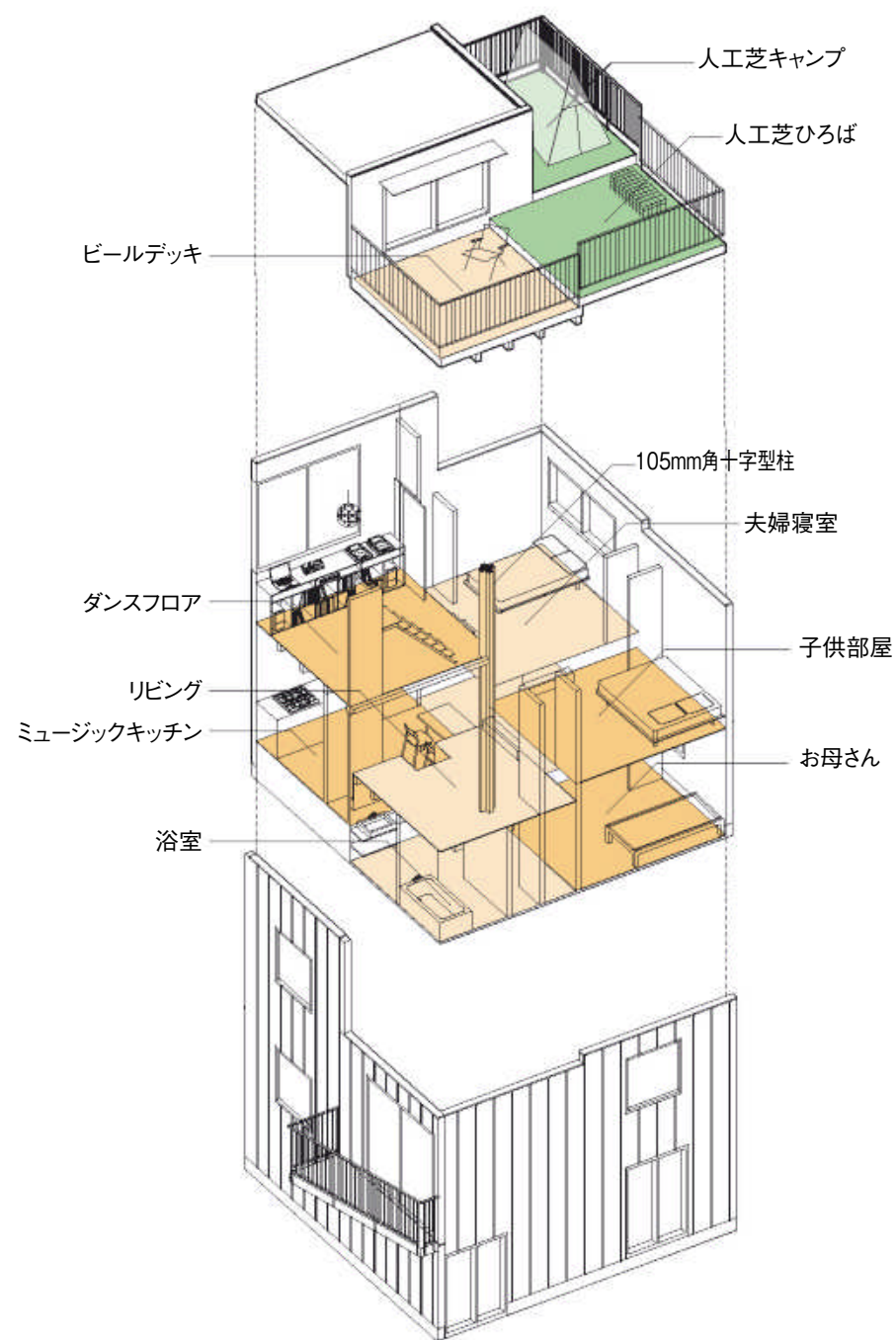
平日
9:00〜14:00
*母はひとりで自由に絵手紙を描いたり、友人とお茶やおしゃべりを楽しむ=B+C

15:00〜17:00
*子供たちは宿題したりTVを見たりします。母は家族の夕食作り=B+C+D

18:00〜就寝
*家族が揃い、食事をしたり、各々が好きなことをする=B+C+D+E+G

断面展開図　縮尺1：80

アクソノメトリック

提供：保坂猛建築都市設計事務所

角砂糖でつくったコンセプトモデル。

メインとサブが入れ替わり連なる田の字プラン

調布飛行場からもほど近い長閑な場所にある奥さんの実家を建て替え、3世代5人が住む2世帯住宅の計画である。

もともと母親が住んでいた場所に2世帯が住むということは、両世帯にとって各世帯の活動が現状の1/2程度の面積になる。この事実を告げてもさほど驚くふうでもなく、小さな敷地に到底収まりそうもない荷物と多趣味な活動はさらに増し、新居での夢を膨らませて計画はスタートした。このプロジェクトは、小ささの中に無限の広がりをみる計画である。

さまざまな設計条件に細かく答えるような計画ではなく、明快な形式として田の字型の正方形平面がスパイラルに連続する構成とした。玄関前庭から始まり、中央の十字柱を軸としてスパイラル状に床をステップアップし屋上テラス（屋外）へと連ねる。

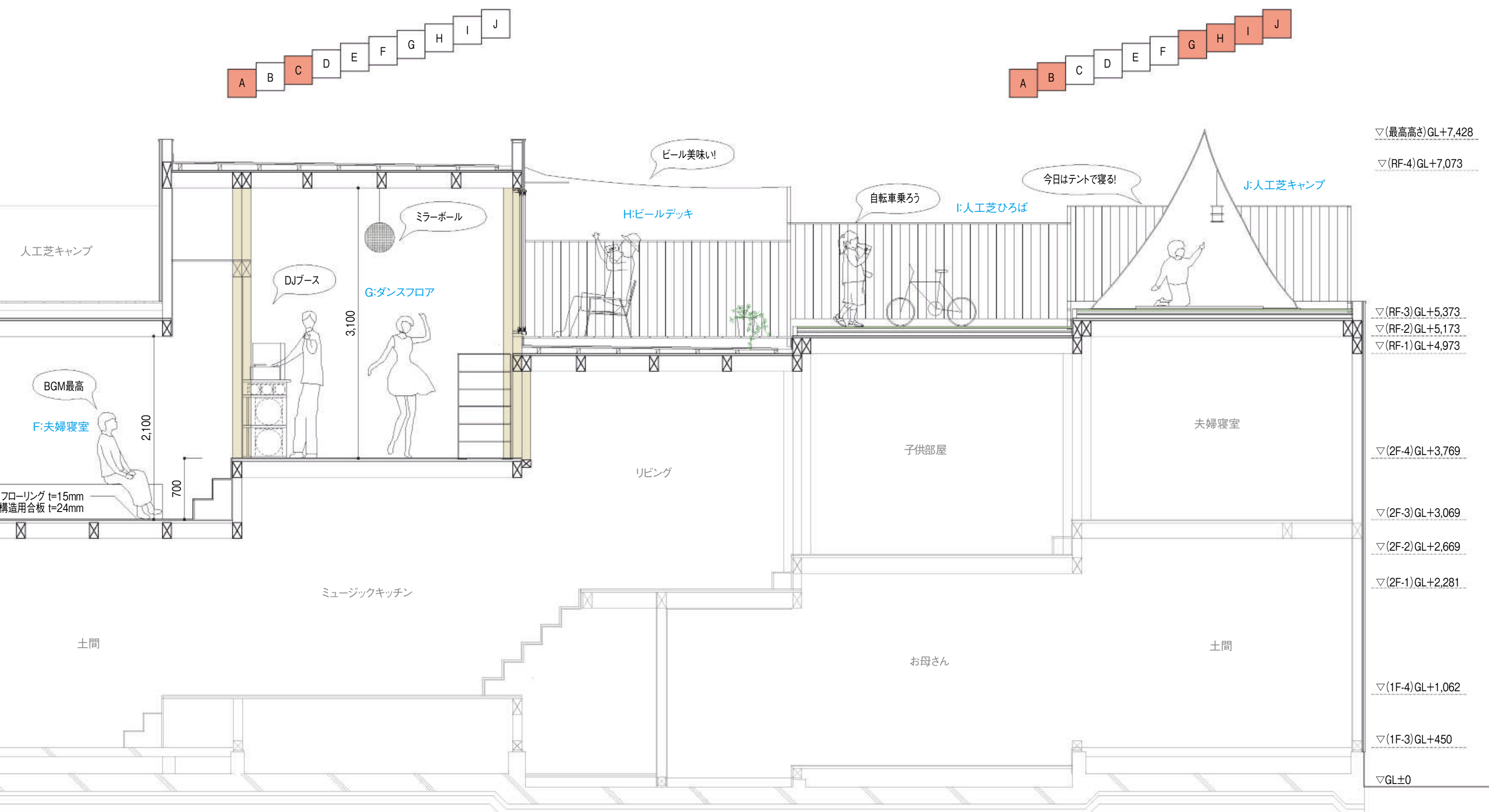
基本はどのスペースも正方形の1/4の大きさであり、広さや位置付けに優劣のない形式である。リビングが主で個室は従といった主従関係ではなく、どのスペースもそこにいくとメインとなるような場所の連なりとなっている。子供も含めた各人は、自分がいる場所が「その時」の主空間と感じられるので、3世代5人はそれぞれあちらこちらで自分のいる場所を最大限楽しみ、楽しんでいる場所の連なりや分布が生活様式や生活時間、曜日や天気といった要因と共に変化していく。各スペースは引き戸で仕切ることができるので、スペースの連なりのグルーピングもあたかもDJが音楽を切り貼りするかのように自在に編集可能である。

時間、曜日、天気、活動などによって、その時どきを見極め合いながら世代の違う家族が集まったり、見守ったり、干渉しあったり、静かに過ごすということを、流動空間の中でその時どきに家族が見つけ出し、仕分けしたり、独占したりしながら過ごす。新しい共に住むあり方としての2世帯住宅を提案したいと考えた。

でき上がった建物自体はシンプルだが、その中の生活は想像以上にたくましく無限の楽しみを含んだものになった。（保坂猛）

ミュージックキッチンから土間を見る。食事の際には土間のテレビをつけることもある。

日曜日の家族
7:30～11:00
＊家族で朝食を食べ、庭でバイクの手入れやおやつづくりを楽しむ＝A＋C

12:00～20:00 夫婦の友人夫妻来訪
＊屋上でビールとソーセージを食べながら DJ & ダンスホームパティー＝G+H+I+J
＊お母さんは、静かにお茶を飲みながら庭いじりやゆっくりと絵を描く＝A+B

SUGAR CUBE

所在地／東京都調布市
主要用途／専用住宅
家族構成／母＋夫婦＋子供2人

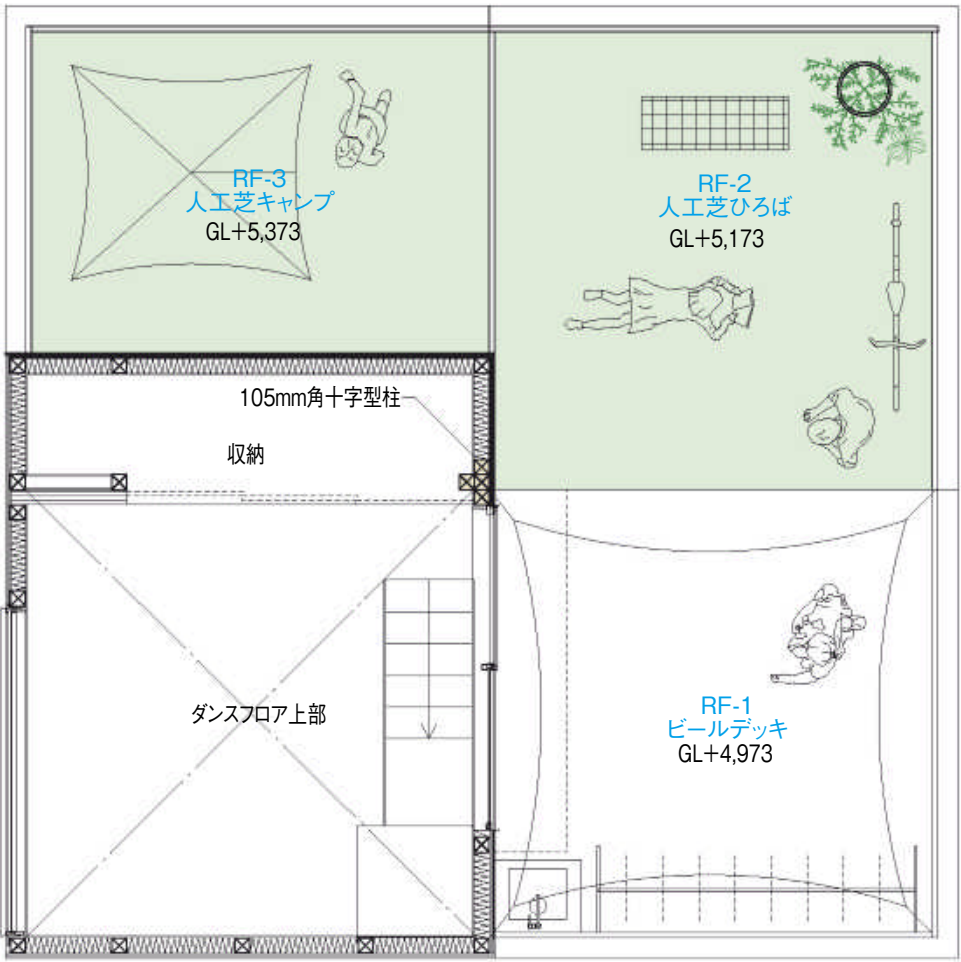
設計
保坂猛建築都市設計事務所　担当／保坂猛
　保坂恵　江上史恭（元所員）
構造　なわけんジム　担当／名和研二
プロデュース　ザ・ハウス　担当／矢野暁

施工
内田産業　担当／相川豪臣
大工　家高工務店　担当／家高健
設備　二宮工業所　担当／二宮直樹
電気　山田電機　担当／山田猛
基礎　SKCプランニング　担当／金谷祐介
タイル　山平タイル　担当／山中平治
木製建具　佐藤建具店　担当／佐藤茂
板金　粕谷板金　担当／粕谷伸一
キッチンステンレス家具　センティード
　担当／笠原和樹
オリジナル家具　イデアウッドクラフト
　担当／樽川満

構造・構法
主体構造・構法　木造
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 6,649mm　最高高さ 7,169mm
敷地面積　83.69m²
建築面積　41.22m²
　（建蔽率49.26%　許容50%角地緩和あり）
延床面積　82.44m²
　（容積率79.29%　許容80%）
　1階　41.22m²　2階　41.22m²

工程
設計期間　2019年10月～2020年3月
工事期間　2020年5月～2021年1月

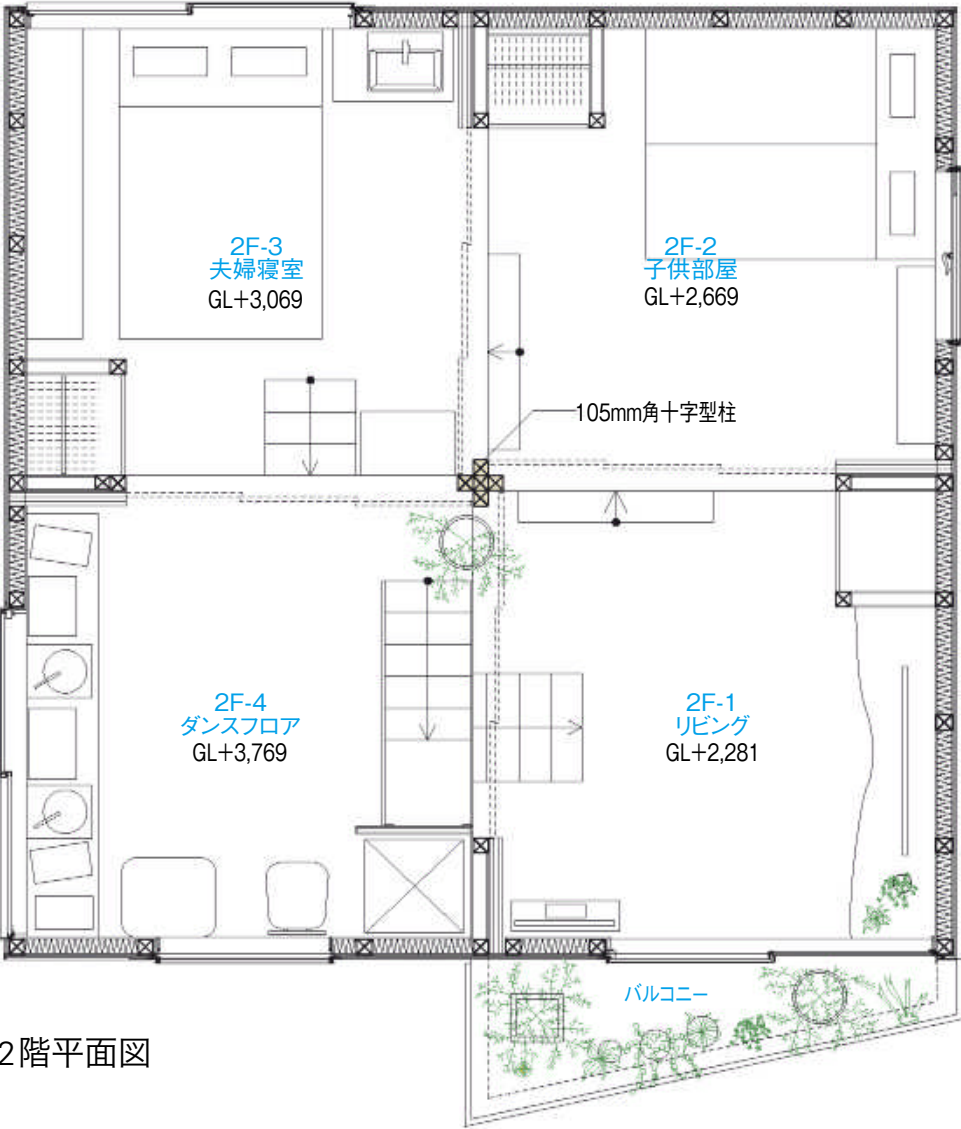
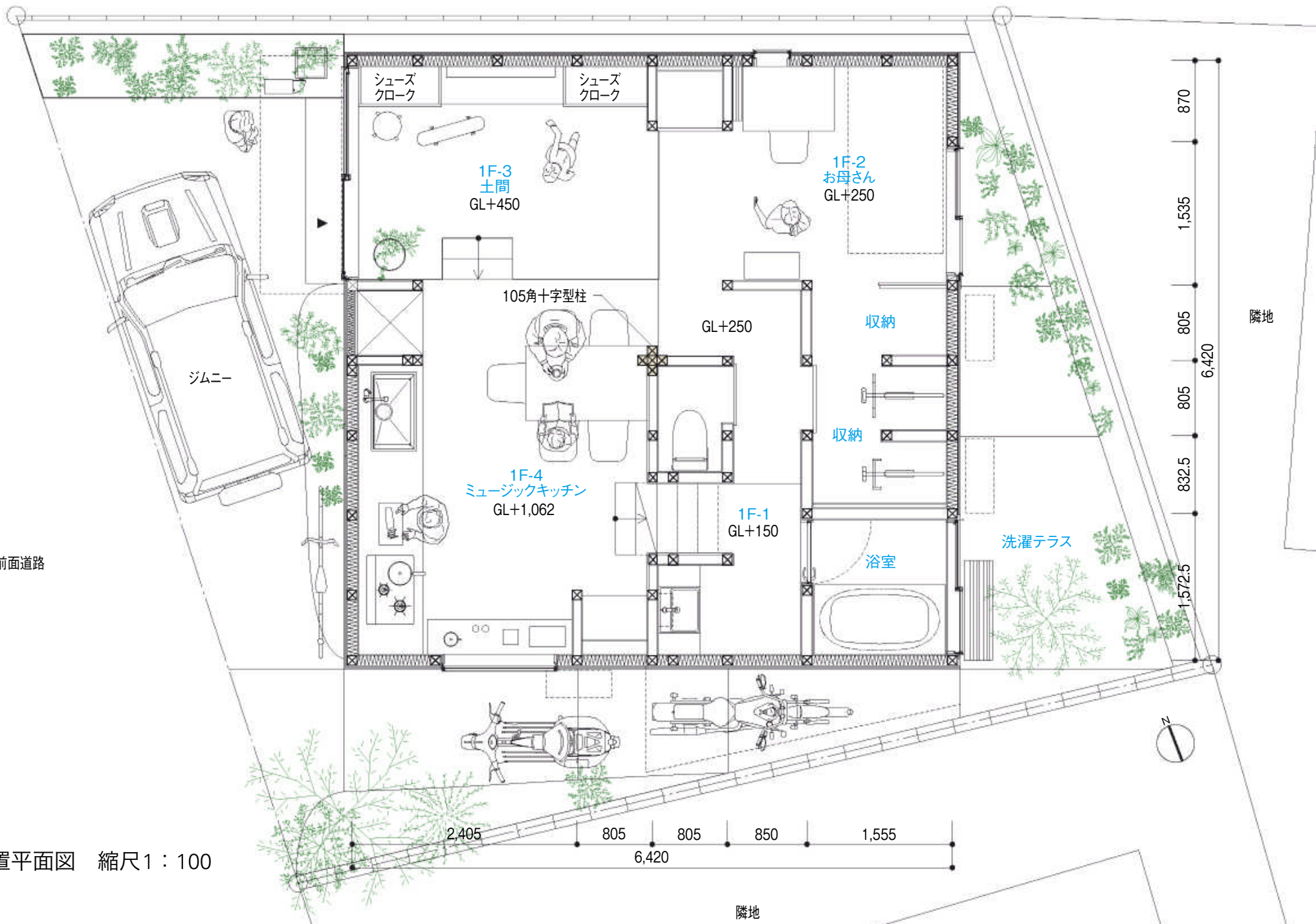
敷地条件
地域地区　市街化区域　第1種低層住居専用

上：ダンスフロア。南西角の最上部に位置し、昼間は西側に学校の緑を望む。左手の階段を上ると屋上階。
下：ビールデッキから南庭を見下ろす。三角に張り出すのはリビングに取り付くバルコニー。植木鉢の緑が庭の緑と連続する。

RF-3 人工芝キャンプ GL+5,373
RF-2 人工芝ひろば GL+5,173
105mm角十字型柱
収納
ダンスフロア上部
RF-1 ビールデッキ GL+4,973

屋上階平面図

2F-3 夫婦寝室 GL+3,069
2F-2 子供部屋 GL+2,669
105mm角十字型柱
2F-4 ダンスフロア GL+3,769
2F-1 リビング GL+2,281
バルコニー

2階平面図

前面道路
シューズクローク
シューズクローク
1F-3 土間 GL+450
1F-2 お母さん GL+250
105角十字型柱
GL+250
収納
ジムニー
収納
1F-4 ミュージックキッチン GL+1,062
1F-1 GL+150
浴室
洗濯テラス
前面道路
隣地
870
1,535
805
805
832.5
1,572.5
6,420
2,405
805
805
850
1,555
6,420
隣地

1階配置平面図　縮尺1：100

右奥から時計回りに、ダンスフロア、夫婦寝室、子供部屋、リビング。どの方向にも目線が抜けるよう開口が設置されている。それぞれの居室間は引き戸で仕切れる。

地域　第1種高度地区　日陰規制3h-2h>10m
農の景観形成推進地区（但建築面積による）
道路斜線制限1：1.25
道路幅員　西８m（道路位置指定済み）
駐車台数　車1台　バイク2台

外部仕上げ

屋根／FRP防水仕上げ　一部デッキ材（エコMウッド）　一部人工芝（アドバン）
外壁／ガルバリウム剛板（月星商事）
開口部／アルミサッシ（LIXIL）
外構／土間コンクリート仕上げ

内部仕上げ

ミュージックキッチン

床／クリ無垢フローリング t=15mm
壁／ラーチ合板 t=12mm 浸透系オイル 白
キッチン：100mm角タイル（LIXIL）
天井／構造用合板　t=24mm 浸透系オイル クリア
厨房機器／制作
食洗器／GAGGENAU
ガスコンロ／リンナイ
換気扇（シェード）／アリアフィーナ
家具／イデアウッドクラフト製 SUGAR SPECIAL
照明／遠藤照明
シンク水栓金物／GROHE

浴室

床／300mm角LIXIL サーモタイル
壁／FRP防水トップコート白
天井／珪酸カルシウム板 t=12mm 浴室用防カビ塗装
バスタブ／LIXIL グラスティ N

土間

床／土間コンクリート
壁／ラーチ合板　t=12mm 浸透系オイル 白
天井／構造用合板　t=24mm 浸透系オイル クリア
家具／制作
鋼製建具／LIXIL

お母さん　リビング　子供部屋　夫婦寝室　ダンスフロア

床／クリ無垢フローリング　t=15mm
壁／ラーチ合板　t=12mm 浸透系オイル 白
天井／構造用合板 t=24mm 浸透系オイル クリア
家具／DJ用TOMO SPECIAL（制作）
照明・ミラーボール／建主支給

設備システム

空調　冷暖房方式／ヒートポンプ式エアコン
換気方式／第三種換気方式
その他／床暖房　ガス温水式床暖房
給排水　給水方式／公共上水道直結
排水方式／公共下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／中山保寛

小学校

配置図　縮尺1：1,000

土間から前面道路を見る。左手のミュージックキッチンとのレベル差は612mm。

四畳半キューブの家

4 and a Half Tatami Cubic House
大阪府

濱田猛／ HAMADA DESIGN
Takeshi Hamada ／ HAMADA DESIGN

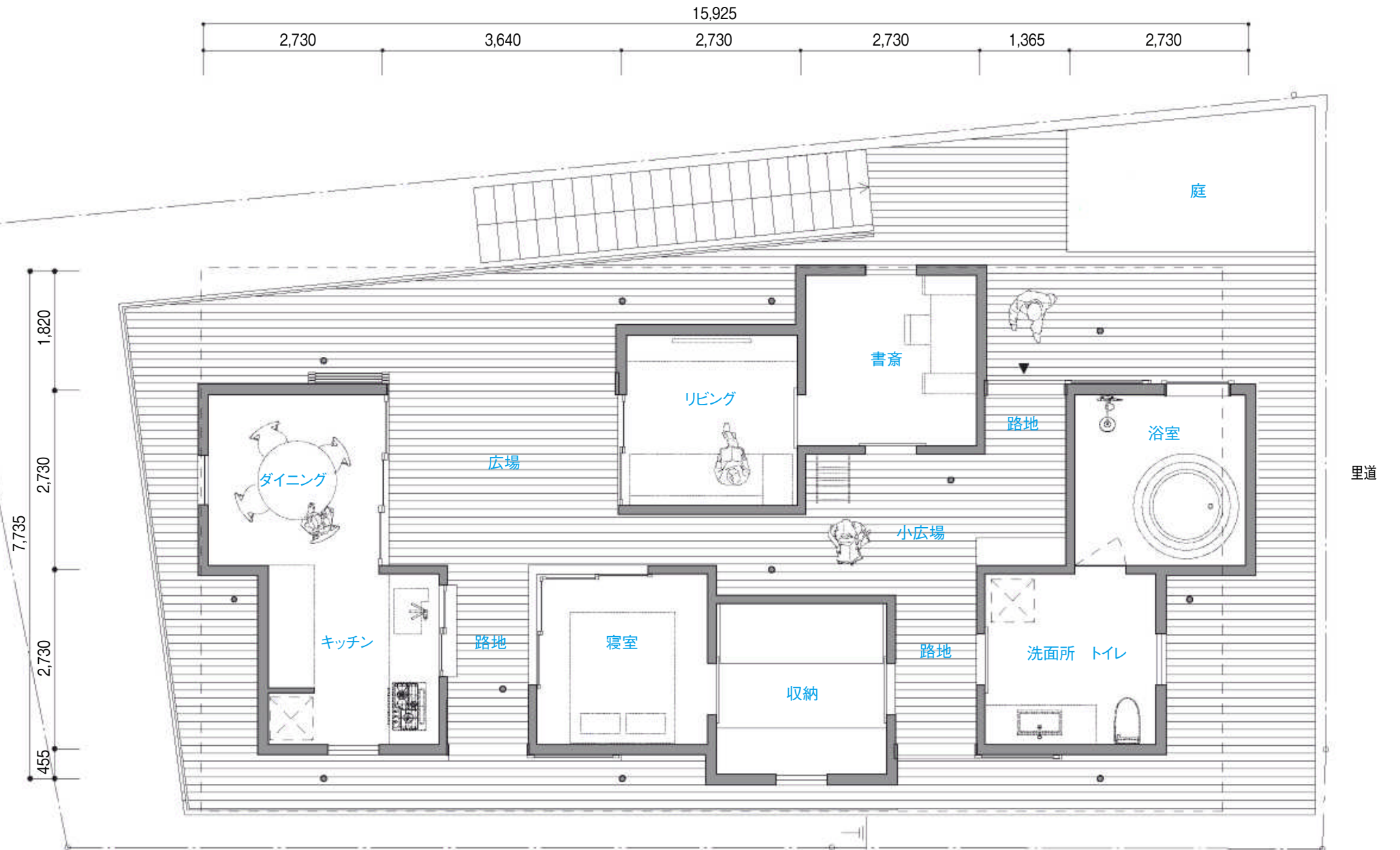
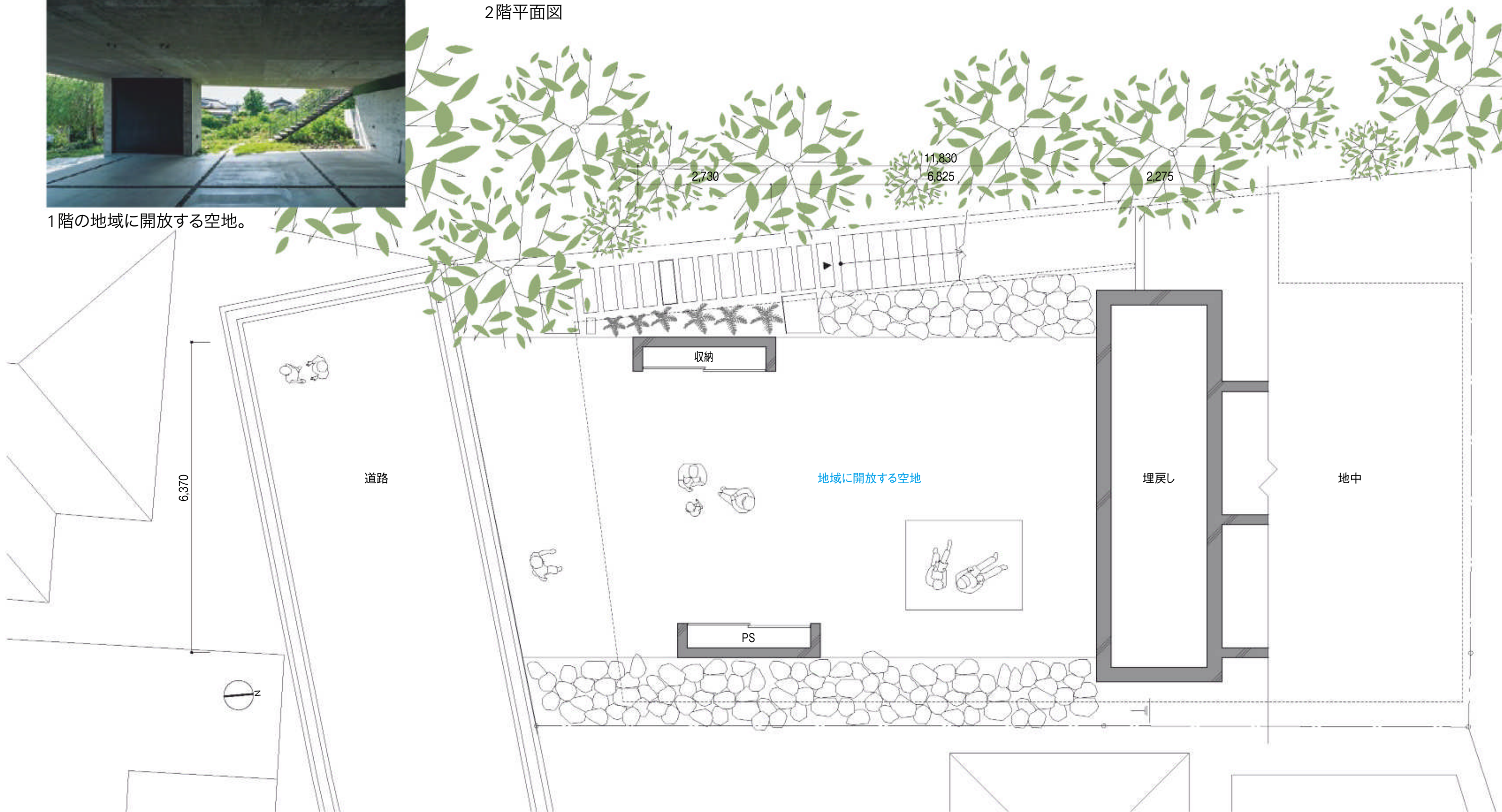
西側夕景。設計者の自邸。道路の行き止まりにある変形敷地で、敷地内に3mの段差がある。
1階は地域の子供たちが遊べるように開放し、2階は各室を四畳半に統一した居住空間。

2階屋外の広場から室内を見る。南北方向に水勾配を取った屋根は
ϕ=89.1mmの鉄骨柱で支え、天井から軒裏までラワンベニヤで仕上げた。

寝室の上から南西側を見る。各室の上部は収納スペースとしている。

ダイニングから広場越しにリビングを見る。四畳半のダイニングやリビングは、こぢんまりとしたスケール感でありながら広場に面しているため開放的でもある。各室の外側の壁の仕上げはジョリパットルナアエス。

2階北側の路地から浴室と小広場を見る。

1階の地域に開放する空地。

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

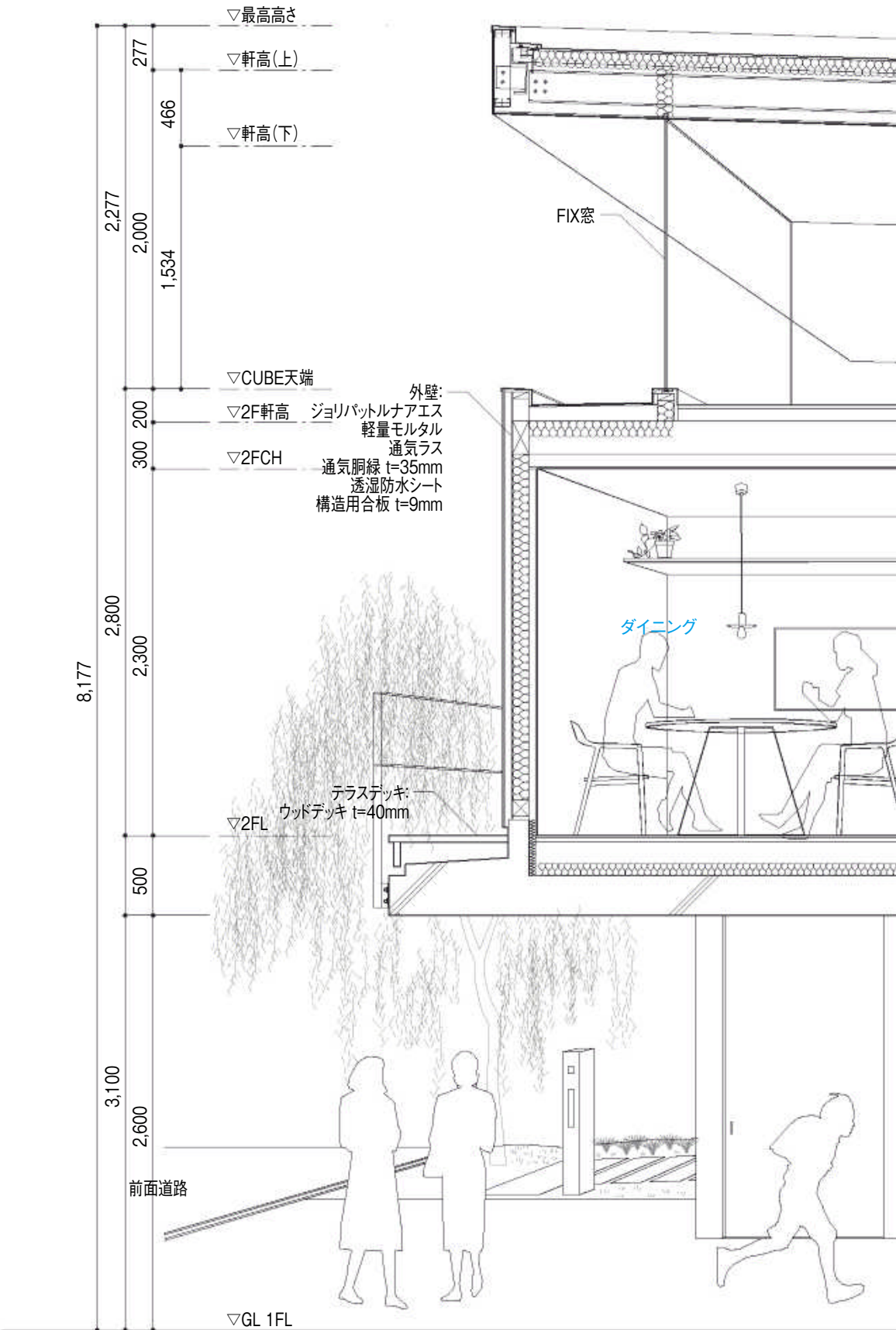
街の風景を内包する浮き屋根

住宅街の中で、内部に大きな段差があるこの敷地は実に20年間も売れ残っていた。現地調査の際、この空地で近所の子供たちが楽しそうに遊んでいたのがとても印象的だった。まずは人工地盤をつくって段差解消を図り、人工地盤上部に住まいを計画し、下部は近所の子供たちの空地として地域に提供することとした。人工地盤上部には用途を小分けした8つのキューブを配置して、そこから浮いた状態で大屋根を架けた。キューブをニコイチにして少しずらしながら配置することで隙間が生まれる。大きな隙間が広場、細長い隙間は路地のような様相となった。この広場と路地は、外部のテラスと建具を通じて繋がり、これを開放すると「屋根のある外部（内部テラス）」となる。広場を挟んでリビングとダイニングが向き合い、路地を通じて多方面へと繋がっていく。内外のテラスとキューブが混じり合うことで小さな街のような風景となった。

ところで、この家では諸室をすべて四畳半に統一している。前述のキューブはすべて四畳半キューブで、あえて用途による面積的ヒエラルキーをなくし「配置」と「開口」いうパラメーターだけで部屋の個性を変化させている。四畳半という面積は、一般的な住宅に比べてリビングは狭く浴室は広い。しばらく住んでみるとリビングはこぢんまりとして落ち着いたスケール感もありつつ広場に面しているため開放的にも感じられた。浴室は広々としてちょっとしたリゾートホテルのような感覚になった。一方で、この家のどの部屋にいてもどこか懐かしいと感じる。それは私が学生時代に住んでいた四畳半のボロアパートと同じスケール感だからなのかもしれない。共通するスケールのキューブがかえって部屋ごとの質を変化させているこの計画は、身体的なモジュールによって支えられているのだ。　（濱田猛）

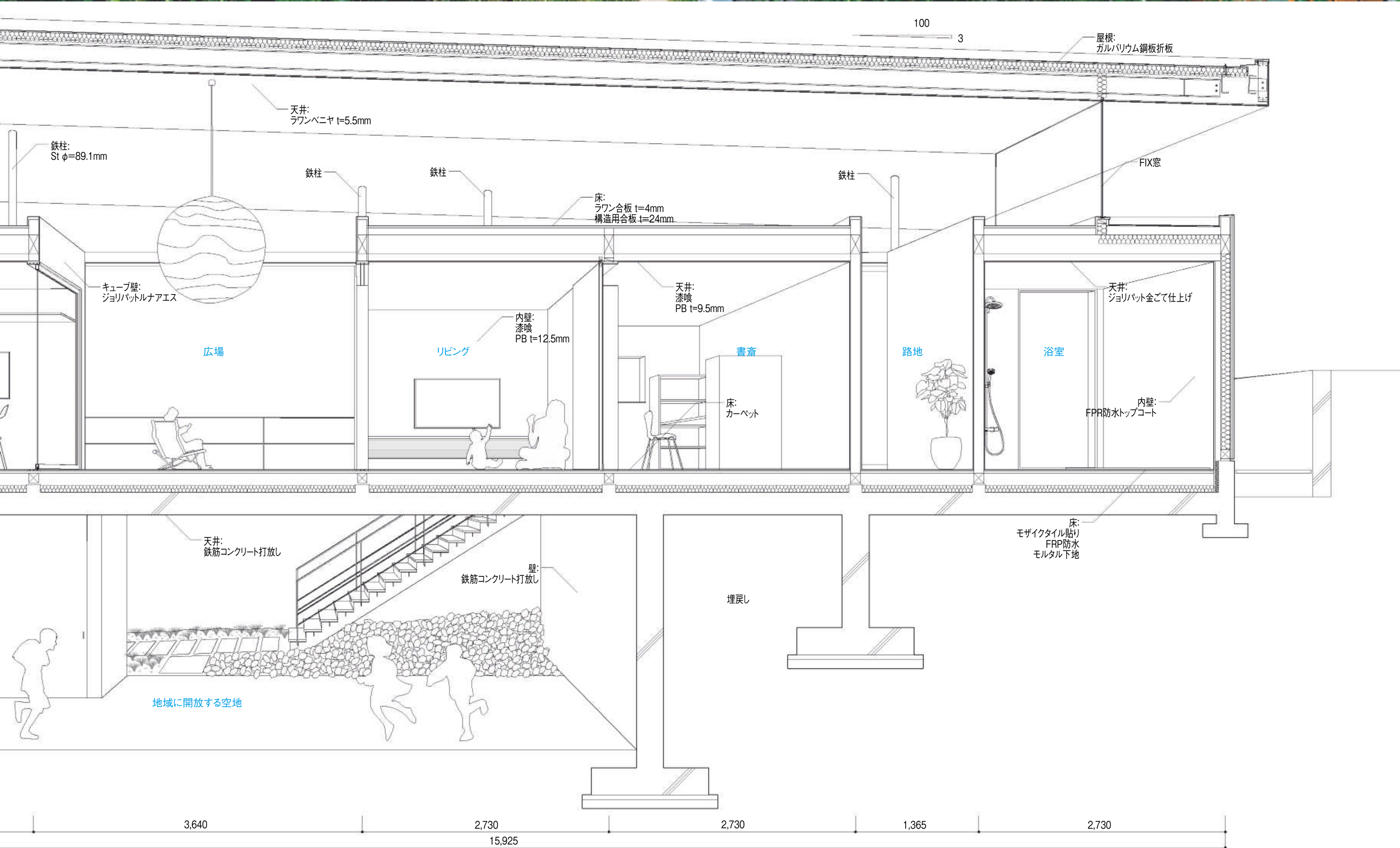
四畳半キューブの家
所在地／大阪府
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供1人

設計
HAMADA DESIGN　担当／濱田猛
構造　造形工学研究所　担当／福永毅
施工
トータルトーク　担当／片山浩司
設備　矢野設備　担当／矢野裕行
電気　ホーム・アート　担当／國友佳史
造園　家谷植景研究所　担当／家谷由起
ファブリック　fabricscape　担当／山本紀代彦
永吉佑吏子（元所員）
キッチン　ogumaLLC　担当／大橋朋晃
照明器具　NEW LIGHT POTTERY
担当／永冨裕幸（玄関・ダイニング）
AKARI　DNライティング
構造・構法
主体構造・構法　鉄筋コンクリート造　鉄骨造
木造在来工法
基礎　べた基礎
規模
階数　地上2階
軒高 7,900mm　最高高さ 8,177mm
敷地面積　211.24m²
建築面積　104.76m²
（建蔽率49.60％　許容50％）
延床面積　130.46m²
（容積率61.76％　許容100％）
1階　41.03m²　2階　89.43m²
工程
設計期間　2017年2月～12月
工事期間　2018年1月～8月
敷地条件
地域地区　第1種低層住居専用地域　第1種高度地区
道路幅員　南4.7m　　駐車台数　1台
外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板折板（淀川製鋼所）
外壁／ジョリパット ルナアエス（アイカ工業）
開口部／木製建具（スプルース）
外構／和束石敷き　植栽
ウッドデッキ／ウエスタンレッドシダー（髙正）
内部仕上げ
キッチン　ダイニング
床／ピンコロスライス目地無し（国代耐火工業所）
壁・天井／漆喰（レビスタンプ）
厨房機器／クリ無垢材（制作）
ガスコンロ／ノーリツ
換気扇（シェード）／パナソニック
シンク水栓金物／GROHE
浴室
床／25mm角モザイクタイル（LIXIL）
壁／FRP防水トップコート
天井／ジョリパット金ごて塗り（アイカ工業）
バスタブ／フォンテトレーディング
シャワー水栓金物／GROHE
洗面所　トイレ
床／25mm角モザイクタイル（LIXIL）
壁・天井／漆喰（レビスタンプ）
便器／アラウーノ（パナソニック）
洗面カウンター／制作
洗面用水栓金物／CERA
リビング　書斎
床／カーペット（サンゲツ）
壁・天井／漆喰（レビスタンプ）
家具／テレビ台（制作）　本棚（制作）
寝室　収納
床／サイザル（上田敷物）
壁・天井／漆喰（レビスタンプ）
家具／吊物入（制作）　棚（制作）
広場　路地
床／ナラフローリング（ニッシンイクス）t=18mm
壁／ジョリパット ルナアエス（アイカ工業）
天井／ラワンベニヤ t=5.5mm
家具／玄関収納（制作）
設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／パイプファン
給排水　給水方式／公共上水道直結
排水方式／公共下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯器
撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：2,000

上：リビング。広場を介してリビングと一体的に使うこともできる。
中：小広場。右上の白い布は隣地からの視線を遮るタープ。
下：洗面所。四畳半あるためゆったりとした空間。天井の開口は700×700mm。

断面詳細図　縮尺1：70

南側から北側を見る。西側の畑を見ながら外階段で人工地盤へ上がる。

100
3
屋根:
ガルバリウム鋼板折板
天井:
ラワンベニヤ t=5.5mm
鉄柱:
St φ=89.1mm
鉄柱
鉄柱
鉄柱
FIX窓
床:
ラワン合板 t=4mm
構造用合板 t=24mm
キューブ壁:
ジョリパットルナアエス
天井:
漆喰
PB t=9.5mm
天井:
ジョリパット金ごて仕上げ
内壁:
漆喰
PB t=12.5mm
広場
リビング
書斎
路地
浴室
床:
カーペット
内壁:
FPR防水トップコート
床:
モザイクタイル貼り
FRP防水
モルタル下地
天井:
鉄筋コンクリート打放し
壁:
鉄筋コンクリート打放し
埋戻し
地域に開放する空地
3,640
2,730
2,730
1,365
2,730
15,925

特集：風が抜ける家

垂井の森の 2世帯住居

Two-family House in the Forest
岐阜県不破郡垂井町

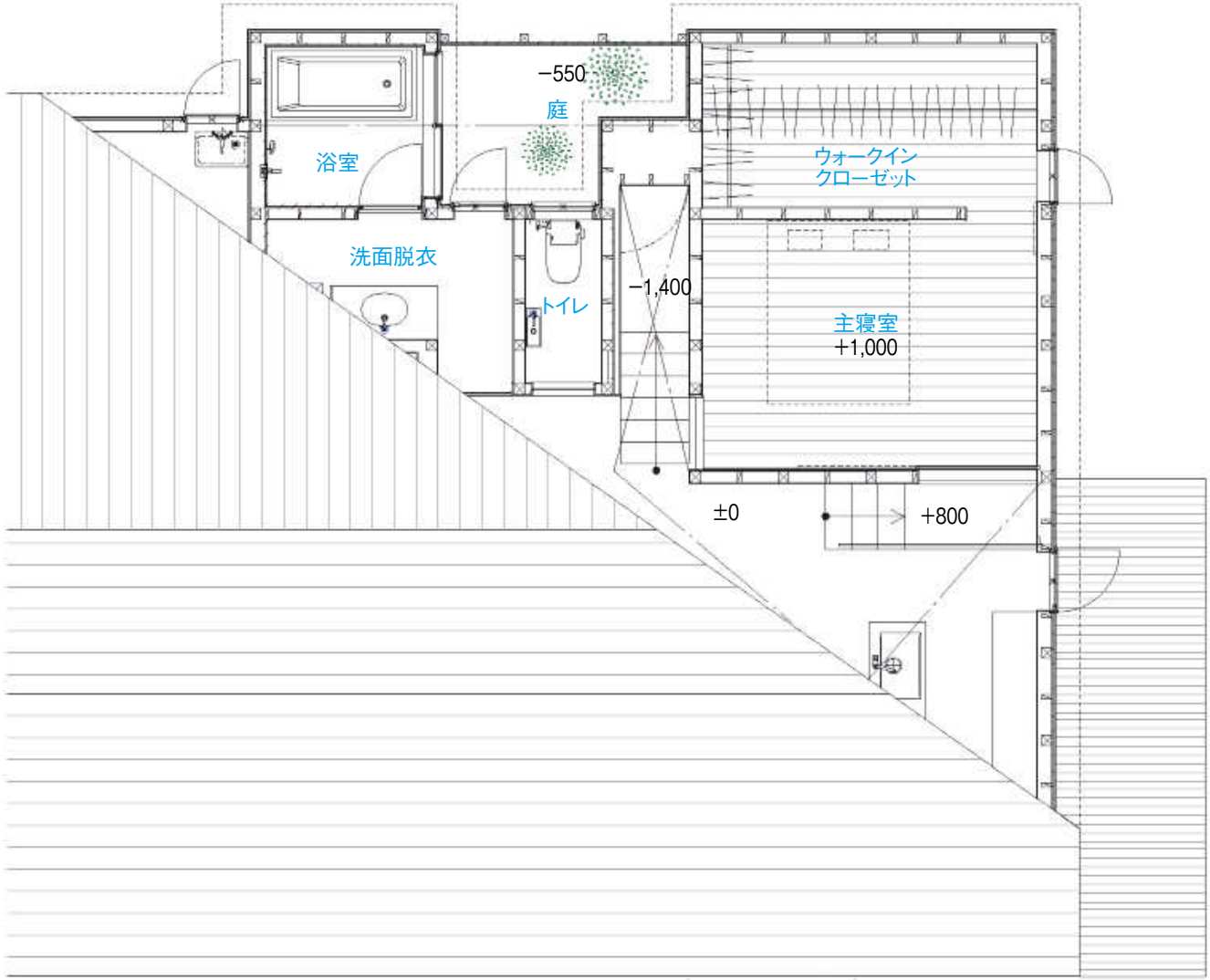
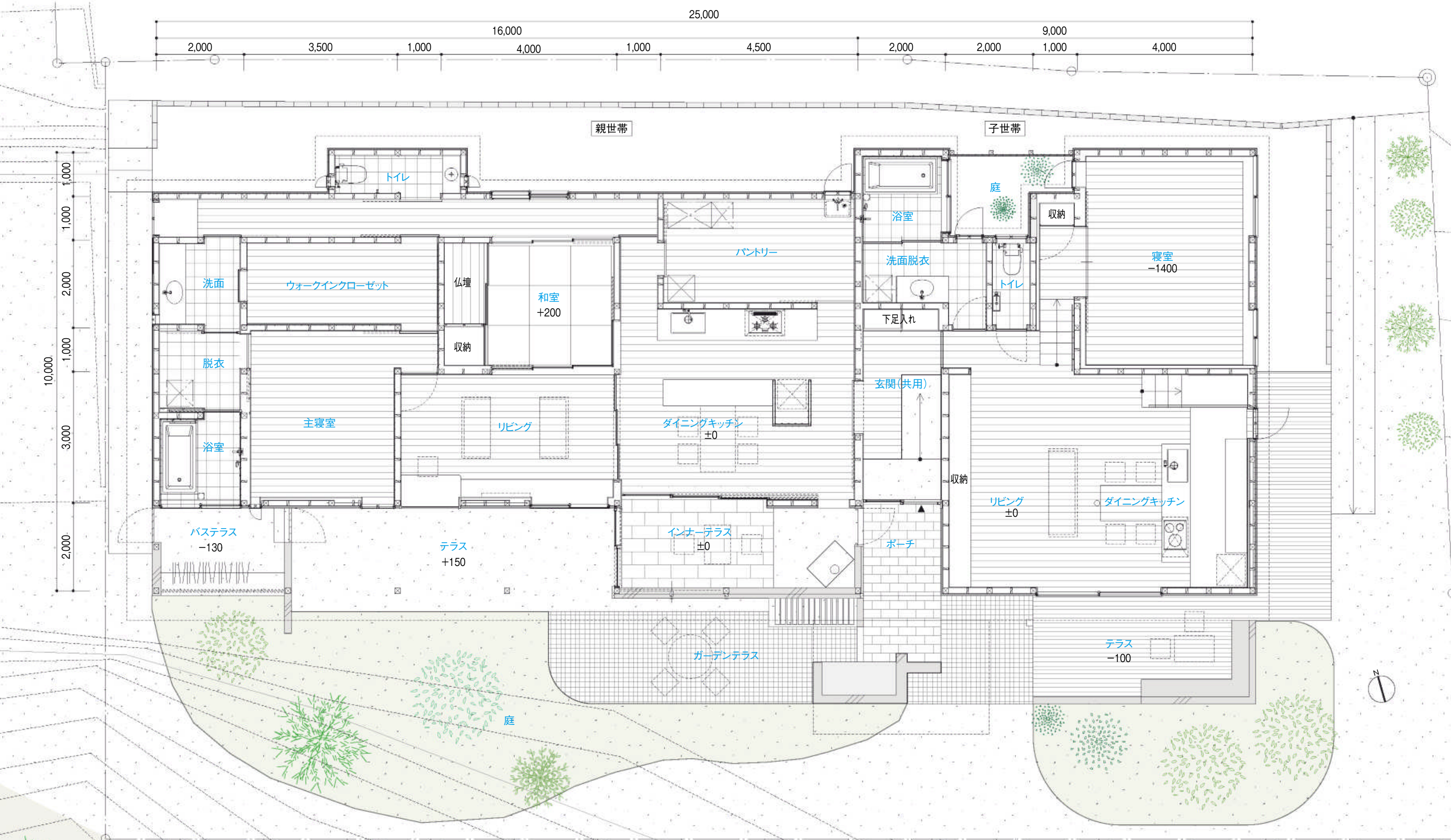
武藤圭太郎建築設計事務所
KEITARO MUTO ARCHITECTS

南西側全景。ほとんどの部分が平屋の2世帯住宅。家の南側に建つ建主が経営するパン屋とのバッファーとして、テラスとインナーテラスを配置。

親世帯のキッチンから和室の方向を見る。軒をテラス側に深く出し、自然光を建物内部にも取り入れるために切妻頂部をずらし、建物の中心にハイサイドライトを設けている。

森に開いたテラスと他律的なプラン

垂井町のパン屋〈グルマン〉のオーナーの2世帯住居で、店舗の背後にある森の反対側に建つ。
建主との出会いは5年前、この近くに建つ建主の次男の家の設計を依頼された時であった。自身の社長室には製図板があり、グルマンの店舗はオーナーが自ら図面を引いた。そんな建主の思い描くプランや要望を鑑み、建主の長男との2世帯住居として、共同設計のようなかたちで計画を進めていった。
店舗からの適度なプライバシーを維持し、森の景観と空気を最大限享受するため、軒が低く水平に広がる計画とし、店舗とのバッファーとして森側に深く長いテラスとインナーテラスを設けた。テラスは周辺の環境によって床レベルや囲いの形式を変え、2世帯の外部空間は緩やかに繋がる。親世帯テラスの床は地面より400〜700mmもち上げており、スラブはベンチやテーブルとしても機能する。インナーテラスはテラスとダイニング双方と一体になり、近くに住む次男も含めた3世帯が集まり食事をする場として計画されている。
また、家の内部には森への風景や木漏れ日を取り込み、深い軒の影を補うため、切妻頂部をずらし、建物の中心にハイサイドライトを設ける強い骨格とした。平面的には田の字型が連続するプランを基本形としながらも、要望により計画的、構造的合理性から見ると少し乱れたプランを許容した。しかしこのズレがハイサイドライトからの距離をつくり、光を奥の部屋に届けたり、壁がリフレクターになったりと、内部で多様な光の状態を生み出している。　（武藤圭太郎）

子世帯のダイニングキッチンと、1,000mm上がった主寝室を見る。

2階平面図

1階配置平面図　縮尺1：150

親世帯インナーテラスとダイニングの間から子世帯の方向を見る。ダイニングの床はチーク複合フローリング。インナーテラスの床はタイル、腰壁はコンクリート打放し仕上げ。

ダイニングからインナーテラスを見る。インナーテラスはダイニングと外のガーデンテラスを繋ぐ。腰壁の高さは1,050mmで、森への開放感と囲われて落ち着いた雰囲気を両立させている。

南側夕景。

垂井の森の2世帯住居

所在地／岐阜県不破郡垂井町
主要用途／専用住宅
家族構成／親夫婦＋夫婦＋子供

設計
武藤圭太郎建築設計事務所
担当／武藤圭太郎　山田健巨（元所員）
グルマンマルセ　担当／鈴木政裕
構造　藤尾建築構造設計事務所　担当／藤尾篤
外構・造園　リビングデザイン　担当／本田広

施工
安田建設工業　担当／河野真也
中部空調サービス　担当／後藤享洋
岡安電気　担当／荒河真一
基礎　長野建設　担当／恩田茂樹
鉄筋　共栄鉄筋　担当／青木稔郎
大工　名和建築　担当／名和定信
材木　雛屋林材　担当／中嶋雄一郎
左官　吉田業務店　担当／大江良孝
板金　横瀬板金　担当／中川明弘
鋼製建具　田中硝子　担当／田中淳史
木製建具　近藤工業　担当／内田剛志
塗装　石川塗装　担当／石川勝夫
タイル　ワタナベ　担当／奥村幸司
キッチン　藤岡木工所　担当／藤岡功　武藤美希
家具　寿々源　担当／鈴木秀明

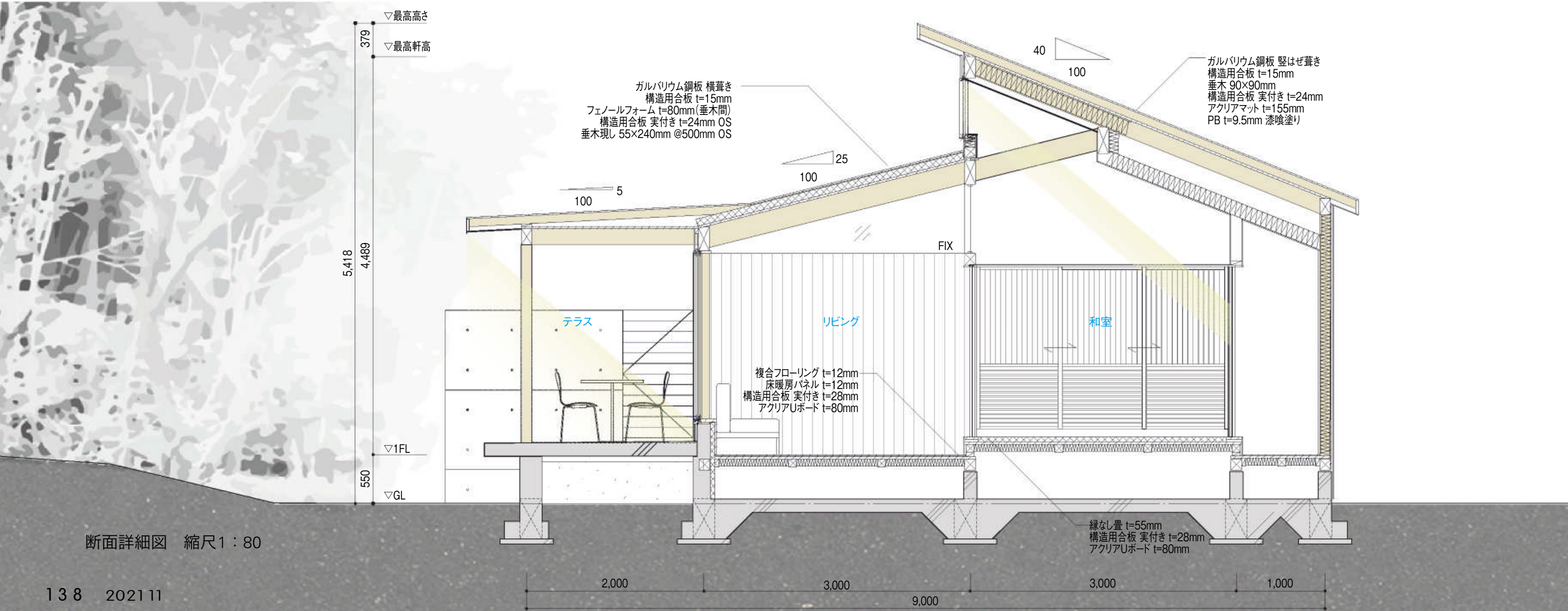
構造・構法
主体構造・構法　木造在来構法
基礎　べた基礎

規模
階数　地上2階
軒高 4,979mm　最高高さ 5,418mm
敷地面積　510.66m²
建築面積　232.00m²
（建蔽率45.44％　許容60％）
延床面積　256.07m²
（容積率50.15％　許容160％）
1階　232.00m²　2階　24.07m²

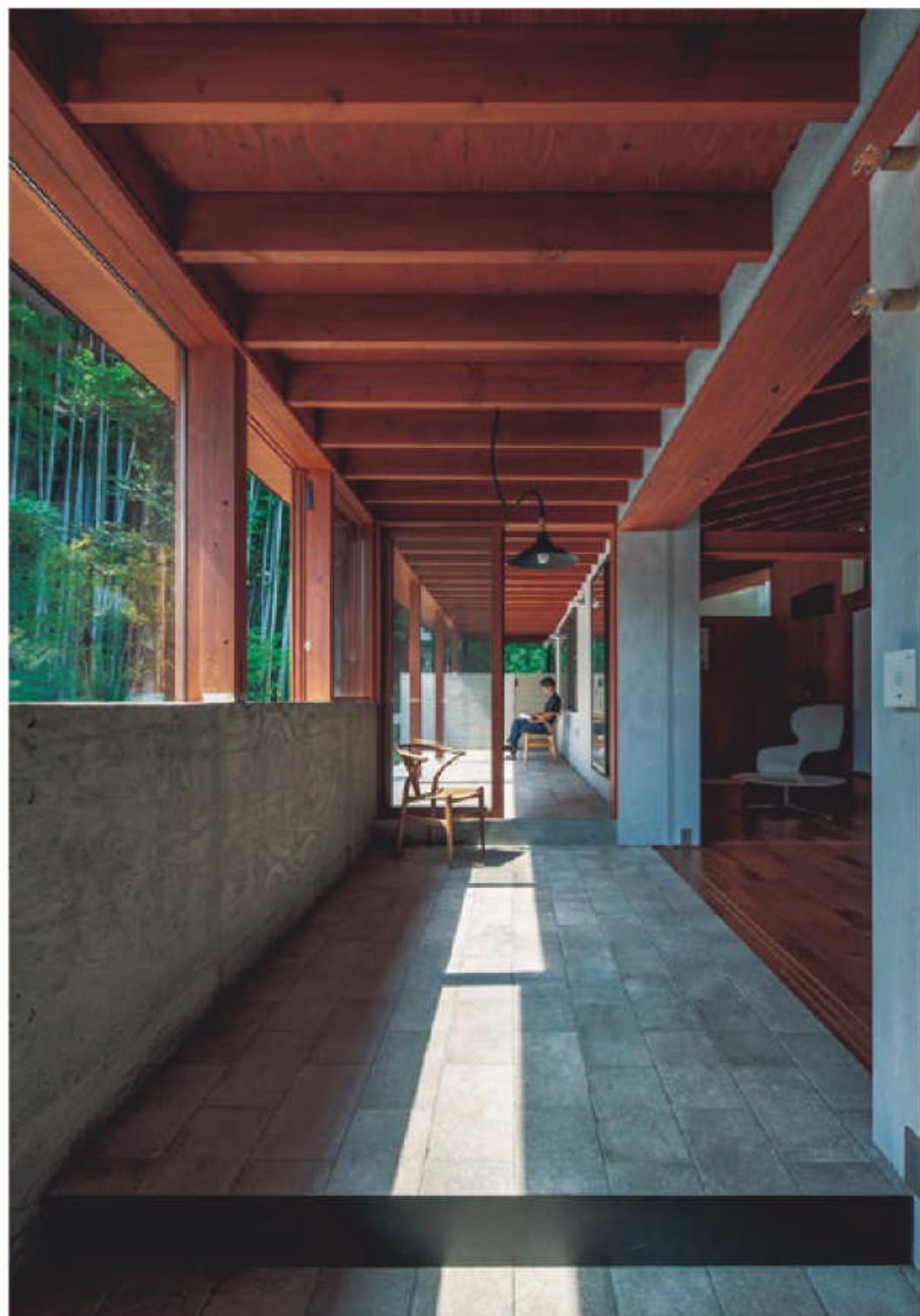
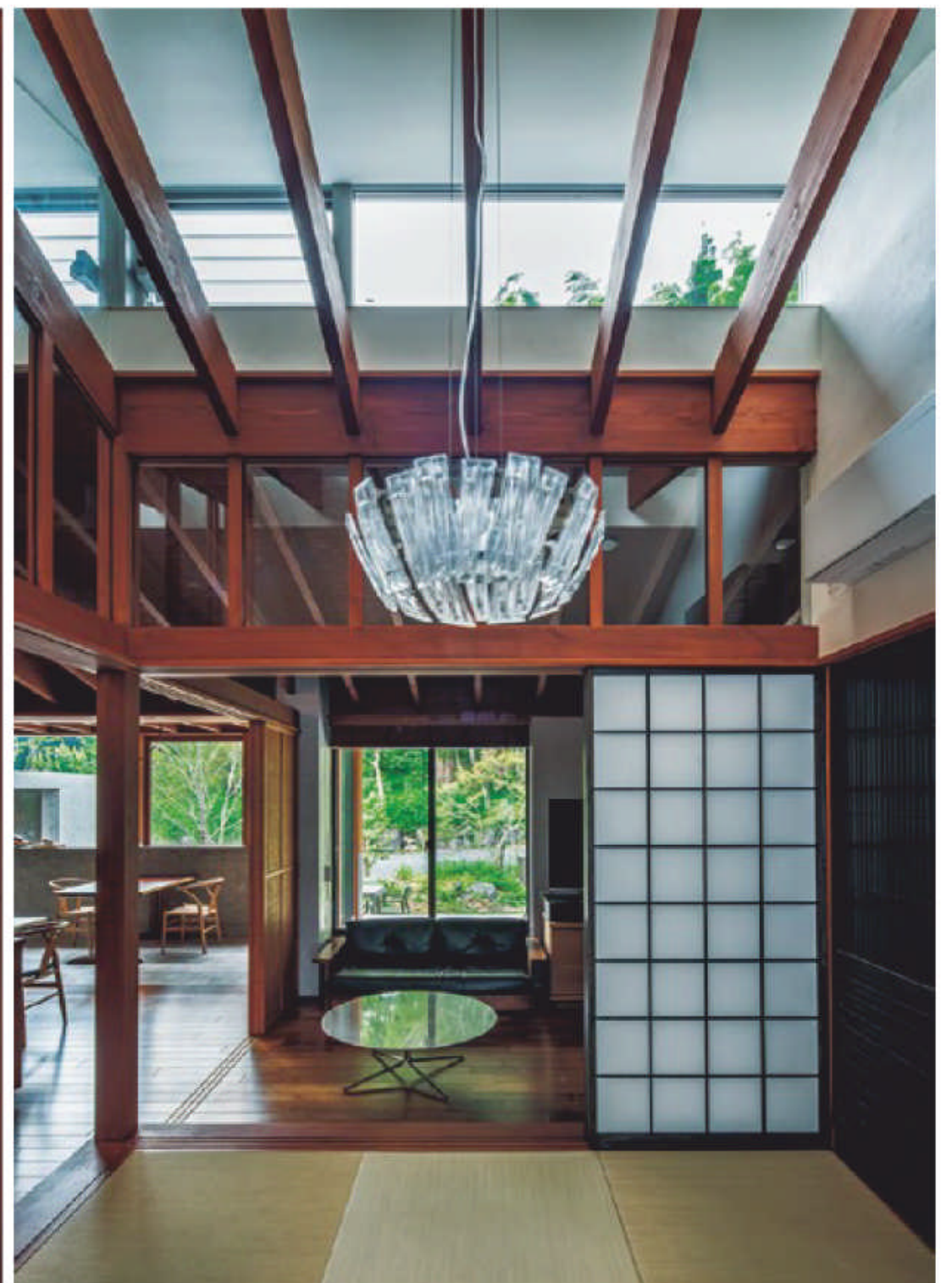
工程
設計期間　2018年1月～ 2020年4月
工事期間　2020年5月～ 2021年3月

敷地条件
地域地区　防火指定　22条地域
道路幅員　北4.0m　駐車台数　3台

外部仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板 横葺き　一部パーフェクトルーフ
外壁／スギ羽目板（共栄木材）OS　ジョリパット左官仕上げ

内部仕上げ
親世帯
ダイニングキッチン
床／複合フローリング IOC：チーク15サタシェクリアUVコート
壁／タイル（フォンテトレーディング 45-90-SG306）
天井／針葉樹合板 OS
家具／制作（藤岡木工所）
浴室
床／ LIXIL サーモタイル クォーツ QZ-32
壁／ FRP防水トップコート仕上げ
天井／ケイ酸カルシウム板 t=6mm ケンエース
トイレ　洗面

断面詳細図　縮尺1：80

床／ビニルタイル（サンワカンパニー VCO1201）
壁・天井／ビニルクロス
家具／制作（寿々源）
リビング　主寝室
床／複合フローリング IOC：チーク15サタシェ クリアUVコート
壁／漆喰　スギ羽目板（共栄木材）OS
天井／針葉樹合板 OS
家具／制作（寿々源）
インナーテラス
床／タイル（サンワカンパニー TL88571）
壁／コンクリート打放し
天井／針葉樹合板 OS
子世帯
リビング　ダイニングキッチン
床／複合フローリング IOC：バーチ20　クリアオイル仕上げ　ビニルタイル（サンワカンパニー モルタライク）
壁／漆喰　スギ羽目板（共栄木材）OS
天井／針葉樹合板 OS
家具／ 制作（藤岡木工所）
主寝室　寝室
床／無垢フローリング チャネルオリジナル バーチユニラスティック　クリアオイル仕上げ
壁／クロス張り
天井／針葉樹合板 OS
浴室
床／ LIXIL サーモタイル クォーツ　QZ-32
壁／ FRP防水トップコート仕上げ
天井／ケイ酸カルシウム板 t=6mm ケンエース塗布
トイレ　洗面脱衣
床／ビニルタイル（サンワカンパニー VCO1201）
壁・天井／クロス
設備システム
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第3種換気
その他／床暖房　ガス床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／公共下水道放流
給湯　給湯方式／ガス給湯器
撮影／ Tololo studio

配置図　縮尺1：2,000

インナーテラスからテラスを見る。

和室からリビングを見る。垂木のピッチは500mm。

畠の家
House in a Field
群馬県前橋市

植田開／STEAM
Haruki Ueda ／ STEAM

南東側外観。畑が転々と残る住宅地の一角に位置し、敷地西側には建主が所有する畑が広がる。地盤面から1mの高さにテラスを配し、南東面に大きな開口部を設けて内外を繋ぐ。

テラス1。屋内ではテラスと同じ床高のリビングが中2階となり、吹抜けの大きな一室空間に奥行きを生む。テラスの手摺りは上に向かって広がり、周囲からの視線を遮りつつも開放感のあるつくりとした。

テラス2。書斎と繋がり、木架構で囲われたプライバシー性の高い居場所とした。リビングの床下は部分的に収納スペースとなっており、換気ファンも収められている。

リビングから1階のダイニングキッチン、2階の室3・4を見る。建物内部には間仕切りはなるべく設けずに、床高の差により緩やかに分節する。リビングと2階を繋ぐ階段は、鍛造による鉄骨と木板を組み合わせ、柔らかな表情となるように制作された。

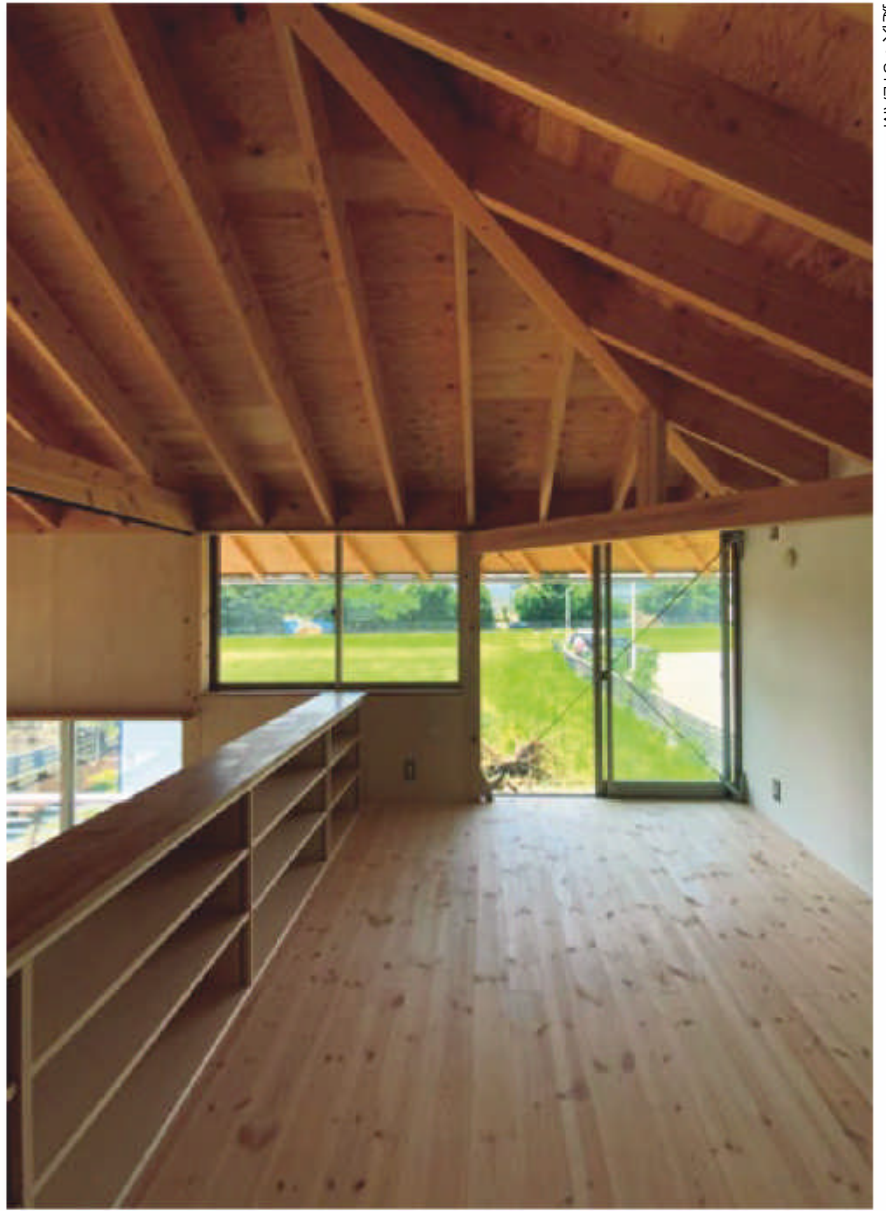
室1。腰壁収納でリビングからの視線を遮る。

提供：STEAM

畠と住宅を繋ぐテラス

計画地は関東平野の西端に位置し、赤城山と榛名山を望む場所にある。周囲一帯はかつて畠であったため平坦な地形をしており、現在ではハウスメーカーによる郊外型の住宅群が転々と立ち並ぶ風景が広がる。畠仕事をライフワークとする建主のため、畠と住宅をテラスとリビングで結び、内部はおおらかな奥行きをもつ一体の空間とすると、周辺環境と地続きに暮らしをつくれると考えた。

まず、敷地の中央に地面から1mほどの高さにテラスを2面に配置し、平坦な畠に対して一段上がった休憩場所のようなものをつくる。ここに畠のある西側が寄棟形状、接道する東側が切妻形状の大屋根を架け、畠に対しては建築のスケールを抑えつつ、住宅群に埋もれない家型が際立つヴォリューム計画とした。立面については、南西側は通し柱そのままにリビングからテラスへと連続する一方で、住宅群に対してはテラスの床高による視線のズレをつくり、開口を抑えることでプライバシーを確保した。

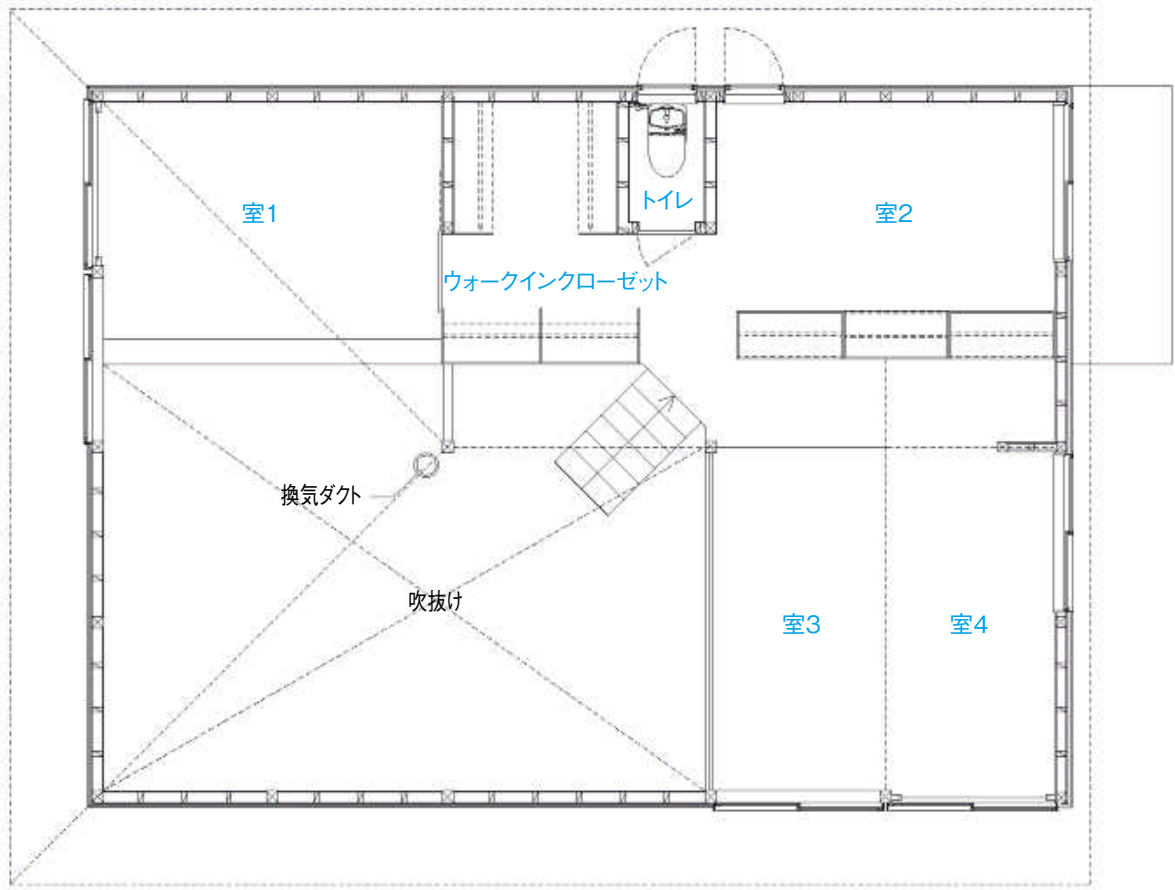
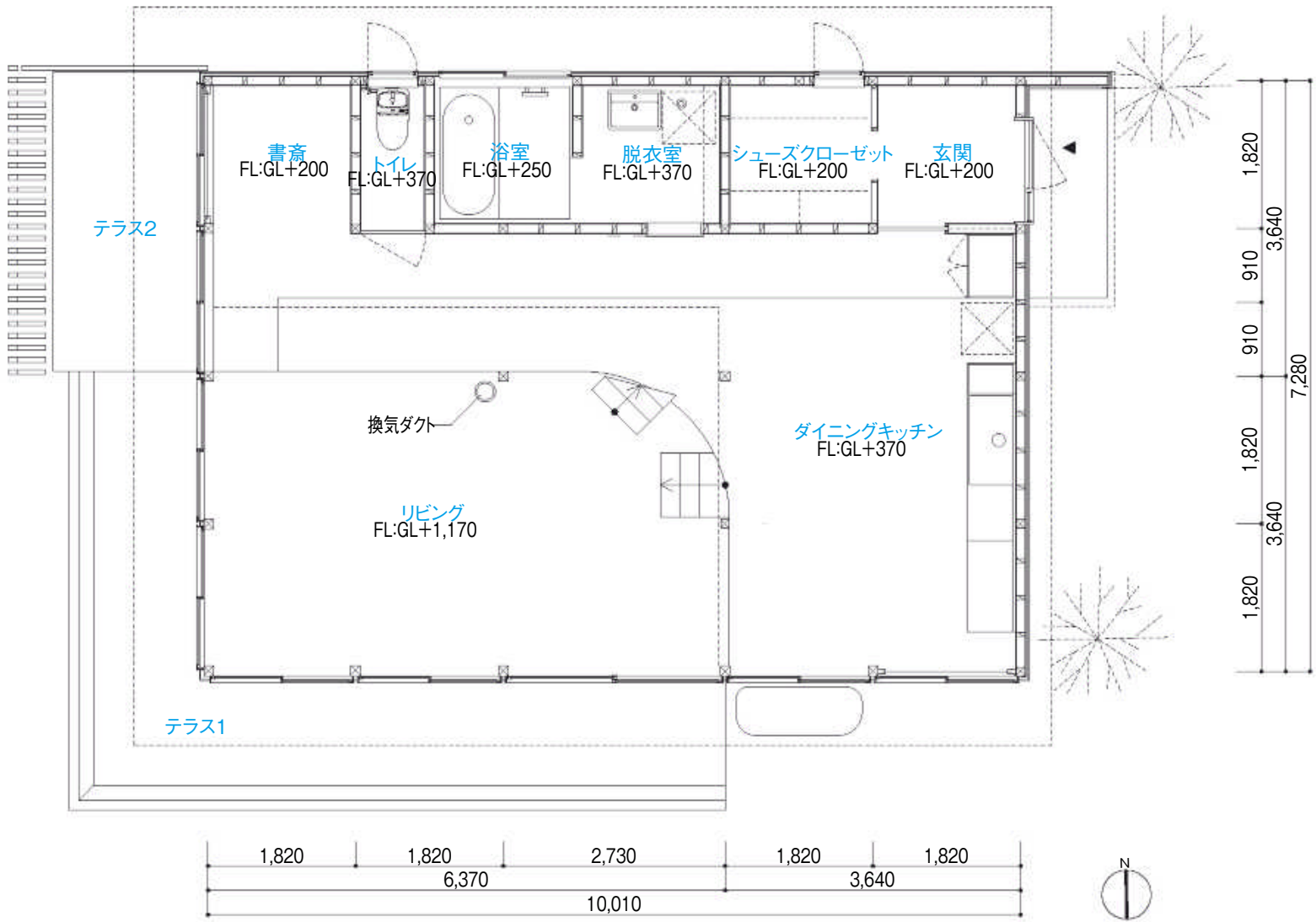
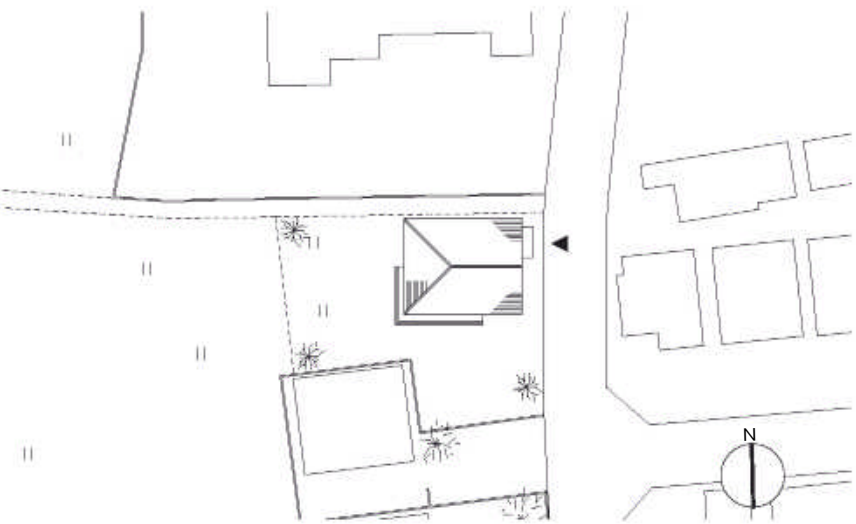
1階は、玄関から続く土間が東西を貫き、土間の南側から170mm小上がりに設けた板間をダイニングキッチンとしている。土間の西端は二畳ほどの広さを振り分け書斎とした。暮らしの中心となるリビング・テラスは中2階の位置づけである。2階は、周辺に対して閉鎖的な北東側壁面に沿うようにして配置し、リビングから階段を上がると、左右に動線が別れて各室に繋がる。目下のところは西端のみを寝室として使用することからウォークインクローゼットや腰壁収納でリビングからの視線を遮っている。

テラス・リビングを起点として、周辺環境との親和性と暮らしの中心を明快にしつつ、内部ではテラス・リビングとの関係により一体の空間の中にも多様な変化をもたらす。あえて明確に室を設けずに、住まい手が選択したふるまいにより居場所が生まれる暮らしとなることを目指した。

（植田開）

換気棟（在来工法）
屋根：
金属屋根（平葺き）
透湿アスファルトルーフィング
野地板 t=12mm
通気垂木 75×45mm @303mm
スタイロフォーム t=50mm
透湿防水紙
構造合板 t=24mm
換気ダクト上部：
天井付近にて開放
北側壁面上部の通気は塞ぐ
外壁（南,東）：
杉羽目板OS t=15mm
通気胴縁 t=30mm
防水紙
構造合板 t=12mm
高性能グラスウール
内壁（南,西外壁面）：
シナベニヤ t=5.5mm
ベニヤ t=9mm
防湿フィルム
換気ダクト：
スパイラルダクト φ=200mm
キャットウォーク
猫用出入り口
内壁（北,東外壁面）：
石膏ボード t=12.5mm AEP
防湿フィルム
寝室1
外壁（北,西）：
エクセルジョイント白 t=4mm
窯業サイディング t=14mm
通気胴縁 t=30mm
防水紙
構造合板 t=12mm
高性能グラスウール
猫用足場
2階床：
パインフローリング t=15mm
構造合板 t=24mm
テラス1
リビング
内壁（北,東外壁面）：
石膏ボード t=12.5mm AEP
書斎
1階床：
フローリング t=21mm
構造合板 t=24mm
双方向換気ファン
φ=200mm用フランジ
ビス止め
シーリング
土間床：
基礎スラブ金ごて仕上げ
防塵塗料塗布
埋戻し部
砕石入れ
基礎断熱：
エクセルジョイント t=4mm
スタイロフォーム t=30mm 打ち込み
▽最高高さ
▽軒高さ
▽2階胴差上端
▽2階床梁上端
▽1階胴差上端
▽土台上端
▽耐圧盤上端
▽GL
▽2FL
△2階床梁上端
▽テラス床レベル
△1階胴差上端
▽1FL
▽耐圧盤上端
△土台上端
△GL
2,035
1,260
1,999
6,570
739
4,535
2,211
2,336
800
125
200
39
1,405
2,205
45
800
45
170
200
1,820　1,820　910　910　1,820
3,640　3,640
7,280

断面詳細図　縮尺1：60

ダイニングキッチン。天井高2,166mmの落ち着きのある居場所とした。

ダイニングキッチンからリビングを見る。玄関からの土間がテラス2まで貫く。

2階平面図

1階平面図　縮尺1：150

配置図　縮尺1：1,500

畠の家

所在地／群馬県前橋市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋猫2匹

設計

steam　担当／植田開
構造　金子武史構造設計事務所
担当／金子武史

施工

相崎工務店　担当／相崎高志
材木・プレカット　守屋材木店　担当／守屋武
守屋公佑
鉄骨階段　アトリエ五號　担当／神宮寺未希
片岡香穂

構造・構法

主体構造・構法　木造・在来軸組工法（金物接合）
基礎　べた基礎

規模

階数　地上2階
軒高 4,535mm　最高高さ 6,570mm
敷地面積　421.00m^2
建築面積　72.87m^2
（建蔽率17.30％　許容60.00％）
延床面積　118.36m^2
（容積率28.11％　許容200.00％）
1階　72.87m^2　2階　45.19m^2

工程

設計期間　2020年1月〜11月
工事期間　2020年11月〜2021年7月

敷地条件

地域地区　第2種中高層住居専用地域　法第22条区域
道路幅員　東6m　駐車台数　2台

外部仕上げ

屋根／板金屋根
外壁／北・東面：エクセルジョイント（渋谷製作所）　西・南面：スギ板張り
開口部／住宅用アルミサッシ（LIXIL）
外構／コンクリート土間

内部仕上げ

キッチン

床／パインフローリング t=21mm
壁／ PB t=12.5mm AEP
天井／構造用合板 t=24mm OS
厨房機器／
食洗器／リンナイ
ガスコンロ／厨房用ゴトク 据え置き
換気扇（シェード）／制作
家具／制作
照明／ライティングダクト
シンク／制作

無駄なコストを発生させずに大空間を実現させるため、4mの木材から材料取りが可能な構成としている。送風ダクトはあえて中央に配置し、ストーブの煙突のような家具的に設えている。2階の室2・3・4はサブリビングのように使用されている。

シンク水栓金物／ TOTO

浴室

ユニットバス／ TOTO ハーフバス1616
壁／ヒノキ板 t=15mm
天井／耐水PB t=12.5mm OP
家具／制作
照明／埋め込みダウンライト
シャワー水栓金物／ TOTO

トイレ　洗面所

床／パインフローリング t=15mm
壁・天井／構造用合板 t=12mm
家具／制作
照明／埋め込みダウンライト
便器／ TOTO GG800
洗面カウンター／ TOTO 実験用シンク
洗面用水栓金物／ TOTO 混合栓

設備システム

空調　冷暖房方式／壁掛けエアコン
　　　換気方式／ 24時間換気扇
　　　その他／室内換気ダクト
給排水　給水方式／直結
　　　排水方式／公共下水
給湯　給湯方式／都市ガス

撮影／新建築社写真部

テラス1の近景。

IN BETWEEN

東京都大田区

矢板久明+矢板直子
／矢板建築設計研究所
Yaita and Associates

北から見る。東西に長い敷地に建つ、2世帯住宅。北側斜線をかわしつつ空間を積み上げたような佇まいとし、接道面に平行な壁面と開口部回りを白く塗装することで、街に対してヴォリューム感を軽減しつつ多様に外部を取り込む。北側に張り出す飛梁は2階の目隠しとして、また1階に光を落とす反射板としての役割を果たす。

収縮クラックを発生させないコンクリート打設法
コンクリートの打設時に再振動を行った結果、1年半経った現在でも収縮クラックは発生していない。打設時には通常の倍の200Vのインバーターとφ＝40mmのバイブレーターで再振動を実施したことで達成できたと考える。
再振動はコンクリート打設後、指で押してかたちが残る程度に固まった時に実施するが、コンクリート硬化時の遊離水が通った水みちを潰していくことで、クラックの発生しにくい密実な躯体とする工法である。 （矢板久明）

2階テラス。前面道路に向かって張り出す3階居間下の空間で、2階書斎を介して出入りする。天井高は2,500mm。植栽上部は26×50mmのスチールパイプを並べたデッキで、光と風を通す。

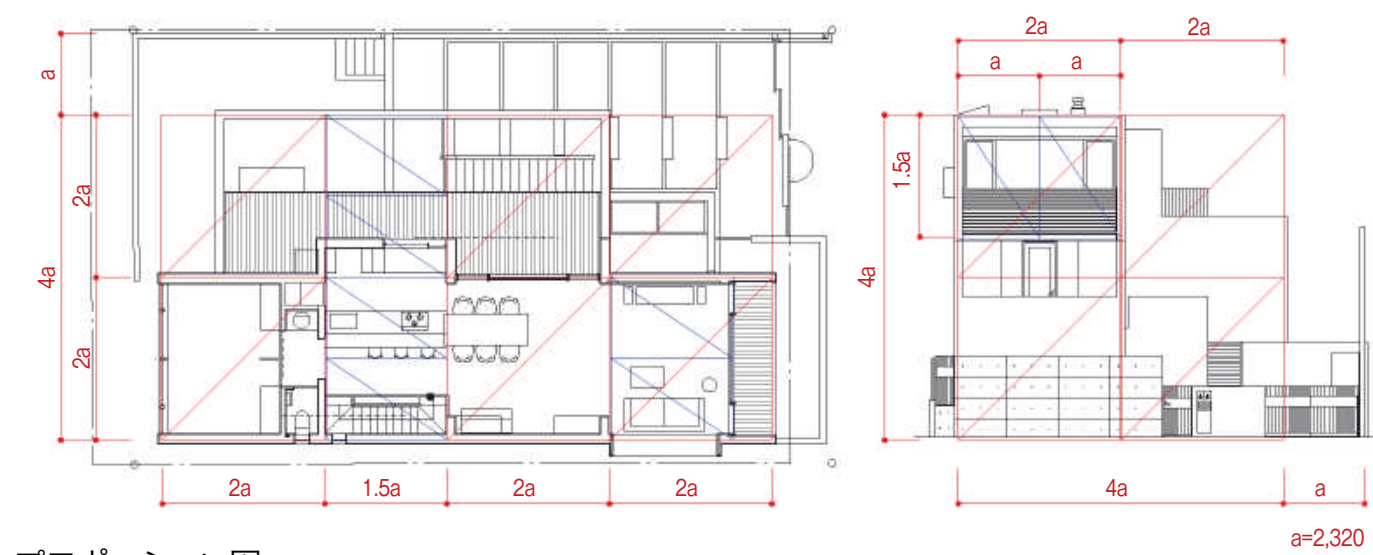
北向きの空間を活かす反射壁

撮影の日に久しぶりに訪れると、木々もほどよく育ち、周辺の環境に溶け込み、曇りのためか建築の構成が明確に浮かんで見えていた。この時ちょうど愛犬の散歩で通りかかった初老の男性から「この建物はモダンで、クラシックですね」と声をかけられた。「クラシック」という言葉に驚きながらも、その意味を考え始めていた。

敷地は東京南部にあり、代々この地域に住まう家族のための2世帯住宅である。長男一家の住まいは上階とし、両親の住居はバリアフリー化が容易な1階とすることになった。敷地は東西に長いので、北側斜線と日影規制を考慮し、容積いっぱいに3階建てでつくると、建物を南に寄せなければならなかった。この条件で十分な光を取り込むための工夫として、反射壁（飛梁）を2階北側に浮くように設け、隣家からの目隠しも兼ねた。これにより1階と2階に別の領域が生まれ、それぞれの家の玄関の構えとなった。1階仏間には、反射した光がハイサイドライトから室内を明るく満たしてくれる。2階西側では、寝室と浴室の目隠しになると共に、1階ではこの飛梁により上方への視界は遮られ、敷地境界に設けた塀との間にもうひとつの領域をつくり出した。1階の寝室から眺めると、飛梁の下では、空間は塀まで広がり、さらに隣の家の庭まで広がっていく。この建築を成立させる空間の質はこれらの挟まれた空間どうしの関係から生まれるのであり、「IN BETWEEN」と名付けた所以である。

冒頭の言葉に触発され、この建築にいかなる関係が潜んでいるか探ってみることにした。浮かび上がってきたのは正面が高さと幅が同じ正方形を基本とし、2:3の矩形を組み合わせたオーダーであった。調和を希求し真理へと向かう扉のひとつが数的宇宙観であることを以前にも書いたが（本誌1207、42頁）、ここでもイデアに共鳴した関係があることに気づいた。そして、躯体の正面に向いた面を白くすることで、建築の印象を軽くすることを意図したのであったが、これが古典的な意味でのファサードをつくろうとする意識であったことに気づかされた。それは通りに対しての敬意の表われであり、街への表敬であったのかもしれない。遠い記憶の断片としてアルベルティのマントバにあるサンセバスティアーノ教会が脳裏をよぎった。通りがかった方はそれを知らせに来てくれたと思えてならない。（矢板久明）

プロポーション図

a=2,320

東側外観。

サンセバスティアーノ教会（レオン・バッティスタ・アルベルティ設計）。*

*提供：Wikipedia Italy

1階寝室横のテラス。地面より750mm掘り込まれ、上部の飛梁は外周の塀との間にできた空間も含めレイヤー状に空間を積層させ、プライバシーも確保する。**

3階台所から居間方向を見渡す。3階は台所の連窓や階段上部のトップライト、テラスの掃き出しや居間の出窓とさまざまな方法で光を取り込み、質の異なる居場所をつくる。短手方向の構造壁量は北側に張り出した台所バックカウンターや北側テラス庇、そして南側は収納ニッチとして確保。その結果、長手方向の軸線は各場所を縫いつつ左右に僅かながらうねるように連続する。

3階テラス。2階の居室の灯りが飛梁を照らす。**

1階親世帯の仏間。代々の位牌の並ぶ仏壇を中央に設え、天井高は3.1mを確保。仏壇が設えられた打放しのコンクリート構造はコアとして扱われている。北側ハイサイドライトからの光は、飛梁の反射光。右奥は玄関。

断面詳細図　縮尺1：75　(a=2,320mm)

1階寝室前の北庭。植栽の植る基壇部分と飛梁の間は1,800mm。手前の竹から隣家のツタの緑へ連続する。

3階台所横のテラスより見下ろす。左下のバルコニーは2階寝室に取り付く。

3階平面図

2階平面図

1階平面図　縮尺1：200　(a=2,320mm)

断面図　縮尺1：200　(a=2,320mm)

IN BETWEEN

所在地／ 東京都大田区
主要用途／ 2世帯住宅
家族構成／ 親夫婦+子夫婦+子供2人

設計

矢板建築設計研究所　担当／矢板久明
　矢板直子　小沼翔太　栗原佳子　菅家幹
　(元所員)
構造　構造計画プラス・ワン　担当／金田勝徳
　長谷川侑香
設備　島津設計　担当／島津充宏
コーディネート　ザ・ハウス

施工

渡辺富工務店　担当／伊藤進　水野晴夫
設備　五十嵐工業所　担当／関口勉
電気　ムラデン　担当／藤木利之　野村大和
鳶・型枠　山上　担当／土屋雄一
金属　サスプロ　担当／大谷計
左官　大道左官　担当／大道康雄
塗装　中野コーティングス　担当／小町忠明
　吉源昌鴻
コンクリート補修　阿世知工芸
　担当／阿世知政次郎　阿世知憲一
サッシ　城南ケンソー　担当／岡村武晴
建具　武藤建具　担当／武藤恒夫
家具　ワタナベ製作所　担当／渡部伸吾
　川口茂
カーテン・ブラインド　空間　担当／沼澤幸喜
　前崎習(ナビオ)
造園　箱根植木　担当／保永博文　長澤仁志

構造・構法

主体構造・構法　鉄筋コンクリート造
基礎　直接基礎

規模

階数　地上3階
軒高 8,480mm　最高高さ 8,630mm
敷地面積　246.96m^2
建築面積　116.29m^2
　(建蔽率47.08% 許容50%)
延床面積　238.10m^2
　(容積率96.41% 許容100%)
　1階　104.03m^2　2階　55.42m^2
　3階　78.65m^2

工程

設計期間　2017年10月〜2019年7月
工事期間　2019年12月〜2021年4月

敷地条件

地域地区　第1種低層住居専用地域　準防火
　地域　第1種高度地区
道路幅員　東8m

外部仕上げ

屋根／防水コンクリート(タケイ工業)金ごて
　仕上げ
外壁／コンクリート打放し　デックガード(東
　亜貿易)　エクセルジョイント(渋谷製作所)

2階書斎。テラスの奥行きは3,350mm。

2階階段。蹴面は230mmをベースとしつつ、蹴上板を斜め加工することで15mmの蹴込みをつくり、昇降しやすさに配慮した。鉄骨下部の角にはゴムをつけて安全性も確保。窓はガラスルーバー窓とし木製ガラリの網戸もつけて、家全体に空気の淀みをつくらないよう開口を設置している。

1階親世帯。高齢な建主が室内を安全に移動できるよう、手摺りを設置している。引き戸は扉を跨ぎどちら側からでも使えるよう2本の手摺りを設置。手摺りは、縦型：ϕ＝32mmチーク＋脚18×60mm SUS1.5mm鏡面、横型：チーク32×60mm＋脚40×40mm SUS1.5mm鏡面。**

下地モルタル薄塗り UP
開口部／特注スチールサッシ（城南ケンソー）
アルミサッシ（三協アルミ）
外構／アプローチ：コンクリート金ごて仕上げ
防汚処理（カンエツ） 石張り（コアド&マテリアルズ ネロインペリア）t=20mm
テラス：デッキ材イペー t=20mm
バルコニー：鋼製 デッキ St 50×26×1.6mm @36mm 溶融亜鉛メッキ仕上げ

内部仕上げ

寝室 書斎（1・2階） 子供室

床／チークフローリング（IOC） t=12mm OS
壁／ PB t=12.5mm EP 一部コンクリート打放し
天井／ PB t=9.5mm EP

玄関（1・2階）

床／コンクリート研出し仕上げ（カンエツ）

階段（2・3階 ）

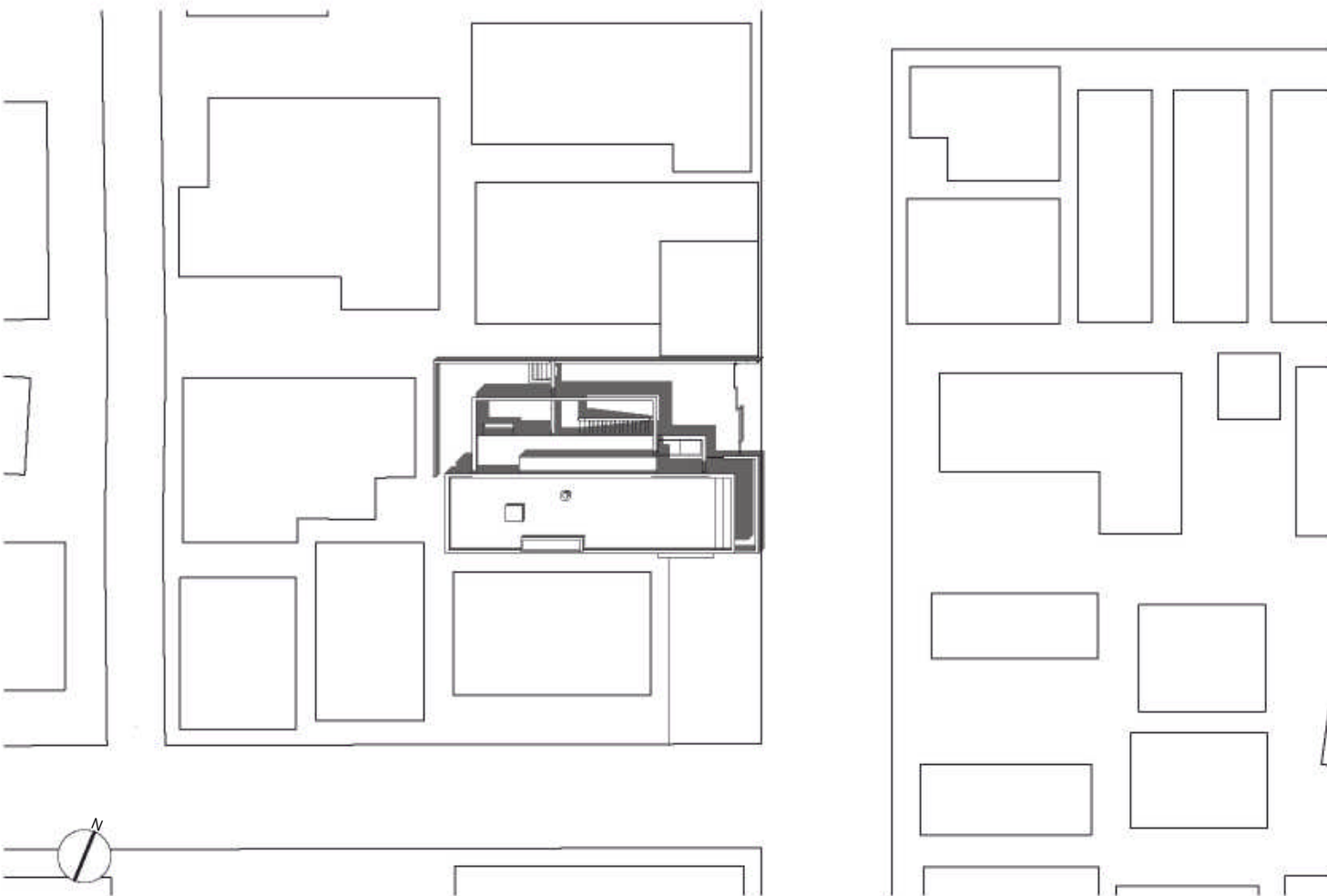
フレーム／ ST PL t=16mm 溶接（日南鉄構） SOP
踏面／ 230＋15mm チーク無垢 t=20mm OS
蹴込／ 207mm チーク無垢 t=32〜17mm（蹴込み 15mm 斜め加工） OS 幅員 750mm
ノンスリップ （アシスト） 怪我防止コーナーゴム 16×16×50mm

居間 食堂 台所（3階）

床／コンクリート金ごて仕上げ 樹脂ワックス
天井／チーク t=12mm （IOC） OS
厨房機器／モービリティーポ
ワークトップ／ 1階：人工大理石
3階：SUS HL t=1.5mm 曲げ加工
換気扇／ 1階：ARIAFINA 壁付け
3階：FABER 天付け
化粧材／ 1階：メラミン化粧材 3階：フィンランドバーチ積層合板（コアド&マテリアルズ）
OS拭取り メラミン化粧合版
シンク水栓金物／ LIXIL

設備システム

空調 冷暖房方式／空冷ヒートポンプ式
床暖房／ガス温水式床暖房
給排水 給水方式／上水道直結
給湯 給湯方式／ガス給湯機

撮影／新建築社写真部
**撮影／小川重雄

配置図 縮尺1：800

南東から見る夕景。

座談月評

新建築住宅特集2021年10月号

特集／山の家・海の家
どこでどう生きるか

批評

評者

乾久美子
建築家
横浜国立大学大学院Y-GSA教授

©CHIKASHI SUZUKI

石上純也
建築家

長谷川豪
建築家

『新建築住宅特集』では、毎月、さまざまな作品や論考、記事を掲載し、広い射程をもって住宅から明日を拓く建築の可能性を伝え記録しています。しかし重要なことは、議論の場をつくることにあります。限られた誌幅の中で示されたものから何を考えていくべきか、それぞれの読み解きや発見を共有し、建築を取り巻く多くの事象や環境と共に議論を重ねること。この座談月評は、その場を広げていくことを目的に掲載します。
2021年1〜12月号は、乾久美子さん、石上純也さん、長谷川豪さんを評者として、1年を通して前号への批評を座談形式で議論いただきます。それぞれの個別の評と共に、それが相乗して新たな示唆に展開する連載記事として毎月掲載しています。（編集部）

長谷川　今月は山の家・海の家特集ですが、副題の「どこでどう生きるか」が本質を突いた問いかけだと思いました。人間は都市による飼い慣らしから野生的な感覚を取り戻し、土地に再び着地するような状況が生まれていると能作文徳さんが論考「近代知から生態知への組み替え」で書かれていた通り、コロナ禍をひとつの契機にして、多拠点居住や移住者の家が増えている。それらは裕福な建主のための別荘とは違う位相のもので、大きな変化が起きていることを改めて実感しました。「どこでどう生きるか」という問いかけは、今年の座談月評でのいくつかの議論に繋がります。たとえば4月号の東日本大震災からの10年を特集した記事「災間を生きる」の議論の中で、建築界における「場所性」の形骸化について話しました。プロポーザルが設計者選定方式の主流になり、減点方式なのでどの設計者も要項で求められた地域性に触れざるを得なくなり、建築における場所性の表層化とベタ化が進んだ。ローカルな素材やタイポロジーを用いることは合理的だし正しいけれど、それらを何のアップデートもせずに用いれば、場所性の様式化に加担しているだけかもしれない。だから「どこで」を今改めて考え直す必要があると思います。また建主主導についての議論も何度かありましたが、アマチュアリズム的な作品が多かったのに対して、今月のいくつかの作品は建主と建築家が共に「どう生きるか」を必死に模索するものでした。つまり、これまでの別荘でも「どこで」は対象化されていたかもしれないですが、移住者や多拠点居住のための家ではそこに「どう生きるか」が加わった、とひとまずいえそうです。

石上　別荘は今まで個人の趣味的な作品が多く、生活や生き方に繋がってくるというよりは使う人の生活の中でも特殊な部分をかたちにした作品が多かったと思います。しかし今回の特集はそうではなく、新しい場所を発見してそこに住むという建主の意思も含めて建築になっているのがよいと思いました。一方で、環境の特性が限られた特集なので、「どこでどう生きるか」という問いの答えとしては、もう少し環境の選択肢が多い方が説得力があると思いました。

乾　私も9月号の「母の家・父の家」特集に続き、問いかけの新鮮さに共感しました。一方で、テレワークできる職種の人が余裕をもって移住することが、こうした作品群を支える大きな流れだろうと想像がつくためか、すべての作品が「生きる」といえるような重さをもっているかというと、そうではないように見えました。たとえば、石山修武さんの「開拓者の家」（1986年）などコルゲートパイプの住宅群も移住者の家です。あの頃にも移住のムーブメントがありましたが、今、再び移住することと、あの時代の移住とがどう違うのかは考えたいところですね。

長谷川　6月号の記事「都市と農村の壁を崩す」の議論にもありましたが、その時代の移住者たちは、いわば社会への反発心から都市を否定して移住するケースが多かった。しかし今の移住者たちは必ずしもそうしたスタンスではなく、6月号で紹介された「移住者の住宅訪問記」のように都市と農村を共存させる生き方を模索しているように思います。

乾　確かに。今回の誌面の特徴なのですが、この号の作品の写真では山の家、海の家といってもどこかに近隣の家が写り込んでいるものがほとんどでした。特集のタイトルは人里離れた家をイメージさせるので、やや不思議に思いながら見ていたのですが、むしろそのことに現代性が現れていると読めばよいと。自然が豊かでありながらも、参加できるコミュニティのあるような中間的な場所で暮らすのが今の移住のあり方なのかもしれませんね。個別の作品を見ていくと、能作文徳さんの**「明野の高床（藁）」**は、山にも海にも近くない場所に建っているようですが、「生きる」という点で今回の特集を体現するよい作品だと思いました。藁を使った厚みのある壁やオフグリッドという考えに、建主の決意みたいなものが見えてよかったです。

長谷川　論考で書かれている近代知から生態知への組み替えの話には共感しますが、「明野の高床（藁）」や**「氷見移住ヴィレッジ」**は、近代の乗り越えというよりは近代以前の住宅への回帰にも見えました。鉄板基礎や藁を使うといった挑戦をしたからには住宅として何らかの新鮮さを期待したくなりますが、外観も内観もどことなく懐かしいイメージが続くので、そこをどう考えているのかが気になりました。

石上　構法や材料についての提案は、時代との関連がよく伝わってきます。それに対して、でき上がった建築と共に、建主がこれからどのように生きていき暮らしていくかという部分がもう少し見えたらよいのにと感じました。あえて空間を提案しないという姿勢だとも思いますが、ではその先に現れる、空間に変わるものが何かというところに興味が湧いてきます。そのあたりがしっかりと見えてくると、とても刺激的になりそうですね。

乾　構法の妥当性を尖鋭的に追求していることに対して、インテリアが既存の価値観に寄り添っている感じが気になるということですよね。能作さんが取り組んでいる事物連関について突き詰めると、既存の構法や現地のモノを使うことが重要になっていき、新しいもの

撮影：鈴木淳平

「明野の高床（藁）」

「カプセルハウスK 再生」

「E邸」

を取り入れる理由を見つけるのが難しくなっていくのかもしれません。とはいえ、事物連関の範囲の設定によっては新しいものが出てくる場面もあるわけで、昔に戻ればよいというような短絡した議論にならないためにも、何を新しくすべきかということについて、論理的に検討することは重要ですね。

長谷川　そうですね。僕も事物連関の実践は懐かしさに近づいてしまうことに課題があると感じていましたが、建主と建築家が既知の暮らし方を踏襲せずに「どう生きるか」にもっと迫れば、事物連関も新しい見え方がしてくる気がしました。

乾　鉄骨の基礎は、事物連関に新しい要素を組み込んだという意味をもつ魅力的な要素です。この高床の基礎については以前から模型写真を見て面白いと思っていたのですが、当たり前のことですが、実現したものは基礎の下の方が大半土に埋まっているので、想像していた姿よりも床が低くでき上がっていました。もう少し床が高ければ、たとえば床下が自転車などのモノのための場所になるなど、面白い展開になったかもしれません。勝手な妄想ですが、模型で見た高さ感に期待をしていたので、少し惜しいなと思いました。

石上　この作品と黒川未来夫さんの「**カプセルハウスK 再生**」はある部分では近いものを感じました。これは当時の黒川紀章さんが未来の社会や量産のあり方を見据えて、建物のつくられ方に着目し、極端なかたちで示したものです。「明野の高床（薹）」は構法に着目した結果建築が導かれたもので、できたものは違う方向だけど、建築の立ち上がり方やハードに未来を見据えて提案したものという意味ではモチベーションとして近いと思いました。しかし進歩を前提としているか、既存の関係性を見直しそれを循環させることで持続させていくことを前提としているかは大きな違いです。その違いが過去の知識の再利用に留まってしまうと、過去の繰り返しになってしまい「単調さ」という価値観に陥る危険性もあるので、そのあたりを乗り越える別の次元の「豊かさ」のようなものが明確に提示されることに期待しています。

乾　「カプセルハウスK 再生」の存在は今回の特集の複雑さをよく表していました。というのも、今回の特集は地域にどう根差すかということをエコロジカルな観点から追求した作品もあれば、ホモ・モーベンスのように化石燃料を使って移動し、自由を謳歌する暮らし方を前提とした作品もあるからです。都市から離れる点では同じですが、その先にある思想がまったく違いますね。このあたりは冷静に見ていきたいところです。

長谷川　中川純さん池原靖史さんの「**E邸**」は大変興味深く見ました。巻頭に「カプセルハウスK 再生」が掲載されていたこともあって、メタボリズムのアップデートとして見ることができます。写真をよく見ると鉄骨のガセットプレートが全方向に付いていて、計画はこれで終わりではなく進行中であることを静かに主張している。セルフビルドの部屋が増殖していくことがイメージできて説得力がありました。もっと鉄骨フレームが大きいとダイナミックだなとも思いましたが、この鉄骨フレームも増殖できるようなので、これからどう成長していくのか楽しみですね。ここまで「どう生きるか」に向き合っている住宅はなかなかないです。建主主導でありながら、建主と建築家の信頼関係があって新しい住宅と生活が提案できている力作だと思いました。

乾　私もガセットプレートに思想を感じました。ル・コルビュジエのドミノシリーズの建築も端が欠けていて増殖を思わせるディーテールがあったと思いますが、それに近くて、未完成な部分によって思想を見せるという建築的なセンスを感じました。

石上　メタボリズムのように社会の生産システムに重きを置くというのではなく、個人の生活思想のあり方に建築が寄り添うことが新鮮だと感じました。既存のセルフビルドのような即興性でもなく、かといってシステマティックすぎず不思議な魅力です。鉄骨屋根の下にもう少し余剰空間があれば半屋外的な空間も建築的でない使い方も含めて、想像力が膨らむなと思いました。

長谷川　大屋根によって住まいとしての環境を確保しながら、そこから床を吊り下げる構造形式なので内外の環境を自由に調整できます。実際に土間のような半屋外のスペースがあって、建主の生き方・暮らし方にダイレクトに関わる増改築を自分たちでしていける。黒川メタボリズムはカプセルとコアに集約されますが、「E邸」はいわば建築の部位を単位にしたメタボリズムだといえるかもしれない。そこが大きく違いますよね。

石上　先ほど梁の下に余剰空間があった方がよいという話もしましたが、この先いろいろと増築していった風景を想像すると、大きな建築のフレームがあってその中で増築するよりも、フレームをはみ出して建て増ししていくのも楽しそうだと思いました。フレームが大きいほうがよいと思ったり、そうでないほうがと思ったり、多元的に感じる雰囲気がシステマティックに見えすぎない心地のよさをつくり出しているのかもしれませんね。

長谷川　長坂常さんの「**スキー場がついたおうち**」はスキー場という特殊な場所に建っているからこその建築の提案が欲しいと思いました。企画で設計が終わっている印象を受けました。

石上　滑り終わったらどうやって家まで上がっていくのかなど、スキー場がついている家としてアクティビティがもう少し具体的に見えるとよいなと思いました。また、特集の中で、地域圏スケールでの環境と建築のあり方まで踏み込んでいるものがもっとあってもよいと思いました。五十嵐淳さんの「**ニセコの小さな住居**」は、いつもの五十嵐さんの作品とは少し雰囲気が違うとも感じましたが、建設コストが高騰しているために地場の施工慣習に則って立ち上げたという視点で見ると、今のニセコの広い意味での環境を写すといえるかもしれません。

長谷川　中村拓志さんの「**火の山のツリーハット**」はプロトタイプとしてつくられたそうですが、設計がサイト・スペシフィックだしデザインの趣味性も強く、柱に無垢材を使うなど注文住宅的で、プロトタイプとしてどう設計したのか誌面からは分かりませんでした。

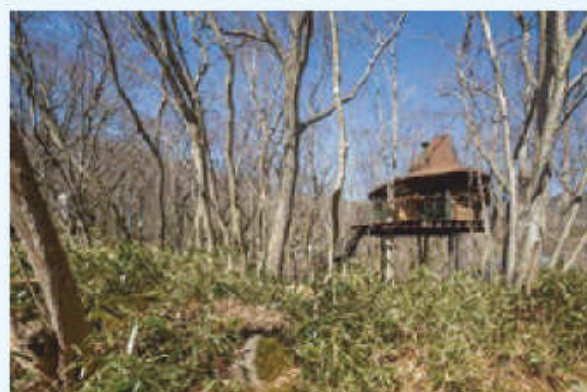
乾　鉄骨の足場に木造の家を載せることがプロトタイプなのかなど、何が型として設定されているのかが見えるとよいのかもしれませんね。掲載された情報だけだとビジネスとしての企画がちょっと分かりにくいというか、この先の展望をもう少し知りたいと思いました。全体を通して、山の家は生き方や環境について考えられた作品が多かったのですが、海の家はどうしてもリゾート感のある作品になりますね。この違いは一体何でしょうか。

長谷川　確かに日本では海に面した住宅作品に名作が少ないかもしれないですね。

乾　石垣島にファッション・デザイナーの別荘を訪ねたことがあるのですが、小さな浜辺までが敷地で、浜辺でリラックスし、防風林は海まで散歩をする楽しみとして使い、防風林で守られた土地は畑にして農作物をつくるような、小宇宙ともいえるような場所でした。この方のように、海を眺めるだけではなくて、海際というエコトーンを利用しながら生活を組み立てるような人がもっといてもよいのではないかと思います。

石上　山の家だと農業や自給自足などの暮らしがその場所と地続きに続いているものが多いですが、海だとなかなかそこならではの暮らしが見えにくいからかもしれません。海外でもライフラインがないようなところに別荘を構える事例もありますが、コロナ禍で海外でも同じようなムーブメントがあるのか、日本特有のものなのか気になりました。日本は国土が狭く都市と自然の距離が近いため、もしかしたらその特性が都市とそれ以外の環境との新しい関係を生み出しつつあるのかもしれません。またリモートワークも増えていますが、こうした動きの中で、軽井沢やニセコといった人気の別荘地は地価が高騰して住めなくなり、さらにその近辺に移住者が増える場合も多くなりそうです。また別荘地での建築単価も高騰し、よい建築ができない状況も実際に起こっています。移住者が増えることに対する地元の人びとの思いなど、移住が増えることで起こる現実的な問題も無視してはいけないと思いました。

撮影：Melissa Kelsey
「スキー場がついたおうち」

撮影：佐々木育弥
「ニセコの小さな住居」

「火の山のツリーハット」

第32回高松宮殿下記念世界文化賞発表

去る9月14日、日本美術協会（総裁：常陸宮殿下）は、第32回高松宮殿下記念世界文化賞を発表した。世界文化賞は、国際理解の礎となる文化芸術の発展に貢献した芸術家に感謝と敬意を捧げ、その業績を称えるもの。世界の芸術家が対象で絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門がある。今回の建築部門では、オーストラリアのグレン・マーカット氏が受賞した。本賞は、マーカット氏を「風の向き、気温、周囲の光など環境的要素に細心の注意を払いながら、オーストラリアの自然環境の恩恵を最大限に活かした生活空間を生み出す」と評価した。マーカット氏は、シドニーを拠点に住宅を数多く手掛けており、代表作に「ウォルシュ邸」や「ルウィン・アンド・マーカット邸」（『a+u』0708）などがある。なお、10月に予定されていた授賞式は、中止となった。

2点撮影：Anthony Browell　*提供：TOTO出版

左：「ウォルシュ邸」（2005年、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州）。*
右：「オーストラリア・イスラミックセンター」（2016年、オーストラリア・メルボルン）。

湯川秀樹の旧宅を安藤忠雄氏が整備へ

去る9月15日、京都大学（総長：湊長博）はノーベル賞受賞者である湯川秀樹氏が晩年過ごした旧宅を、安藤忠雄氏の設計により2023年度までの整備・完成を目指すと発表した。旧宅は1933年に建てられた木造2階建てで、約225坪の敷地の半分以上を庭が占め、サクラやモミジなど季節を感じる木々が植えられている。長谷工コーポレーションが親族より引き渡しを受け、整備した後、京都大学へ寄付される。詳細はウェブサイト参照。
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2021-09-22

東京海上ビルディングが建て替えへ

去る9月30日、東京海上日動は前川國男設計の「東京海上ビルディング本館」（『新建築』7406）および新館を建て替えると発表した。新しいビルの設計はレンゾ・ピアノ氏および三菱地所設計が担当する。これまでにないレベルで国産木材を活用し、世界最大規模の木造ハイブリッド構造によるオフィスビルを2028年度に竣工させることを目指している。現在のビルは、歴史的価値を明らかにし後世に伝えるため、有識者の協力を得ながら、記録調査と継承方法の検討を行う。

撮影：新建築社写真部

「東京海上ビルディング本館」。

第46回北海道建築賞発表

去る10月1日、日本建築学会北海道支部（支部長：菊地優）は、第46回北海道建築賞を発表した。選考委員は、加藤誠（主査）、石塚和彦、植田暁、小澤丈夫、河合有人、斉藤雅也、佐藤孝の7氏。北海道建築賞は「北海道大学医学部百年記念館」（『新建築』2004）で小澤丈夫氏が受賞した。また、北海道建築奨励賞は「伊達の家」（本誌1711）の青木弘司氏と、「株式会社遠藤建築アトリエ新社屋」の遠藤謙一良氏が受賞した。

2点撮影：新建築社写真部

左：「北海道大学医学部百年記念館」。　右：「伊達の家」。

2021年度木材利用優良施設コンクール発表

去る10月8日、木材利用推進中央協議会（会長：鈴木和雄）は、2021年度木材利用優良施設コンクールの受賞施設を発表した。本賞は、木材の利用推進等に寄与すると認められた優良な施設を表彰している。受賞作品は下記の通り。

【内閣総理大臣賞】▷「あわくら会館」＝アルセッド建築研究所

【農林水産大臣賞】▷「高惣木工ビル」（『新建築』2105）＝シェルター

【国土交通大臣賞】▷「タクマビル新館（研修センター）」＝竹中工務店大阪一級建築士事務所

【環境大臣賞】▷「流山市立おおぐろの森小学校」＝日本設計

【林野庁長官賞】▷「木曽町役場 本庁舎」（『新建築』2105）＝千田建築設計　▷「桐朋学園宗次ホール」＝隈研吾建築都市設計事務所＋前田建設・住友林業共同企業体＋唐澤誠建築音響設計事務所　▷「南会津地方広域市町村圏組合・新消防庁舎」＝福島県建築設計協同組合

【木材利用推進中央協議会会長賞】▷「滋賀県林業会館」＝宮村太設計工房　▷「道の駅したら・設楽町奥三河郷土館」＝浦野設計＋乃村工藝社　▷「アネシス茶屋ヶ坂」（『新建築』2008）＝清水建設　▷「高輪ゲートウェイ駅」（『新建築』2005）＝JR東日本建築設計＋隈研吾建築都市設計事務所

【審査委員会特別賞】▷「南予森林組合新事務所」＝金箱構造設計事務所　▷「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE」＝飛騨五木＋goboc設計事務所＋TAB

*提供：木材利用推進中央協議会　**撮影：新建築社写真部

左：「あわくら会館」。*　右：「高惣木工ビル」。**

京都市京セラ美術館開館1周年記念展
モダン建築の京都

開催中　2021年9月25日〜2021年12月26日
京都市京セラ美術館（京都府京都市）

プロジェクトとしての建築／モノとしての建築

明治維新以後に建てられたモダン建築から36件を厳選し、400点以上の膨大な展示物によって紹介する「モダン建築の京都」が、昨年リニューアルオープンした京都市京セラ美術館で開催中だ。「モダン建築」とは「明治から昭和にかけて建てられた洋風建築や近代和風建築、モダニズム建築」とされる。明治以降に大きな地震や戦火を免れた京都は、近代化の過程で生まれたモダン建築が今も数多く残る「生きた建築博物館」だと位置付けられている。

日本の近代化は日本的価値観と西洋文明との対立と調停の歴史として語られることが多い。本展でも京都の近代化は「革新と伝統への双方向性」をもつとされ、これが全体の基調をなす。明治の近代化を知らしめるために開催された第4回内国勧業博覧会と、時を同じく建設された平安神宮の「應天門」（1895年）。その断面図に描かれたステッキをもった西洋風の紳士の姿はそれをよく表している。また、京都市役所に取り入れられたイスラムやインドの意匠、会場でもある京都市京セラ美術館の千鳥破風は、日本と西洋をいかに繋ぐかが試みられた例だ。展示は7章に分けられ、庁舎などの官による近代化（1〜3章）から始まり、実業家や政治家の邸宅など地位を示すための近代化（2、3章）、そして民間の商業ビル（5章）や住宅地開発（6章）というように、近代化が庶民の暮らしへと徐々に広がっていきモダニズム建築へと至る流れが分かる。ミッション系の近代建築を紹介する4章と、モダニズムの成立を紹介する7章はやや独立した展開を見せる。

基本的に建築は動かすことができないがゆえに、建築の展覧会では、擬似的に「建築」を存在させるか、あるいはそれがいかに「建築」であるかの説得が試みられる。1/1の模型をつくってみたり、インスタレーションを試みてみたり、あるいは模型や図面の中に建築家の意図した建築性を読み取らせようとする。つまり、動かせない建築を展覧会のどこに位置付けるか、見る人と建築をどこでどう出会わせるかが建築展におけるキュレーションの肝であるが、本展では建築を、モノとしての建築物と、コトとしての建築プロジェクトに分け、それぞれに出会い方が用意されている。展示室には、建築を直接・間接的に存在させてきた無数のモノたち（図面や模型、パーツの雛形や建築家の手記、新聞記事まで）が並べられているが、それらはバラバラなモノであればあるほど、建築が各時代の社会状況や複数の主体の関係性の網目の中で構築されるコト（プロジェクト）であることを示す。新国立競技場をめぐる顛末にも明らかなように、建築を建築家による創作物だと見なす「モダン」な考えが限界を迎える中、建築のプロジェクトとしての側面を公共の場において提示することの意義は小さくはないだろう。そして、もう一方のモノとしての建築は「生きた建築博物館」である京都のまちにある。会期中は数多くのイベントが予定され、カタログはガイドブックとしての役割を担い、さらに音声ガイドは会場内はもちろん、まちの中で実際建物を目にしながら聞くことができる。関連イベントの域を超えた展開に、企画者である前田尚武氏のキュレーションが光る。

最後に本展の成立には、京都の近代建築を長年に亘って研究されてきた建築史家たちの研究成果が欠かせないものであることを記しておきたい。加えて、準備の中でこれまで新しい発見や、初めて公開が許可された展示物があったという。また論文集のようなかたちで研究成果がまとまるのとは異なり、バラバラな場所に保管されていた史料たちが一堂に会し、これまでとは異なる角度からモノ同士の連関を問い直すことができるかもしれない。このような調査・研究と展覧会のおいしい関係が、今後さらに追求されていくことを期待したい。

（川勝真一）

撮影：新建築社写真部

2点撮影：来田猛（提供：京都市京セラ美術館）

上：京都市京セラ美術館。本展の会場であり、第3章で紹介。
中・下：会場風景。模型やパーツの雛形などが並ぶ。

建築家・坂倉準三と髙島屋の戦後復興
ー「輝く都市」をめざしてー

開催中　2021年9月15日〜2022年2月13日
髙島屋史料館TOKYO 4階展示室（東京都中央区）

坂倉準三の仕事と髙島屋の戦後復興を紹介する本展。監修は松隈洋氏。坂倉が設計を手がけたパリ万国博覧会日本館（1937年）の内部造作と小物の制作を受注したのが髙島屋で、この仕事がきっかけとなり、両者は信頼関係を築き、その後の仕事へと発展していく。

会場は、坂倉と髙島屋の出会いにはじまり、戦後の厳しい建築資材統制のもと、簡素な木造ながら画期的なスロープとスキップフロアで構成した「髙島屋和歌山支店」（1948年）、太平洋戦争で被災した大食堂を売り場へ改修した「髙島屋大阪難波新館改増築」（1950年）と、戦後の復興に大きく貢献した仕事が紹介される。また、これらの実績のもとに、渋谷をひとつのターミナルビルとしてまとめた「渋谷東急会館」（1954年）、髙島屋大阪店本館の西側に建ち、難波駅コンコースと接続させた「南海会館」（1957年）と、坂倉はより都市デザインへと関わっていく。そして国鉄、京王、小田急、地下鉄を含む、巨大ターミナル新宿駅の「新宿西口広場・地下駐車場」（1966年）、「小田急ビル」（1967年）を手がけることとなる。会場には当時の図面や写真のほか、「髙島屋和歌山支店」の復元模型やCG、さまざまなメディアの記録などが時系列に並ぶ。川の流れのように淀むことのない動線を特徴とした駅と百貨店によるターミナルビルを軸に、坂倉の日本の都市空間への実践を体系化した展示となっている。

上提供：髙島屋資料館TOKYO　下撮影：本誌編集部

上：新宿西口広場（1969年6月28日）。撮影：山田脩二。
下：会場風景。中央手前は「髙島屋和歌山支店」復元模型。

教養としての都市論
感性を刺激する33冊

三浦展 著

（四六判／256頁／2,090円／彰国社）

三浦展氏が、生きた都市の魅力を感じたと思う本をノンジャンルで紹介するエッセイ。「都市論や都市計画の名著の案内書ではない」と冒頭にあるように、全33冊の中にはアーティストやイラストレーター、マーケッターの本なども含まれ、国や時代も、都市をとらえる視点もさまざま。そんな中でも共通するのは、各書の著者が街を歩き回り、人びとの日常を観察する中で肌で感じた都市を伝えているという点である。その伝え方も、言葉の描写であったり写真やスケッチ、データにまとめた分析など多岐に渡る。また三浦氏による紹介の仕方も一様ではなく、自身の感覚や体験と結びつけ、時間軸の中で世界の都市の様子を比較するなど、その本の魅力と共に三浦氏の都市観が伝わってくる。「都市の本は都市のように楽しいものであるべき」という通り、多様な世界を知りその奥深さに学べる。(yt)

超建築パース
遠近法を自在に操る26の手描き術

田中智之 編

（B5変型判／128頁／3,300円／学芸出版社）

著者が描くパースは、その構成やさまざまな情報を盛り込んだ表現が特徴的で、建築界の一部で「田中さんのパース」を略した「タナパー」という名で呼ばれる。本書は、タナパーの独特な空気感を出す描画法を26のパース術として具体的に整理。「いい加減に描く」というタイトルの序文では、手描きパースの魅力は手描き特有のいい加減さ、つまり、正確さに基づく自由な応用であることが主張される。本編では最初にバリエーション豊かな図法や表現の全体像を見せ、何を伝え、何を印象に残したいかに合わせたその選び方を紹介する。その上で、作図の基本から応用までを幅広く解説。応用では、手描きパースでしか表現できない地平を湾曲させた表現や、効果的に視線を誘導する方法などを画家の技法などを引用しながら説明している。建築を効果的に伝えたい時に頼りになる、くり返し読みたくなる1冊だ。(ab)

MaaSが地方を変える
地域交通を持続可能にする方法

森口将之 著

（A5判／200頁／2,530円／学芸出版社）

現在、地方の公共交通は人口減少による利用減に加え、新型コロナウイルスの影響で苦境に立つ。著者は、合理性を追求して大量輸送を目指す従来の方式ではなく、ICT（Information and Communication Technology）を活用して複数のモビリティの情報を単一のサービスで統合する「MaaS（Mobility as a Service）」に着目する。移動の快適性を高めて付加価値を与えるという方向性だ。本書は、国内のMaaS導入に向けた先進事例を紹介。自動運転や顔認証システムなどにより利便性を高めるだけでなく、沿線の施設整備や周辺の店舗情報の提供などの施策と連動させ、市街地の空洞化や集落の維持という課題解決にまで射程を広げた取り組みが目立つ。著者は、MaaSはあくまで交通改革ツールのひとつと説く。交通改革をまちの魅力向上にまで昇華するには、行政や事業者の工夫が欠かせない。これからの交通政策の指針となる1冊である。(kns)

都市建築TOKYO
超高層のあけぼのから都市再生前夜まで

都市建築TOKYO編集委員会 編著

（A5判／252頁／2,970円／鹿島出版会）

日本初の超高層ビル「霞が関ビルディング」（『新建築』6806）竣工から約50年間の東京都の都市史をまとめた1冊。本書では「都市建築」を「東京区部にあり、時代の公益的な思潮を切り拓く建築」と定義して、都市と建築の新しい関係を構築してきたプロジェクトを紹介。編著者の中には各プロジェクトに携わった実務者も多く、概要や解説だけでなく、設計に込めた都市建築に対する思想も語られる。霞が関ビルディングでは、公共空間が貧弱だった当時の社会背景を受け、建設委員会会長の氷室捷爾氏が掲げた「人間力の回復」という思想のもと、ビル前面の公開空地が計画された。それは後の都市計画法改正にも影響を与え、東京の都市空間の劇的な変容に繋がる。激しく変化してきたこの50年に既成概念を越えようとした都市建築からは、理想と現実がせめぎ合いながらも、いまだに変化し続ける都市空間の実情が読み取れる。(noc)

House / shop F

掲載：10-21頁

箱屋

代表・今回の現場監督　松本繁雄
規模　4名
所在地　**愛知県春日井市気噴町北1-32**
電話番号　0568-58-2263
http://www.hacoya.net
最近施工した作品
「大幸の舎」服部信康（本誌2109）
「大高の家」谷尻誠＋吉田愛＋岩竹俊範（本誌2104）

COMMENT

愛知県でこれまでも建築家と協働されています。監督の松本さんには設計時から相談に乗っていただき、設計側の想いに真摯に向き合ってくださいました。また職人さんの技術も高く、難しい納まりや精度を求められる仕上げに対しても、細部まで丁寧に施工していただきました。松本さん、職人さん、スタッフの皆さんがチームとして熱心に取り組んでくださる姿勢には、厚い信頼をもって仕事をすることができました。（木村吉成＋松本尚子）

城の家

掲載：22-31頁

門西建築

代表　門西健二
規模　3名
所在地　**静岡県袋井市下山梨598-1**
電話番号　090-2577-8011

G-NEST

代表・今回の現場監督　佐藤琢磨
規模　3名
所在地　**静岡県沼津市東椎路456-1**
電話番号　055-924-7760

COMMENT

施工　経験豊富な佐藤琢磨氏の協力のもと、各業者との連携も素晴らしいよいチームでした。私のディテールに対する細かな要求に対しても前向きに考えてくださり、品質に対しては安心できる現場でした。また、最初から最後まで現場大工仕事を担当された濱田氏にも頭が上がりません。木の螺旋階段は濱田氏の秀作です。
工期　着工時は現場が四苦八苦しており遅れを取りましたが、現場監督や大工さんの頑張りのおかげで後半は円滑に進み、工程も最後は巻き返して、予定通り終えることができました。
コスト　建主や設計者の変更要望に対して柔軟にご対応いただきました。元請けの門西建築には苦労をかけたことと思います。金額は良心的な価格かと思います。
その他　今回、門西建築にG-NESTの佐藤氏が現場監督として途中加わっていただき、業者の方がたを交えて切磋琢磨してつくり上げました。特殊ディテールについても、日が暮れるまで話し合い細かなところまで誠実にご対応いただけました。門西建築代表の門西氏、G-NESTの佐藤氏の両者は今回初めてのコラボレーションでしたが、連携もうまくいき、おふたりの人柄のおかげでとても気持ちのよい現場となりました。（矢野健太／手塚建築研究所）

家と庭と代

掲載：32-41頁

コボットハウス

代表・今回の現場監督　小堀哲郎
規模　1名
所在地　**神奈川県藤沢市鵠沼橘2-5-11**
電話番号　0466-24-5585
https://www.kobbotto-house.com

COMMENT

奥まった敷地と母屋の老朽化によりかなりの難工事となりましたが、地元の腕の確かな職人さんとお付き合いされており、最後まで丁寧に施工していただきました。建築家との仕事もよくされている工務店で、こちらの提案する難しい納まりも時間を取って議論しながら進めることができました。（藤井愛／ムトカ建築事務所）

中目の旗竿

掲載：42-49頁

栄建

代表　酒井宜雅
今回の現場監督　酒井俊
規模　3名
所在地　**東京都板橋区弥生町5-7**
電話番号　03-5926-8535
http://www.ei-ken.co.jp/company
最近施工した作品
「ヤナカノイエ」比護結子＋和田七重（本誌2105）

COMMENT

施工　現場監督は経験豊かな方で設計者の意図を汲み取り、詳細までこだわってくださいました。また変更点も含めて柔軟に対応していただき、手間を惜しまず丁寧に施工してくださいました。
工期　現場での変更などを含め丁寧に対応していただきました。
コスト　適正価格で変更においても柔軟な対応をしていただきました。（大崎真幸／ SALHAUS）

下鴨の家

掲載：50-57頁

アートホーム

代表　乾賀弘
今回の現場監督　林正人
規模　9名
所在地　**京都府京都市下京区河原町通松原上る2丁目富永町356 sakuraビル5F**
電話番号　075-381-8772
https://www.arthome-kyoto.com

COMMENT

施工　設計者の意図を確認しながら、丁寧に進めていただいたと思います。木工事をはじめ、取り合いの難しい板金の加工や、木造の上に鉄骨のフレームを乗せる架構の重要な部分、サッシ回りなど、工事全般にわたり難しい納まりに常に前向きに取り組んでいただきました。（畑友洋）

大島の住居

掲載：66-75頁

川下建設

代表　川下征英
今回の現場監督　中山孝史
規模　8名
所在地　**愛媛県西条市新田215-1**
電話番号　0897-55-4147
https://www.kawashita.co.jp
最近施工した作品
「風と水と間の家」松田裕介＋池内健（本誌2003）

COMMENT

施工　新しいことへのチャレンジを前向きにとらえてくださる代表の川下さんと、難しい納まりを楽しみながら、設計者よりも繊細な目線で施工してくださる現場監督兼棟梁の中山さんがいたからこそ完成したプロジェクトでした。毎日のように現場写真を共有するだけでなく、3Dモデルと逐次比較しながら現場を進めてくださり、遠方でありながらもまったく距離を感じさせないやり取りを行うことができました。
コスト　建主や設計側の要望を深く汲んでくださり、度重なる設計変更にも根気強く付き合っていただきました。あらゆる局面で合理的かつ決して妥協のない提案をしていただき、コストを抑えながらも濃密な空間が実現できました。
その他　打合せの度に新しいアイデアが生まれる、創造的で楽しい現場でした。今回のプロジェクトではじめてお世話になりましたが、ぜひともまたご一緒したい工務店です。（島田陽）

塩屋の住居2

掲載：76-83頁

住倍

代表　堀内行治
今回の現場監督　前田亮太
規模　11名
所在地　**大阪府東大阪市大蓮北4-4-26**
電話番号　06-6727-5082
http://www.juki1001.co.jp
最近施工した作品
「武庫川の住居」島田陽（本誌2106）
「雲雀の住居」島田陽（本誌1802）
「譲葉山の住居」島田陽（本誌1604）

COMMENT

施工　前面道路は急斜面かつ車がすれ違えないほど狭い私道で、敷地内に重機が入れないという難工事敷地でしたが、快く引き受けて下さいました。小さな家ですが大工ふたり体制で、細かな納まりまで確認しながら進めていただき大変助かりました。
コスト　見積後の設計変更が度々ありながらも、毎度のコスト調整に真摯にご協力いただきました。（島田陽）

IBIS SENDAGAYA

掲載：84-91頁

大原工務所

代表　大原彰
今回の現場監督　菊池聡
規模　5名
所在地　**東京都新宿区須賀町13 大久保ビル2F**
電話番号　03-3351-9259
https://ooharakoumusyo.com
最近施工した作品
「Overlap House」平田晃久（本誌1809）
「Tree-ness House」平田晃久（本誌1712）

COMMENT

施工　複雑な形状や特殊な素材や納まりに対しても、設計意図を尊重しながら設計者と共に施工方法を検討下さり、そしてそれを精度高く施工して下さり、自分たちのような現場経験値の浅い設計者にとってはとても心強い工務店さんでした。
工期　工期を正確に見積もるのも難しいような建物でしたが、最大限尽力いただけたと思います。
コスト　工費の見積りも難しかったと思いますが、VEや変更なども含めて誠意ある対応をしていただけたと思います。
その他　難しい意匠のプロジェクトにも積極的にチャレンジする姿勢のおかげで、苦労をかけたとは思いますが気持ちよく協働することができました。（小室舞）

高脚楼

掲載：92-99頁

匠陽

代表　勝又忠夫
今回の現場監督　加藤勝
規模　15名
所在地　**東京都杉並区西荻北3-12-6**
電話番号　03-5303-0966
https://www.show-yo.com
最近施工した作品
「棚畑ハウス」平井充＋山口紗由（本誌2108）
「石神井台の家」野上真太郎（本誌2007）
「井の頭の家」佐久間徹（本誌1809）

COMMENT

施工　制作家具などもこなす優秀な専属大工を数人抱えているので自由度が高い。
工期　現場で変更など対応してもらいながらも契約工期通りに竣工。
コスト　適正価格でありながら融通がきく幅をもっている。
人材・人柄　担当者が設計出身のため設計者の求める意図との意思疎通がしやすい。（平井充＋山口紗由）

風越の家

掲載：100-107頁

新建築

代表　小林大悟
今回の現場監督　大井純司　三井勇人
所在地　**長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢東29-5**
電話番号　0267-42-7777
http://www.shinkenchiku.jp

COMMENT

施工　軽井沢の豊富な経験をもとに設計意図を汲んだ施工提案をしていただきました。特に長寿命建築を実現するための施工アドバイスを適時いただきました。
工期　短い工程を柔軟に組んでいただきました。
コスト　幾度もの増減にひとつひとつ誠実にご対応いただきました。
その他　社長はじめ、社員一同「一期一会」という言葉がぴったりの施工会社さんです。（加藤匡毅）

IsechoNEST

掲載：108-115頁

昭和未来

代表　平石文雄
今回の現場監督　平石文雄　濵田翼
規模　10名
所在地　**東京都小金井市本町2-8-27**
電話番号　042-385-8819
http://www.shouwamiki.co.jp

COMMENT

度々お世話になっている工務店さんですが、いつも良心的で誠実な施工をしていただいています。職人さんもとても誠実な方ばかりで、設計も含めてみんなでコミュニケーションを取りながら進められたことに大変感謝しています。超えなければいけないハードルが多くありましたが、昭和未来さんの尽力により完成することができたことはいうまでもありません。難しいことにも一緒に挑戦していただいて、本当に感謝しています。（宇津木喬行＋高橋良弘）

SUGAR CUBE

掲載：116-123頁

内田産業

代表　内田嘉哉
規模　46名
所在地　**埼玉県川越市小ケ谷253**
電話番号　049-242-0650
http://www.uchida-sangyou.co.jp

COMMENT

はじめてお付き合いさせていただく施工会社さんでしたが、担当の相川さんがとても丁寧に対応してくださり、厳しい予算でありながら実現に導いてくださいました。現場は若い監督さんで、一生懸命な姿にとても好感がもて、話し合いながら現場を進めていくことができました。次回もお願いしたいと思う監督さんです。社長さんをはじめ、皆さんがとてもきめ細やかな対応をしてくださり、安心して竣工まで迎えられました。（保坂恵／保坂猛建築都市設計事務所）

四畳半キューブの家

掲載：124-131頁

トータルトーク

代表・今回の現場監督　片山浩司
規模　6名
所在地　**大阪府大阪市生野区巽東1-5-13**
電話番号　**06-6758-0954**
http://www.total-talk.jp
最近施工した作品
「Lの敷地の住宅」奥和田健（本誌2004）

COMMENT

経験豊富で仕事熱心な現場監督でした。コスト・工期を考慮しながら設計者の意図を読み取り、とても丁寧な仕事をしていただきました。
（濱田猛）

垂井の森の2世帯住居

掲載：132-139頁

安田建設工業

代表　安田知永
今回の現場監督　河野真也
規模　11名
所在地　**岐阜県岐阜市薮田東1-5-29**
電話番号　**058-273-3173**
https://gifu-yasuda.co.jp
最近施工した作品
「HINO1」武藤圭太郎（本誌1907）
「GFU」新関謙一郎（本誌1401）
「各務原の家」森清敏＋川村奈津子　名和研二（本誌0512）

COMMENT

施工　軸組が複雑な木造建築でしたが、精度よく施工していただけました。各下請業者さんもとても協力的でした。
コスト　見積もり後のコストの調整にも協力的でした。
（武藤圭太郎）

畠の家

掲載：140-145頁

相崎工務店

代表・今回の現場監督　相崎高志
規模　2名
所在地　**群馬県渋川市中村695**
電話番号　**0279-22-2088**

COMMENT

施工　代表、担当大工共に木造に対する幅広い知識と経験があり、非常に安心して工事を任せることができた。
コスト　材料ひとつひとつまで丁寧に積算されており、コストの透明性を図りながら、見積りから現場まで一貫して無駄がない進行をされている。
人柄　建築が好きという思いが軸にあり、また頼みたいと思う。
（植田開）

IN BETWEEN

掲載：146-155頁

渡辺富工務店

代表　渡辺暁
今回の現場監督　伊藤進
規模　40名
所在地　**東京都新宿区山吹町343**
電話番号　**03-3269-1261**
http://www.watanabetomi.co.jp
最近施工した作品
「Apartmentふじ」泉幸甫（『新建築』2102）
「出窓の塔居」藤貴彰＋藤悠子（本誌2012）
「柳小路南角」三井嶺（『新建築』1909）

COMMENT

施工　打設時に通常の倍の200Vのインバーターを使い、通常より太いバイブレーターで再振動を行ったコンクリートは、1年半経ってもまったく収縮クラックが発生しないという目覚ましい成果を得た。また内装工事では自社の訓練校で養成された棟梁が担当し、非常に高いレベルでの成果が得られました。
工期　諸般の事情から遅れは出たが、最後まで誠実にプロジェクトを完遂していただいたことを高く評価したい。
コスト　契約書に従い、誠実に遂行していただいた。
（矢板久明＋矢板直子）

ARCHITECTS 建築家プロフィール

建築家情報
1. 今後予定しているプロジェクトや展覧会、講演会などの情報／ 2. Facebook、TwitterなどのURL
※1の作品名、竣工時期、展覧会、講演会情報は本誌発売時点での予定となります。

2点撮影：YOSUKE OHTAKE

木村吉成（きむら・よしなり）　**松本尚子**（まつもと・なおこ）
（木村吉成・上）1973年和歌山県生まれ／ 1996年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業（根岸一之に師事）／狩野忠正建築研究所を経て、2003年木村松本建築設計事務所を設立／現在、大阪芸術大学芸術学部建築学科准教授
（松本尚子・下）1975年京都府生まれ／ 1997年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業（根岸一之に師事）／ 2003年木村松本建築設計事務所を設立／現在、大阪市立大学、大阪市立大学大学院、京都芸術大学非常勤講師

2008年「三人の作家のためのアトリエと住宅」でSDレビュー入賞／ 2015年「Nの住宅地の住宅」（本誌1505）でJIA東海住宅建築賞大賞受賞／ 2016年「ハイツYの修理」（本誌1702）でCSデザイン賞グランプリ受賞／ 2018年「houseT / salonT」（本誌1609）で第33回吉岡賞受賞／「houseA / shopB」（本誌1701）で2018年第12回関西建築家新人賞、2019年第7回京都建築賞藤井厚二賞受賞

▼建築家情報
1.「house H / studio H 」（京都府京都市／ 2021年）

木村松本建築設計事務所　〒603-8346 京都府京都市北区等持院北町58-1　tel. & fax. 075-748-1934
kimura@kmrmtmt.com　http://www.kmrmtmt.com

手塚貴晴（てづか・たかはる）　**手塚由比**（てづか・ゆい）
（手塚貴晴・左）1964年東京都生まれ／ 1987年武蔵工業大学卒業／ 1990年ペンシルバニア大学大学院修了／ 1990〜94年リチャード・ロジャース・パートナーシップ・ロンドン／ 1994年手塚由比と手塚建築研究所を共同設立／ 1996〜2003年武蔵工業大学専任講師／ 2003年〜武蔵工業大学准教授／ 2005〜06年ザルツブルグ・サマーアカデミー教授／ 2006年UCバークレー客員教授／現在、東京都市大学教授
（手塚由比・右）1969年神奈川県生まれ／ 1992年武蔵工業大学卒業／ 1992〜93年ロンドン大学バートレット校（ロン・ヘロンに師事）／ 1994年手塚貴晴と手塚建築研究所を共同設立／ 1999年〜東洋大学非常勤講師／ 2001年〜東海大学非常勤講師／ 2006年ザルツブルグ・サマーアカデミー教授、UCバークレー客員教授

2000年「鎌倉山の家」（本誌9911）で東京建築士会住宅建築賞受賞／「屋根の家」（本誌0108）で2002年度JIA新人賞受賞、2003年日本建築学会作品選奨／「ふじようちえん」（『新建築』0705）で2008年日本建築学会賞、2009年日本建築家協会賞受賞、2011年OECD/CELEによる世界でもっとも優れた教育施設に選定／ 2013年「Ring Around a Tree」でグッドデザイン金賞受賞、日本建築学会作品選奨／ 2014年「茅ヶ崎シオン・キリスト教会／聖鳩幼稚園」でグッドデザイン賞、Iconic Awards Architecture受賞／ 2017年「あさひ幼稚園」（『新建築』1210）でこども環境学会デザイン賞受賞／主な著書に『手塚貴晴＋手塚由比　建築カタログ』（2006年、TOTO出版）『手塚貴晴＋手塚由比　建築カタログ2』（2009年、TOTO出版）『手塚貴晴の手で描くパース』（2009年、彰国社）『やねのいえ』（2014年、平凡社）『手塚貴晴＋手塚由比　建築カタログ3』（2015年、TOTO出版）ほか

▼建築家情報
1.「M邸」（長野県北佐久郡軽井沢町／ 2021年）
2. Facebook：http://www.facebook.com/tezuka.arch

手塚建築研究所　〒158-0082 東京都世田谷区等々力1-19-9 3F　tel. 03-3703-7056　fax. 03-3703-7038
tez@sepia.ocn.ne.jp　http://www.tezuka-arch.com

村山徹（むらやま・とおる）　**加藤亜矢子**（かとう・あやこ）
（村山徹・上）1978年大阪府生まれ／ 2004年神戸芸術工科大学大学院修士課程修了／ 2004〜12年青木淳建築計画事務所／ 2010年ムトカ建築事務所共同設立／現在、関東学院大学研究助手
（加藤亜矢子・下）1977年神奈川県生まれ／ 2004年大阪市立大学大学院前期博士課程修了／ 2004〜08年山本理顕設計工場／ 2010年ムトカ建築事務所共同設立／ 2020年博士（学術）／現在、奈良女子大学准教授

2016年「ペインターハウス」（本誌1506）で東京建築士会住宅建築賞2016住宅建築賞受賞／ 2017年「小山登美夫ギャラリー」（『新建築』1706）で3M施工事例コンテスト2017入選／「天井の楕円」（本誌1902）で2020年住まいの環境デザインアワード2020優秀賞、2020年グッドデザイン賞2020受賞／ 2020年「サステイナブル・ラーニング・ハウス」でawa臨港プロジェクト入賞

▼建築家情報
1.「根津の住宅」（東京都文京区／ 2022年）「日田の住宅」（大分県日田市／ 2022年）

ムトカ建築事務所　〒222-0011 神奈川県横浜市港北区菊名2-18-24-103［スタジオ］・302［オフィス］　tel. 045-642-3377
info@mtka.jp　http://www.mtka.jp

安原幹（やすはら・もとき）　**日野雅司**（ひの・まさし）　**栃澤麻利**（とちざわ・まり）
（安原幹・左）1972年大阪府生まれ／1998年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了／1998～2007年山本理顕設計工場／2008年～SALHAUS共同主宰／2011～18年東京理科大学准教授／2018年～東京大学准教授
（日野雅司・右）1973年兵庫県生まれ／1998年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了／1998～2005年山本理顕設計工場／2007～10年横浜国立大学建築都市スクールY-GSA設計助手／2008年～SALHAUS共同主宰／2017年～東京電機大学准教授
（栃澤麻利・中）1974年埼玉県生まれ／1999年東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了／1999～2006年山本理顕設計工場／2008年～SALHAUS共同主宰／現在、東京電機大学、芝浦工業大学、東京理科大学非常勤講師、法政大学兼任講師

「群馬県農業技術センター」（『新建築』1305）で2014年BCS賞受賞、2015年日本建築学会作品選奨／2014年「西麻布の集合住宅」（『新建築』1402）で東京建築士会住宅建築賞受賞／「陸前高田市立高田東中学校」（『新建築』1704）で2017年グッドデザイン賞金賞、2019年日本建築学会作品選奨、2021年東北建築大賞大賞受賞／「大船渡消防署住田分署」（『新建築』1810）で2020年日本建築学会作品選奨、2021年東北建築大賞大賞受賞

▼建築家情報

1. 「学芸大学テラス」（東京都世田谷区／2021年）「神田三崎町のビル」（東京都千代田区／2021年）

SALHAUS　〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-2-1　tel. 03-5577-3242　fax. 03-5577-3243
info@salhaus.com　http://salhaus.com

畑友洋（はた・ともひろ）
1978年兵庫県生まれ／2003年京都大学大学院工学研究科修了／2003～04年高松伸建築設計事務所／2005年畑友洋建築設計事務所設立／現在、神戸芸術工科大学准教授／2015年「BELLY HOUSE」で第3回京都建築賞優秀賞受賞／「元斜面の家」（本誌1612）で2016年第60回大阪府建築士会大阪建築コンクール渡辺節賞、2017年日本建築学会作品選集新人賞受賞／2017年「三宮プラッツ整備委託業務プロポーザル」で最優秀賞／2018年「舞多聞の家」（本誌1806）で第2回日本建築設計学会賞受賞／2020年「JR灘駅前広場（南北）設計業務公募型プロポーザル」で最優秀賞（E-DESIGN、モビリティデザイン工房と共同）

▼建築家情報

1. 「篠原の家」（兵庫県／2021年）「箕面の家」（大阪府／2022年）
2. Facebook：http://www.facebook.com/tomohiro.hata.927　Twitter：http:// twitter.com/TOMOHIROHATA

畑友洋建築設計事務所　〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜1-4 デザイン・クリエイティブセンター神戸201　tel. 078-599-9035
office@hata-archi.com　http:// www.hata-archi.com

メラニー・ヘレスバック　セバスチャン・ルノー
（メラニー・ヘレスバック・左）1989年フランス生まれ／2013年Nancy Architecture School（フランス）卒業
（セバスチャン・ルノー・右）1982年フランス生まれ／2006年Nancy Architecture School（フランス）卒業

▼建築家情報

1. 「2m26 Keihoku House」（京都府／2021年）「ツール・ボックス・プロジェクト（仮）」デザイン・ワークショップ開催（広島市現代美術館／2023年3月リニューアルオープン予定）
2. Facebook：https://www.facebook.com/deudeuxmetresvingtsix　Instagram：https://www.instagram.com/deuxmetresvingtsix/?hl=ja

2m26　〒616-8065 京都府京都市右京区太秦安井西裏町5-3
mail@2m26.com　http://2m26.com

島田陽（しまだ・よう）
1972年兵庫県生まれ／1995年京都市立芸術大学美術学部環境デザイン学科卒業／1997年同大学大学院修士課程修了／1997年タトアーキテクツ／島田陽建築設計事務所設立／現在、京都市立芸術大学准教授、京都芸術大学客員教授、神戸大学、神戸芸術工科大学非常勤講師／2013年「六甲の住居」（本誌1202）でLIXILデザインコンテスト2012金賞、第29回吉岡賞受賞／2013年「山崎町の住居」（本誌1209）でAsia Pacific 2013 Award Architecture Single Residence Highly Commended／2016年「石切の住居」（本誌1306）で日本建築設計学会賞大賞受賞／2016年「ハミルトンの住居」（本誌1701）でAIA Brisbane Regional Awards House of the Year Award、2016 Queensland State Architecture Awards State Award、AIA National Architecture Awards National Commendation／2018年「宮本町の住居」（本誌1707）でDezeen Awards 2018 House of the Year受賞／主な著書に『7iP #04 YO SHIMADA』（2012年、ニューハウス出版）『現代建築家コンセプト・シリーズVol.22 日常の設計の日常』（2016年、LIXIL出版）

▼建築家情報

1. 「少路の住居」（大阪府／2021年）「鎌倉の住居」（神奈川県／2022年）「白川の住居」（兵庫県／2022年）
2. Twitter：https://twitter.com/youshimada　Facebook：https://www.facebook.com/shimada.yo

タトアーキテクツ　〒650-0002 兵庫県神戸市中央区北野町2-13-23　tel. 078-891-6382　fax. 078-891-6620
info@tat-o.com　http://tat-o.com

小室舞（こむろ・まい）
1983年大阪生まれ、神戸育ち／2005年京都大学工学部建築学科卒業／2006～07年スイス連邦工科大学チューリッヒ校留学／2008年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了／2008～17年Herzog & de Meuronバーゼル事務所（2014年よりアソシエイト）／2009～10年スイス連邦工科大学チューリッヒ校千葉学スタジオ助手／2014～17年Herzog & de Meuron香港事務所／2018年香港と東京にKOMPAS一級建築士事務所設立

▼建築家情報

1. 「西治プロジェクト」（千葉県船橋市／2021年）
2. Twitter：https://twitter.com/komumai_KOMPAS　Facebook：https://www.facebook.com/KOMPASarch

KOMPAS JAPAN　〒104-0041 東京都中央区新富町1-19-7　tel. 050-5326-7919
info@kompas-arch.com　https://kompas-arch.com

平井充（ひらい・みつる）　**山口紗由**（やまぐち・さゆ）
（平井充・上）1974年北海道生まれ／ 2004年工学院大学卒業／ 2009年工学院大学大学院博士課程満期退学／ 2009年Drawing notes設立／ 2015年メグロ建築研究所に改組／現在、実践女子大学非常勤講師、京都工芸繊維大学ヘリテージ・アーキテクト養成講座講師、DOCOMOMO Japan理事／主な論文に「Progress Report on the Musashi-Ranzan Country Club Clubhouse Conservation and Repair Work」（『do.co.mo.mo Journal 52』、2015年、docomomo International）
（山口紗由・下）1985年東京都生まれ／ 2008年日本女子大学卒業／ 2010年同大学大学院修士課程修了／ 2009年Drawing notes設立／ 2015年メグロ建築研究所に改組／現在、東海大学非常勤講師／主な著書に『住まいの百科事典』（共著、2021年、丸善出版）

「重箱ハウス」で2019年グッドデザイン賞、2019年Design for Asia Awards Merit Award受賞、2020年日本建築家協会優秀建築選100選／「嵐山カントリークラブクラブハウス」で2020年日本建築家協会優秀建築選100選、2021年第30回BELCA賞（ベストリフォーム部門）受賞／ 2021年「福山東警察署駅前交番庁舎プロポーザル」で最優秀者

▼建築家情報
1.「嵐山CCクラブハウス改修工事（I）」（埼玉県比企郡／ 2022年）「福山東警察署駅前交番庁舎」（広島県福山市/2023年）
2. Facebook：https://www.facebook.com/drawingnotes　Insragram：https://www.instagram.com/meguroarchitecturelaboratory

メグロ建築研究所　〒153-0064 東京都目黒区下目黒5-3-12 FUJIMORI目黒ビル3F　tel. 03-6451-0722　fax. 03-6451-0724
info@meglab.jp　http://meglab.jp

加藤匡毅（かとう・まさき）
1973年大阪府生まれ／ 1995年工学院大学工学部建築学科卒業／隈研吾建築都市設計事務所、IDÉEなどを経て、2012年Puddle設立／ 2008年宇宙エレベーター デザインコンペ最優秀賞、特別賞受賞／ 2009年「博報堂ケトル オフィス」でグッドデザイン賞受賞／ 2016年 “キッチンで暮らす” 施工事例コンテスト金賞受賞／主な著書に「カフェの空間学 世界のデザイン手法」（2019年、学芸出版社）

▼建築家情報
1.「中国成都駐車場プロジェクト」（中国、成都／ 2022年）「軽井沢のホテルプロジェクト」（長野県北佐久郡軽井沢町／ 2023年）
2. Facebook：https://www.facebook.com/masaki.kato.357　Instagram：https://www.instagram.com/puddle_masakikato

Puddle　〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町14-7
office@puddle.co.jp　http://puddle.co.jp

宇津木喬行（うつぎ・たかゆき）　**高橋良弘**（たかはし・よしひろ）
（宇津木喬行・上）1982年群馬県生まれ／東京電機大学工学部建築学科卒業／武蔵工業大学（現・東京都市大学）大学院修士課程修了／ 2007～12年冨川浩史建築設計事務所勤務／ 2012年建築ウツギ設計設立／ 2020年333architectsに改組
（高橋良弘・下）1983年東京都生まれ／武蔵工業大学（現・東京都市大学）大学院修士課程修了／ 2007～19年山下設計勤務／ 2019年kenma入社／ 2020年より333architectsに参画

「IsechoNEST」（本誌108頁）で2020年グッドデザイン賞、第9回大東建託賃貸住宅コンペ新たな賃貸スタイル部門審査委員特別賞受賞、JIA優秀建築選2020

▼建築家情報
1.「KIYOSUMI HOUSE」（東京都江東区／ 2021年）「本郷台の家」（神奈川県横浜市／ 2022年）
2. Instagram（333architects）：https://www.instagram.com/333architects　Insragram（MY NEST）：https://www.instagram.com/my_nest.ig

333architects　〒220-0045 神奈川県横浜市西区伊勢町3-133-32　tel. 045-315-6740　fax. 054-315-6741
tkutsugi@gmail.com　https://www.utg-a.com

保坂猛（ほさか・たけし）
1975年山梨県生まれ／ 1999年横浜国立大学工学部建設学科建築学コース卒業／ 2001年同大学大学院修士課程修了／ 1999～2003年建築設計SPEED STUDIO共同設立、主宰／ 2004年保坂猛建築都市設計事務所設立／ 2004～15年国士舘大学非常勤講師／ 2010～15年法政大学非常勤講師／ 2012～15年横浜国立大学非常勤講師／ 2013～15年東京理科大学非常勤講師／ 2014～15年早稲田大学芸術学校非常勤講師／ 2014～15年工学院大学非常勤講師／ 2015年～広島工業大学大学非常勤講師／ 2015年～早稲田大学芸術学校准教授／ 2016年横浜から新宿に事務所移転／「LOVE HOUSE」（本誌0601）で2008年東京建築士会住宅建築賞受賞ほか／「ほうとう不動」（『新建築』1003）で2010年AR Awardほか受賞／「DAYLIGHT HOUSE」（本誌1203）で2013年JIA新人賞受賞ほか／「湘南キリスト教会」（『新建築』1409）で2015年神奈川建築コンクール優秀賞受賞ほか／「名古屋のコートハウス」（本誌1608）で2016年中部建築賞受賞ほか

▼建築家情報
1.「いすみの別荘」（千葉県／ 2022年）「S邸」（東京都／ 2022年）「つくばの住宅＋cafe」（茨城県／ 2022年）
2. Facebook：http://www.facebook.com/takeshi.hosaka.9　Instagram：https://www.instagram.com/takeshi_hosaka_official/

保坂猛建築都市設計事務所　〒162-0801 東京都新宿区山吹町358 小磯大竹ビル202　tel. 03-5946-8909
info@hosakatakeshi.com　http://www.hosakatakeshi.com

濱田猛（はまだ・たけし）
1975年大阪府生まれ／ 1998年法政大学工学部卒業／ 2003年京都工芸繊維大学大学院博士前期課程修了／ 2003年コンパス建築工房／ 2006年濱田設計測量事務所／ 2010年HAMADA DESIGN開設／現在、京都工芸繊維大学、摂南大学、京都芸術大学、大阪電気通信大学非常勤講師／ 2014年「AKAビル」で 第3回リフォームリノベーションコンクール大阪府知事賞受賞／「四畳半キューブの家」（本誌124頁）で2019年アイカ施工例コンテスト最優秀賞、2020年グッドデザイン賞受賞

▼建築家情報
1.「丘上の平屋」（滋賀県甲賀市／ 2021年）
2. Instagram：https://www.instagram.com/hamadadesign0523

HAMADA DESIGN　〒572-0848 大阪府寝屋川市秦町1-3　tel. 072-823-7935　fax. 072-825-1287
info@hamada-design.com　https://hamada-design.com

武藤圭太郎（むとう・けいたろう）
1979年岐阜県生まれ／ 2002年明治大学理工学部建築学科卒業／ 2004年明治大学大学院理工学研究科建築学専攻修了／ 2010年武藤圭太郎建築設計事務所設立／現在、大同大学非常勤講師／ 2013年北方町新庁舎建築設計プロポーザル（C＋Aと共同）で最優秀賞受賞／ 2017年「北方町庁舎」（『新建築』1705）で中部建築賞入賞／ 2017年「HINO1」（本誌1907）で中部建築賞受賞／ 2018年「HINO2」（本誌1908）で岐阜市景観賞受賞／ 2018年「GODO 神戸町の平屋」で中部建築賞受賞

▼建築家情報
1.「名古屋市の住宅」（愛知県名古屋市／ 2022年）「岐阜市の住宅」（岐阜県岐阜市／ 2022年）「馬喰一代長良本家」（岐阜県岐阜市／ 2022年）
2. Instagram：https://www.instagram.com/keitaro_muto

武藤圭太郎建築設計事務所　〒500-8069 岐阜県岐阜市今小町29　tel. 058-215-7272　fax. 058-264-2013
keitaromuto@gmail.com　http://mut-archi.com

植田開（うえだ・はるき）
1983年広島県／2007年広島工業大学大学院村上徹研究室修了／2007～10年佐藤光彦建築設計事務所／2010～14年ゼロワンオフィス／2015年steam設立
▼建築家情報
1.「豊島の住宅」（東京都北区／2022年）「鎌倉の住宅」（神奈川県鎌倉市／2022年）「麻布アパートメント」（東京都港区／2023年）「川崎保育園」（神奈川県川崎市／2023年）
2. Twitter：https://twitter.com/steamInc_hu　Facebook：https://www.facebook.com/hh.ueda

steam　〒114-0032 東京都北区中十条2-17-3 まりも荘1F　tel. 03-5948-9620　fax. 03-6730-3643
info@steaminc.jp　http://steaminc.jp

撮影：川辺明伸

矢板久明（やいた・ひさあき）　**矢板直子**（やいた・なおこ）
（矢板久明・左）1955年生まれ／1982年東京大学大学院修士課程修了（廣部研究室）／1982～93年谷口建築設計研究所／1994年矢板久明建築設計研究所設立／2004年～矢板直子と共同主宰／2005年矢板建築設計研究所に改組／現在、工学院大学非常勤講師
（矢板直子・右）1958年生まれ／1982年日本女子大学家政学部住居学科卒業／1982～2002年アーキブレーン建築研究所／2002年内田直子建築研究所設立／2005年～矢板建築設計研究所共同主宰

「ケアハウス・リバティーガーデン」（『新建築』9908）で1999年彩の国さいたま景観賞、1999年越谷市建築景観賞受賞／「PATIO」（本誌1207）で2013年第25回日本建築家協会新人賞、2013年第39回東京建築賞優秀賞、2016年THE AMERICAN ARCHITECTURE PRIZE 2016 GOLD PRIZE受賞／2017 年「南軽井沢の家」（本誌9401）でJIA25年建築選入選

矢板建築設計研究所　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-59-4-407　tel. 03-5775-7217　fax. 03-5775-7218
mail@yaita-associates.com　http://www.yaita-associates.com

執筆者

伏見唯（ふしみ・ゆい）
1982年東京都生まれ／早稲田大学大学院修士課程修了後、新建築社、同大学院博士後期課程を経て、2014年伏見編集室を設立／『TOTO通信』などの編集制作を手掛ける／博士（工学）／主な著書に『木砕之注文』（共編著、2013年、中央公論美術出版）、『世界建築史論集』（共編著、2015年、中央公論美術出版）、『日本の住宅遺産 名作を住み継ぐ』（2019年、世界文化社）

満田衛資（みつだ・えいすけ）
撮影：Tomomi Takano
1972年京都府生まれ／1997年京都大学工学部卒業／1999年京都大学大学院工学研究科修士課程修了／1999年佐々木睦朗構造計画研究所／2006年満田衛資構造計画研究所設立／2014年京都大学大学院博士後期課程修了博士（工学）／2018年京都工芸繊維大学教授／2011年「中川政七商店新社屋」（吉村靖孝建築設計事務所、『新建築』1005）でJSCA賞新人賞受賞／2013年「大阪府立春日丘高等学校創立100周年記念会館」（井下仁史）で日本構造デザイン賞受賞／2016年「House of Kyoto」（本誌1401）で京都建築賞藤井厚二賞受賞／2019年「関西大学第4学舎1号館改修および増築」（佐藤総合計画）で日本免震構造協会業績賞受賞

清水靖真（しみず・やすまさ）
1980年広島県生まれ／2002年横浜国立大学卒業／2005年同大学院修士課程修了／2005～14年 TIS & PARTNERS勤務／2015年S WORKS設立／2018年～清水構造計画に改組／2021年～東京構造設計事務所協会（ASDO）理事

萬田隆（まんだ・たかし）
1971年東京都生まれ／1999年京都大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了／1999～2005年オーク構造設計／2005年tmsd萬田隆構造設計事務所設立／現在、神戸芸術工科大学環境デザイン学科准教授

川勝真一（かわかつ・しんいち）
1983年兵庫県生まれ／2005年京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業／2008年同大学院工芸科学研究科博士後期課程単位取得退学／2008年～RAD／現在建築リサーチャーとして、建築に関する展覧会のキュレーションや出版、市民参加型の改修ワークショップの企画運営、レクチャーイベントの実施、行政への都市利用提案などの実践を通じ、建築と社会の関わり方、そして建築家の役割についてのリサーチを行う。

乾久美子（いぬい・くみこ）
1992年東京藝術大学美術学部建築科卒業／1996年イェール大学大学院建築学部修了／1996～2000年青木淳建築計画事務所勤務／2000年乾久美子建築設計事務所設立／2011～16年東京藝術大学美術学部建築科准教授／2016年～横浜国立大学大学院Y-GSA教授

石上純也（いしがみ・じゅんや）
1974年神奈川県生まれ／2000年東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了／2000～04年妹島和世建築設計事務所勤務／2004年石上純也建築設計事務所設立／2010～12年東北大学大学院特任准教授／2014年ハーバード大学デザイン大学院客員教授／2015年プリンストン大学大学院客員教授／2016年メンドリジオ建築アカデミー客員教授／2017年オスロ大学大学院客員教授／2017年コロンビア大学大学院客員教授

長谷川豪（はせがわ・ごう）
1977年埼玉県生まれ／2002年東京工業大学大学院修士課程修了後、西沢大良建築設計事務所勤務／2005年長谷川豪建築設計事務所設立／2015年東京工業大学大学院博士課程修了（工学博士）／2009～11年東京工業大学非常勤講師／2012～14年メンドリジオ建築アカデミー客員教授／2014年オスロ建築デザイン大学客員教授／2016年カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）客員教授／2017年、2019年ハーバード大学デザイン大学院（GSD）客員教授

能作文徳（のうさく・ふみのり）
本誌アドバイザー／1982年富山県生まれ／2005年東京工業大学工学部建築学科卒業／2007年東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了／2010年能作文徳建築設計事務所設立／2012年東京工業大学博士（工学）学位取得／2012～18年東京工業大学大学院環境・社会理工学院建築学系助教／2018～21年東京電機大学未来科学部建築学科准教授／2021年～東京都立大学都市環境学部建築学科准教授

◎訂正
2021年7月号148～155頁「間無有」において、実際は2階の天井が張られているところ、天井が張られる前の状態の写真が掲載されておりました。また、同号155頁の断面図において、「こもり場」の梁下高さの表記に誤りがありました。
正：「1,160mm」
誤：「1,579mm」
訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

毎月編集の途中で、同じ大きな課題にぶつかります。それが特集タイトルの付け方です。特集タイトルとは、その特集が何であるか端的に示す、いわば毎号の看板。しかし同時にそれは、読者へ、そして掲載する建築家への投げかけと言ってよいかもしれません。つまり毎月の特集タイトルは、集まった作品を中心に浮かび上がったこれからの住宅が思考すべきことを仮説として打ち立て、「みなさんどう思いますか?」と問いかけるものだという意識をもっています。そこに、毎月頭を悩ませることが最近特に多くなりました。それはおそらく、単純な括りではおさまらないほど、住宅を取り巻く背景が複雑で深度をもったこと、また建築家の創意やそのあり方も多様になったことが起因していると思います。
例えば、先月号のタイトル「山の家・海の家——どこでどう生きるか」は、この思い切った副題に本当にこれでよいか悩みました。昨年まで長年「別荘」と用途を掲げていたタイトルをやめて、「山の家・海の家」と建っている環境に着目したタイトルにしたものですが、これは別荘という、週末や季節のよい時に楽しむものというよりも、もっと切実に、移住や多拠点居住など、その地に根ざした生き方が現実に多く見えてきたことによるものでした。編集当初は副題を、「どこに住んでどう暮らすか」としていたものを、それぞれの建築家とつくったページが完成して集まると、もっと根源的な回答が見えてきて「どこでどう生きるか」という問いかけの方が相応しいと変わっていきました。このメッセージがどのように伝わるか、その決定は編集の重要な場面として、この雑誌に関わる多くの人から紡がれるものです。
今月号は「風が抜ける家——外に居場所を生むテラス」と名付けました。「風が抜ける家」。今ほどこの言葉通りの家を求める時代はあったでしょうか。どこにいても風が通るかを確かめて自分や大事な人の命と健康を守るようになったことと同時に、外に居場所を求めてそこでさまざまに楽しむことを多くの人が覚えました。扉や窓を大きく開いてより外側に家の重心を置いたと言えると思います。その代表格、外の居場所を生むテラスを特集しました。目に見えない不確かなものにこそ今向かい合うべきではないかという仮説を立てた特集タイトルです。どう感じられたか、ご意見をお待ちしています。　（A）

LVLスギ材に対応する筋交金物「JWブレースプレート」
カナイ

設計価格：484円／個（税込）。

木造住宅をはじめとする建築金物を製造・販売する（株）カナイは、LVLスギ材対応の筋交金物「JWブレースプレート」を発売。近年のウッドショックの影響から、構造材としてLVL需要が高まる中LVLを筋交材として使用したいというニーズを受け開発された。壁倍率2倍の筋交（45×90mm以上）に使用する2点留めの筋交金物で、JAS構造材のLVLスギ材を用いて性能試験を実施している。

（株）カナイ
tel:048-924-1131
www.kana-e.co.jp

ワンプライスで11種類のキッチンレイアウトへリニューアル
GRAFTEKT

「ポポラート アイランド」イメージ（カラー：ノッティホワイト）。

GRAFTEKT（グラフテクト）は、11種類のキッチンレイアウトをすべて935,000円（税込）のワンプライスへとリニューアルした。木の節目を活かした凹凸感のあるノッティブラウン、ナチュラル、ホワイト、落ち着きのあるオニキスグレーの4色が新しくラインナップし、8色展開となる。また、新しいキッチンレイアウト「ウェスタ アイランド」や、キッチンのダイニング収納等のオプションも追加。

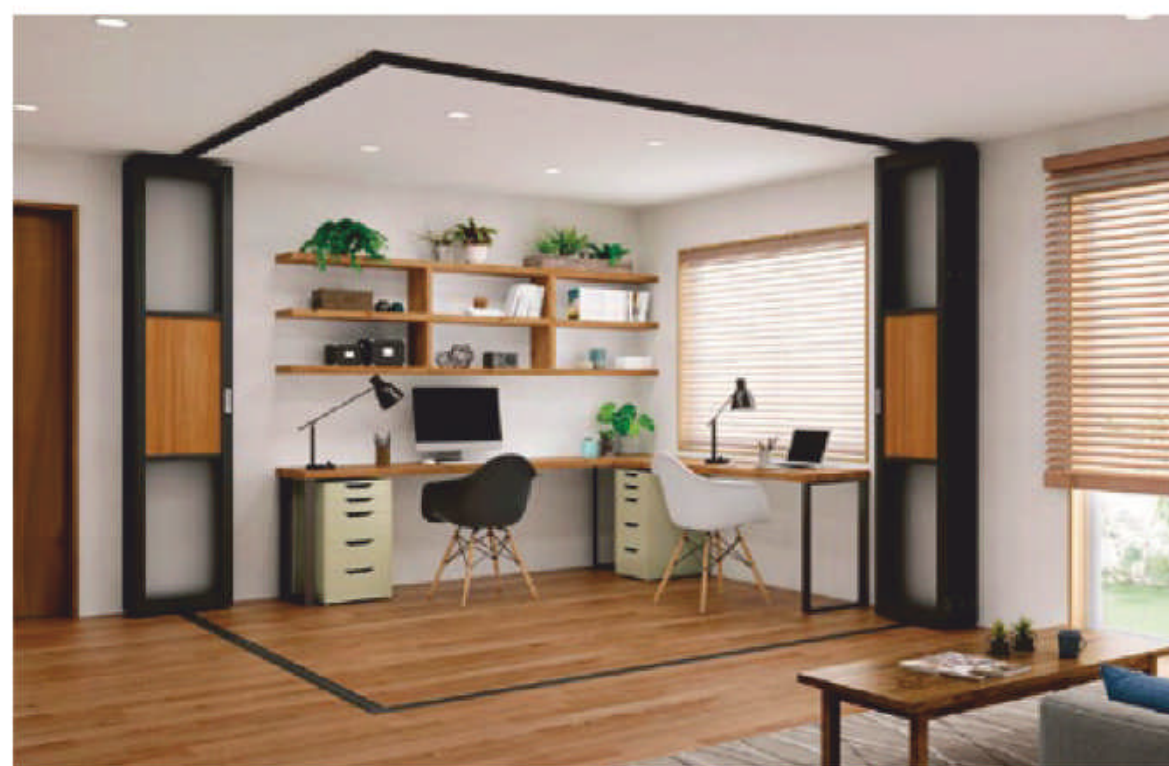
GRAFTEKT
tel:0570-001-153
http://www.graftekt.jp

フィリップ・スタルクによるラインナップ発表
デュラビット・ジャパン

製品イメージ。国内販売時期は未定。

ドイツ製デザイナーズバスルームブランドDuravit（デュラビッド）は、フィリップ・スタルクによる初のコンプリートバスルームシリーズ「White Tulip by Starck（ホワイトチューリップ バイ スタルク）」を発表。チューリップを彷彿とさせるオーガニックなシルエットが特徴のフリースタンディングの洗面ボウルやバスタブ、トイレ、ファニチャーとミラー、水栓レンジ等をラインナップ。

デュラビット・ジャパン（株）
tel:03-5428-4605
https://www.duravit.co.jp

間仕切「プレイス」「プレイス スウィング」機能拡充
立川ブラインド工業

部屋の一角をL字に仕切るコーナー納まり（オプション）の施工イメージ。間仕切「プレイス」（格納方式：折戸+出入りの方法：引戸）。

立川ブラインド工業（株）は、間仕切「プレイス」と「プレイス スウィング」の機能と納まりを拡充。部屋の仕切りや収納の目隠し、出入口の扉等に使用できる間仕切り製品で、今回、安全性を向上させたソフトクローズ機能、壁面の下地を利用した施工が可能なアウトセット納まり（正面付け）、和紙調採光窓に3色の新デザインを追加等、5つの機能を拡充し、快適な住環境の実現を提案。

立川ブラインド工業（株）
tel:0120-937-958（フリーコール）
https://www.blind.co.jp

ミニマルな楕円形のペンダントライト「パテラ オーバル」
ルイスポールセンジャパン

価格：137,500円（税込）。

ルイスポールセンは、デンマークのデザイナー、オイヴィン・スロットによる照明シリーズ「パテラ」の新デザイン「パテラ オーバル」を発売。ひまわりや巻貝等に見られる自然界の螺旋カーブを用い、フィボナッチ数列を基にした複雑なパターンでデザインされたミニマルな楕円形のペンダントライト。職人によってひとつひとつ手作業で組み立てられている。

ルイスポールセンジャパン（株）
tel:03-3586-5341
www.louispoulsen.com

イタリア・OLUCE社のテーブルランプ「Mini Coupé 2201」発売
スタジオノイ

価格：72,600円（税込、電球別売）。

モダン輸入照明を扱うスタジオノイ（株）は、イタリアのOLUCE（オルーチェ）社より新たに「Mini Coupé 2201」を発売。Joe Colomboが1960年代にデザインした「Coupé3321/2202」のオマージュと言えるテーブルランプ。高さ34cmで、ブラック、ブロンズ、スカーレットレッド、マスタードイエローのポップな4色展開。

スタジオノイ（株）
tel:03-5843-0260
https://www.studio-noi.com

高品質製品をワンプライスで展開「Simple Order vol.2」発刊
サンゲツ

施工例。見本帳と連動した「WEBコーディネート写真集」ではさまざまなカテゴリーから検索が可能。

（株）サンゲツは、オーダーカーテン見本帳「Simple Order（シンプルオーダー）vol.2」を発刊。トレンドを押さえたデザインを、ドレープ、レース、プレーンシェード、チャイルドセーフティ機能を持ったCSロールスクリーンの4種類すべてにおいて、分かりやすいワンプライスの価格設定で展開。巻頭企画ではライフスタイルに合わせた空間づくりを提案。

（株）サンゲツ
tel:052-564-3314
https://www.sangetsu.co.jp

総合家具カタログ「atmosphere」発刊
Time & Style

A4変形判。516ページ。

（株）プレステージジャパンは、ライフスタイルショップTime & Styleより、総合家具カタログ「atmosphere」を発刊。4月に発表した40シリーズ強の新製品を含む同ブランドの製品が、豊富な写真で紹介されている。質感の違う数種の紙を使い分けた本文紙やミニマルでシンプルなレイアウト等、こだわりが詰まったカタログとなっている。

Time & Style
tel:03-5464-3205
www.timeandstyle.com

愛犬のための特別なシャワー 「Dog Shower」
ハンスグローエ ジャパン

製品イメージ。マット仕上げの4色展開。価格：13,200円（税込）。

ハンスグローエ ジャパン（株）は、同社初のペット用品となる「Dog Shower」を発売予定。15mmのブラシ状のシリコン製ノズルと、体全体、脚部、足裏等の洗う場所に適した3種類のシャワーモードや水圧調整機能を搭載し、シャワーが苦手な愛犬に配慮しながらしっかりと洗い上げられる設計。シャワーホースと簡単に接続可能。

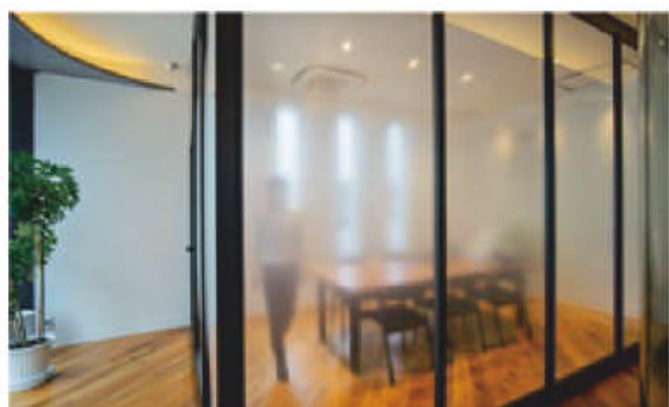
ハンスグローエ ジャパン（株）
tel:03-5715-3073
https://www.hansgrohe.co.jp/

ファサードエクステリア「みられ」のバリエーション拡充
三協立山　三協アルミ社

「シングルタイプ」施工イメージ。アルミ壁材は、サンシルバー、アーバングレー、ブラックの3色展開。

三協立山（株） 三協アルミ社は、ファサードエクステリア「みられ」のバリエーションを拡充。湿式工法壁をリアルに再現した乾式工法壁で、裏面にアルミ壁材を組み合わせた求めやすい価格の「シングルタイプ」と、「門袖壁タイプ」と「目隠し壁タイプ」にハイクローズタイプの外構コーディネートを可能にする高さ2,200mmサイズを追加。

三協立山（株） 三協アルミ社
0120-53-7899
https://alumi.st-grp.co.jp

「フォグラス」からエンボスグラデーション柄が追加販売
中川ケミカル

施工事例。「C-302Gサンドスノー」を中心から上下に2枚貼り分け、センターグラデーションとして施工。

（株）中川ケミカルは、スリガラス調シート「フォグラス」にエンボスグラデーション柄「C-302Gサンドスノー」を追加販売。貼るだけで簡単に透明ガラスがスリガラス仕上げになり、簡単にはがすことも可能な装飾用シートで、エンボスドットによる滑らかなグラデーションは空間に馴染みやすく、印刷とは異なる自然で滑らかな印象の目隠しを実現。

（株）中川ケミカル
tel:03-5835-0341
www.nakagawa.co.jp

新作「MARUNI COLLECTION 2021」発表
マルニ木工

左：「Takoアームチェア（張座）」（ウォルナット材）。価格：258,500円（税込）。
右：「T&O T1チェア（スタッキング）」（アッシュ材、シルバー）。価格：84,700円（税込）。

（株）マルニ木工は、「MARUNI COLLECTION 2021 東京展」を開催し、新作を発表。深澤直人氏デザインの「Tako」シリーズに、身体をゆったりと包み込むアームチェア（張座）がラインナップ。ジャスパー・モリソン氏デザインの「T&O」シリーズにT1チェア（スタッキング）が、「Fugu」シリーズにはダイニングテーブルがラインナップ。

（株）マルニ木工
tel:03-5614-6598
https://www.maruni.com

新建築住宅特集11月号
広告目次

広告掲載企業

トピックス掲載企業
（50音順）
P.166-167

『新建築住宅特集』資料請求方法について

個人情報保護法に基づき、読者の皆様の個人情報保護を図るため、新建築社ではホームページ上に広告掲載企業を閲覧できるようにし、各企業のホームページをリンクいたしました。
資料請求をされる際は、各広告掲載企業へ直接資料請求を行ってください。

新建築社ホームページ　https://japan-architect.co.jp

株式会社 新建築社
〒100-6017 東京都千代田区霞が関3-2-5　霞が関ビルディング17F　tel.03-6205-4380（代表） fax.03-6205-4386